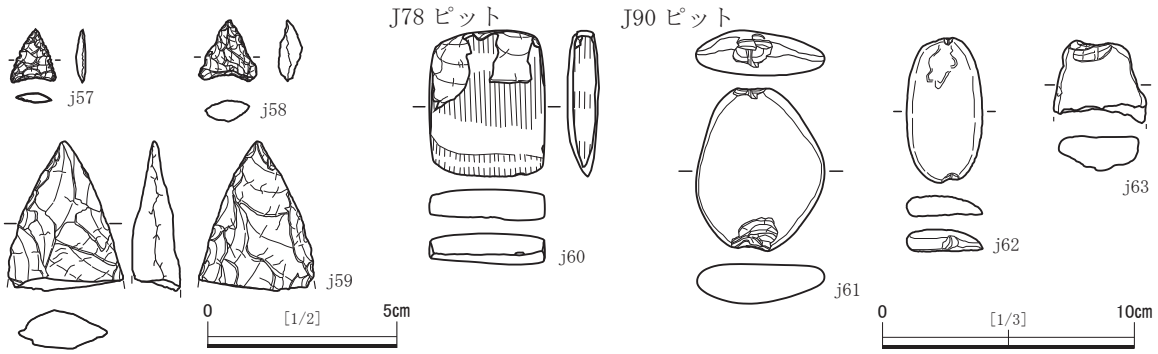


第51図　ピット・遺構外出土遺物（２）［1/2・1/3］

90 ピット 3 点（39g）、91 ピット 1 点 9g）の 11 点（138g）が出土した。

ピット出土遺物（第 51 図、第 35 表、図版 81）

石器がＪ 78 ピットの検出面直上で j60 の小形の磨製石斧が出土し、Ｊ 90 ピットからは j61 の石錘が出土した。

（４）遺構外出土遺物（第 50・51 図、第 33・35 表、図版 60・81）

出土遺物は、縄文時代包含層からは、中期の土器片 10 点（477g）、後期の土器片 596 点（7, 741g）と石器類 101 点（1, 436g）が出土し、その他、後世の遺構等から後期の土器片 78 点（699g）と石器類 21 点（916g）が出土している。j34 はＪ 89 ピット、j35 がＪ 90 ピット出土である。

土器は、j34 ～ j36 は縄文時代中期の土器である。j36 は曽利式である。j37 は堀之内１式で、沈線が交差する。j38 ～ j42 は堀之内２式土器である。j43 ～ j52 は、加曾利Ｂ１式で j47 ～ j49 は口縁には、押捺を有する隆帯がめぐる粗製深鉢である。j54 は波状の櫛書き文が施される後期の粗製深鉢である。j51・j52 は同一個体で櫛書き文が施される注口土器である。j53 は注口部である。j55・j56 は堀之内式の深鉢の底部で、底面に網代痕が残る。

石器は、j59 は槍先形尖頭器の先端部でⅥ層中から出土した。ガラス質黒色安山岩製で、縄文時代草創期の所産と推定される。j57・j58 は、黒曜石製の小形石鏃で浅い凹基である。j60 は、Ｊ 78 ピットから出土した磨製石斧で、角閃岩製の定角式で楔形の完存品である。j61 ～ j63 は石錘で、長軸方向に紐掛を設けている。j61 はＪ 90 ピット出土で中粒凝灰岩製、j62 は石英片岩、j63 は粘板岩製である。

出土土器は、ほとんどが縄文時代後期堀之内式～加曾利Ｂ式で、これらが伴う配石、土坑、ピットは、ほぼ同じ時期の関連する遺構群と考えられる。これらの遺構は調査区の北側と西側へ展開していて、北西側に中心があることが推測される。西側の隣接部分は市道によって失われているが、北側はさらに配石遺構と土坑が続いていることが確認されている。配石の中には立石を伴うものがあり、Ｊ１号配石では大形の石皿が、Ｊ４号配石では石棒が立てられる。またＪ７号配石とＪ９号配石でも立石を伴うことが確認される。本地区における配石は、下部に浅い掘り方が検出されているが、配石設置のために整地や基礎作りを行った跡と考えられる。また、配石遺構群の北西部を中心とした範囲に、厚さはあまりないが明褐色土ブロックを若干含む土の分布が認められる。また、周辺で見られるＶａ層にあたる遺物包含層はこの範囲からは見つからず、配石設置時にある程度の造成、整地が行われている可能性がある。配石の東側は遺構分布、遺物分布は稀薄である。この配石遺構群が立地する微地形を推定すると、最も小高い場所に配石遺構群が位置していて、それを取り囲む緩斜面に遺物包含層や居住域が形成されている状況が想定される。

第６表　ピア 17（下り）区ピット計測表（単位：m）

位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状
住　居					
H 1 住	1 床下土坑	1.09	1.06	0.24	楕円
H 1 住	2 床下土坑	0.93	0.77	0.21	楕円
H 1 住	3 床下土坑	0.90	0.61	0.19	楕円
H 1 住	4 床下土坑	0.95	0.61	0.13	楕円
H 1 住	5 床下土坑	0.80	0.79	0.15	楕円
H 1 住	6 床下土坑	(0.49)	(0.25)	0.21	楕円
H 1 住	7 床下土坑	0.79	0.74	0.31	楕円
H 1 住	8 床下土坑	(0.62)	(0.49)	0.20	楕円
H 1 住	9 床下土坑	(0.37)	0.78	0.18	楕円
H 1 住	10 床下土坑	(1.00)	1.00	0.22	楕円
H 1 住	11 床下土坑	0.59	0.50	0.20	楕円
H 1 住	12 床下土坑	(0.59)	0.79	0.15	楕円
H 1 住	13 床下土坑	0.74	0.48	0.35	楕円
H 1 住	14 床下土坑	0.43	0.40	0.11	楕円
H 1 住	15 床下土坑	0.46	0.34	0.21	楕円
H 1 住	16 床下土坑	(0.52)	0.55	0.19	楕円
H 1 住	17 床下土坑	0.65	(0.57)	0.23	楕円
H 1 住	18 床下土坑	0.34	0.40	0.29	楕円
H 1 住	19 床下土坑	(0.48)	0.38	0.28	楕円
H 1 住	20 床下土坑	0.33	0.31	0.19	楕円
H 1 住	21 床下土坑	(0.31)	0.50	0.24	楕円
H 1 住	22 床下土坑	(0.66)	(0.61)	0.17	楕円
H 1 住	1 ピット	0.23	0.16	0.34	円形
H 1 住	2 ピット	0.39	0.38	0.31	円形
H 1 住	3 ピット	0.18	0.18	0.22	円形
H 1 住	4 ピット	0.53	0.36	0.28	円形
H 2 住	1 床下土坑	0.65	0.64	0.16	楕円
H 2 住	2 床下土坑	0.57	0.34	0.16	楕円
H 2 住	3 床下土坑	0.39	0.43	0.11	楕円
H 2 住	4 床下土坑	0.40	0.18	0.15	楕円
H 2 住	5 床下土坑	0.90	0.78	0.11	楕円
H 2 住	6 床下土坑	0.60	(0.25)	0.21	楕円
H 2 住	1 ピット	0.77	0.62	0.24	円形
H 2 住	2 ピット	0.37	0.37	0.13	円形
H 3 住	1 床下土坑	0.55	(0.10)	0.27	楕円
H 3 住	2 床下土坑	0.74	(0.30)	0.25	楕円
H 4 住	1 床下土坑	0.95	0.92	0.11	楕円
H 4 住	2 床下土坑	0.91	0.77	0.15	楕円
H 4 住	3 床下土坑	0.86	0.69	0.09	楕円
H 4 住	4 床下土坑	0.67	0.52	0.11	楕円
H 4 住	5 床下土坑	1.08	0.84	0.19	楕円
H 4 住	6 床下土坑	0.72	0.41	0.13	楕円
H 4 住	7 床下土坑	(0.41)	(0.26)	0.08	楕円
H 4 住	8 床下土坑	0.94	(0.61)	0.18	楕円
H 4 住	9 床下土坑	0.85	(0.38)	0.16	楕円
H 4 住	1 ピット	0.58	0.41	0.39	楕円
H 4 住	2 ピット	0.68	0.57	0.35	楕円
H 4 住	3 ピット	0.29	0.22	0.07	楕円
H 4 住	4 ピット	(0.23)	0.17	0.16	楕円
H 4 住	5 ピット	(0.20)	0.18	0.17	楕円
掘立柱建物					
H 1 掘柱	1 ピット	0.69	0.66	0.50	円形
H 1 掘柱	2 ピット	0.77	0.76	0.70	円形
H 1 掘柱	3 ピット	0.77	0.67	0.37	円形
H 1 掘柱	4 ピット	0.59	0.56	0.47	円形
H 1 掘柱	5 ピット	0.62	0.54	0.26	円形
H 1 掘柱	6 ピット	0.74	0.57	0.38	円形
H 1 掘柱	7 ピット	0.60	0.45	0.37	円形
H 1 掘柱	8 ピット	0.61	0.58	0.46	円形
H 1 掘柱	9 ピット	0.75	0.71	0.51	円形
H 1 掘柱	10 ピット	(0.58)	0.52	0.37	円形
H 2 掘柱	1 ピット	0.42	0.34	0.51	円形
H 2 掘柱	2 ピット	0.99	0.53	0.31	円形
H 2 掘柱	3 ピット	0.74	0.55	0.62	円形
H 2 掘柱	4 ピット	0.59	0.42	0.44	円形
H 2 掘柱	5 ピット	0.74	0.47	0.68	円形
H 2 掘柱	6 ピット	(0.38)	0.68	0.37	円形
H 2 掘柱	7 ピット	1.39	0.98	0.77	円形
H 2 掘柱	8 ピット	(0.60)	0.44	0.33	円形
H 3 掘柱	1 ピット	(0.30)	0.49	0.58	円形
H 3 掘柱	2 ピット	(0.60)	0.44	0.33	円形
H 3 掘柱	3 ピット	0.71	0.59	0.61	円形
H 3 掘柱	4 ピット	0.38	0.33	0.13	円形
H 3 掘柱	5 ピット	0.25	0.25	0.20	円形
H 3 掘柱	6 ピット	0.61	0.51	0.29	円形
H 3 掘柱	7 ピット	0.56	0.42	0.36	円形
ピット群					
4P-36	K 1 ピット	0.53	0.47	0.20	円形
4P-36	H 2 ピット	(0.46)	0.59	0.08	円形
欠番	H 3 ピット	H1 掘立 6 ピットに変更			
欠番	H 4 ピット	H1 掘立 7 ピットに変更			
欠番	H 5 ピット	H1 掘立 8 ピットに変更			
4P-36	H 6 ピット	0.35	0.30	0.19	円形
欠番	H 7 ピット	H1 掘立 9 ピットに変更			
欠番	H 8 ピット	H3 掘立 3 ピットに変更			
欠番	H 9 ピット	H3 掘立 4 ピットに変更			
欠番	H 10 ピット	H3 掘立 6 ピットに変更			
4Q-37	H 11 ピット	0.35	0.29	0.25	円形
4P-36	H 12 ピット	0.27	0.20	0.14	円形
4P-36	H 13 ピット	0.34	0.28	0.23	円形
欠番	H 14 ピット	H1 掘立 5 ピットに変更			
4P・4Q-36	H 15 ピット	0.27	0.24	0.16	円形
4P-36	H 16 ピット	0.50	0.47	0.21	円形
欠番	H 17 ピット	H2 掘立 5 ピットに変更			
4P・4Q-36	H 18 ピット	(0.32)	0.42	0.32	円形
4Q-36	H 19 ピット	0.60	0.43	0.45	円形
4Q-36	H 20 ピット	0.38	0.31	0.33	円形
4P-36	H 21 ピット	0.45	0.44	0.22	円形
4Q-36	H 22 ピット	0.38	0.30	0.20	円形
欠番	H 23 ピット	H1 掘立 2 ピットに変更			
欠番	H 24 ピット	H1 掘立 3 ピットに変更			
4Q-36	H 25 ピット	0.31	0.29	0.24	円形
4Q-36	H 26 ピット	0.42	0.30	0.38	円形
4Q-35	H 27 ピット	0.48	0.46	0.20	円形
欠番	H 28 ピット	H2 掘立 2 ピットに変更			
4Q-36	H 29 ピット	0.41	0.35	0.35	円形
4Q-36	H 30 ピット	0.56	0.55	0.37	円形
4Q-36	H 31 ピット	0.51	0.40	0.19	円形
4Q-36	H 32 ピット	0.60	0.59	0.32	円形
4Q-37	C 33 ピット	(0.36)	0.69	0.34	円形
欠番	H 34 ピット	H3 掘立 7 ピットに変更			
4Q-37	H 35 ピット	(0.24)	0.31	0.09	円形
欠番	H 36 ピット	H3 掘立 1 ピットに変更			
4Q-36	H 37 ピット	0.32	0.30	0.12	円形
4Q-36	H 38 ピット	0.30	0.29	0.09	円形
4Q-36	H 39 ピット	0.31	(0.16)	0.13	円形
欠番	H 40 ピット	H2 掘立 8 ピット・H3 掘立 2 ピットに変更			
4Q-36	H 41 ピット	0.32	(0.15)	0.34	円形
欠番	H 42 ピット	H1 掘立 1 ピットに変更			
4Q-36	H 43 ピット	0.30	0.30	0.24	円形
欠番	H 44 ピット	H1 掘立 10 ピットに変更			
4Q-36	H 45 ピット	0.39	0.36	0.22	円形
4Q-36	H 46 ピット	0.43	0.41	0.20	円形
欠番	H 47 ピット	H2 掘立 7 ピットに変更			
4Q-36	H 48 ピット	(0.12)	(0.10)	0.36	円形
4Q-36	H 49 ピット	0.52	0.38	0.18	円形
4P・4Q-36	H 50 ピット	0.92	0.87	0.26	円形
欠番	H 51 ピット	H2 掘立 3 ピットに変更			
欠番	H 52 ピット	H1 掘立 4 ピットに変更			
4Q-36	H 53 ピット	0.34	0.32	0.10	円形
欠番	H 44 ピット	H1 掘立 10 ピットに変更			
4Q-36	H 45 ピット	0.39	0.36	0.22	円形
4Q-36	H 46 ピット	0.43	0.41	0.41	円形
欠番	H 47 ピット	H2 掘立 7 ピットに変更			
4Q-36	H 48 ピット	(0.12)	(0.10)	0.36	円形
4Q-36	H 49 ピット	0.52	0.38	0.18	円形
4P・4Q-36	H 50 ピット	0.92	0.87	0.26	円形
欠番	H 51 ピット	H2 掘立 3 ピットに変更			
欠番	H 52 ピット	H1 掘立 4 ピットに変更			
4Q-36	H 53 ピット	0.34	0.32	0.10	円形
4Q-36	H 54 ピット	0.31	0.30	0.23	円形
4Q-36	H 55 ピット	0.44	(0.23)	0.42	円形
欠番	H 56 ピット	H2 掘立 4 ピットに変更			
4Q-36	H 57 ピット	0.69	0.51	0.90	円形
4Q-36	H 58 ピット	0.34	0.23	0.25	円形
4Q-36	H 59 ピット	0.35	0.31	0.30	円形
欠番	H 60 ピット	H2 掘立 6 ピットに変更			
4Q-36	H 61 ピット	(0.36)	0.32	0.14	円形
欠番	H 62 ピット	H2 掘立 1 ピットに変更			
4Q-36	H 63 ピット	0.87	0.47	0.26	楕円
欠番	H 64 ピット	H3 掘立 5 ピットに変更			
4Q-36	H 65 ピット	(0.20)	0.64	0.09	円形
4Q-36	H 66 ピット	(0.17)	0.40	0.24	楕円
4Q-36	H 67 ピット	0.19	0.17	0.12	円形
4Q-36	H 68 ピット	0.19	0.16	0.09	円形
欠番	H 69 ピット				
4Q-37	H 70 ピット	0.25	0.20	0.16	円形
4P-36	H 71 ピット	0.20	0.20	0.07	円形
4Q-36	J 72 ピット	0.40	0.28	0.44	円形
4Q-36	J 73 ピット	0.41	0.40	0.22	円形
4Q-37	J 74 ピット	(0.28)	0.41	0.76	円形
4Q-37	J 75 ピット	0.25	0.19	0.19	円形
4Q-37	J 76 ピット	(0.04)	(0.27)	0.69	円形
4R-36・37	J 77 ピット	(0.41)	0.60	0.75	円形
4Q-37	J 78 ピット	0.63	0.53	0.65	円形
4P-36	J 79 ピット	0.76	0.68	0.46	円形
欠番	J 80 ピット	J92 号ピットと結合			
4Q-36	J 81 ピット	0.60	0.52	0.22	円形
4P-36	J 82 ピット	0.41	0.38	0.15	円形
4P-36	J 83 ピット	0.69	0.61	0.32	円形
4P-36	J 84 ピット	0.40	0.38	0.19	円形
4P-35	J 85 ピット	0.39	0.39	0.40	円形
4Q-36	J 86 ピット	0.58	0.50	0.34	円形
4P-36	J 87 ピット	0.31	0.27	0.24	円形
欠番	J 88 ピット	J92 ピットと結合			
4P-36	J 89 ピット	0.27	0.22	0.13	円形
4Q-37	J 90 ピット	0.48	0.47	0.21	円形
4P-36	J 91 ピット	0.55	0.49	0.19	円形
4Q-37	J 92 ピット	0.57	0.54	0.13	円形
4Q-36・37	J 93 ピット	(0.55)	0.59	0.37	円形
4Q-37	J 94 ピット	0.45	0.38	0.21	円形
4Q-37	J 95 ピット	0.34	0.32	0.22	円形
4P-36	J 96 ピット	0.44	0.38	0.22	円形
4P-36	J 97 ピット	0.45	0.36	0.17	円形
4Q-37	J 98 ピット	(0.07)	(0.40)	0.50	円形
4Q-37	J 99 ピット	(0.03)	(0.20)	0.32	円形
4P-35	J 100 ピット	0.40	0.36	0.20	円形
4R-36	H 101 ピット	0.56	0.31	0.29	円形
4P-37	J 102 ピット	(0.07)	(0.25)	0.46	円形

略語：不整：不整円形、楕円：楕円形、隅丸：隅丸方形、長方：長方形

第２節　ピア 17（上り）区の調査

ピア 17（上り）区（旧 21 区北）は、ピア 17 区（下り）区の北に隣接して位置している。現況では平坦な地形であるが、北に行くに従い近代の埋め立てにより北側への緩やかな傾斜地を地形改変していたことが分かった。西側の南に寄った個所は市道に向かい傾斜するスロープで削平されている。また、調査区の随所にローム層をさらに掘り上げた撹乱の大穴が点在していて、南から北に向けて緩やかな傾斜地に遺構は分布している。遺構は、近世、中世、縄文時代のものが見つかっている。出土した遺物は、近世は 75 点（857g）、中世は 12 点（133g）、古墳時代後期～奈良・平安時代は 30 点（131g）、縄文時代は 17,641 点（280,239g）で合計 17,758 点（281,360g）である。この他に中世の人骨２点、縄文時代の獣骨・サメの歯が 19 点出土する。

第７表　ピア 17（上り）区遺構計測表（単位：m）

位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状	位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状	位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状
4R・S-39・40	C 1号掘立柱建物	8.50	6.60	-	-	4S-39	K 10号土坑	1.58	0.54	0.21	長方	4R-40	J 22号土坑	(1.08)	1.00	0.36	不整
4T-40	C 2号掘立柱建物	4.00	2.50	-	-	4S-39	K 11号土坑	1.44	0.54	0.2	長方	4R-40	J 23号土坑	(1.08)	0.84	0.20	楕円
欠番	C 1段切	C 4号溝に変更のため				4S-39	K 12号土坑	1.8	0.80	0.24	長方	4R-40	J 24号土坑	0.84	(0.54)	0.54	不整
4R-39・40	C 2段切	6.80	1.25	0.325	-	4S-38	K 13号土坑	0.78	(0.64)	0.22	円形	4S-39・40	J 25号土坑	3.80	3.70	0.60	不定形
4S-38	K 1号土坑	1.12	0.70	0.3	長方	4S-38	K 14号土坑	1.20	(0.58)	0.26	長方	4S-38	J 26号土坑	(1.30)	0.90	0.15	楕円
4R-39	K 2号土坑	1.54	0.60	0.34	長方	4S-38	K 15号土坑	1.36	0.46	0.13	長方	4T-39・40	J 27号土坑	0.75	0.65	0.3	方形
欠番	3号土坑					4T-40	C 16号土坑	0.90	0.85	0.25	円形	4T-38	J 28号土坑	1.70	(0.54)	0.2	円形
4R-40	K 4号土坑	1.50	1.24	0.34	長方	4S-39	C 17号土坑	1.16	1.08	0.20	方形	4T-38	J 29号土坑	3.34	0.75	0.47	不整
4S-38	K 5号土坑	2.58	0.56	0.2	長方	4S-39	C 18号土坑	1.10	0.98	0.30	楕円	4R～T-38	K 1号溝	26.30	1.60	0.40	U字
4S-38	K 6号土坑	1.80	2.60	0.29	長方	4R-40	J 19号土坑	4.0	1.83	0.52	不整	欠番	K 2号溝	K1溝と合併			
4R-39	K 7号土坑	1.78	0.66	0.3	長方	4R-38	J 20号土坑	1.50	(0.74)	0.80	方形	4R・S-38	K 3号溝	11.00	2.80	0.30	-
4T-40	C 8号土坑	(1.24)	1.04	0.05	楕円	4S-38	J 21号土坑	1.20	(0.76)	020	方形	4R～S-39	C 4号溝	19.20	4.50	0.50	-
4T-40	C 9号土坑	(0.95)	0.40	0.18	長方	略語：不整：不整円形、楕円：楕円形、隅丸：隅丸方形、長方：長方形											

１　近　世

今回の調査で発見された近世の遺構は、土坑 12 基、溝２条、ピット１基の合計 15 基となる。遺構の分布は、調査区西北にやや偏りを見せて検出されるがやや疎らである。遺物は、陶器 36 点（382g）、磁器 27 点（191g）炻器６点（185g）、土器１点（20g）、瓦２点（26g）、煙管２点（7g）、鉄滓１点（46g）である。

（１）土坑

Ｋ１号土坑（第 53 図）

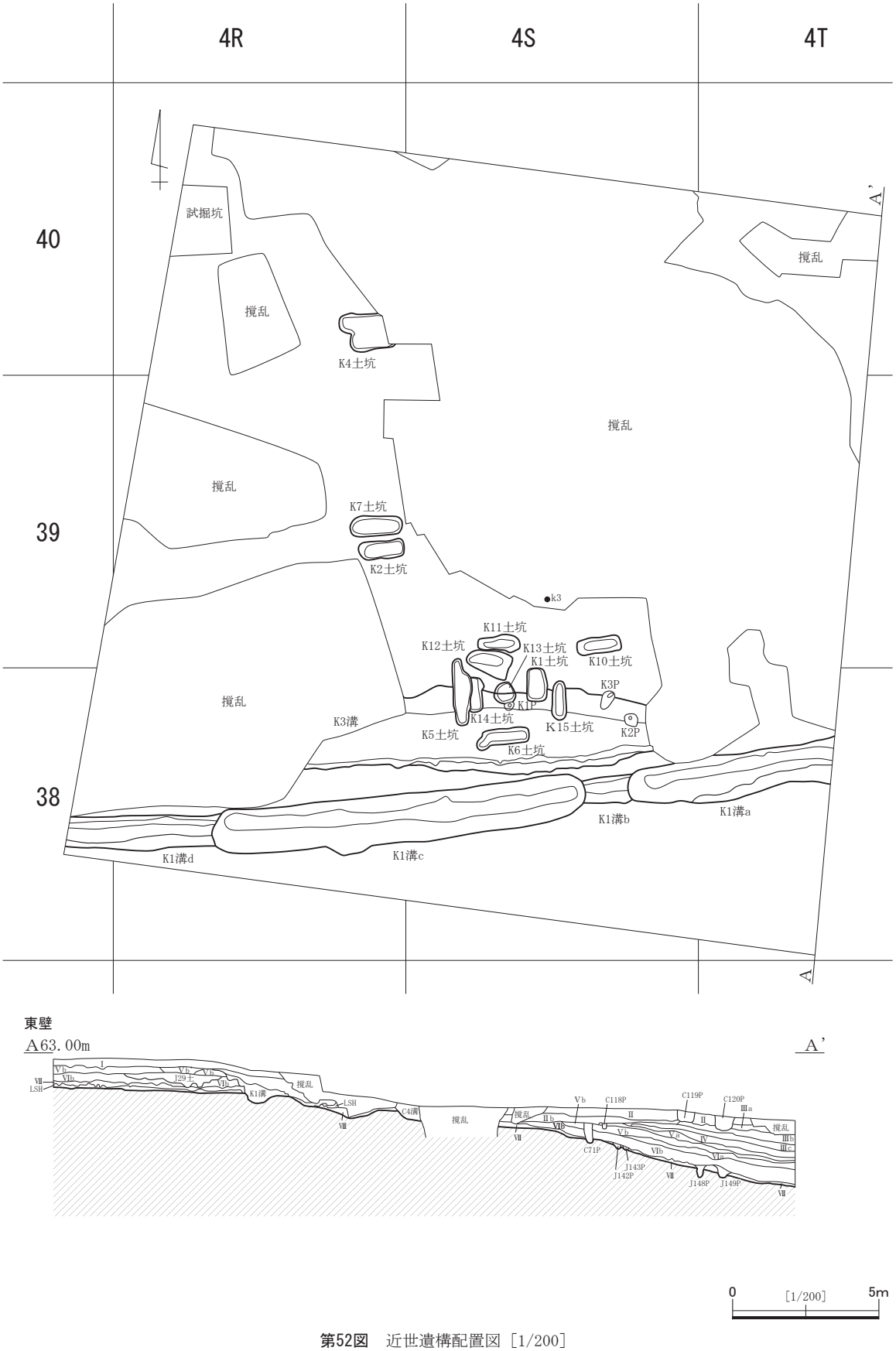
ピア 17（上り）区中央南寄り、４Ｓ-38 グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸は真北を指す。長軸 1.12 m、短軸 0.70 m、深さ 0.30 mを測り、断面は箱形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

Ｋ２号土坑（第 53 図）

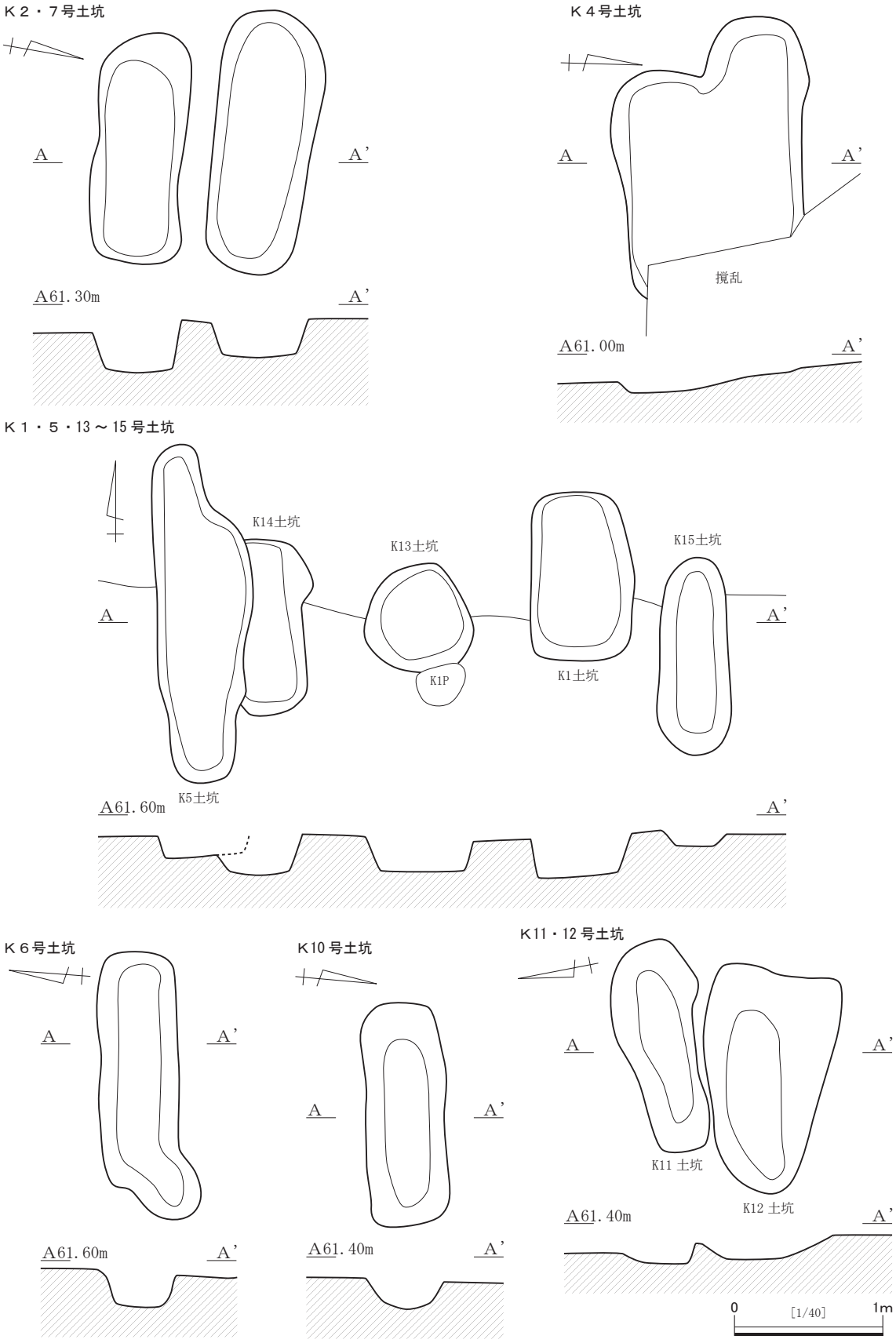
ピア 17（上り）区中央南寄り、４Ｒ-39 グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はＮ -86° -Ｅを指す。長軸 1.54 m、短軸 0.60 m、深さ 0.34 mを測り、断面は箱形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

Ｋ４号土坑（第 53 図）

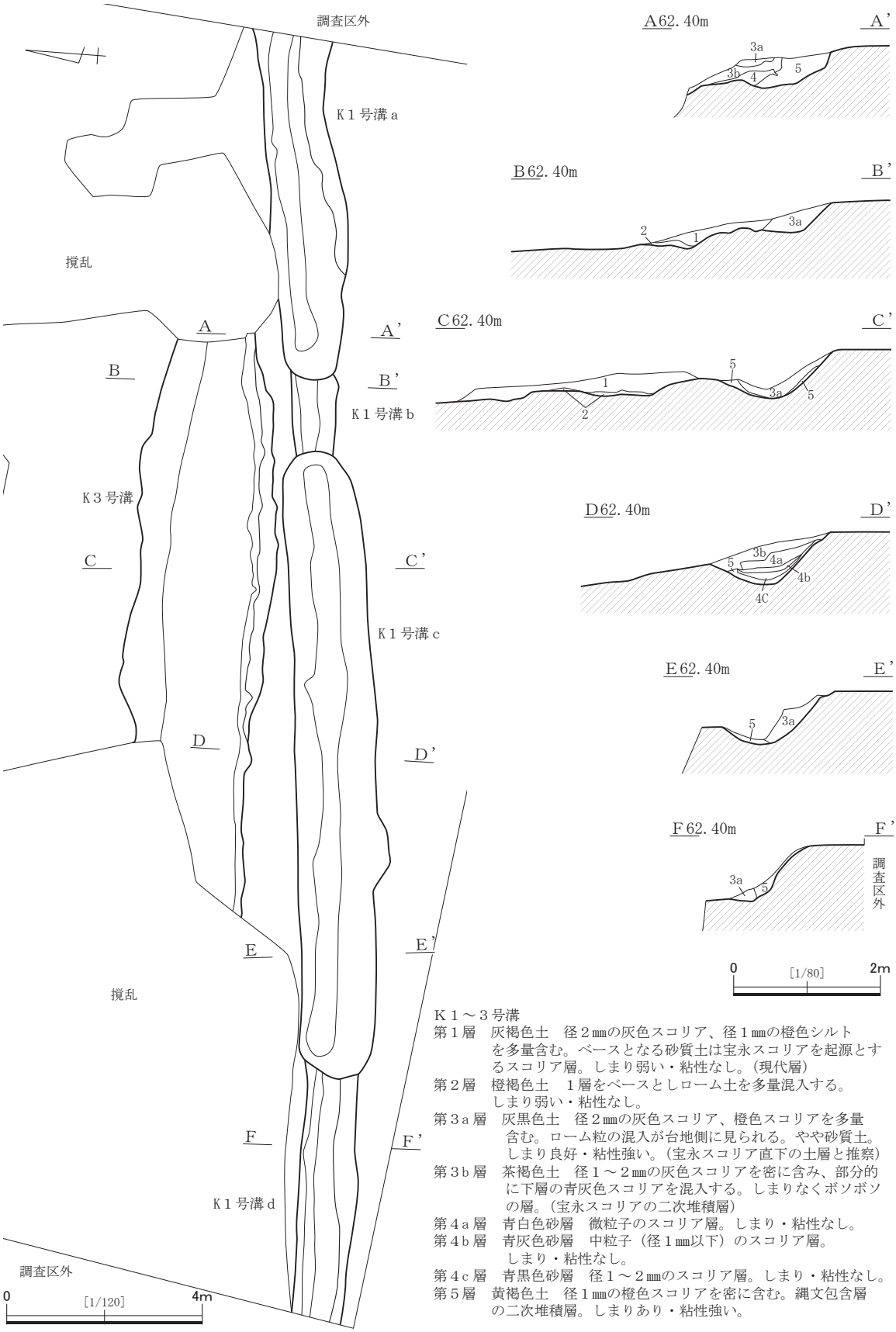
ピア 17（上り）区中央北寄り、４Ｒ-40 グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はＮ -86° -



第52図　近世遺構配置図［1/200］



第 53 図　Ｋ１・２・４～７・10～15 号土坑［1/40］



Ｋ１～３号溝
第１層　灰褐色土　径２㎜の灰色スコリア、径１㎜の橙色シルトを多量含む。ベースとなる砂質土は宝永スコリアを起源とするスコリア層。しまり弱い・粘性なし。（現代層）
第２層　橙褐色土　１層をベースとしローム土を多量混入する。しまり弱い・粘性なし。
第３ａ層　灰黒色土　径２㎜の灰色スコリア、橙色スコリアを多量含む。ローム粒の混入が台地側に見られる。やや砂質土。しまり良好・粘性強い。（宝永スコリア直下の土層と推察）
第３ｂ層　茶褐色土　径１～２㎜の灰色スコリアを密に含み、部分的に下層の青灰色スコリアを混入する。しまりなくボソボソの層。（宝永スコリアの二次堆積層）
第４ａ層　青白色砂層　微粒子のスコリア層。しまり・粘性なし。
第４ｂ層　青灰色砂層　中粒子（径１㎜以下）のスコリア層。しまり・粘性なし。
第４ｃ層　青黒色砂層　径１～２㎜のスコリア層。しまり・粘性なし。
第５層　黄褐色土　径１㎜の橙色スコリアを密に含む。縄文包含層の二次堆積層。しまりあり・粘性強い。

第54図　Ｋ１・３号溝［1/120・1/80］

Ｅを指す。長軸 1.50 ｍ、短軸 1.24　ｍ、深さ 0.34 ｍを測り、断面は箱形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

Ｋ５号土坑（第 53 図）

ピア 17（上り）区中央南寄り、４Ｓ－38 グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はＮ －1° －Ｗを指す。長軸 2.58 ｍ、短軸 0.56 ｍ、深さ 0.20 ｍを測り、断面は箱形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

Ｋ６号土坑（第 53 図）

ピア 17（上り）区中央南寄り、４Ｓ－38 グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はＮ －86° －Ｅを指す。長軸 1.80 ｍ、短軸 2.60 ｍ、深さ 0.29 ｍを測り、断面は箱形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は銅製品１点（7g）が出土している。

Ｋ６号土坑出土遺物（第 55 図・第 25 表・図版 52）

k2 はキセルの雁首である。

Ｋ７号土坑（第 53 図）

ピア 17（上り）区中央南寄り、４Ｒ－39 グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はＮ －86° －Ｅを指す。長軸 1.78 ｍ、短軸 0.66　ｍ、深さ 0.30 ｍを測り、断面は箱形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

Ｋ 10 号土坑（第 53 図）

ピア 17（上り）区中央南寄り、４Ｓ－39 グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はＮ －86° －Ｅを指す。長軸 1.58 ｍ、短軸 0.54 ｍ、深さ 0.21 ｍを測り、断面は箱形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

Ｋ 11 号土坑（第 53 図）

ピア 17（上り）区中央南寄り、４Ｓ－39 グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はＮ －86° －Ｅを指す。長軸 1.44 ｍ、短軸 0.54 ｍ、深さ 0.20 ｍを測り、断面は箱形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

Ｋ 12 号土坑（第 53 図）

ピア 17（上り）区中央南寄り、４Ｓ－39 グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はＮ －86° －Ｅを指す。長軸 1.80 ｍ、短軸 0.80 ｍ、深さ 0.24 ｍを測り、断面は箱形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

Ｋ 13 号土坑（第 53 図）

調査区中央南寄り、４Ｓ－38 グリッドに位置する。平面は円形を呈し、主軸はＮ －0° を指す。長軸 0.78 ｍ、短軸（0.64）ｍ、深さ 0.22 ｍを測り、断面は箱形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

Ｋ 14 号土坑（第 53 図）

ピア 17（上り）区中央南寄り、４Ｓ－38 グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はＮ －１° －Ｗを指す。長軸 1.20 ｍ、短軸（0.58）ｍ、深さ 0.26 ｍを測り、断面は箱形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

Ｋ 15 号土坑（第 53 図）

ピア 17（上り）区中央南寄り、４Ｓ－38 グリッドに位置する。平面は長方形を呈し、主軸はＮ －1° －Ｗ



第55図　近世出土遺物［1/2・1/3］

を指す。長軸 1.36 m、短軸 0.46 m、深さ 0.13 mを測り、断面は箱形で底面は平坦で、灰褐色土が堆積する。遺物は出土していない。

（２）溝

Ｋ１号溝（第 54 図、図版 13）

ピア 17(上り)区南壁に沿って、ほぼ東西方向に 26.3 m検出され、４Ｒ～４Ｔ-38 グリッドに位置する。ちょうど北側に緩やかな傾斜が始まる頂部に掘削されていて、北に隣接してこの溝を切るＫ３号溝が平行して掘削される。東西両端については調査区外に延びていて、主軸はＮ -85° -Ｅを指す。溝は幅が広く深いＫ１号溝ａ・cと幅が狭く浅いＫ１号溝ｂ・ｄが連結して掘削されていて、幅の広いＣ－Ｃ`で 1.60 m、深さ 0.40 m、幅の狭いＢ－Ｂ`で幅 1.10 m、深さ 0.13 mを測り、断面はＵ形で底面は平坦である。覆土下層は宝永火山灰の第一次堆積層が堆積する。遺物は 13 点（224g）出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器碗１点（2g）・陶器皿１点（13g）・陶器鉢２点（48g）、肥前系磁器碗４点（100g）・磁器皿１点（4g）、京・信楽系陶器碗１点（2g）、常滑系炻器甕１点（25g）、丹波系炻器鉢１点（16g）、瓦１点（14g）である。いずれも小片のため図化していない。

Ｋ３号溝（第 54 図）

ピア 17（上り）区南寄りでＫ１号溝の北側に沿って、ほぼ東西方向に 11.0 m検出され、主軸はＮ -85° -Ｅを指す。東西両端は撹乱されている。４Ｒ・４Ｓ-38 グリッドに位置する。ちょうどＫ１号溝から段切り状になった平坦面に位置する。Ｋ５・６・13 ～ 15 号土坑が重複している。本溝の北側は緩やかに北向きの傾斜が始まる。断面は皿状で底面は平坦である。覆土は宝永火山灰の第二次堆積層が堆積する。遺物は 11 点（60g）出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系磁器碗３点（3g）・陶器碗３点（24g）・陶器壺１点（4g）・器種不明陶器２点（5g）、肥前系磁器碗１点（4g）、産地および器種不明土器１点（20g）である。いずれも小片のため図化していない。

（３）遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は 31 点（369g）で、その内訳は瀬戸・美濃系陶器碗４点（12g）・陶器皿２点（19g）・陶器鉢２点（34g）・磁器碗２点（2g）・磁器瓶１点（4g）、肥前系磁器碗５点（24g）、・磁器皿２点（5g）・磁器鉢１点（5g）、京・信楽系陶器蓋１点（4g）、常滑系炻器甕６点（183g）、産地不明陶器瓶１点（11g）、産地及び器種不明陶器１点（4g）、瓦１点（12g）、銅製品１点（4g）、鉄滓１点（46g）である。鉄滓はいわゆる椀形滓である。

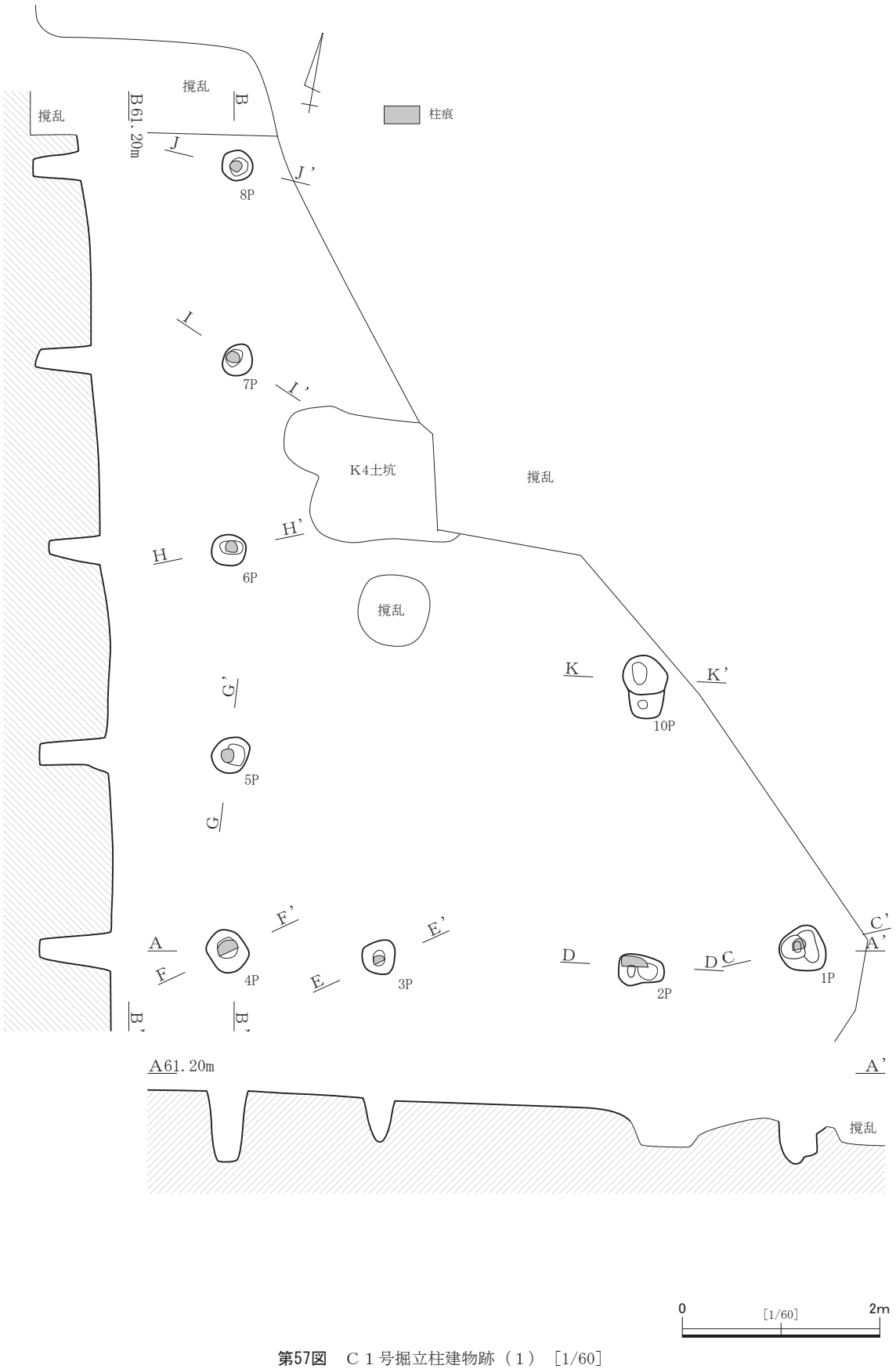
また、後述する中世遺構の上層から近世遺物が出土している。Ｃ２段切からは瀬戸・美濃系陶器皿１点(2g)、Ｃ４号溝からは、瀬戸・美濃系陶器碗４点（19g）・陶器皿２点（67g）・鉢２点（48g）・陶器甕１点（4g）、肥前系磁器碗４点（9g）、常滑系炻器甕１点（12g）のあわせて 15 点（91g）である。埋没後に堆積した覆土から出土したものと考えられる。

遺構外の遺物（第 55 図、第 21 表、図版 48）

k3 は、瀬戸・美濃系の陶器皿である。

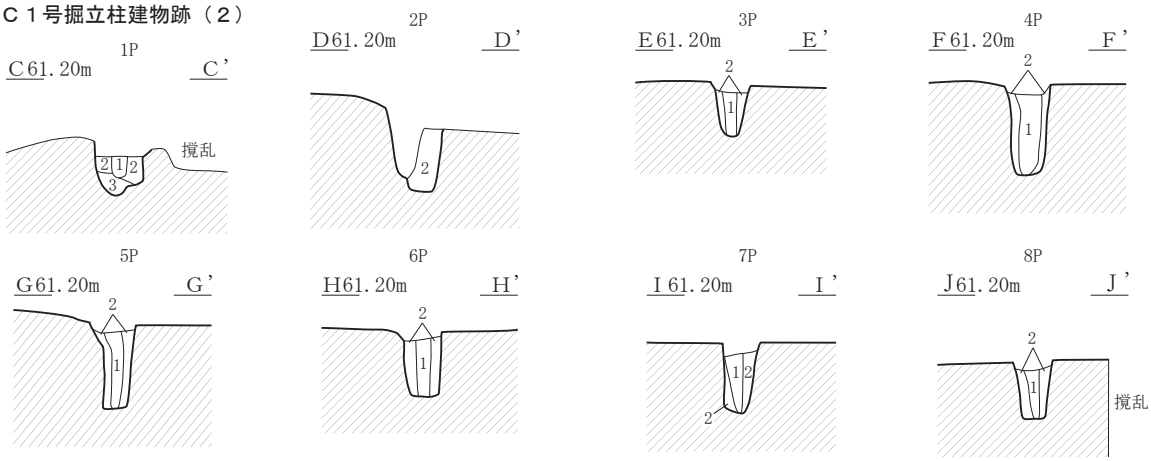


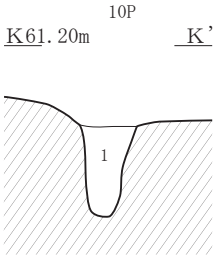
第56図　中世遺構配置図［1/200］



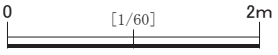
第57図　Ｃ１号掘立柱建物跡（１）［1/60］

Ｃ１号掘立柱建物跡（２）

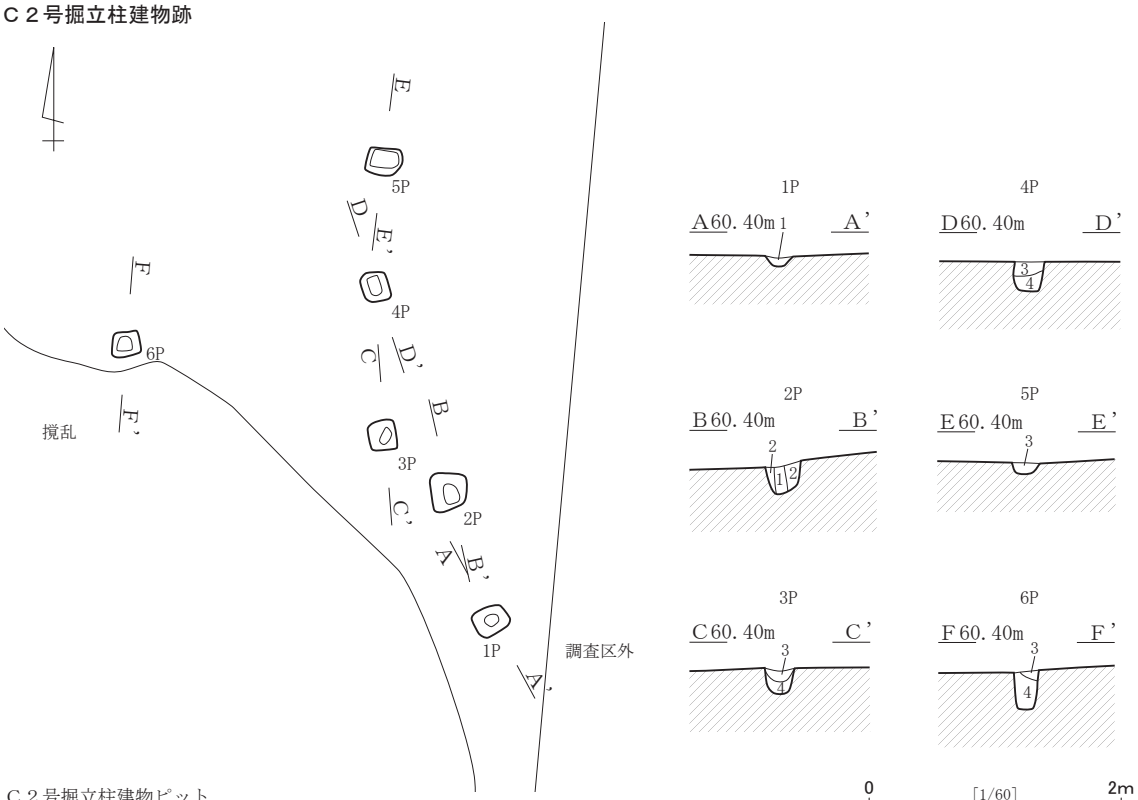




Ｃ１号掘立柱建物跡１・2P
第１層　黒茶褐色土　黒色土と茶褐色土の混土層。径１㎜以下のローム粒を含む。白色粘土(灰層)を少量含む。しまりなし・粘性弱く砂質土。(柱痕)
第２層　暗褐色土　径１～２㎜のローム粒を多量含む。しまりなし・粘性強い。
Ｃ１号掘立柱建物跡３・４・５・６・７・8P
第１層　茶褐色土　径１㎜以下のローム粒を少量含む。しまりない・粘性強い。(柱痕)
第２層　暗黄褐色土　径１～５㎜のローム粒・ブロックを多量含む。しまり良好・粘性強い。柱痕の裏込み土。ローム土に混在する赤色スコリアを含む。
Ｃ１号掘立柱建物跡 10P
第１層　黄褐色土　径１㎜の橙色スコリア、径 10 ㎜のロームブロックを多量含み、茶褐色土との混土層。一次的に埋め戻された層。



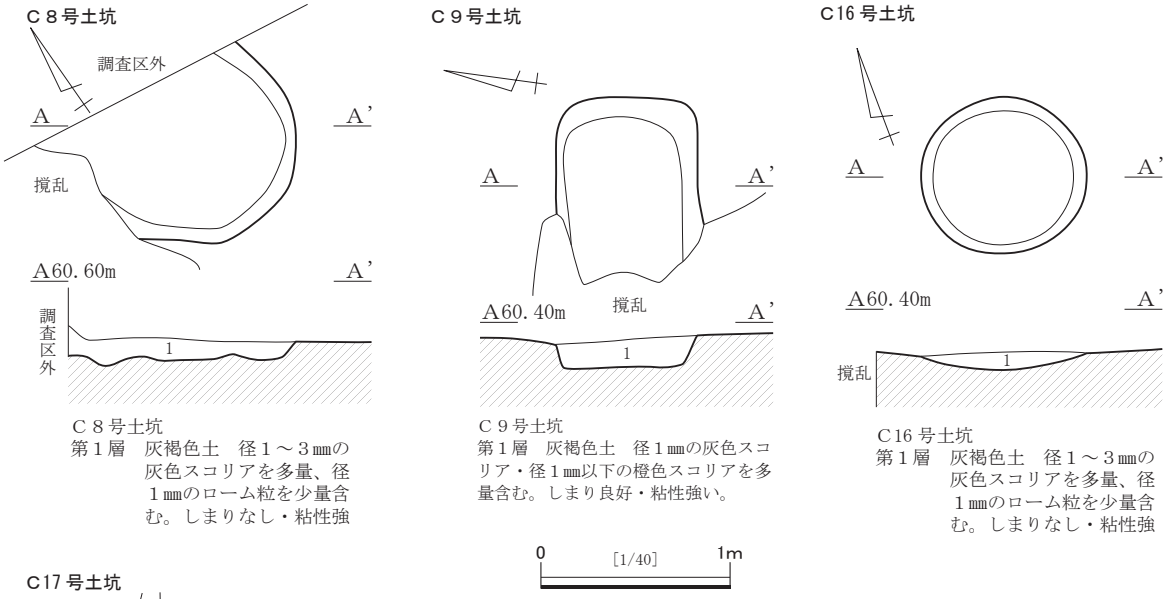
Ｃ２号掘立柱建物跡





Ｃ２号掘立柱建物ピット
第１層　黒褐色土　径１㎜の灰色スコリアを密に含む。しまりなくボソボソした層。
第２層　黒茶褐色土　径５㎜以下のロームブロックを多量含む。しまりなし・粘性強い。
第３層　灰褐色土　径１㎜前後の灰色・橙色スコリア、黄褐色ロームを含む。しまりなし・粘性あり。
第４層　黒色土　径１～２㎜の灰色スコリアを密に含む。しまりなし・粘性あり。

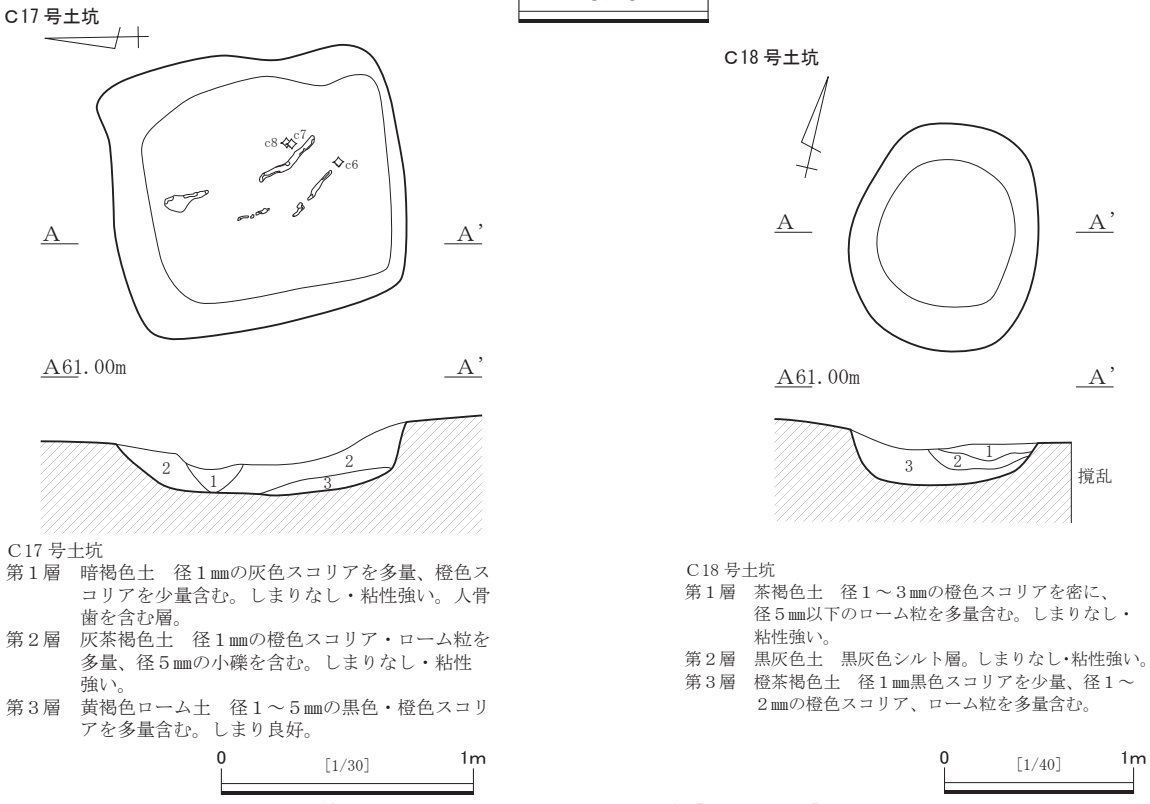
第58図　Ｃ１号掘立柱建物跡（２）・Ｃ２号掘立柱建物跡［1/60］



C８号土坑
第１層　灰褐色土　径１～３㎜の灰色スコリアを多量、径１㎜のローム粒を少量含む。しまりなし・粘性強

C９号土坑
第１層　灰褐色土　径１㎜の灰色スコリア・径１㎜以下の橙色スコリアを多量含む。しまり良好・粘性強い。

C16号土坑
第１層　灰褐色土　径１～３㎜の灰色スコリアを多量、径１㎜のローム粒を少量含む。しまりなし・粘性強



C17号土坑
第１層　暗褐色土　径１㎜の灰色スコリアを多量、橙色スコリアを少量含む。しまりなし・粘性強い。人骨歯を含む層。
第２層　灰茶褐色土　径１㎜の橙色スコリア・ローム粒を多量、径５㎜の小礫を含む。しまりなし・粘性強い。
第３層　黄褐色ローム土　径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを多量含む。しまり良好。

C18号土坑
第１層　茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリアを密に、径５㎜以下のローム粒を多量含む。しまりなし・粘性強い。
第２層　黒灰色土　黒灰色シルト層。しまりなし･粘性強い。
第３層　橙茶褐色土　径１㎜黒色スコリアを少量、径１～２㎜の橙色スコリア、ローム粒を多量含む。

第59図　C８・９・16・17・18号土坑［1/30・1/40］

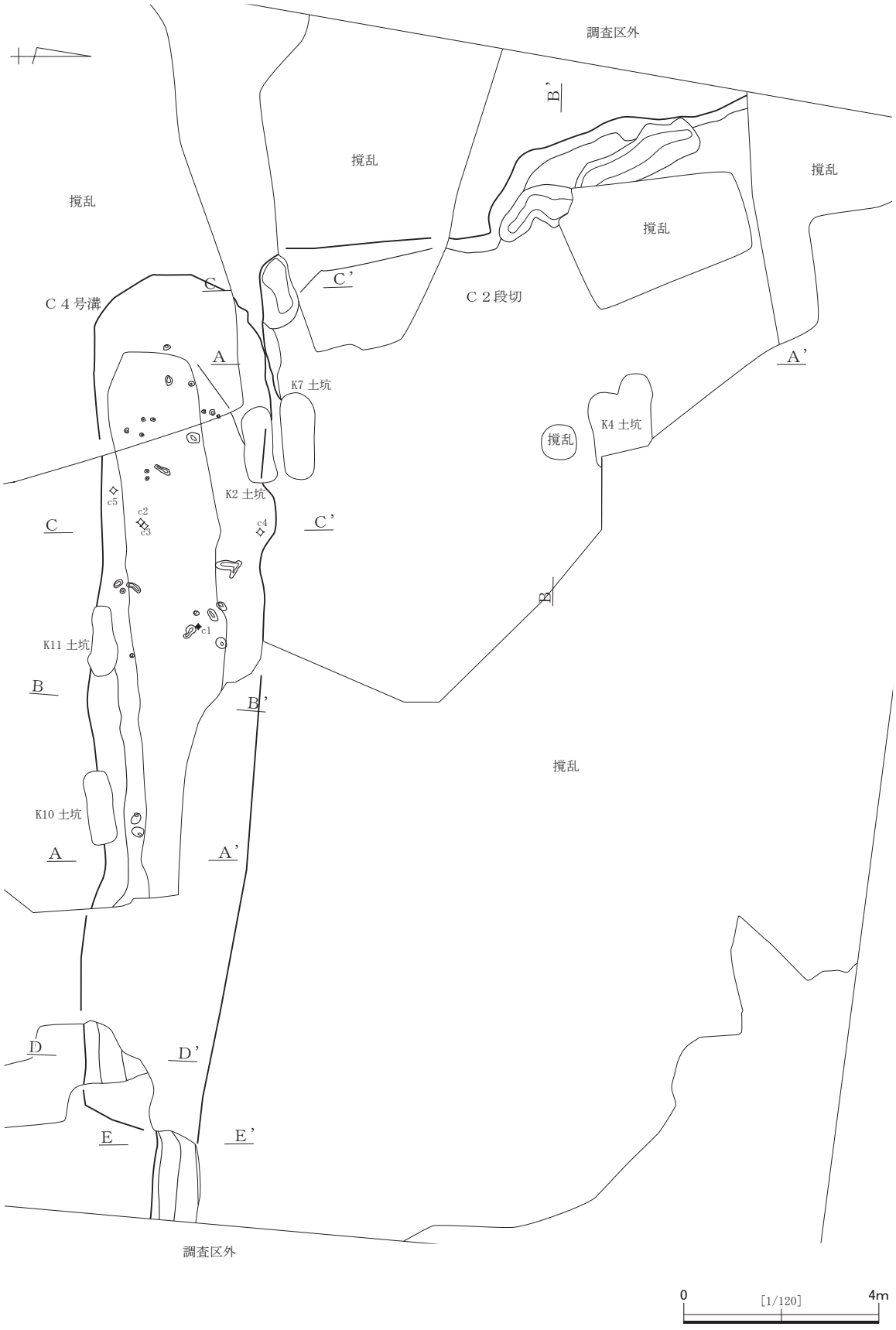
２　中　世

今回の調査で発見された中世の遺構は、掘立柱建物跡２棟、土坑５基、段切１基、溝１条、ピット６基の合計 15 基となる。遺構の分布は、調査区西北にやや偏りを見せて検出されるがやや疎らである。遺物は陶器２点（73g）、磁器１点（8g）、石製品１点（38g）、鉄製品１点（1g）、銭貨７点（13g）の計 12 点（133g）である。

（１）掘立柱建物跡

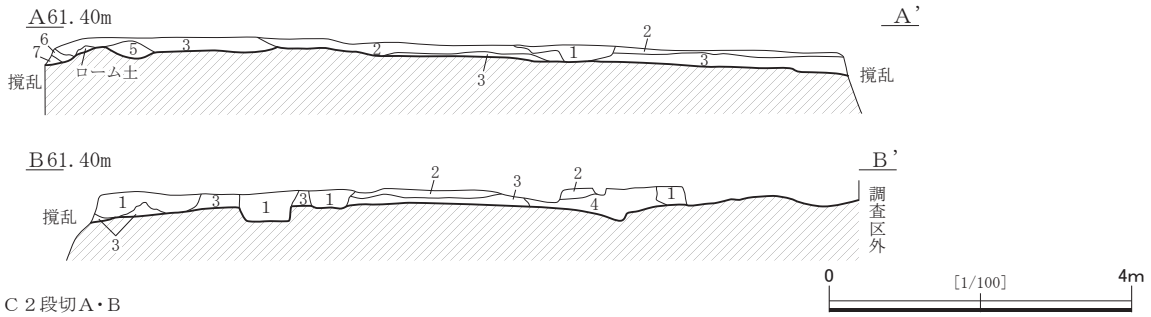
C１号掘立柱建物跡（第 56・57 図、図版 14）

調査区中央西よりの北向きの緩斜面から検出された。４R・４S -39・40 グリッドに位置する。C 段切の

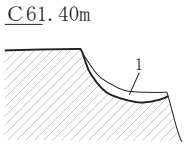


第60図　Ｃ２段切・Ｃ４号溝（１）［1/120］

Ｃ２段切

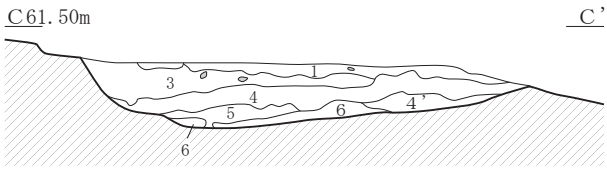


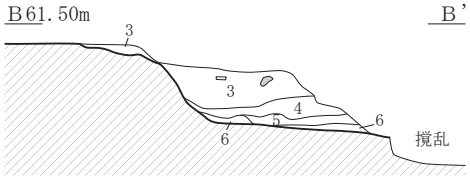
Ｃ２段切Ａ・Ｂ
第１層　灰茶褐色土　宝永スコリアを混在する。ザラザラする層。撹乱
第２層　灰褐色土　径１㎜以下の橙色スコリアを密に含み、径１㎜大の灰色スコリアを含む。しまりなし・粘性なし。
　　Ｃ２段切の堆積土。
第３層　茶褐色土　径１㎜以下の橙色スコリア、径１～２㎜の灰色スコリアを密に含み、径１～２㎜の炭化粒を少量含む。しまり良好・粘性弱い。Ｃ２段切の堆積土。
第４層　黄褐色土　黒色土とロームブロックが斑に混在する。しまりなし・粘性弱い。
第５層　茶褐色土　径１㎜の灰色スコリアを少量、ローム質土を僅かに混入する。しまり良好・粘性なし。サラサラした層。以下Ｃ４号溝堆積土。
第６層　暗茶褐色土　ローム土と褐色土（５層）の混土層。径１㎜の灰色スコリアを少量含む。しまり良好・粘性あり。
第７層　茶褐色土　径１～２㎜のローム粒を多量含む。しまりなし・粘性弱い。

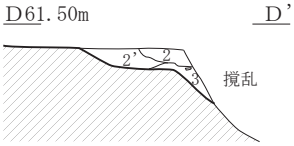


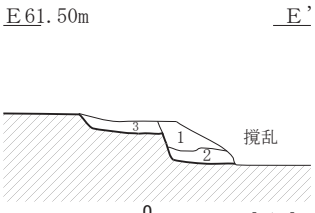
Ｃ２段切
第１層　橙褐色土　ローム質土。径１～３㎜の橙色スコリアを密に含む。しまり良好・粘性強い。
　　ローム土の風化土または二次堆積層と考えられる。

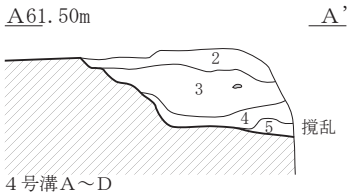
Ｃ４号溝

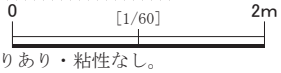












Ｃ４号溝Ａ～Ｄ
第１層　灰褐色土　砂質土しまりなし。撹乱層。
第２層　灰茶褐色土　径１㎜以下の灰色スコリア、径１㎜の赤色スコリア、ローム粒を多量含む。しまりあり・粘性なし。
第２’層　黒灰色土　径１～３㎜の灰色スコリアを多量含む。下部にローム層を含む。下面とは不整合面。
第３層　黒色土　径１～５㎜のロームブロックと黒色土の混土層。径１㎜の灰色スコリアを含む。しまりあり・粘性強い。下面は４層との不整合面となる。（埋戻土）
第４層　橙褐色土　径１㎜の橙色スコリアを多量、径２～３㎜の灰色スコリア（小礫）を多量含む。全体に明味を帯びた地層で部分的に黒色を混在する。しまり良好・粘性強い。５層とは不整合面。
第４’層　黄茶褐色土　ローム土と６層（茶褐色土）の混土層。ローム層中に赤色スコリアを多量含む。しまりなし。粘性強い。
第５層　黒褐色土　径１～２㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性良好。黒色土を縞状に混在する。底面は平坦となる。
第６層　茶褐色土　径１㎜の橙色スコリアを多量含む。下面にローム土を混在する。しまり良好・粘性強い。底面は平坦となる。
Ｃ４号溝Ｅ－Ｅ’
第１層　茶褐色土　径１～３㎜のローム粒を多量に含む。しまりあり・粘性なし。（橙褐色よりローム粒か）
第２層　黒茶褐色土　径１㎜のローム粒を含む。しまり良好・粘性なし。（最下層に対比）
第３層　橙褐色土　径１～３㎜の橙色スコリアとローム粒を密に含む。しまり良好・粘性あり。（東壁最下層土）

第61図　Ｃ２段切・Ｃ４号溝（２）［1/100・1/60］

平坦面に位置しており北側および東側は大きく撹乱されている。撹乱のため東側の柱穴が失われているために不明な部分があるが、３間×４間以上の柱間と推定され、規模は 8.50 m× 6.60 m以上である。梁行きの１・２ピット間と３・４ピット間が 1.60 mに対し、２・３ピット間が 2.60 mであり、建物の構造に関係するものと考えられる。なお、10 ピットは柱列から外れて、柱痕も確認されない。柱穴の平面形は、円形の５・７・８ピット以外は方形を呈し、径 0.31 ～ 0.63 m、深さ 0.43 ～ 0.71 mを測る。各ピットともU字状を呈し、Ⅱ層相当の堆積土である。柱痕を明瞭に残す。遺物は出土していない。

Ｃ２号掘立柱建物跡（第 56・58 図）

調査区北東隅から検出され、４Ｔ -40 グリッドに位置する。西側は大きく撹乱されていて、柱穴の配置は不明であるが、周辺にある５ピットと合わせて、Ｃ２号掘立柱建物跡とした。４間以上の柱間と推定され、規模は 4.00 m× 2.50 m以上である。柱間は、1.00 mであるが２ピットと３ピット間は並びがずれていて、柱間は 0.8 mと詰まっている。なお、６ピットは柱列から外れている。柱穴の平面形は、方形を呈し、一辺 0.29 ～ 0.28 m、深さ 0.27 ～ 0.08 mを測る。各ピットともU字状を呈し、Ⅱ層相当の堆積土である。柱痕は確認されない。遺物は出土していない。

（２）土坑

Ｃ８号土坑（第 59 図）

調査区北東隅で、４Ｔ -40 グリッドに位置し、北側は調査区外に広がり、西側は撹乱されている。南側にＣ 16 号土坑が隣接する。平面は楕円形の半円を呈し、主軸はＮ -20° －Ｅを指す。長軸（1.24）m、短軸 1.04 m、深さ 0.05 mを測り、断面は皿状で底面は凸凹している。Ⅱ層相当の堆積土である。遺物は出土していない。

Ｃ９号土坑（第 59 図）

調査区北東隅で、４Ｔ -40 グリッドに位置し、北側にＣ 16 号土坑が隣接する。平面は長方形を呈し、主軸はＮ -81° －Ｅを指す。長軸（0.95）m、短軸 0.40 m、深さ 0.18 mを測り、断面は箱形で底面は平坦で、Ⅱ層相当の堆積土である。遺物は出土していない。

Ｃ 16 号土坑（第 59 図）

調査区北東隅で、４Ｔ -40 グリッドに位置し、西側は撹乱されている。北側にＣ８号土坑が隣接する。平面は円形を呈し、長軸 0.90 m、短軸 0.85 m、深さ 0.25 mを測り、断面は皿状で、Ⅱ層相当の堆積土である。遺物は出土していない。

Ｃ 17 号土坑（第 59 図、図版 13）

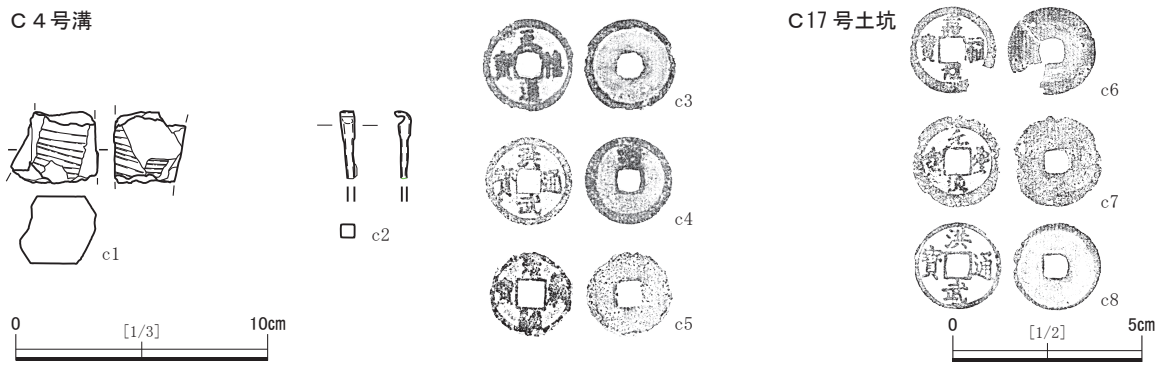
調査区中央やや南寄りで、４Ｓ -39 グリッドに位置する。上面がＣ４号溝と重複していて、溝の底面に設けられた可能性もある。平面は方形を呈し、主軸はＮ -3° －Ｗを指す。長軸 1.16 m、短軸 1.08 m、深さ 0.20 mを測り、断面は鍋底状で、Ⅱ層相当の堆積土である。覆土中に人骨破片が出土し、遺存状況がよくなく詳細は不明であるが、北側を頭部とする埋葬姿勢と思われる。南側の部位不明の骨と磨滅いちじるしい臼歯に銭貨が伴出する。墓坑と推定される。

Ｃ 17 号土坑出土遺物（第 62 図、第 29 表、図版 51）

出土遺物は、銭貨４点（7g）である。このうち３点を図化した。c6 は嘉祐元寶、c7 は元豊通寶、c8 は洪武通寶である。

Ｃ 18 号土坑（第 59 図）

調査区中央で、４Ｓ -39 グリッドに位置する。北側にＣ１号掘立柱建物跡が隣接する。平面は楕円形を呈



第62図　中世出土遺物［1/2・1/3］

し、主軸はＮ－2°－Ｅを指す。長軸1.10ｍ、短軸0.98ｍ、深さ0.30ｍを測り、断面は鍋底状で、Ⅱ層相当の堆積土である。遺物は出土していない。

（３）段切

Ｃ２段切（第60・61図）

調査区西側、４Ｒ－39・40グリッド付近を南北11.0ｍ、東西7.0ｍの方形の範囲を平場として切り出していた。北側と東側は撹乱されていて全体の範囲は不明である。南側でＣ４号溝に切られている。段切中央にはＣ１号掘立柱建物跡がＣ４号溝がほぼ同軸で検出されている。主軸はＮ－21°－Ｗを指す。上層から近世陶磁器が出土していて、覆土中から中世遺物は出土していないが、Ⅱ層相当の堆積土であることやＣ１号掘立柱建物跡との位置関係から中世の段切と判断した。

（４）溝

Ｃ４号溝（第60・61図、図版13・14）

調査区南半、４Ｒ・４Ｓ－39グリッド付近を途中撹乱により断続的となっているが、東西方向に19.20ｍの長さで検出されている。幅は最も広いところで3.55ｍを測る。西端はスロープ状に立ち上がるが、残りのいい部分では緩やかに立ち上がりを見せることが推定される。東側は調査区外に延びている。北側にはＣ２段切が隣接していて、溝中央部にはＣ17号土坑が位置し、本遺構がＣ２段切を切っている。主軸はＮ－21°－Ｗを指す。残りのいいところで見ると緩やかな皿状を呈し、南の立ち上がりから見ると北側は約0.3ｍ低くなっている。土層は３層まではロームと黒色土の混土層である埋め戻し土であり、溝の機能が終わった段階で埋め戻され整地されていることがわかる。出土遺物は８点（125g）で、その内訳は瀬戸・美濃系陶器碗１点（34g）、産地及び器種不明陶器１点（38g）、舶載磁器碗１点（8g）、石製品１点（38g）、鉄製品１点（1g）、銭貨３点（6g）である。なお上層から近世の陶磁器が出土している。

Ｃ４号溝出土遺物（第62図・第27・28・29表、図版51・52）

c1は火打石である。石材は水晶製で、山梨産である。c2は鉄釘である。c3～c5は銭貨で、c3は天禧通寶、c4は洪武通寶、c5は判読不明である。

３　古墳時代後期～奈良・平安時代

本調査区からは、遺構外から小片のため図化していない古墳時代後期～奈良平安時代の遺物が30点（131g）出土した。土師器坏９点（29g）・土師器甕17点（62g）・須恵器坏２点（19g）・灰釉陶器瓶２点（21g）である。

４　縄文時代

今回の調査で発見された縄文時代の遺構は、土坑 11 基、ピット 141 基の合計 152 基となる。遺構の分布は、大きな撹乱や近世・中世の遺構によって大きく撹乱していて、調査区南側の台地上と北側の谷の周辺に分かれる。縄文時代の遺物は、土器 17,455 点（266,709g）、土製品３点（19g）、石器 183 点（13,511g）の計 17,641 点（280,239g）である。この他に土坑や包含層から陸獣の骨やサメの歯などが 19 点出土する。縄文時代の遺物の主な出土位置は調査区の北東の埋没谷に形成された包含層で、この谷の続きを調査した厚木秦野道路予定地では縄文時代の水場遺構が発見されている。

(1) 土坑

Ｊ 19 号土坑（第 64 図）

ピア 17（上り）区北西寄りで、４Ｒ -38 グリッドで、Ｃ１号掘立柱建物跡と一部重複する。主軸はＮ -64° －Ｗを指す。平面は楕円形を呈し、長軸 4.00 ｍ、短軸 1.83 ｍ、深さ 0.52 ｍを測り、断面は緩やかな鍋底状である。ちょうど埋没谷の肩の付近に位置する。東側のａ坑と西側のｂ坑の２つの土坑が連結したような構造となっていて、底面も二つあるように見える。ここでは一つの土坑として取り扱うが、重複する土坑とも考えられる。出土遺物は主に覆土中位から礫とともに出土し、土器片 1,066 点（16,460g）と石器は黒曜石製の石鏃１・原石１・剥片類４の６点（12g）が出土し、覆土中からは獣骨破片 12 点とアオザメの歯１点が出土する。種別が判明したものは陸獣類でシカ・イノシシの四肢骨・橈骨・上腕骨であり、７点が被熱により白色化していて、切断痕の認められるものも存在する。

Ｊ 19 号土坑出土遺物（第 68 図、第 33 ～ 35 表、図版 61･82）

出土遺物は、j65 は緩やかに外反する堀之内２式の深鉢である。j64 は口縁部が短く内折し、開く器形の内文を持つ加曽利Ｂ１式の浅鉢である。j66 は直線的に外反しする鉢形土器で加曽利Ｂ式と思われる。

j67 は石鏃で、黒曜石製で凹基を呈する。

j68 は加工痕のあるアオザメの歯を用いた垂飾品と推定される。これは覆土内から出土した複数の骨粉の一つから同定された。周辺は磨かれていて、先端部に小穴が開いている。

Ｊ 20 号土坑（第 65 図）

ピア 17（上り）区南西寄りの４Ｒ -38 グリッドで､南壁際に位置し遺構外に広がる。台地平坦面に位置し、主軸はＮ -20° －Ｅを指す。平面は長方形を呈し、長軸 1.50 ｍ、短軸（0.74）ｍ、深さ 0.80 ｍを測り、断面は逆台形を呈する。出土遺物は、黒曜石の剥片類１点（5g）が出土した。

Ｊ 21 号土坑（第 65 図）

ピア 17（上り）区南東寄りの４Ｓ -38 グリッドで､南壁際に位置し遺構外に広がる。台地平坦面に位置し、主軸はＮ -20° －Ｅを指す。平面は長方形を呈し、長軸 1.20 ｍ、短軸（0.76）ｍ、深さ 0.20 ｍを測り、断面は皿状を呈する。出土遺物は、黒曜石の剥片類１点（0.2g）が出土した。

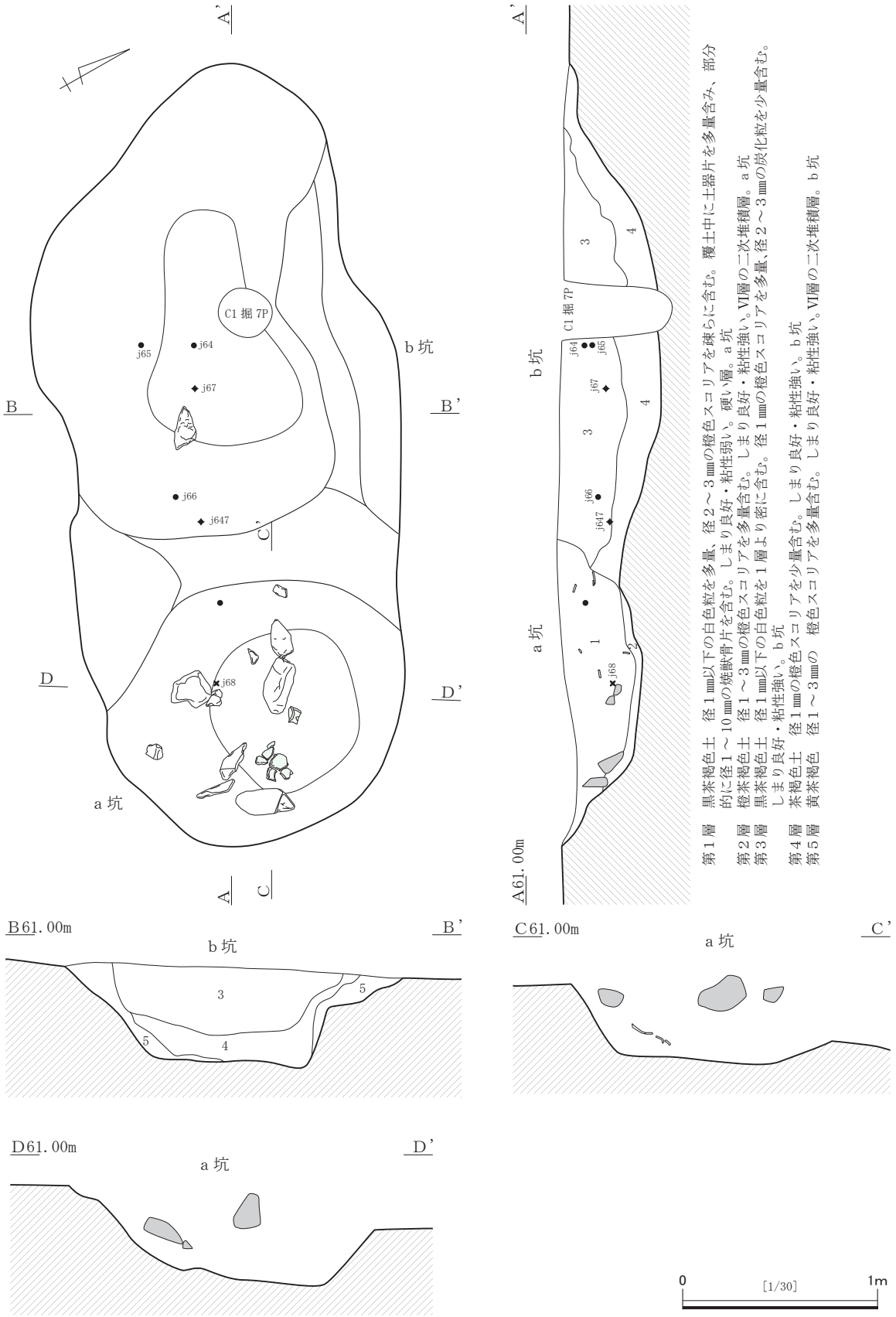
Ｊ 22 号土坑（第 65 図）

ピア 17（上り）区北西隅の４Ｒ -40 グリッドで、東側を撹乱される。埋没谷の肩付近に位置し、隣接してＪ 23 号･Ｊ 24 号土坑がある。主軸はＮ -51° －Ｅを指す。平面は不整方形を呈し､長軸 1.08 ｍ､短軸 1.00 ｍ、深さ 0.36 ｍを測り、断面は鍋底状を呈する。出土遺物は、土器片８点（34g）と黒曜石の剥片類が３点（1g）出土した。

Ｊ 23 号土坑（第 65 図）

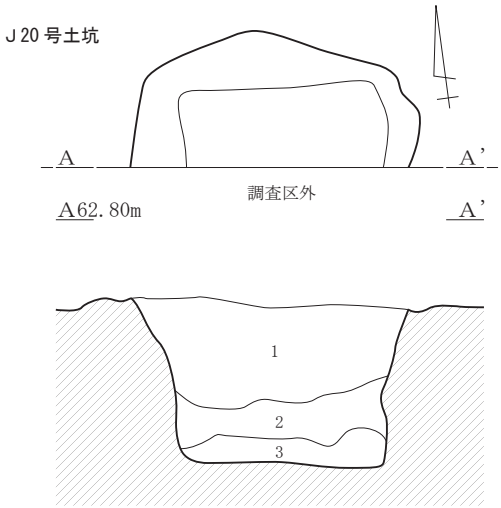


第63図　縄文時代遺構配置図［1/200］

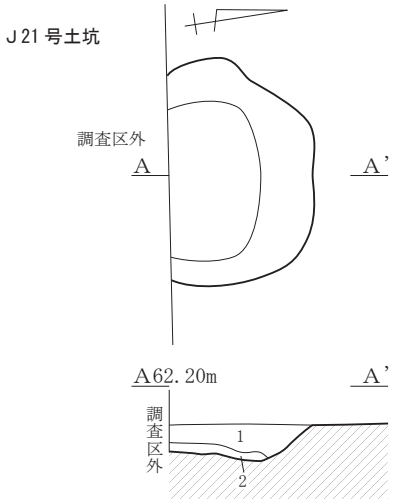


第１層　黒茶褐色土　径１㎜以下の白色粒を多量、径２～３㎜の橙色スコリアを疎らに含む。覆土中に土器片を多量含み、部分的に径１～10㎜の焼獣骨片を含む。しまり良好・粘性弱い。硬い層。a 坑
第２層　橙茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり良好・粘性強い。Ⅵ層の二次堆積層。a 坑
第３層　黒茶褐色土　径１㎜以下の白色粒を１層より密に含む。径１㎜の橙色スコリアを多量、径２～３㎜の炭化粒を少量含む。しまり良好・粘性強い。b 坑
第４層　茶褐色土　径１㎜の橙色スコリアを少量含む。しまり良好・粘性強い。b 坑
第５層　黄茶褐色　径１～３㎜の　橙色スコリアを多量含む。しまり良好・粘性強い。Ⅵ層の二次堆積層。b 坑

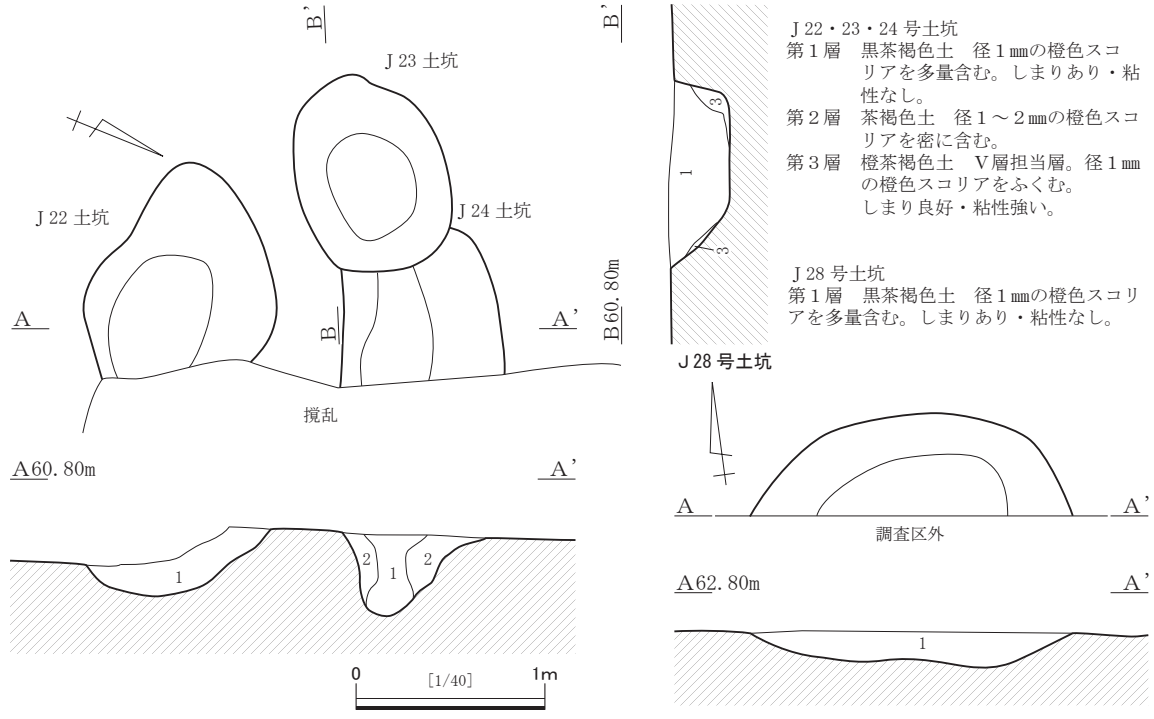
第64図　J 19号土坑［1/30］



J20号土坑
第１層　灰褐色土　径３㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり良好・粘性あり。
第２層　茶褐色土　径１㎜の橙色スコリアを多量ながら１層より小粒になる。１層より明るい層。しまり良好・粘性あり。
第３層　暗褐色土　径１㎜の橙色・白色スコリアを少量含む。色調は黒味が強い。しまり良好・粘性あり。



J21号土坑
第１層　灰褐色土　径１～２㎜の橙色スコリア、径３㎜のローム粒を密に含む。しまり良好・粘性強い。
第２層　橙褐色土　径１㎜の橙色スコリア、ローム粒を密に含む。しまり良好・粘性強い。



J22・23・24号土坑
第１層　黒茶褐色土　径１㎜の橙色スコリアを多量含む。しまりあり・粘性なし。
第２層　茶褐色土　径１～２㎜の橙色スコリアを密に含む。
第３層　橙茶褐色土　Ⅴ層担当層。径１㎜の橙色スコリアをふくむ。しまり良好・粘性強い。

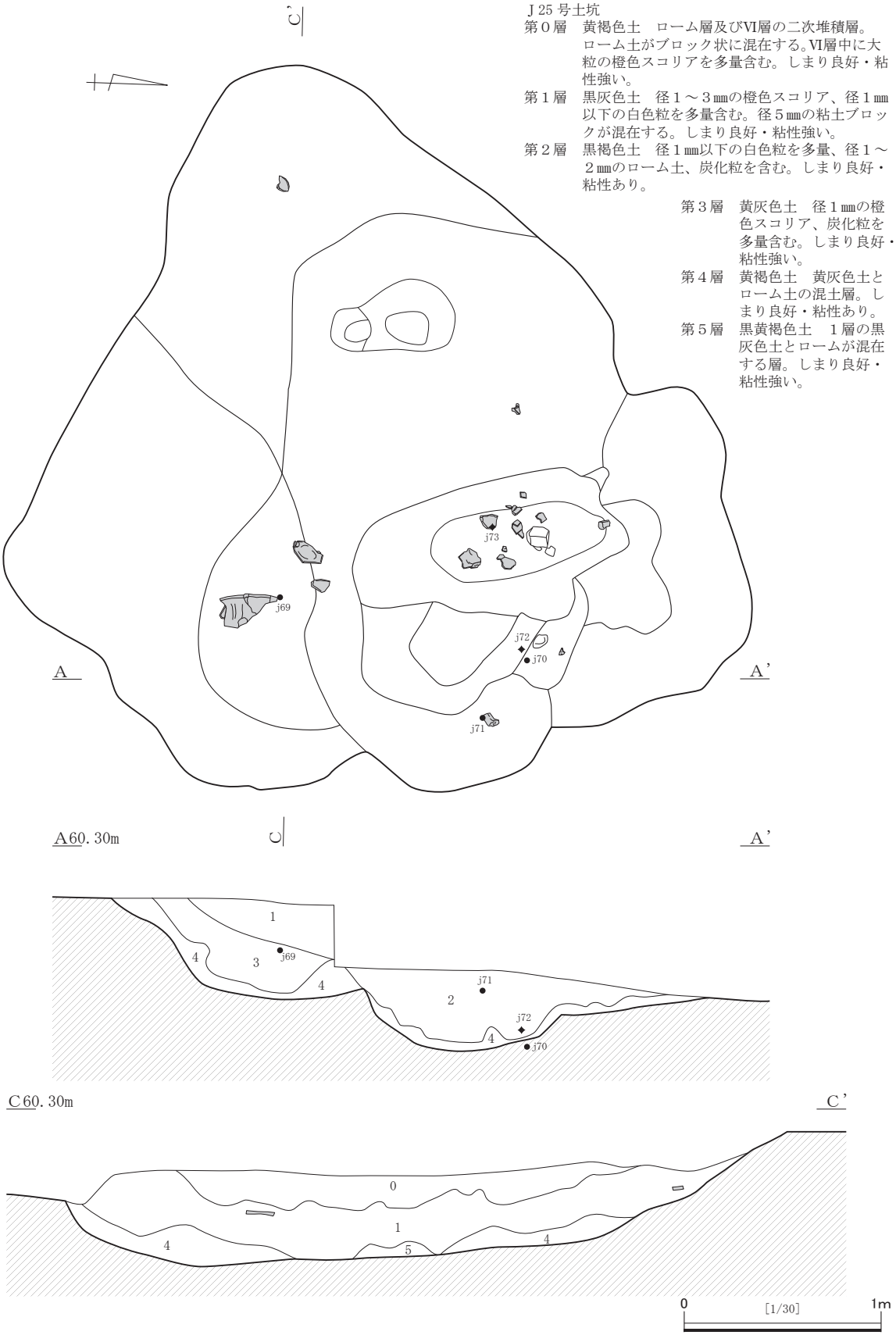
J28号土坑
第１層　黒茶褐色土　径１㎜の橙色スコリアを多量含む。しまりあり・粘性なし。

第65図　J20～24・28号土坑［1/40］

ピア17（上り）区北西隅の４Ｒ-40グリッドに位置する。埋没谷の肩付近に位置し、隣接してＪ22号土坑があり、Ｊ24号土坑を切る。主軸はＮ-51°-Ｅを指す。平面は楕円形を呈し、長軸（1.08）m、短軸0.84m、深さ0.20mを測り、断面は逆台形を呈する。出土遺物は、土器片22点（246g）と黒曜石の剥片類が１点（0.5g）出土した。

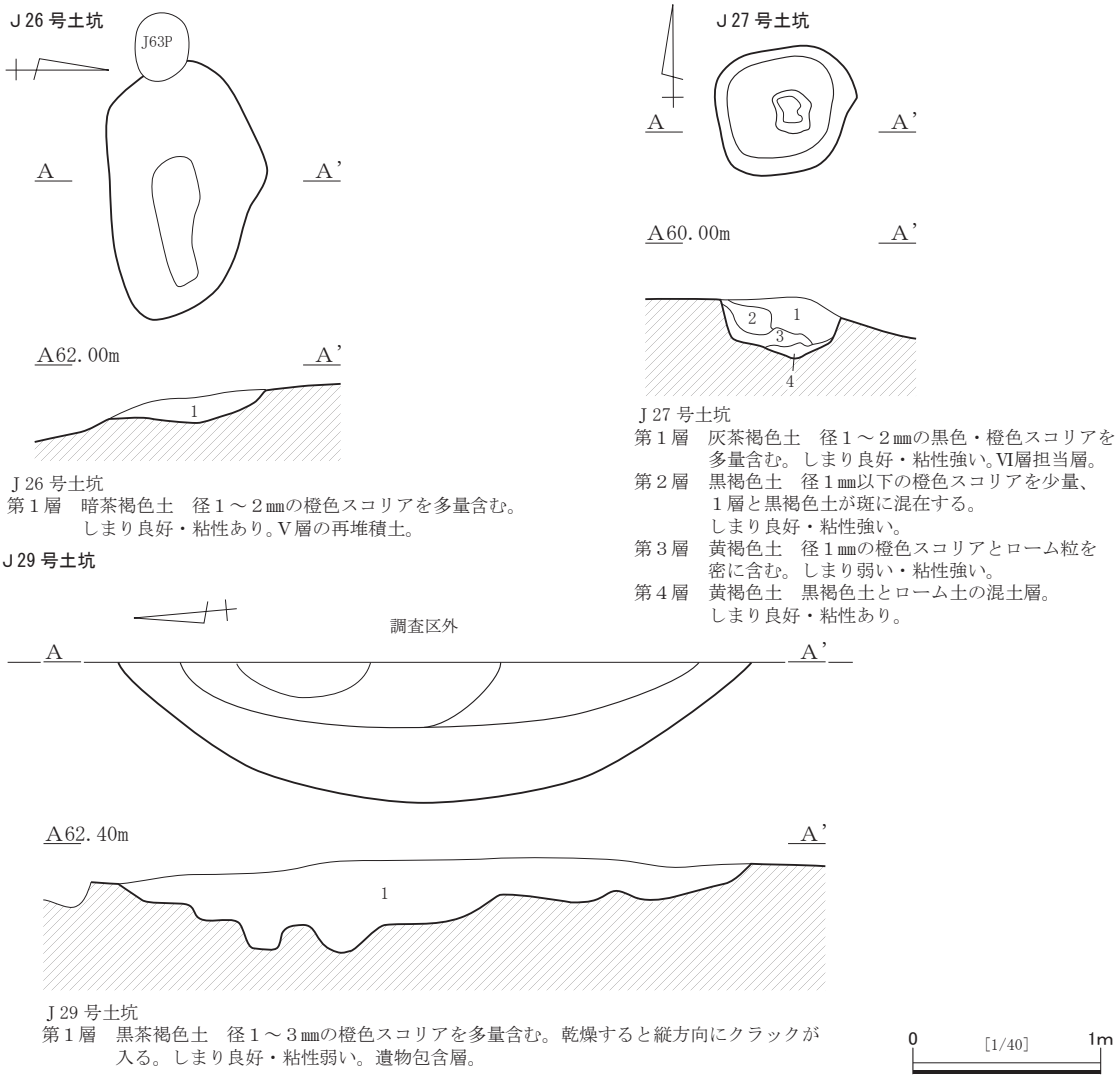
Ｊ24号土坑（第65図）

ピア17（上り）区北西隅の４Ｒ-40グリッドで、東側を撹乱される。埋没谷の肩付近に位置し、隣接し



Ｊ25 号土坑
第０層　黄褐色土　ローム層及びⅥ層の二次堆積層。ローム土がブロック状に混在する。Ⅵ層中に大粒の橙色スコリアを多量含む。しまり良好・粘性強い。
第１層　黒灰色土　径１～３㎜の橙色スコリア、径１㎜以下の白色粒を多量含む。径５㎜の粘土ブロックが混在する。しまり良好・粘性強い。
第２層　黒褐色土　径１㎜以下の白色粒を多量、径１～２㎜のローム土、炭化粒を含む。しまり良好・粘性あり。
第３層　黄灰色土　径１㎜の橙色スコリア、炭化粒を多量含む。しまり良好・粘性強い。
第４層　黄褐色土　黄灰色土とローム土の混土層。しまり良好・粘性あり。
第５層　黒黄褐色土　１層の黒灰色土とロームが混在する層。しまり良好・粘性強い。

第66図　Ｊ25号土坑［1/30］



第67図　Ｊ26・27・29号土坑［1/40］

てＪ 22 号土坑があり、Ｊ 23 号土坑に切られる。主軸はＮ －51° －Ｅを指す。平面は楕円形を呈し、長軸（0.84）m、短軸（0.54）m、深さ 0.54 mを測り、断面は鍋底状を呈する。出土遺物は、黒曜石の剥片類が１点 1.0g 出土した。

Ｊ 25 号土坑（第 66 図）

ピア 17（上り）区北西隅の４Ｓ -39・40 グリッドで、埋没谷の斜面で確認された大形土坑である。隣接してＪ 27 号土坑がある。主軸はＮ －３° －Ｅを指す。平面は不定形な楕円形を呈し、長軸 3.80 m、短軸 3.70 m、深さ 0.60 mを測り、断面は擂鉢状を呈する。覆土上層はローム層の二次堆積層で上面の範囲が不明瞭であり、結果北側の確認面が低い。出土遺物は覆土中位から土器や礫が出土し、土器片 22 点（246g）と凹石２点・石皿片１点・磨石片１点・黒曜石の剥片類が２点の６点（2,862g）が出土した。この他に被熱した陸獣の顎骨片２点が出土する。

Ｊ 25 号土坑出土遺物（第 68 図、第 33・35 表、図版 61・82）

出土遺物は、j69 は胴部がやや括れ、口縁部は外反しながら立ち上がる深鉢である。口縁部に１条の深い沈線と「８」状貼付文を施す。３本の懸垂文間を３本単位の沈線が曲折して連結する。堀之内１式である。j70 は堀之内２式のバケツ型を呈する深鉢で、口縁部無文帯を持ち胴部に「８」字状貼付文が配される。



第68図　Ｊ19・25号土坑出土遺物[1/2・1/3]

j71 は堀之内２式の注口土器で、上部に剥落した環状把手が配され注口はカーブして立ち上がる。

石器は j72 は凹石で石鹸型を呈す半欠品で、粗粒凝灰岩を用いている。j73 は大形の凹石で、厚手の楕円礫の一面に円孔を１個中央に穿つ。被熱する。

Ｊ 26 号土坑（第 67 図）

ピア 17（上り）区南東寄りの４Ｓ -38 グリッドで、南壁際に位置し遺構外に広がる。やや斜面地に位置し、

平面は不整な楕円形を呈し、長軸（1.30）m、短軸 0.90 m、深さ 0.15 mを測り、断面は皿状を呈する。出土遺物は黒曜石の剥片類１点（1g）が出土した。

Ｊ 27 号土坑（第 67 図）

ピア 17（上り）区北西隅の４Ｔ－39・40 グリッドで、埋没谷の斜面で確認された。隣接してＪ 25 号土坑がある。主軸はＮ －３° －Ｗを指す。平面は不定形な方形を呈し、長軸 0.75 m、短軸 0.65 m、深さ 0.30 mを測り、断面は逆台形を呈する。遺物は、覆土中位から礫が出土したが土器は出土していない。

Ｊ 28 号土坑（第 65 図）

ピア 17（上り）区南東寄りの４Ｔ－38 グリッドで、南壁際に位置し遺構外に広がる。台地平坦面に位置し、平面は楕円形を呈し、長軸 1.70 m、短軸（0.54）m、深さ 0.20 mを測り、断面は皿状を呈する。出土遺物は、土器片４点（78g）が出土した。。

Ｊ 29 号土坑（第 67 図）

ピア 17（上り）区南東寄りの４Ｔ－38 グリッドで、東壁際に位置し遺構外に広がる。台地平坦面に位置し、平面は楕円形を呈し、長軸 3.34 m、短軸（0.75）m、深さ 0.47 mを測り、断面は皿状を呈し、底面に凹凸がある。遺物は出土していない。

（２）ピット（第 69 図）

検出された縄文時代のピットは141基(第69図)であり、Ⅵａ層もしくはⅥ層上面で発見されたものが多く、ピットの分布は、調査区南側と埋没谷の斜面に主に分布し、調査区中央付近では近世遺構や撹乱のためか確認されない。ピットの分布から見ると建物の柱穴になるような配置は見られない。ピット内から遺物が出土したピットは 37 基であり、出土土器は破片ばかりである。153 点（2,318g）であり何れも縄文時代後期のものが主体で、図示できるものはない。９ピット後期 5 点（39g）、12 ピット中期 1 点（35g）後期 1 点（14g）、15 ピット後期 6 点（29g）、16 ピット中期 1 点（18g）後期 2 点（14g）、17 ピット後期 3 点（41g）、18 ピット中期 1 点（7g）後期 6 点（56g）、23 ピット中期 2 点（41g）後期 2 点（9g）、26 ピット中期 1 点（17g）後期 1 点（20g）、27 ピット中期 2 点（33g）後期 4 点（30g）、33 ピット中期 5 点（162g）後期 1 点（6g）、35 ピット中期 3 点（47g）、42 ピット中期 6 点（213g）後期 7 点（46g）、43 ピット中期 2 点（29g）後期 2 点（43g）、44 ピット中期 1 点（15g）後期 2 点（8g）、45 ピット後期 1 点（3g）、46 ピット中期 4 点（143g）後期 1 点（2g）、47 ピット中期 3 点（30g）後期 4 点（57g）、49 ピット中期 4 点（151g）後期 15 点（133g）、52 ピット中期 1 点（7g）後期 2 点（69g）、53 ピット後期 2 点（18g）、54 ピット中期 1 点（84g）、55 ピット中期 2 点（41g）後期 2 点（9g）、56 ピット後期 2 点（4g）、67 ピット後期 2 点（9g）、76 ピット後期 1 点（5g）、77 ピット後期 1 点（46g）、79 ピット後期 1 点（5g）、80 ピット中期 1 点（29g）、83 ピット中期 2 点（33g）、85 ピット中期 1 点（14g）、86 ピット中期 1 点（18g）後期 1 点（6g）、97 ピット後期 3 点（17g）、102 ピット後期 6 点（53g）、114 ピット中期 1 点（21g）、129 ピット中期 1 点（10g）後期 10 点（77g）、146 ピット後期 1 点（86g）、156 ピット中期 1 点（14g）後期 7 点（76g）、なお、33 ピットからは、黒曜石剥片類 1 点（0.3g）が出土した

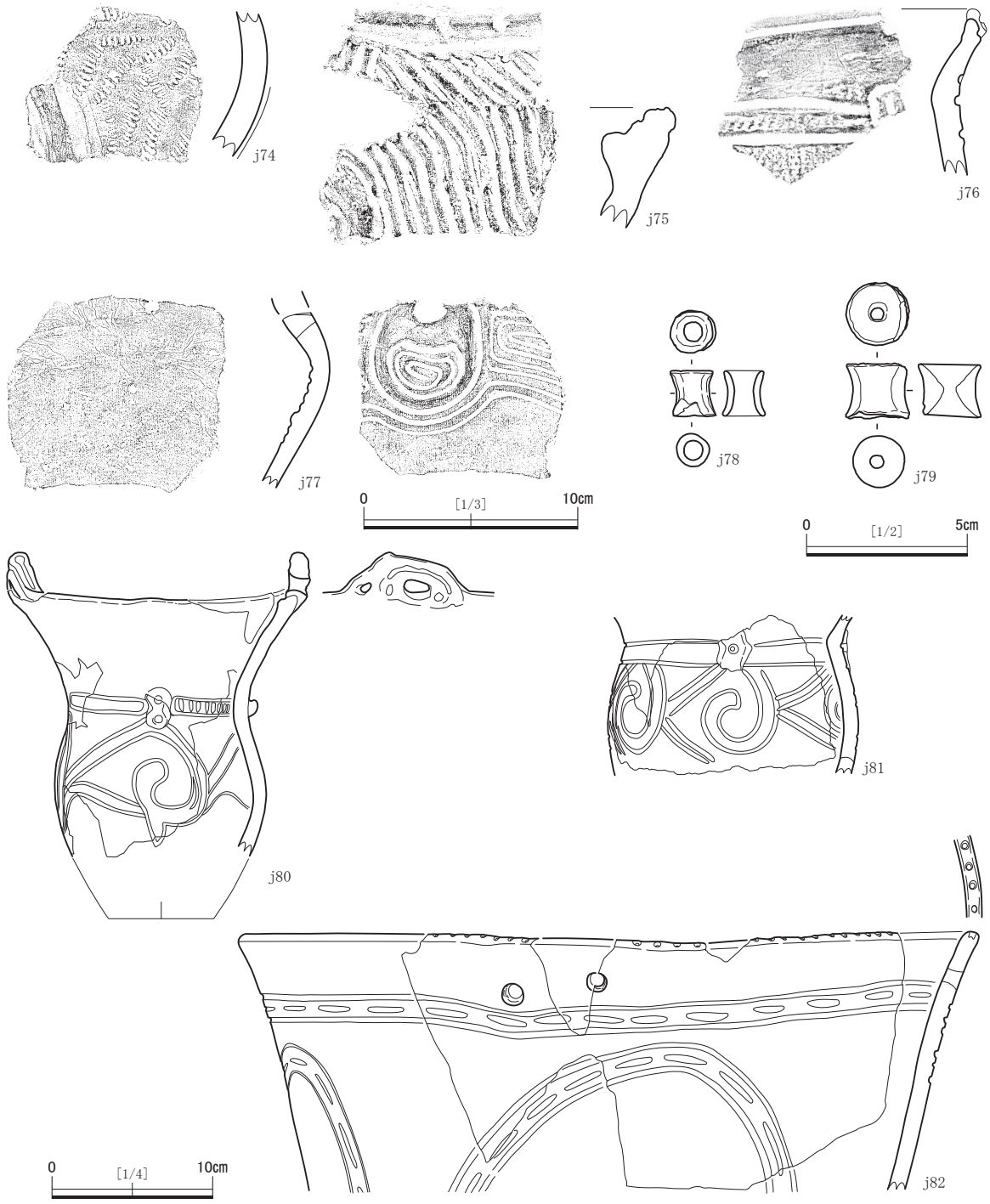
(3) 遺構外出土遺物（第 70・71 図、第 33 ～ 35 表、図版 15・61・82）

出土遺物は、縄文時代包含層からは、中期の土器片 1,983 点(67,497g)、後期の土器片 14,201 点(155,840g)、土製品３点（19g）と石器類 174 点（7,841g）が出土し、その他後世の遺構などから中期の土器片 280 点(7,812g)、後期の土器片 924 点（16,256g）と石器類 83 点（2,796g）が出土している。他に被熱した陸獣の四肢骨が４点出土する。

土器はほとんどが縄文時代後期堀之内式～加曾利Ｂ式である。遺物の分布の多くは調査区北東部に位置す



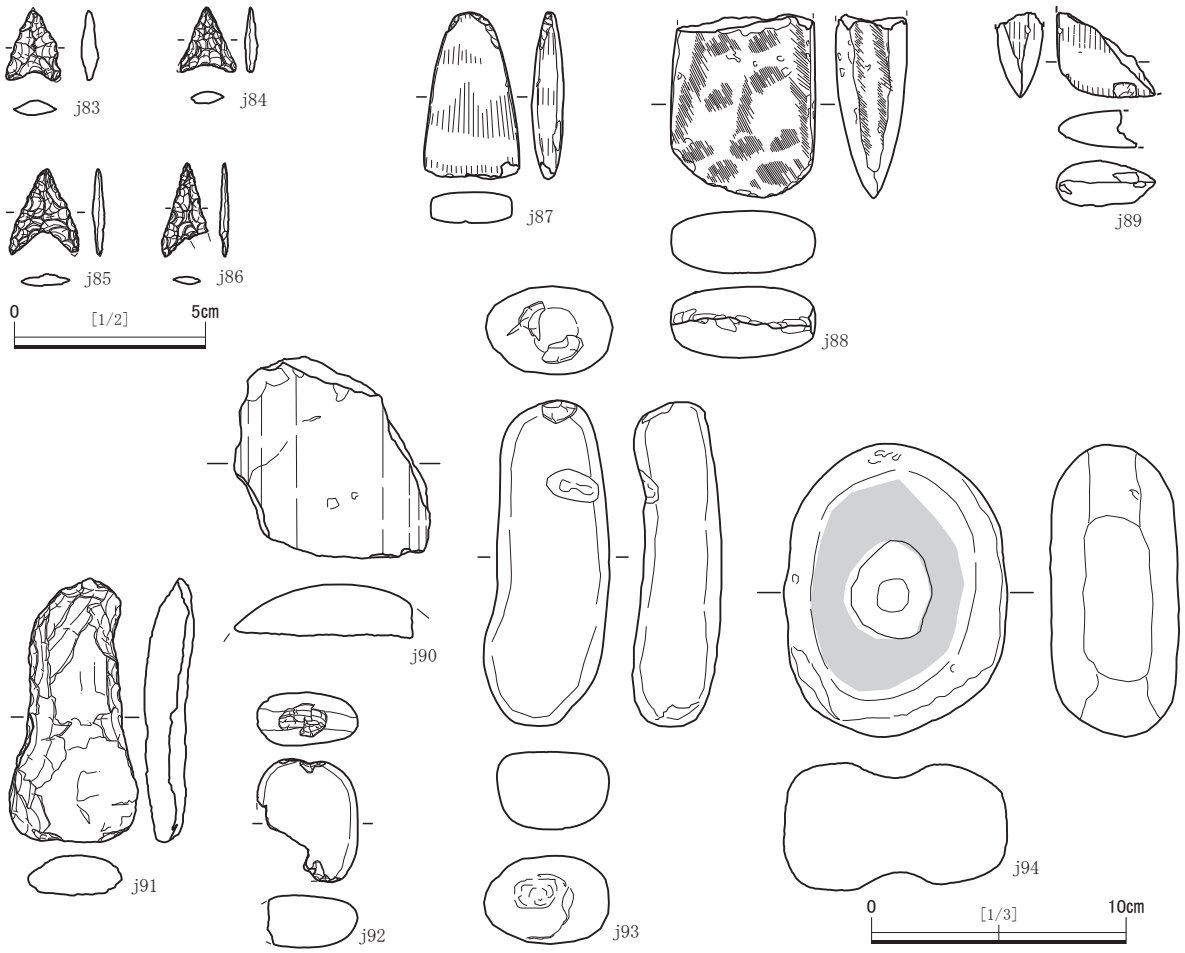
第69図　Jピット全体図及び遺構外出土遺物分布図［1/200］



第70図　遺構外出土遺物（１）[1/2・1/3・1/4]

る埋没谷の中から出土している。この谷は中世期には埋没していたようである。また、調査区南側では周辺で見られるＶａ層にあたる遺物包含層は見つからず、ある程度の造成、整地が行われていて、その土層が谷に埋められた可能性がある。このピア 17（下り）区の配石遺構群が立地する周辺の微地形を推定すると、最も小高い場所に位置していて、本地区はそれを取り囲むような周囲の緩斜面及び谷を埋める遺物包含層が形成されてたと推定される。

土器は、j74 は曽利Ⅳ式の胴部渦巻文の胴部片で、低隆帯による渦巻文が施文され、地文には櫛歯状工具



第71図　遺構外出土遺物（２）［1/2・1/3］

の刺突文が充填される。j75 は曽利Ⅱ式の直線的に外反する重弧文土器の口縁部である。j76・j82 は堀之内１式の深鉢で、j76 は胴部でやや括れ、口縁に向け外反し、波状口縁は緩い「く」字状を呈し、１条の深い沈線が巡る。口縁部は無文帯である。j82 は大形の深鉢で、口唇部に連続円形列点文が施文される。口縁部は幅狭の無文帯で胴部の２条沈線による横位区画文が巡り、胴部に列点文を伴う逆Ｕ字文又は渦巻文が描かれる。口縁下に補修孔２孔見られる。j77 は強く外反する加曾利Ｂ１式の浅鉢で、口縁部で内湾気味立ち上がる。j80･j81 は堀之内１式の深鉢で、j80 は胴部は丸く頸部で括れ、口縁に向け外反する金魚鉢形土器で、胴部は２条沈線による渦巻文と斜向する連結文が４単位配される。頸部に区画文として２条沈線が巡り、４単位の「８」字貼付文を配す。j81 は胴部で括れ口縁部が開く器形で、丸みを持つ胴部に２条沈線による渦巻文と連結文のモチーフを基調とする。括れ部に区画文としての２条沈線が巡り、単位文として「８」字状貼付文を配す。

j78・j79 は土製品の耳栓である。j78 は一部欠損するが 9 割残存する。管状を呈し、側面は緩やかに湾曲し、中心で括れる。j79 は鼓形の耳栓。完存する。側面は緩やかに湾曲し、内面は丸みを帯びる。

石器は j83 ～ j86 は凹基の石鏃で、j83 はチャート他は黒曜石である。j87・j88・j89 は定角式の磨製石斧である。j87 は刃部を一部欠損するが完存品で、透閃石岩を用いる。j88 は刃部が鋭利な状態で遺存している。j89 とともにヒスイ輝石岩を用いている。j91 は撥形の打製石斧で、ホルンフェルス製である。j94 は石皿型の凹石で、中粒凝灰岩を用いる。j92 は石錘で長軸両端に紐かけとする。軟質中粒凝灰岩を用いる。j90 は大形石棒の断片で、軟質中粒凝灰岩を用いる。j93 は敲石で変質安山岩を用い、両端に敲打痕を残す。

第８表　ピア 17（上り）区ピット計測表（単位：m）

位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状	位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状	位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状
C1 掘立	C 1 ピット	0.47	0.45	0.42	方形	4T-38	J 43 ピット	0.46	0.38	0.18	楕円	4S-40	J 101 ピット	0.25	0.18	0.27	楕円
C1 掘立	C 2 ピット	0.46	0.32	0.66	方形	4T-38	J 44 ピット	0.5	0.38	0.36	楕円	4R-38	J 102 ピット	0.4	0.38	0.26	円形
C1 掘立	C 3 ピット	0.35	0.35	0.43	方形	4T-38	J 45 ピット	0.2	0.18	0.1	楕円	4R-40	J 103 ピット	0.43	(0.25)	0.5	不整
C1 掘立	C 4 ピット	0.47	0.37	0.72	方形	4T-38	J 46 ピット	0.68	0.57	0.3	楕円	4S-40	J 104 ピット	(0.19)	0.19	0.16	方形
C1 掘立	C 5 ピット	0.4	0.34	0.68	円形	4T-38	J 47 ピット	0.81	0.67	0.48	不整	4S-39	J 105 ピット	0.25	0.25	0.26	円形
C1 掘立	C 6 ピット	0.31	0.31	0.51	方形	4T-38	J 48 ピット	0.41	0.33	0.36	楕円	4S-39	J 106 ピット	0.22	0.22	0.28	円形
C1 掘立	C 7 ピット	0.34	0.27	0.56	円形	4T-38	J 49 ピット	1.16	1.08	0.36	円形	4S-39	J 107 ピット	0.25	0.23	0.2	方形
C1 掘立	C 8 ピット	0.32	0.3	0.47	円形	欠番	J 50 ピット					4S-40	J 108 ピット	0.16	0.16	0.2	円形
C1 掘立	C 9 ピット	J103 ピットに変更のため欠番				4S-38	J 51 ピット	0.24	0.23	0.18	不定形	4S-40	J 109 ピット	0.19	0.16	0.17	円形
C1 掘立	C 10 ピット	0.63	0.45	0.71	方形	欠番	J 52 ピット	J8 ピットに吸収				4S-40	J 110 ピット	0.35	0.3	0.15	円形
C2 掘立	C 1 ピット	0.27	0.22	0.08	方形	4R-38	J 53 ピット	0.3	0.27	0.2	円形	4S-40	J 111 ピット	0.25	0.19	0.12	円形
C2 掘立	C 2 ピット	0.29	0.28	0.27	方形	4S-38	J 54 ピット	0.47	0.39	0.23	円形	4S-40	J 112 ピット	0.19	0.19	0.15	円形
C2 掘立	C 3 ピット	0.23	0.22	0.21	方形	4R-38	J 55 ピット	0.47	0.43	0.69	円形	4S-40	J 113 ピット	0.76	0.6	0.13	方形
C2 掘立	C 4 ピット	0.24	0.23	0.23	方形	欠番	J 56 ピット	J16 ピットと重複				4S-40	J 114 ピット	0.53	0.37	0.16	方形
C2 掘立	C 5 ピット	0.28	0.22	0.09	方形	4S-38	J 57 ピット	0.27	0.25	0.23	方形	4S-40	J 115 ピット	0.38	0.32	0.2	方形
C2 掘立	C 6 ピット	0.22	0.2	0.3	方形	4S-38	J 58 ピット	0.3	0.27	0.12	方形	4S-40	J 116 ピット	0.35	0.33	0.28	円形
4S-38	K 1 ピット	0.34	0.26	0.26	円形	4S-38	J 59 ピット	0.32	0.28	0.18	円形	4S-38	J 117 ピット	0.29	0.22	0.3	不整
4S-38	K 2 ピット	0.51	0.44	0.34	円形	4S-38	J 60 ピット	0.28	0.22	0.2	方形	4T-39	C 118 ピット	0.18	(0.15)	0.19	円形
4S-38	K 3 ピット	0.67	0.38	0.34	円形	4S-38	J 61 ピット	0.35	0.29	0.15	方形	4T-40	C 119 ピット	0.6	(0.25)	0.4	円形
欠番	4 ピット					4S-38	J 62 ピット	0.25	0.22	0.12	円形	4T-40	C 120 ピット	0.64	(0.3)	0.55	円形
4T-39	C 5 ピット	0.45	0.41	0.32	円形	4S-38	J 63 ピット	0.36	0.28	0.26	円形	4S-40	J 121 ピット	0.38	0.31	0.4	円形
4T-39	C 6 ピット	0.43	0.42	0.44	円形	4S-38	J 64 ピット	0.4	0.33	0.09	方形	4S-40	J 122 ピット	0.27	0.23	0.2	円形
4R-38	J 7 ピット	0.26	0.25	0.22	方形	4S-38	J 65 ピット	0.33	0.23	0.1	楕円	4S-40	J 123 ピット	0.19	0.16	0.16	円形
4R-38	J 8 ピット	0.44	0.33	0.43	楕円	4S-38	J 66 ピット	0.33	0.22	0.13	楕円	4S-40	J 124 ピット	0.3	0.2	0.19	円形
4R-38	J 9 ピット	0.43	0.35	0.34	楕円	4S-38	J 67 ピット	0.35	0.3	0.35	楕円	4S-40	J 125 ピット	0.37	0.3	0.46	方形
欠番	J 10 ピット					4S-38	J 68 ピット	0.25	0.23	0.13	楕円	4S-40	J 126 ピット	0.18	0.18	0.1	円形
欠番	J 11 ピット	J20 号土坑と重複				欠番	J 69 ピット	J38 ピットと重複				4S-40	J 127 ピット	0.32	0.26	0.16	円形
4R-38	J 12 ピット	0.71	0.59	0.31	円形	4T-38	J 70 ピット	0.17	0.16	0.12	方形	4S-40	J 128 ピット	0.32	0.26	0.19	方形
4R-38	J 13 ピット	0.4	0.3	0.44	楕円	4T-39	C 71 ピット	0.31	(0.3)	0.68	円形	4S-39	J 129 ピット	0.62	0.58	0.64	円形
4R-38	J 14 ピット	0.23	0.22	0.13	円形	4R-40	J 72 ピット	0.35	(0.3)	0.28	方形	4S-40	J 130 ピット	0.28	0.27	0.28	方形
4S-38	J 15 ピット	0.28	0.27	0.17	円形	4R-40	J 73 ピット	0.4	0.36	0.22	円形	4S-40	J 131 ピット	0.33	0.3	0.32	方形
4S-38	J 16 ピット	0.43	0.41	0.59	方形	4S-40	J 74 ピット	0.23	0.21	0.28	方形	4S-40	J 132 ピット	0.47	0.28	0.26	不整
4S-38	J 17 ピット	0.51	0.36	0.42	楕円	4S-40	J 75 ピット	0.17	0.16	0.08	方形	4T-40	J 133 ピット	0.18	0.16	0.48	方形
4S-38	J 18 ピット	0.72	0.49	0.24	不整	4S-40	J 76 ピット	0.33	0.28	0.62	方形	4T-40	J 134 ピット	0.20	0.20	0.16	円形
4S-38	J 19 ピット	0.45	0.36	0.24	楕円	4R-40	J 77 ピット	0.54	(0.44)	0.19	不整	4T-40	J 135 ピット	0.19	0.17	0.23	円形
4S-38	J 20 ピット	0.34	0.3	0.24	円形	4S-40	J 78 ピット	0.29	0.23	0.36	円形	4T-40	J 136 ピット	0.2	0.19	0.2	円形
4S-38	J 21 ピット	0.32	0.28	0.15	円形	4S-40	J 79 ピット	0.33	0.3	0.47	円形	4T-40	J 137 ピット	0.25	0.24	0.26	円形
4S-38	J 22 ピット	0.47	0.45	0.15	円形	4R-40	J 80 ピット	0.23	0.2	0.21	方形	4T-40	J 138 ピット	0.25	0.22	0.24	円形
4S-38	J 23 ピット	0.35	0.33	0.18	円形	4S-39	J 81 ピット	0.29	0.26	0.29	円形	4T-40	J 139 ピット	0.3	0.3	0.32	円形
4S-38	J 24 ピット	1.09	0.5	0.13	不整	4S-39	J 82 ピット	0.28	0.27	0.46	円形	4T-40	J 140 ピット	0.17	0.15	026	方形
4S-38	J 25 ピット	0.29	0.27	0.21	円形	4R-38	J 83 ピット	0.36	0.33	0.31	方形	4T-39	J 141 ピット	0.21	0.17	0.14	円形
4S-38	J 26 ピット	0.46	0.26	0.27	楕円	4S-40	J 84 ピット	0.48	0.36	0.3	不整	4T-39	J 142 ピット	(0.48)	0.27	0.24	楕円
4S-38	J 27 ピット	0.35	0.33	0.19	円形	4S-40	J 85 ピット	0.54	0.29	0.22	不整	4T-39	J 143 ピット	(0.56)	(0.28)	0.18	楕円
4S-38	J 28 ピット	0.3	0.29	0.13	円形	4S-40	J 86 ピット	0.84	0.59	0.31	楕円	4T-40	J 144 ピット	0.26	0.24	0.29	方形
4S-38	J 29 ピット	0.27	0.27	0.1	円形	4S-40	J 87 ピット	0.2	0.19	0.29	方形	4T-40	J 145 ピット	0.29	0.23	0.26	方形
4S-38	J 30 ピット	0.63	0.45	0.31	円形	4T-38	J 88 ピット	0.25	0.25	0.28	方形	4T-40	J 146 ピット	0.29	0.23	0.24	方形
4S-38	J 31 ピット	0.33	0.25	0.15	楕円	4T-38	J 89 ピット	0.31	0.26	0.27	楕円	4T-40	J 147 ピット	0.26	0.25	0.23	方形
4S-38	J 32 ピット	0.44	0.33	0.24	楕円	4S-39	J 90 ピット	0.2	0.18	0.26	方形	4T-40	J 148 ピット	(0.32)	0.28	0.22	不整
4S-38	J 33 ピット	0.69	0.41	0.15	不整	4R-40	J 91 ピット	0.26	0.23	0.4	円形	4T-40	J 149 ピット	0.38	0.34	0.17	不整
4S-38	J 34 ピット	0.41	0.4	0.21	方形	4R-40	J 92 ピット	0.26	0.26	0.3	方形	4T-40	J 150 ピット	0.25	0.24	0.15	円形
4S-38	J 35 ピット	1.00	0.4	0.18	不整	4R-40	J 93 ピット	0.31	0.21	0.31	方形	4T-40	J 151 ピット	0.27	0.26	0.22	円形
4T-38	J 36 ピット	0.36	0.31	0.40	楕円	4R-40	J 94 ピット	0.46	0.37	0.16	方形	4T-40	J 152 ピット	0.29	0.23	0.22	円形
4T-38	J 37 ピット	0.36	0.33	0.18	楕円	4T-39	J 95 ピット	0.35	0.27	0.16	円形	4T-40	J 153 ピット	0.32	(0.25)	0.22	円形
4T-38	J 38 ピット	0.62	0.55	0.34	楕円	4T-39	J 96 ピット	0.2	0.16	0.13	円形	4T-40	J 154 ピット	0.2	0.18	0.19	方形
4T-38	J 39 ピット	0.53	0.42	0.33	楕円	4T-39	J 97 ピット	0.35	0.23	0.3	円形	4R-40	J 155 ピット	0.36	(0.18)	0.21	不整
4T-38	J 40 ピット	0.42	0.31	0.22	楕円	4S-39	J 98 ピット	0.22	0.18	0.3	方形	4T-39	J 156 ピット	0.37	0.34	0.56	円形
4T-38	J 41 ピット	0.67	0.6	0.25	楕円	4S-39	J 99 ピット	0.23	0.22	0.31	方形	4T-40	J 157 ピット	0.55	0.52	0.38	円形
4T-38	J 42 ピット	0.7	0.54	0.43	楕円	4S-39	J 100 ピット	0.26	0.19	0.2	円形	略語：不整：不整円形、楕円：楕円形、隅丸：隅丸方形、長方：長方形					

第３節　ピア 16（下り）区の調査

ピア 16（下り）区（旧 22 区南）は今回報告する調査区の中では、ほぼ中央に位置していて、南側に東から入り込んでくる谷に向かって、南に向けて緩やかに傾斜する平坦地から斜面に向けて遺構が分布している。遺構は、近世、中世、奈良・平安時代、縄文時代、旧石器時代が検出され、出土した遺物は近世は 970 点（23,181ｇ）、中世は 10 点（119g）、奈良・平安時代は 235 点（2,127g）、縄文時代は 43,519 点（673,189g）、旧石器時代は 1,119 点（4,446g）で合計 45,853 点（703,062g）である。

第９表　ピア 16（下り）区遺構計測表（単位：m）

グリッド	遺構名	長さ	幅	深さ	形状	グリッド	遺構名	長さ	幅	深さ	形状	グリッド	遺構名	長さ	幅	深さ	形状
5F・G-35・36	H １住居	(5.2)	(3.85)	0.35	方形	欠番	J 13 土坑	J2 号埋設土器に付け替え				5E-35	J 44 土坑	0.85	0.68	0.28	楕円
5F-34・35	J ２住居	5.6	5.3	0.48	隅方	5E-34	J 14 土坑	2.10	(1.34)	0.74	不整	欠番	J 45 土坑	J4 号埋設土器に付け替え			
5E-35	J ３号居	4.5	4.0	0.35	円形	5F-34	J 15 土坑	0.98	0.63	0.28	楕円	5E-35	J 46 土坑	1.6	1.23	0.22	楕円
5F-35・36	C １柱穴列	6.0	—	—	—	欠番	J 16 号土坑	J3 号埋設土器に付け替え				5F-35	J 47 土坑	1.66	0.9	0.4	楕円
5F・G-35・36	K １畠	9.5	6.5	—	—	5E-34	J 17 土坑	0.9	0.82	0.16	円形	5E-34	J 48 土坑	0.8	0.7	0.78	円形
5F-35・36	K １掘立	4.65	(1.90)	—	—	5F-34	J 18 土坑	1.82	1.42	0.4	楕円	5E-34	J 49 土坑	1.6	0.78	1.22	隅丸方形
5F-34・35	K ２掘立	5.60	2.52	—	2×3	5F-34	J 19 土坑	(2.40)	2.20	0.8	不整	5F・G-35	J 50 土坑	1.28	0.66	0.62	隅丸方形
5F・G-35	C ３掘立	3.90	3.10	—	1×2	5F-34	J 20 土坑	1.77	1.37	0.52	隅方	5F-34	J １埋設土器	0.9	0.64	0.33	楕円
5F・G-35	C ４掘立	4.15	3.35	—	1×2	5E-36	J 21 土坑	1.5	1.35	0.18	楕円	5F-34	J ２埋設土器	(0.64)	(0.44)	0.34	不整形
5F-34～36	K １溝	(20.5)	2.8	0.78	逆台	欠番	22 土坑					5F-35	J ３埋設土器	0.66	0.6	0.12	円形
5F-34～36	K ２溝	19.6	1.15	0.30	逆台	5F-35・36	J 23 土坑	0.94	0.84	0.26	円形	5F-34	J ４埋設土器	0.84	0.74	0.33	円形
5E-34～36	K ３溝	15.8	1.14	0.5	U字	5F-35・36	J 24 土坑	1.5	1.26	0.79	不整	5E-34	J １配石	0.96	0.86	0.12	楕円
5E・F-34	K ４溝	9.8	2.1	0.75	逆台	5F-35	J 25 土坑	0.75	0.46	0.13	楕円	5E-36	J ２配石	—	—	—	—
5E-34～36	K ５溝	(20.0)	1.77	0.9	逆台	5F-35	J 26 土坑	0.91	0.67	0.16	楕円	5E-34	J ３配石	1.68	1.55	0.38	不整
5E-34～36	K ６溝	(20.1)	1.04	0.3	逆台	欠番	27 土坑					5F-35	J ４配石	2.50	1.00	—	—
5E-34～36	K ７溝	19.3	2.62	1.22	逆台	5E-36	J 28 土坑	1.34	1.3	0.36	円形	欠番	J ５配石	J2 号配石に付け替え			
5E-34・35	K ８溝	(14.5)	1.6	0.2	皿状	5F-35・36	J 29 土坑	1.00	0.96	0.22	円形	欠番	J ６配石	J3 号配石に付け替え			
5E～G-34・35	C ９溝	20.9	0.6	0.2	皿状	5F-34	J 30 土坑	0.6	(0.6)	0.28	円形	欠番	J ７配石	J3 号配石に付け替え			
5E-34～36	K １道	19.3	4.37	—	—	5F-35	J 31 土坑	1.9	0.8	0.32	楕円	5F-35	J １焼土址	1.24	0.92	0.34	楕円
5F-35	K １土坑	1.57	1.51	0.32	円形	5F-36	J 32 土坑	1.02	0.88	0.1	方形	5F-34	J ２焼土址	1.05	0.64	0.2	楕円
5E-34・35	K ２土坑	4.0	0.52	0.06	溝状	5E-35	J 33 土坑	1.46	1.42	0.34	不整	5E-34	J ３焼土址	1.16	0.72	0.18	楕円
5F-36	K ３土坑	1.9	1.9	0.2	不整	5F・G-35・36	J 34 土坑	1.10	0.84	0.52	楕円	5E-34	J ４焼土址	0.88	(0.62)	0.16	不整
欠番	４土坑					5E-34	J 35 土坑	0.56	(0.24)	0.34	円形	5F-36	J ５焼土址	0.84	0.8	0.18	楕円
5F-35	K ５土坑	1.92	1.71	0.54	円形	5E-35	J 36 土坑	(1.0)	0.9	0.28	楕円	5F-35	J ６焼土址	0.7	0.7	0.12	円形
5F-35	K ６土坑	2.12	1.7	0.46	楕円	5E-35	J 37 土坑	1.53	0.9	0.22	楕円	5E-34	J ７焼土址	0.8	(0.6)	0.2	不整
5F・G-35	K ７土坑	1.10	1.04	0.26	円形	5E-35	J 38 土坑	1.94	1.22	0.54	不整	5F-35	J ８焼土址	0.62	0.6	0.1	円形
5F-35	K ８土坑	(1.54)	1.4	0.48	円形	5F・G-36	J 39 土坑	1.4	1.16	0.32	楕円	5E-35	J ９焼土址	0.95	0.9	0.2	楕円
5F-36	K ９土坑	1.12	1.12	0.25	円形	5E-35	J 40 土坑	1.22	1.18	0.42	円形	5F-35	J 10 焼土址	0.7	0.64	0.16	楕円
5G-35	K 10 土坑	1.30	1.10	0.16	円形	5F-35	J 41 土坑	0.9	0.75	0.8	円形	欠番	J 11 焼土址				
5F-34	C 11 土坑	1.14	1.13	0.13	円形	欠番	42 土坑					5F-35	J 12 焼土址	0.48	0.43	0.12	円形
欠番	J 12 号土坑	J1 号埋設土器に付け替え				5F-35	J 43 土坑	(1.3)	1.36	0.6	楕円						

略語：不整：不整円形、楕円：楕円形、隅丸：隅丸方形、長方：長方形

１　近　世

今回の調査で発見された近世の遺構は、掘立柱建物跡２棟、土坑 10 基、溝８条、道路状遺構１条、畠跡１箇所、ピット６基の合計 28 基となる。遺構の分布は、調査区西北にやや偏りを見せて検出されるがやや

疎らである。遺物は、磁器 259 点（2,785g）、陶器 545 点（12,353g）、炻器 23 点（850g）、土器５点（56g）、土製品７点（416g）、瓦 63 点（3,038g）、石製品 14 点（2,428g）、銅製品 11 点（49g）、鉄製品 28 点（419g）、鉄滓 14 点（784g）、銭貨１点（3g）の合計 970 点（23,181g）が出土している。

（１）溝（第 72 図）

近世の溝は８条検出された。ほぼ南北方向に掘られた複数の溝が目立つが、その中で最も西側にあるＫ７号溝は最大壁高が 1.8 ｍ近くある規模の大きいものである。区画する溝であるか、用途が明らかではないが、館を囲む堀を想定することも可能な規模である。覆土は宝永火山灰を含む土であるが、掘り直しされている部分もあり、当初の掘削時期については、今後の調査を含めて検討が必要である。Ｋ２号溝はＫ１号溝に並行して南北に延びる宝永火山灰廃棄遺構であるが、浅い溝状の部分と方形の土坑状を呈する部分とが連なっているものである。

Ｋ１号溝（第 73 図）

ピア 16（下り）区の東寄りを南北に縦断して南端で東側へ曲がり、南側及び東側は調査区域外へ続いている。全長（20.5）ｍを検出した。底部の幅は 0.6 ｍほどであるが東側の壁の立ち上がりは緩やかで底部との境は不明瞭である。断面形は不整な逆台形を呈している。幅は 1.6 ～ 2.8 ｍ、深さ 0.8 ｍを測る。覆土は宝永火山灰を含み、５Ｆ－ 34 ～ 36 グリッドの下層からは 18 世紀前半の陶磁器が出土した。南端では東西方向のＫ４号溝に切られている。

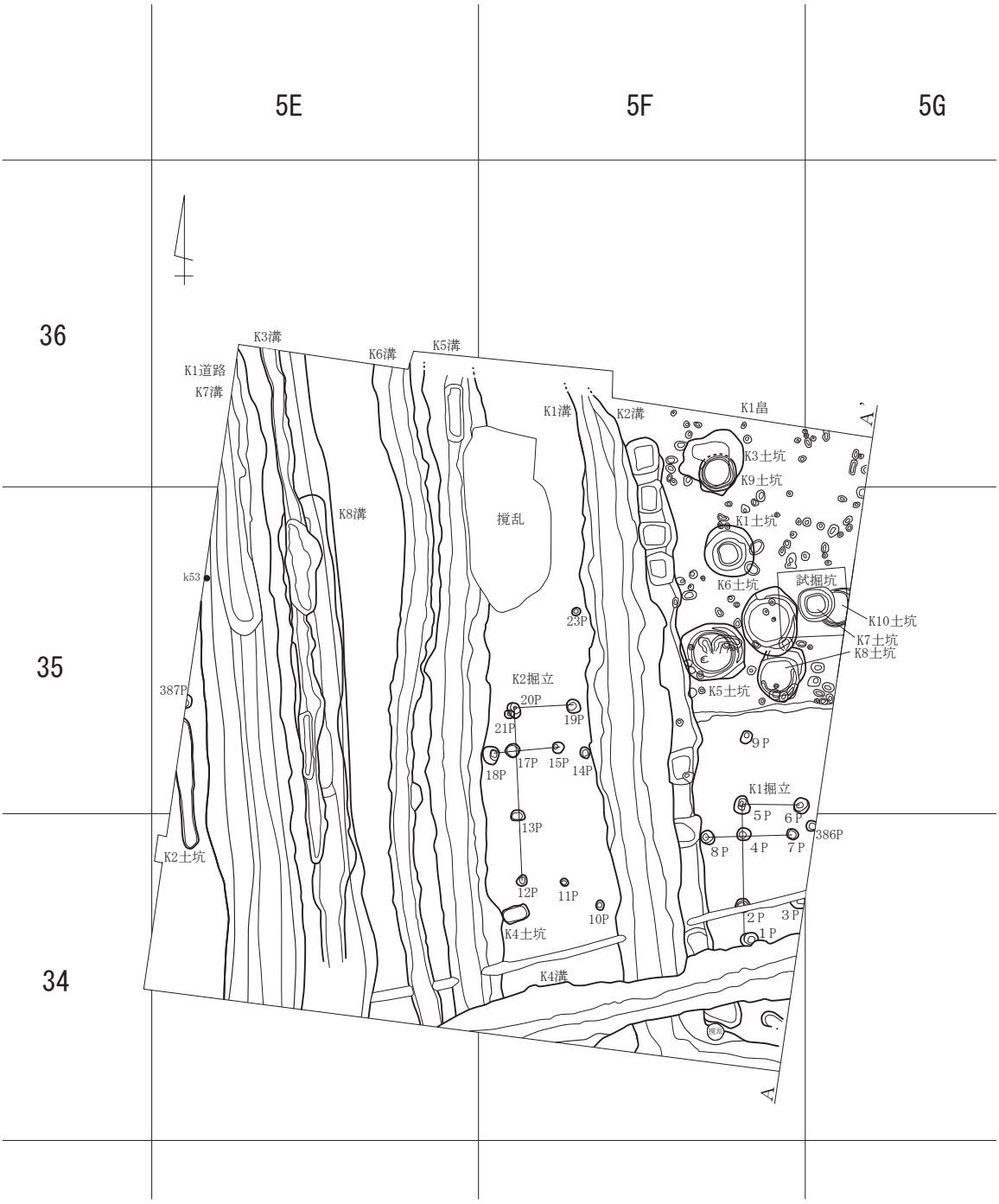
遺物は 151 点（4,957g）出土しており、その内訳は、瀬戸・美濃系陶器碗 34 点（591g）・陶器皿 18 点（406g）・陶器鉢 22 点（784g）・陶器瓶１点（2g）・陶器壺１点（345g）・器種不明陶器１点（2g）、肥前系陶器碗６点（56g）・陶器皿５点（254g）、肥前系陶器鉢２点（130g）・器種不明陶器２点（5g）・磁器碗 27 点（435g）・磁器皿４点（136g）・磁器鉢２点（13g）・磁器瓶４点（33g）・器種不明磁器１点（1g）、京・信楽系陶器碗４点（52g）、常滑系炻器甕１点（18g）・炻器甕１点（18g）、丹波系炻器鉢１点（125g）、在地系陶器壺１点（103g）、産地不明陶器壺２点（258g）・陶器甕１点（960g）、瓦１点（141g）、種別不明土製品１点（9g）、石製品６点（500g）、煙管３点（23g）、鉄刀子他３点（12g）、鉄滓２点（45g）である。これらの遺物は、他遺構から出土した遺物が接合するものがあり、Ｋ５号溝との接合、Ｋ２溝・Ｋ５溝・Ｋ６溝との接合、Ｋ７溝との接合、Ｋ１号道路状遺構との接合、Ｋ３号土坑との接合が見られる。

Ｋ１号溝出土遺物（第 79・80 図・第 21 ～ 23・25 表、図版 45・49・50・52）

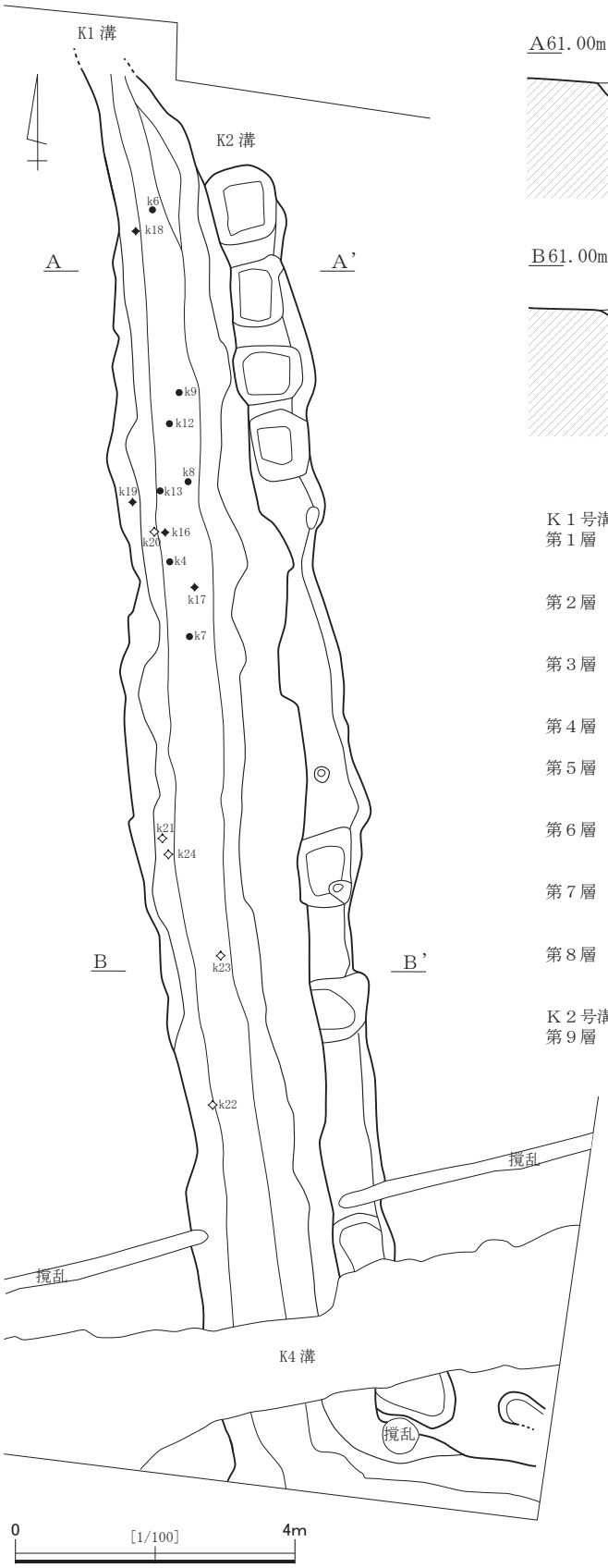
k4・k7 は瀬戸・美濃系の陶器碗、k9 は瀬戸美濃系の陶器皿、k10 は肥前系陶器碗で、Ｋ１号溝とＫ３号土坑の出土遺物が接合したものである。k5 は京焼風の肥前系陶器碗である。k8 は瀬戸・美濃系陶器皿または鉢で、Ｋ１号溝とＫ７号溝の出土遺物が接合したものである。k11 は肥前系陶器鉢で、Ｋ１号溝とＫ５号溝から出土した遺物が接合したものである。k13 は産地不明の陶器甕、k12 は産地不明の陶器壺、k14 は丸瓦である。k15・k16・k17・k18・k19 は棒状の砥石である。k21 は鉄製刀子の茎部、k20 は鉄製品で器種は不明としたが、刀子茎部の可能性がある。k22・k23 は煙管の雁首、k24 は煙管の吸口である。

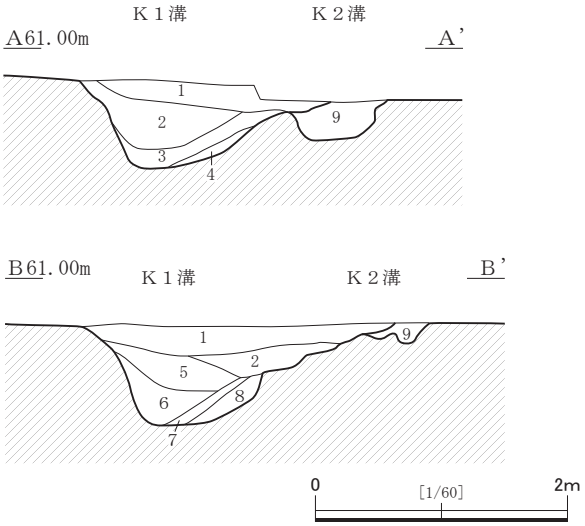
Ｋ２号溝（第 73 図）

Ｋ１号溝の東隣に沿って並行する浅い溝で、幅は 1.0 ～ 1.2 ｍほど、深さ 0.1 ～ 0.15 ｍを測る。西側の立ち上がりは、Ｋ１号溝に切られているため残っていない。全長 18.0 ｍを検出した。遺構内には、廃棄されたものと思われる宝永火山灰が堆積していた。Ｋ２号溝とした範囲の北端部分には方形の土坑が４つ並び掘られていて、宝永火山灰が充満していた。土坑状部分は長さ 0.8 ～ 1.2 ｍ、幅 0.7 ～ 1.2 ｍ、深さ 0.3 ～ 0.4 ｍほどで、溝状部分と同様に二次堆積の宝永火山灰で埋まっていた。４つの土坑状部分もＫ２号溝の一部と



第72図　近世遺構配置図［1/200］

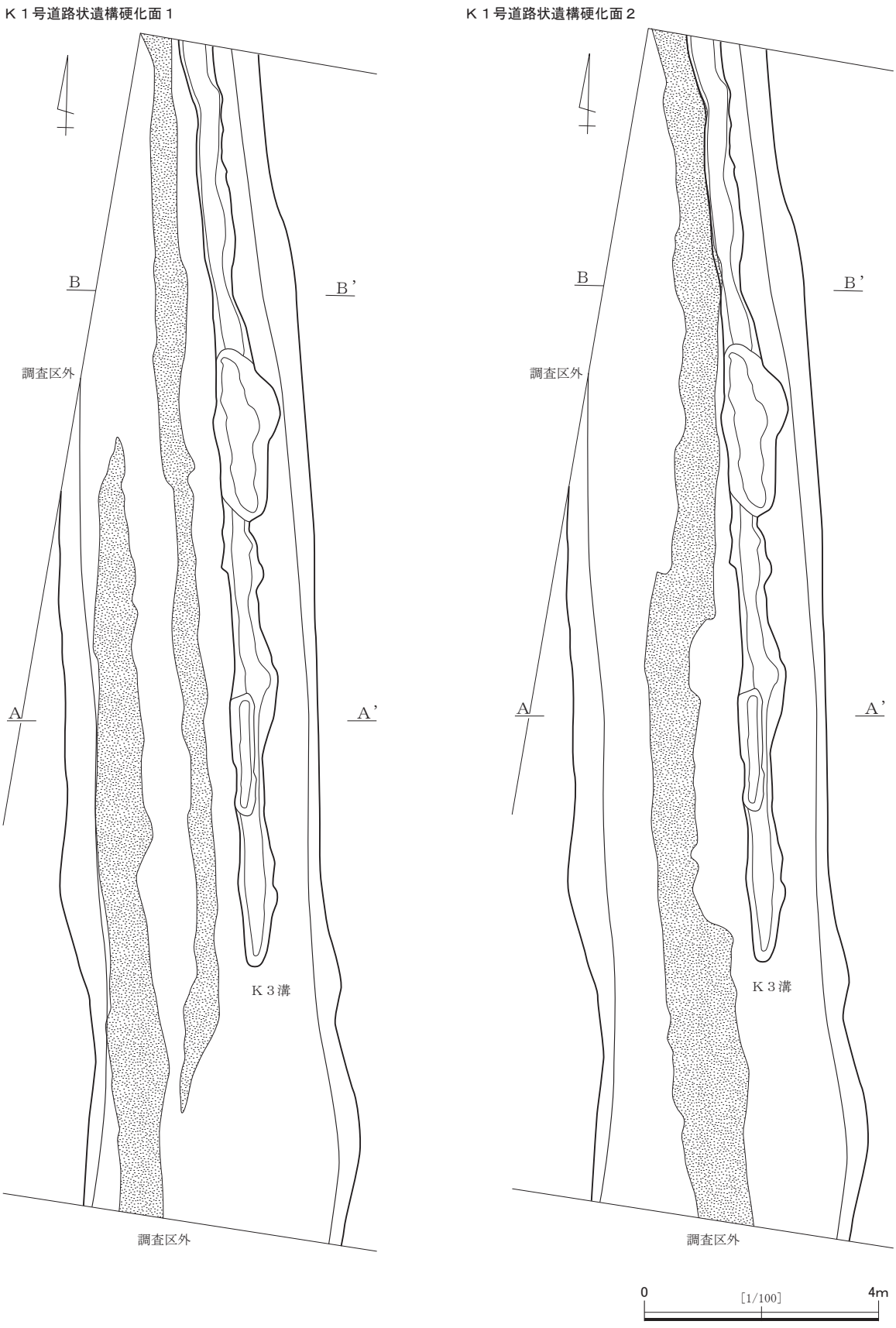




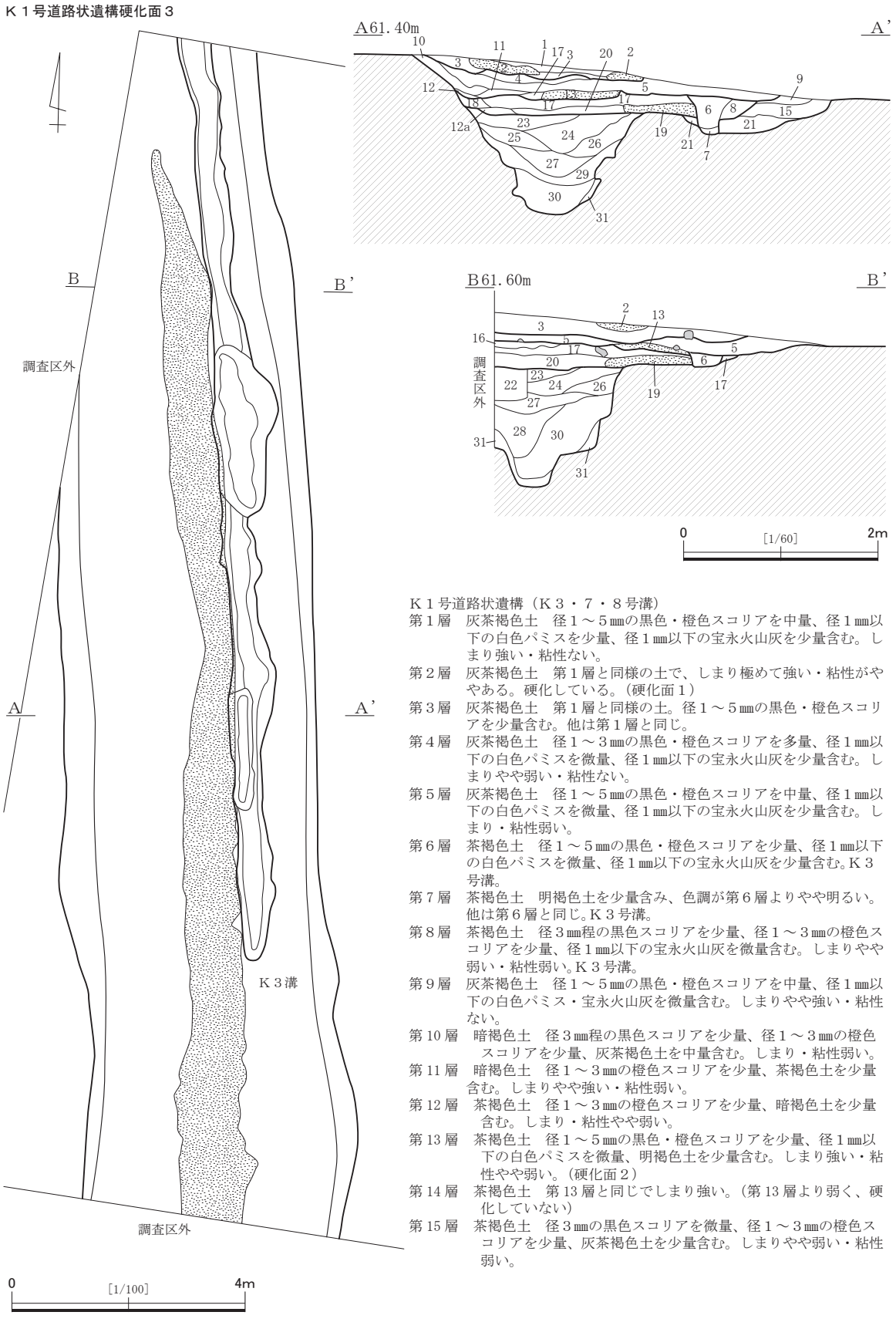
Ｋ１号溝
第１層　茶褐色土　径３～５㎜の黒色・橙色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰（黒灰色）を中量、明褐色土を少量含む。しまり・粘性弱い。
第２層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色・橙色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰（黒灰色）を中量、黒褐色土を少量、炭化粒を少量含む。しまり・粘性弱い。
第３層　茶褐色土　径３～５㎜の黒色・橙色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰（黒灰色）を少量、明褐色土を少量含む。しまり・粘性弱い。
第４層　茶褐色土　径３～５㎜の橙色スコリアを少量、明褐色土を少量含む。しまり・粘性やや弱い。
第５層　茶褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを中量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。Ⅱ層土主体。
第６層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。Ⅲ層土を多く含む。
第７層　茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰（黒灰色）を少量、明褐色土を少量含む。しまり・粘性弱い。
第８層　茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰（黒灰色）を多量、明褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性ない。

Ｋ２号溝
第９層　灰黒色砂　径１㎜以下のスコリアを主体に径１～３㎜のスコリアを中量含む。非発泡。サイズ混在。二次堆積。しまり・粘性ない。

第73図　Ｋ１・２号溝［1/100・1/60］



第74図　Ｋ１号道路状遺構、Ｋ３・７・８号溝（１）［1/100］



K１号道路状遺構（K３・７・８号溝）

第１層　灰茶褐色土　径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを中量、径１㎜以下の白色パミスを少量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量含む。しまり強い・粘性ない。

第２層　灰茶褐色土　第１層と同様の土で、しまり極めて強い・粘性がややある。硬化している。（硬化面１）

第３層　灰茶褐色土　第１層と同様の土。径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを少量含む。他は第１層と同じ。

第４層　灰茶褐色土　径１～３㎜の黒色・橙色スコリアを多量、径１㎜以下の白色パミスを微量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量含む。しまりやや弱い・粘性ない。

第５層　灰茶褐色土　径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを中量、径１㎜以下の白色パミスを微量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量含む。しまり・粘性弱い。

第６層　茶褐色土　径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを少量、径１㎜以下の白色パミスを微量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量含む。K３号溝。

第７層　茶褐色土　明褐色土を少量含み、色調が第６層よりやや明るい。他は第６層と同じ。K３号溝。

第８層　茶褐色土　径３㎜程の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰を微量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。K３号溝。

第９層　灰茶褐色土　径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを中量、径１㎜以下の白色パミス・宝永火山灰を微量含む。しまりやや強い・粘性ない。

第10層　暗褐色土　径３㎜程の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量、灰茶褐色土を中量含む。しまり・粘性弱い。

第11層　暗褐色土　径１～３㎜の橙色スコリアを少量、茶褐色土を少量含む。しまりやや強い・粘性弱い。

第12層　茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリアを少量、暗褐色土を少量含む。しまり・粘性やや弱い。

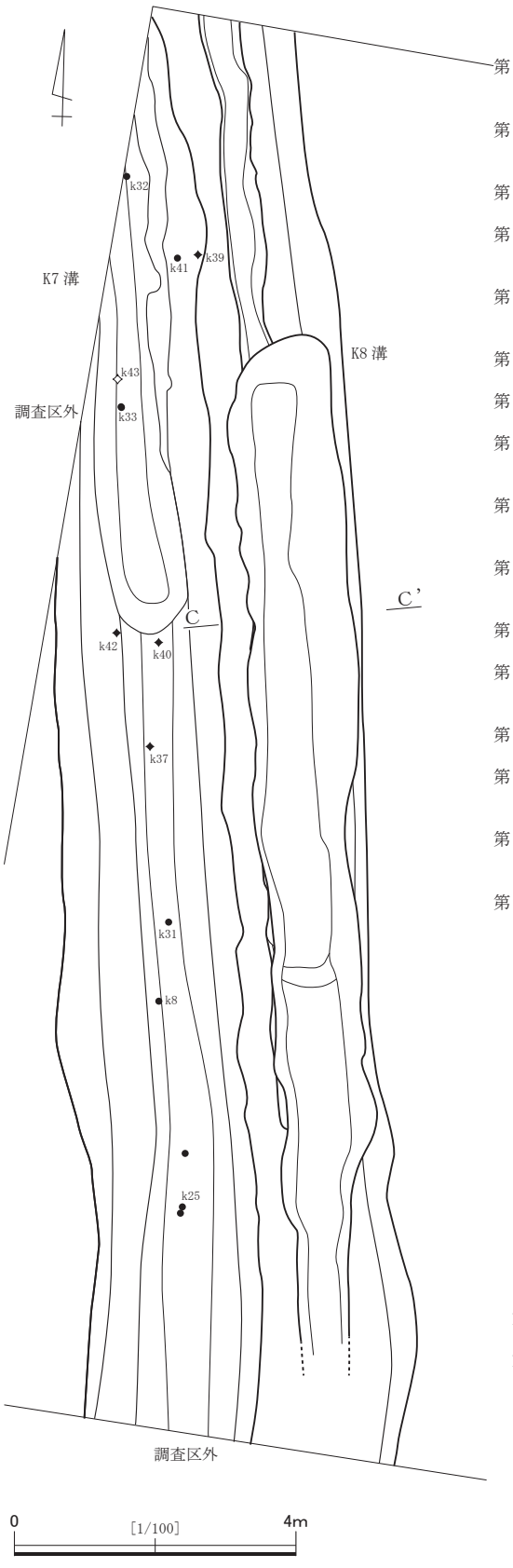
第13層　茶褐色土　径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを少量、径１㎜以下の白色パミスを微量、明褐色土を少量含む。しまり強い・粘性やや弱い。（硬化面２）

第14層　茶褐色土　第13層と同じでしまり強い。（第13層より弱く、硬化していない）

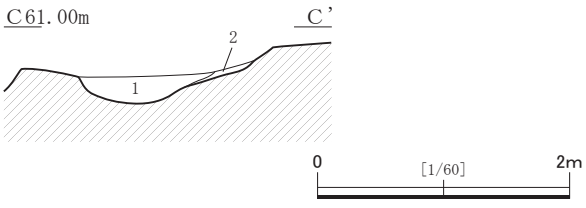
第15層　茶褐色土　径３㎜の黒色スコリアを微量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量、灰茶褐色土を少量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。

第75図　K１号道路状遺構、K３・７・８号溝（２）［1/60・1/100］

Ｋ７・８号溝状遺構



第 16 層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを多量含む。しまりやや弱い・粘性ない。水流によりスコリア粒が流れ溜まったような堆積層
第 17 層　茶褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰を中量含む。しまりやや強い・粘性ない。
第 18 層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを中量、茶褐色土を少量含む。しまり・粘性弱い。
第 19 層　灰茶褐色土　明茶褐色土に暗褐色土を少量含む。径１～３㎜の橙色スコリアを多量、第Ⅲｂ層に明茶褐色土を少量含む。しまり極めて強く硬化している。粘性弱い。（硬化面３）
第 20 層　灰茶褐色土　径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを微量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量含む。しまり強い（硬化していない）・粘性ない。（硬化面３）
第 21 層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量含む。しまりやや強い・粘性弱い。Ｋ８号溝
第 22 層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量含む。しまり・粘性弱い。
第 23 層　灰茶褐色土　径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰を微量含む。しまり弱い・粘性ない。やや粗い土層。Ｋ７号溝。
第 24 層　茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリアを微量、径１㎜以下の宝永火山灰を微量、炭化粒を微量、明褐色土を少量含む。しまり・粘性弱い。Ｋ７号溝。
第 25 層　灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを中量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量含む。しまり弱い・粘性ない。粗い層。水流の痕跡と思われる。Ｋ７号溝。
第 26 層　灰茶褐色土　径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量含む。しまり・粘性弱い。Ｋ７号溝
第 27 層　茶褐色土　径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを微量、径１㎜以下の宝永火山灰を微量、褐色土を少量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性弱い。Ｋ７号溝。
第 28 層　茶褐色土　径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを少量、明褐色土を中量含む。しまり弱い・粘性やや強い。
第 29 層　暗灰褐色土　径１～５㎜の黒色・橙色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量、褐色土を微量含む。しまり・粘性弱い。Ｋ７号溝。
第 30 層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色・橙色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量、褐色土を少量含む。しまり・粘性弱い。Ｋ７号溝。
第 31 層　明褐色土　明褐色土を多量、褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性強い。Ｋ７号溝。



Ｋ８号溝
第１層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、褐色土を少量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。
第２層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリア・径１～３㎜の橙色スコリアを微量含む。しまり・粘性弱い。

第76図　Ｋ１号道路状遺構、Ｋ３・７・８号溝（３）［1/60・1/100］

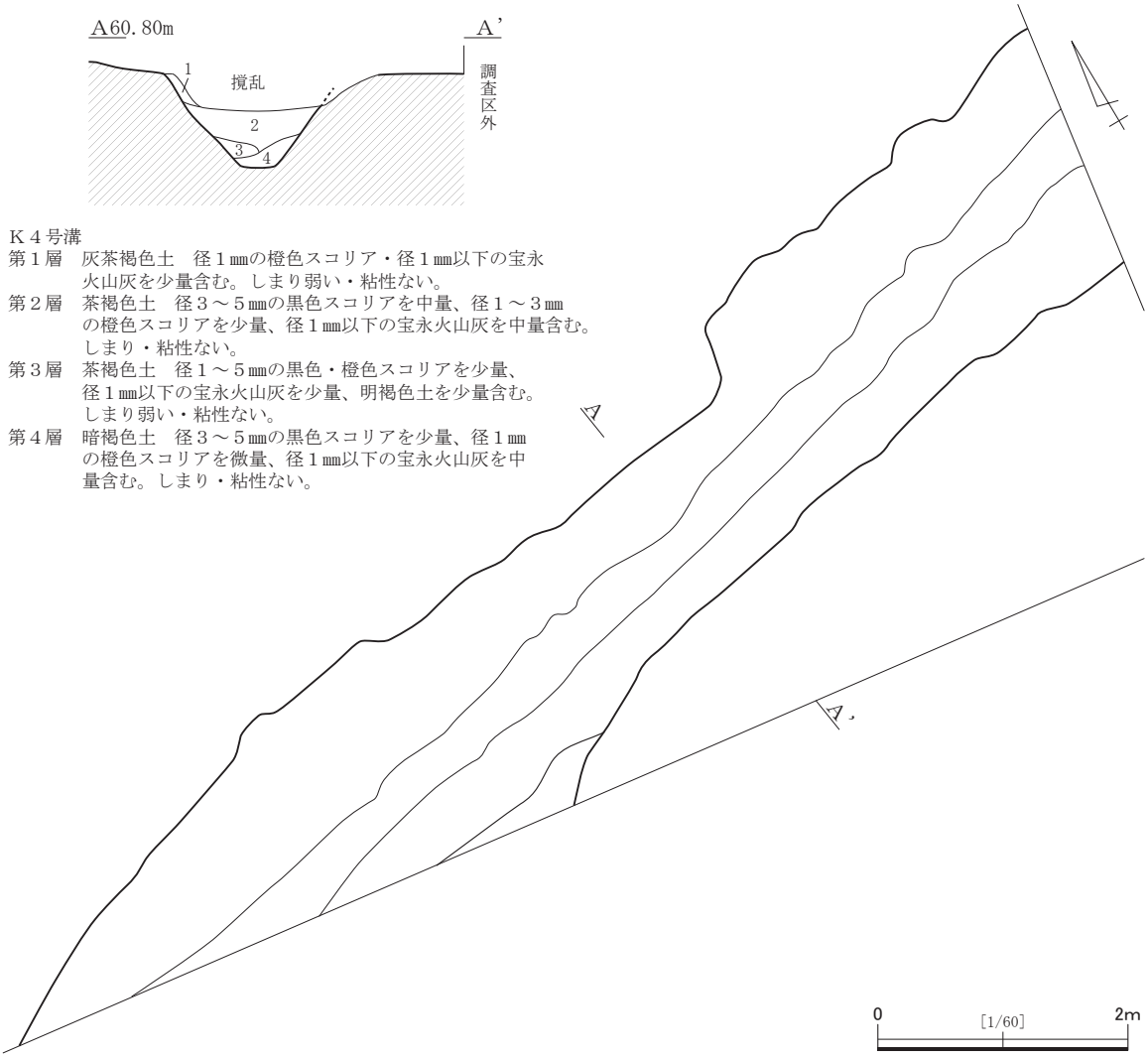
して扱った。溝の南半分においても、浅いものであるが所々方形に掘りくぼめられている箇所がある。Ｋ２号溝に堆積していた宝永火山灰は一次堆積層ではなく、寄せ集められて廃棄され埋められたものである。Ｋ１号溝とＫ２号溝との新旧関係は、土層断面ではＫ２号溝が先に埋まっている状況を示しているが、Ｋ１号溝が先に掘られていた可能性もある。遺物は７点（49g）出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器碗２点（6g）・陶器鉢２点（27g）、京・信楽系陶器碗３点（16g）である。

Ｋ３号溝（第 74・75・76 図）

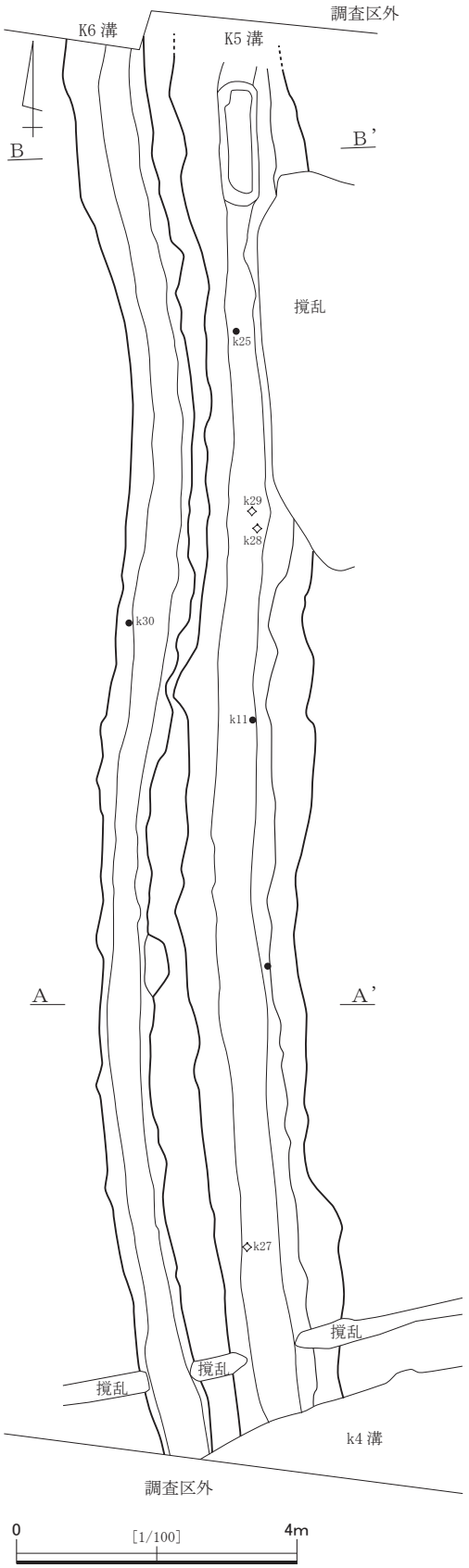
ピア 16（下り）区の西寄りにあり、Ｋ１号道状遺構の中層の面（第２硬化面）に伴って掘られた遺構である。北側は調査区域外へ続いているが、南側は立ち上がって終わる。全長 15.8ｍを検出した。幅約 0.35 ～ 0.75ｍ、底部幅 0.2 ～ 0.25ｍ、深さ 0.1 ～ 0.4ｍで、形状は一定しない。覆土は宝永火山灰を含むしまりのない土層である。遺物は６点（36g）出土しており、その内訳は瀬戸･美濃系陶器碗１点（7g）・陶器鉢２点（23g）、肥前系磁器碗３点（6g）、石製品１点（564g）である。

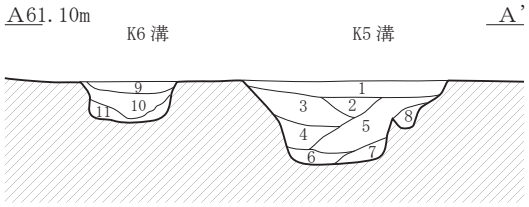
Ｋ４号溝（第 77 図）

ピア 16（下り）区の南端にある東西方向の溝である。幅約 2.1ｍ、底部幅約 0.3ｍ、深さ 0.75ｍ、断面

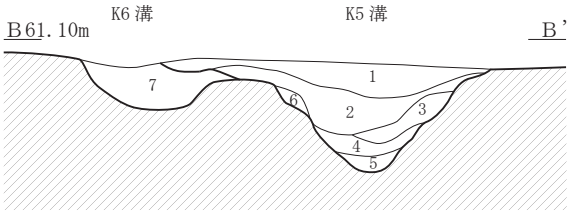


第77図　Ｋ４号溝［1/60］





K５号溝　A-A’
第１層　灰褐色土　径１～５㎜の黒色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量、炭化粒を微量含む。しまり弱い・粘性ない。やや茶色味あり。
第２層　灰褐色土　第１層よりやや暗い色調。第３層との中間層。径１～３㎜の黒色スコリアを少量､宝永火山灰を多量含む。しまり･粘性ない。
第３層　暗灰褐色土　径１～３㎜の黒色スコリアを中量、径１㎜以下の宝永火山灰を微量、暗褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性ない。
第４層　灰褐色土　径１～３㎜の黒色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量含む。しまり弱い・粘性ない。
第５層　明灰褐色土　径１～５㎜の黒色スコリアを中量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量、炭化粒を少量含む。しまり弱い・粘性ない。
第６層　暗灰褐色土　径１～３㎜の黒色スコリア少量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量、褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性ややあり。
第７層　明灰褐色土　径１～３㎜の黒色スコリア少量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量、褐色土を中量含む。しまりやや弱い・粘性ややあり。
第８層　明灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリア少量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量、明褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性ややあり。
K６号溝　A-A’
第９層　暗灰褐色土　径３㎜の黒色スコリアを少量、径１㎜程の橙色スコリア中量、径１㎜以下の宝永火山灰を微量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。
第 10 層　暗灰褐色土　径３㎜の黒色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰を微量含む。しまり弱い・粘性ない。
第 11 層　径３㎜の黒色スコリアを少量、褐色土を少量含む。しまり・粘性弱い。



K５・６号溝 B-B’
第１層　灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量、炭化粒を微量含む。しまり弱い･粘性ない。やや茶色味あり。第Ⅰ層(耕作土)に類似する。
第２層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量、灰褐色土を少量含む。しまり・粘性ない。
第３層　明灰褐色土　径１㎜以下の宝永火山灰を少量、暗褐色土を中量、褐色土を少量、炭化粒を少量含む。しまりない・粘性弱い。
第４層　明灰褐色土　径１㎜以下の宝永火山灰を少量、褐色土を少量含む。しまりない・粘性弱い。軟らかい。
第５層　明灰褐色土　径１㎜以下の宝永火山灰を微量、褐色土を中量含む。しまり・粘性弱い。
第６層　暗灰褐色土　径１㎜以下の宝永火山灰を微量、褐色土を中量含む。しまり・粘性弱い。
第７層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量、灰褐色土を少量含む。しまり・粘性ない。

0　[1/60]　2m

第78図　Ｋ５・６号溝［1/100・1/60］

形は逆台形を呈し、直線的に掘られる。全長（9.8）ｍを検出した。調査前にあった東西方向の農道の真下にあたり、覆土は比較的軟らかい。交差するＫ１・Ｋ２・Ｋ５号溝よりも新しい。遺物は４点（69g）出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器水注１点（2g）、肥前系陶器１点（42g）・磁器皿１点（9g）、瓦１点（16g）である。

Ｋ５号溝（第 78 図）

ピア 16（下り）区中央部を南北に縦断していて、やや蛇行している。全長（20.0）ｍを検出した。覆土は宝永火山灰を含む。Ｋ６号溝と並行していて、Ｋ５号溝が新しい。幅 1.5 ～ 1.6 ｍ、底部幅約 0.7 ｍ、深さ 0.65 ～ 0.9 ｍ、断面形は下半分はほぼ逆台形であるが、東側壁の上半分は下半分よりも緩やかに開く。北端の底部には 20㎝ほど一段深く掘り込まれた坑状の部分があるが、性格不明である。遺物は 71 点（1,217g）出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器碗２点（5g）・陶器皿４点（75g）・陶器鉢５点（219g）・陶器瓶１点（16g）・陶器水注７点（104g）・器種不明陶器７点（25g）、肥前系陶器皿４点（90g）・陶器瓶１点（2g）・磁器碗 12 点（214g）・磁器皿１点（32g）・磁器瓶１点（7g）・器種不明磁器１点（19g）、京・信楽系陶器碗３点（4g）、丹波系炻器鉢１点（8g）、在地系陶器壺１点（138g）、産地不明陶器鉢３点（18g）、産地および器種不明陶器１点（3g）、砥石１点（16g）、火打石（石英）１点（1g）、鉄釘、鋤先等 12 点（180g）、鉄滓２点（41g）である。

Ｋ５号溝出土遺物（第 81 図・第 21 ～ 23 表・図版 45・50・52）

陶器が出土する。k25 は肥前系の磁器碗で、Ｋ７号溝出土遺物と接合する。k11 は肥前（唐津）の鉢でＫ１号溝出土遺物と接合する。石製品としては、砥石１点が出土する。k26 は棒状の砥石である。鉄製品は k28 が鉄釘、k27 が鋤先・鍬先、k29 は不明鉄製品である。

Ｋ６号溝（第 78 図）

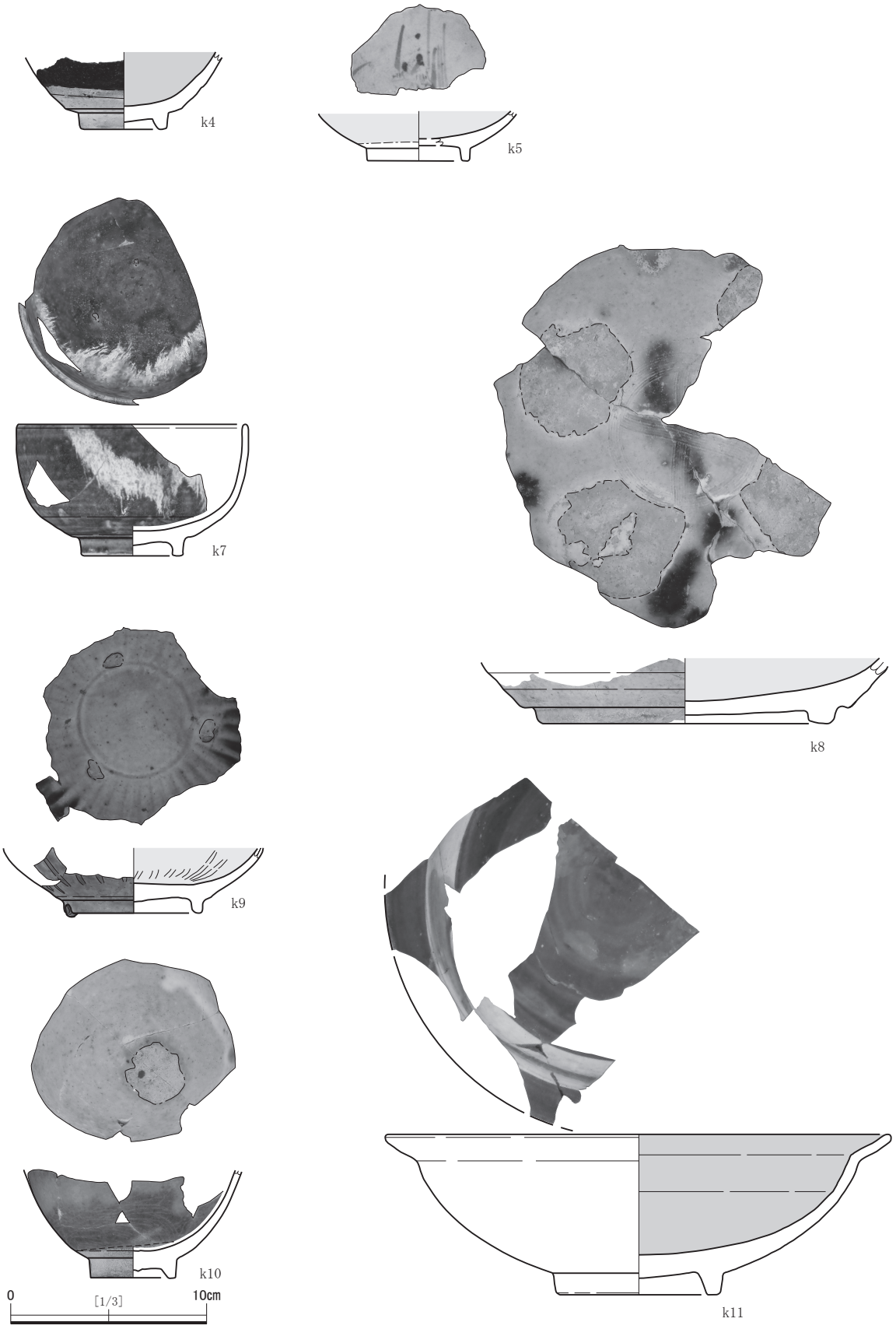
ピア 16（下り）区中央部を南北に縦断していて、Ｋ５号溝と並行しより大きく蛇行する。全長（20.1）ｍを検出した。覆土は宝永火山灰を含み、幅 0.7 ～ 1.04 ｍ、底部幅 0.4 ～ 0.6 ｍ、深さ 0.3 ｍを測る。断面形は一定ではなく、緩やかに丸味を帯びている所と逆台形から箱形を呈する部分とがある。南側でＫ４号溝と交差すると思われるが、調査区域内では新旧関係を確認できない。遺物は 17 点（273g）出土しており、その内訳は瀬戸･美濃系陶器碗２点（10g）・陶器鉢４点（127g）、肥前系陶器碗１点（11g）・陶器鉢１点（11g）・磁器碗５点（17g）、京・信楽系陶器碗２点（3g）、在地系陶器壺２点（94g）である。

Ｋ６号溝出土遺物（第 81 図・第 21 表・図版 45）

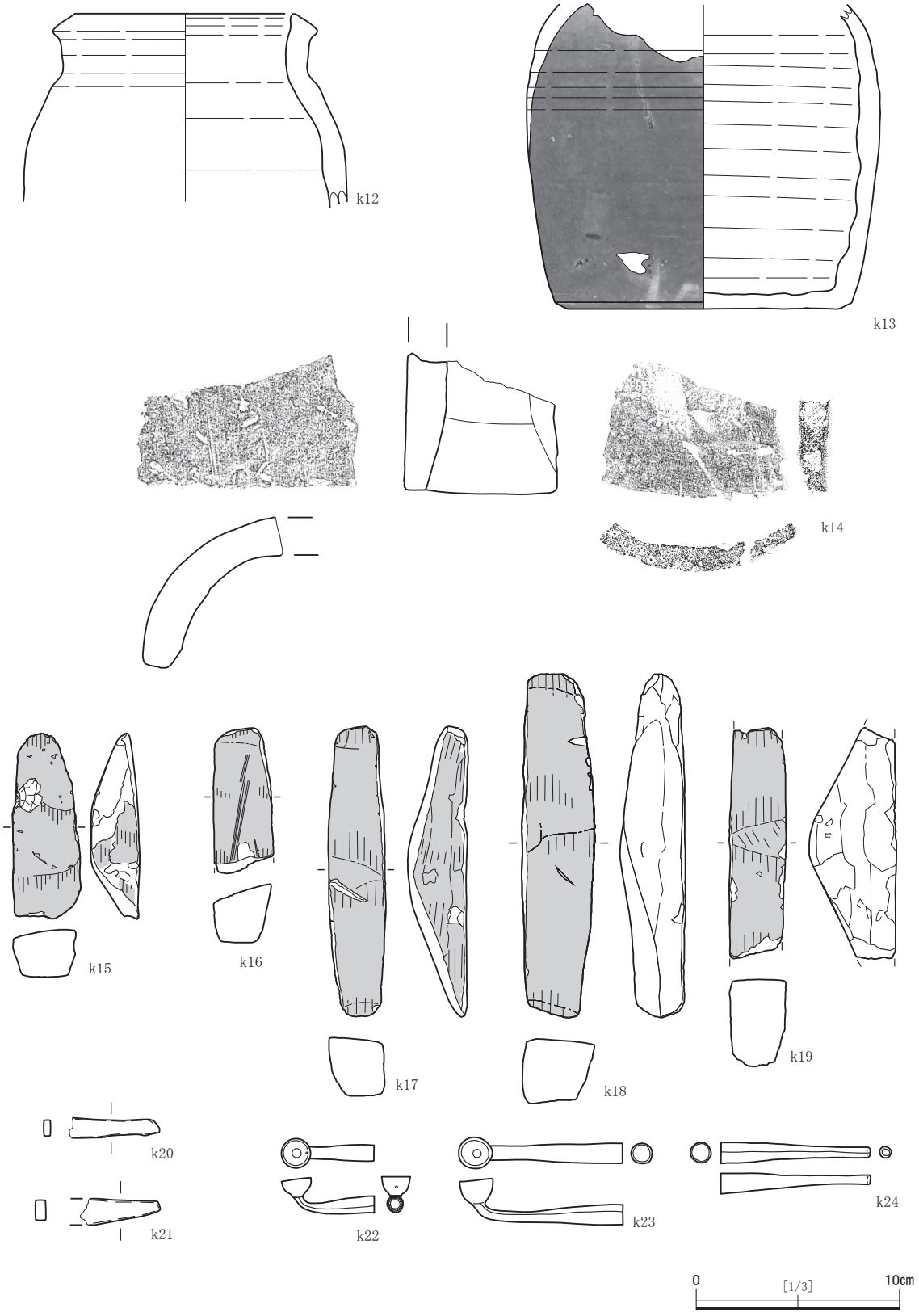
k30 は瀬戸・美濃系の陶器鉢である。

Ｋ７号溝（第 74・76 図、図版 17）

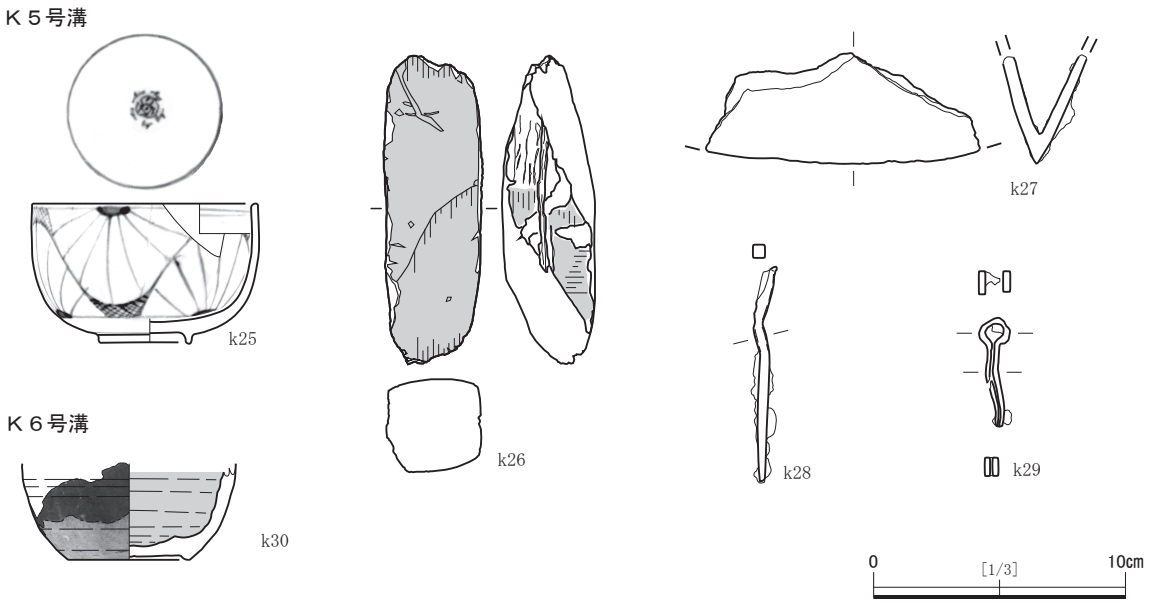
ピア 16（下り）区西端にあり、本遺構の上をＫ１号道路状遺構が覆っている。全長 19.3 ｍを検出した。Ｋ７号溝を境に、東側は中世ないしは近世以降に削平されて低くなるのに対して、西側は削平されず一段高く残る。現状での上端の幅は約 2.5 ｍあり、底部幅は 0.3 ～ 0.4 ｍ、深さは調査区南端で西側が 1.65 ～ 1.8 ｍ、東側が 1.0 ～ 1.2 ｍを測る。北側部分では東側壁の下位に 0.35 ｍほどの段があり、掘り直されているようである。宝永火山灰を含む土で埋まっているが、当初の掘削時期については検討が必要である。遺物は 89 点（4,290g）出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器碗６点（179g）・陶器鉢 18 点（1,144g）・陶器皿５点（333g）・陶器水注２点（2g）・磁器碗２点（14g）、肥前系陶器鉢２点（121g）･陶器鉢２点（121g）･磁器碗 19 点（616g）・磁器皿１点（56g）・磁器壺１点（127g）・磁器水注１点（5g）、京・信楽系陶器碗５点



第79図　Ｋ１号溝出土遺物（１）［1/3］



第80図　Ｋ１号溝出土遺物（２）［1/3］



第81図　Ｋ５・６号溝出土遺物［1/3］

(31g)・火入れまたは香炉１点（69g)、信楽系陶器碗４点（22g)、堺・明石系炻器鉢２点（136g)、常滑系炻器鉢２点（174g)、常滑系炻器甕１点（50g）産地不明陶器壺２点（57g)、瓦１点（73g)、砥石・硯５点（802g)、火打石（メノウ）１点（2g)、不明銅製品３点（2g)、不明鉄製品２点（13g)、鉄滓１点（141g）である。

Ｋ７号溝出土遺物（第 82・83 図・第 21・22 表、図版 46・50）

k31 は瀬戸・美濃系の陶器碗、k32 は瀬戸・美濃系の陶器鉢、k35 も瀬戸・美濃系陶器鉢であるが、Ｋ１号道路状遺構およびＫ３号土坑から出土した遺物と接合する。k33 は肥前系磁器碗である。k34 は京・信楽系陶器の火入または香炉、k36・k37・k38 は棒状の砥石、k39・k40 は石硯で k39 は左側縁下部を欠損する。k40 は裏面のみの出土であるが、線刻が一部確認される。

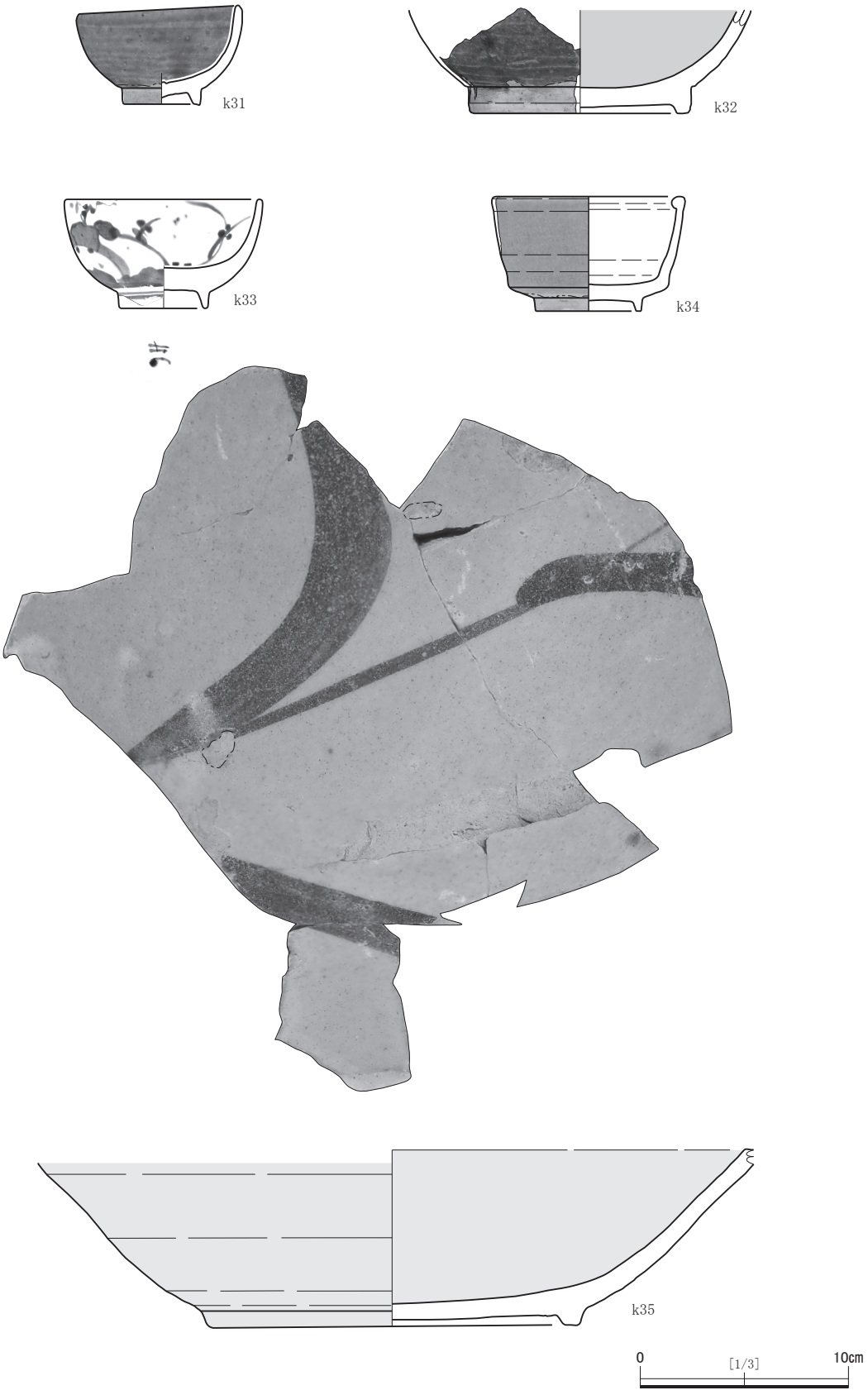
Ｋ８号溝（第 76 図）

Ｋ８号溝はＫ７号溝の東隣にあって、Ｋ１号道路状遺構の下で発見された。幅広く浅い掘り込みで、北端は明確に立ち上がり終わるが、南側はＫ１号道路状遺構により削平を受けているためか、浅くなり消滅する。更に南側へ続いていたものと思われる。全長 14.5 ｍを検出した。南寄り部分で、底部に段をもって深さが変わる箇所がある。最大幅は 1.6 ｍほど、検出された深さは約 0.2 ｍ、底部最大幅は約 0.7 ｍ、長さ約 14.6 ｍが調査された。調査時は近世の遺構（近世前期）と推定していたが、覆土は宝永火山灰を含んでいない暗灰褐色土であり、中世に遡る遺構の可能性がある。遺物は 11 点 (84g) 出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器碗１点（6g）・陶器水注１点（4g)、肥前系磁器碗１点（7g)、京・信楽系陶器水差・蓋８点（67g）である。

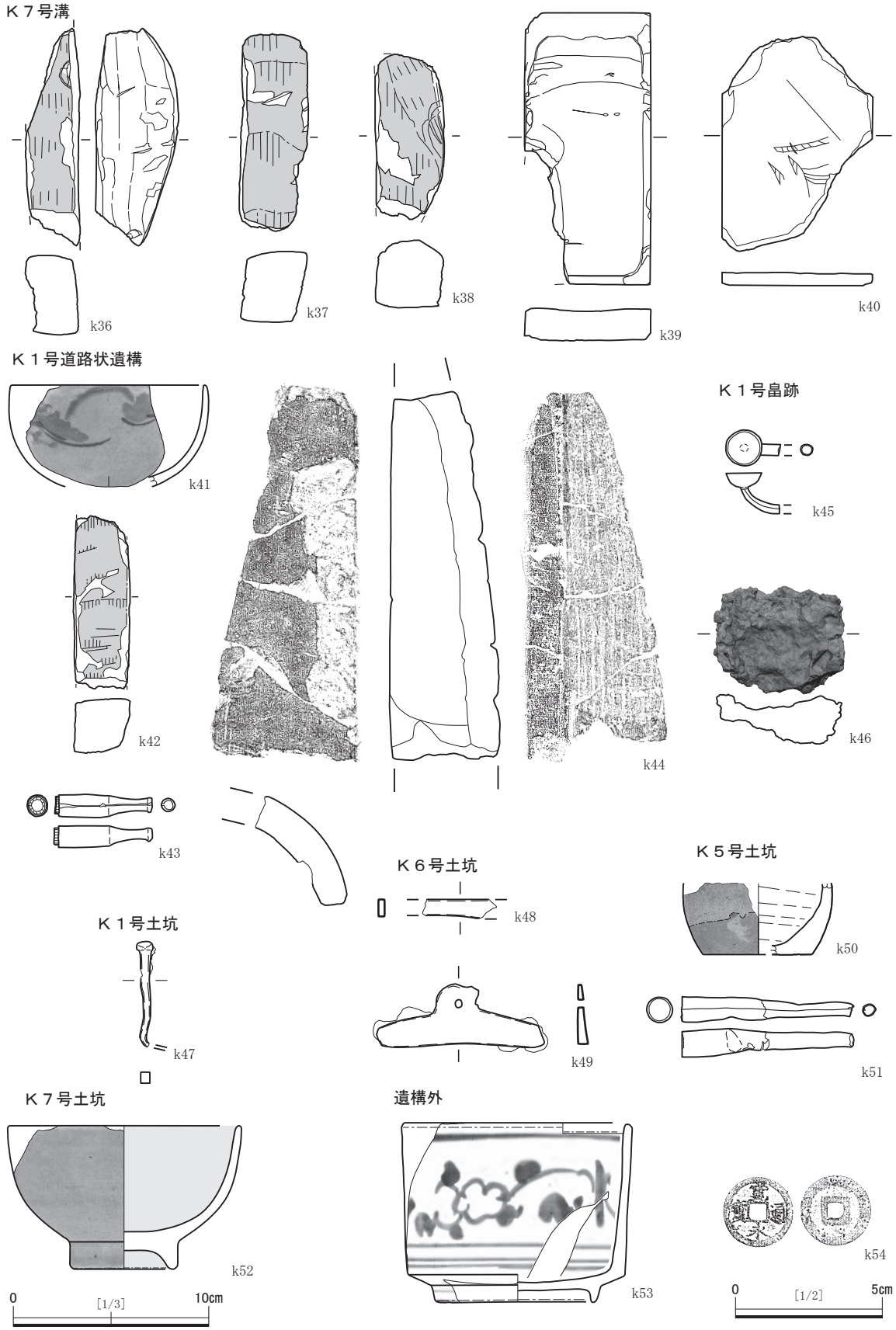
（２）道路状遺構

Ｋ１号道路状遺構（第 74 ～ 76 図）

ピア 16（下り）区を南北に縦断する農道の下から検出された。南北方向へ続く硬化面とその硬化面を含む浅い掘り込みからなる遺構である。硬化面は宝永火山灰を含む土を踏み固めて形成されていて、３面の硬化面が重畳している。農道舗装の直下には転圧により締め固められた層があり、それを除去した下から帯状の硬化面が検出された。第２面目の硬化面とともに、硬化面の東側に沿って３号溝が検出された。硬化面をすべて取り去った下から、Ｋ７号溝、Ｋ８号溝が検出されている。Ｋ１号道路状遺構の西側は一段高く斜面



第82図　Ｋ７号溝（１）・Ｋ３号土坑・Ｋ１号道路状遺構出土遺物［1/3］



第83図　Ｋ７号溝（２）・Ｋ１号道路状遺構・Ｋ１号畠跡・Ｋ１・５～７号土坑・遺構外出土遺物[1/3・1/2]

となっているが、この斜面は下位にあるＫ７号溝の西側壁の立ち上がりと一体の斜面である。遺物は 228 点（4,757g）出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器碗 35 点（281g）・陶器皿６点（50g）、瀬戸・美濃系陶器鉢 14 点（313g）・陶器瓶４点（25g）・陶器水注２点（31g）、・陶器器種不明 12 点（41g）・磁器碗 10 点（14g）、肥前系陶器碗 14 点（45g）・陶器鉢３点（26g）・陶器瓶２点（4g）・陶器水注１点（2g）・磁器碗 41 点（316g）・磁器皿１点（4g）・磁器鉢２点（34g）・磁器瓶４点（24g）・磁器蓋１点（1g）・磁器その他２点（88g）・磁器器種不明１点（1g）、京・信楽系陶器碗２点（2g）、堺・明石系炻器鉢２点（76g）、常滑系炻器甕９点（227g）、万古系炻器蓋２点（4g）、在地系陶器鉢２点（53g）、産地不明陶器鉢２点（107g）、瓦 53 点（2,982g）、煙管１点（6g）である。

Ｋ１号道路状遺構出土遺物（第 82・83 図、第 21・22・25 表、図版 46・49・50・52）

陶器が出土する。k41 は京・信楽系陶器碗である。Ｋ３号土坑・Ｋ７号溝出土品と接合する。k11 は肥前（唐津）の鉢でＫ１号溝出土品と接合する。石製品としては、砥石が出土し、k42 は棒状の砥石である。銅製品は k43 は煙管の吸口である。k44 は丸瓦である。

（３）畠跡

Ｋ１号畠跡（第 84 図）

ピア 16（下り）区の北東部分にあり、Ｋ１・Ｋ２号溝の東側でおよそ南北 9.5ｍ×東西 6.5ｍの範囲で検出された。北側と南側は調査区域外へ続いている。ほぼ同じ範囲で上層と下層に分けられ、上層は宝永火山灰を含む凹凸面が検出された。下層は宝永火山灰を含まない灰茶褐色の土で、0.2㎝の厚さが残っていて、土層を取り去った後の底部には小さな凹凸が検出された。Ｋ１号畠跡下層の範囲の南端は直線的で、Ⅲａ層を掘り込んで作られている。西側はＫ２号溝に切られていて、Ｋ１号溝より西側では検出されていない。調査区北端において上層とした範囲はＫ２号溝が途切れていることもあってＫ１号溝の際まで広がっていたが、下層とした土の範囲は北西側ほど薄く残りが不良で、Ｋ２号溝の辺りより西側では検出されていない。遺物は 34 点（746g）出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器碗７点（96g）・陶器鉢１点（5g）・器種不明陶器１点（2g）、肥前系磁器碗 15 点（249g）・磁器瓶２点（3g）、産地不明陶器甕１点（35g）、火打石等２点（9g）、煙管２点（4g）、鉄滓３点（343g）である。

上記以外に、本遺構と他遺構から出土した遺物で、接合したものがある。Ｋ１号土坑から出土した瀬戸・美濃系陶器碗２点（34g）、Ｋ６号土坑から出土した瀬戸・美濃系陶器碗４点（26g）である。既出の遺構とも接合する遺物もあるが、これらついては先述のとおりである。

Ｋ１号畠跡出土遺物（第 83 図、第 23・25 表、図版 52）

銅製品は k45 は煙管の雁首である。k46 は鉄滓である。

（４）掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は全容がわかるものはないが、建物跡の可能性があるピットの配置を２箇所抽出した。掘立ピットがＬ字形に並ぶものであるが、建物として成立するかどうか、現状では明確ではない。

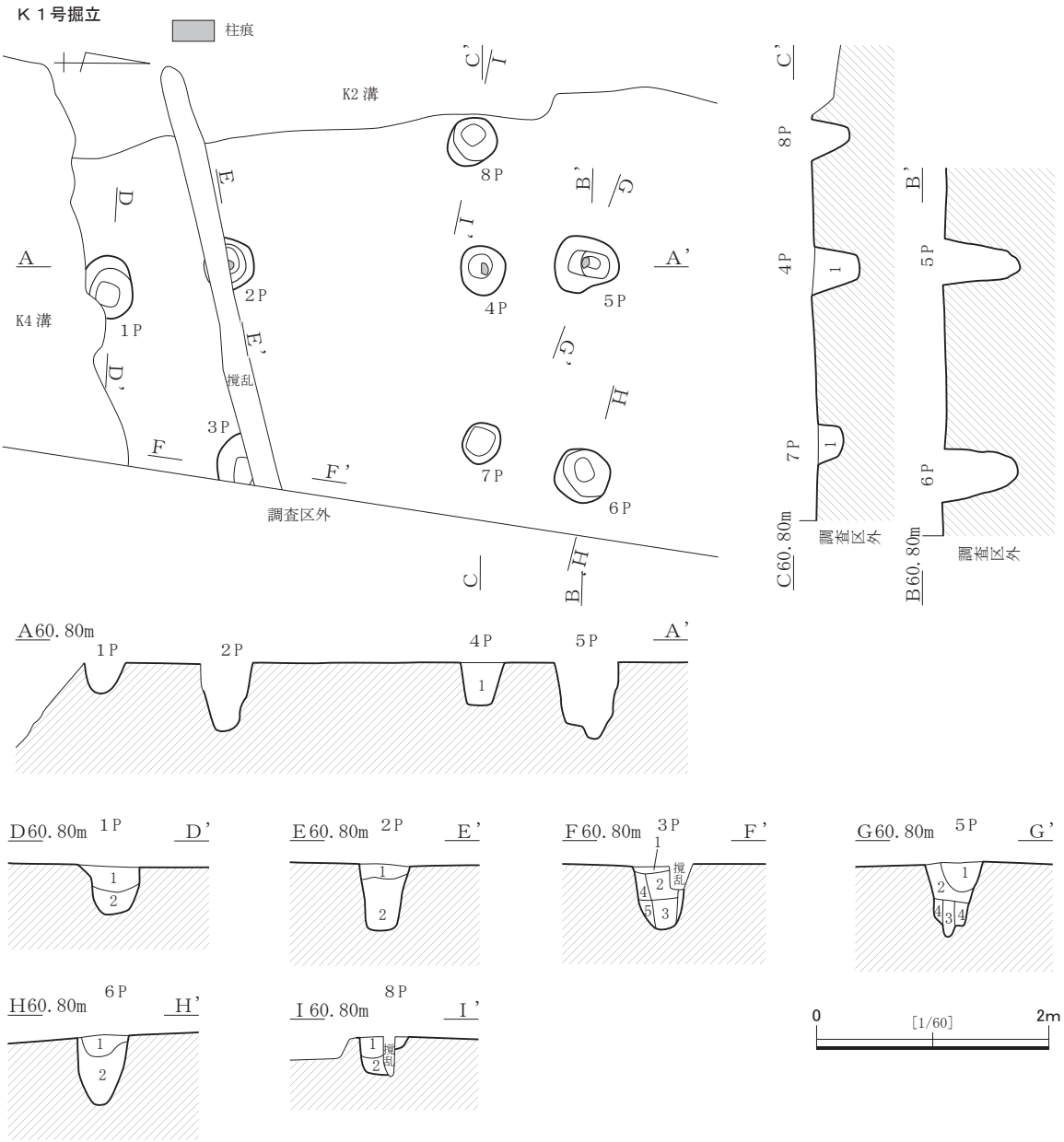
Ｋ１号掘立柱建物跡（第 85 図）

ピア 16（下り）区の東端にあり、８Ｐ・４Ｐ・７Ｐの配列を中心にピット８基が検出された。東側は調査区域外となり南側はＫ４号溝によって延長部分が失われていて不明である。配列に不明な点はあるが梁行１間、桁行２間以上の建物跡と推定される。検出されたピットは 0.37 ～ 0.54ｍの円形を呈し、深さ 0.2 ～ 0.7ｍを測る。遺物は出土していない。



第１層　灰茶褐色土　径１～５㎜の黒色スコリア・橙色スコリアを少量、炭化粒を微量含む。
しまり弱い・粘性ない。

第84図　Ｋ１号畠跡［1/60］



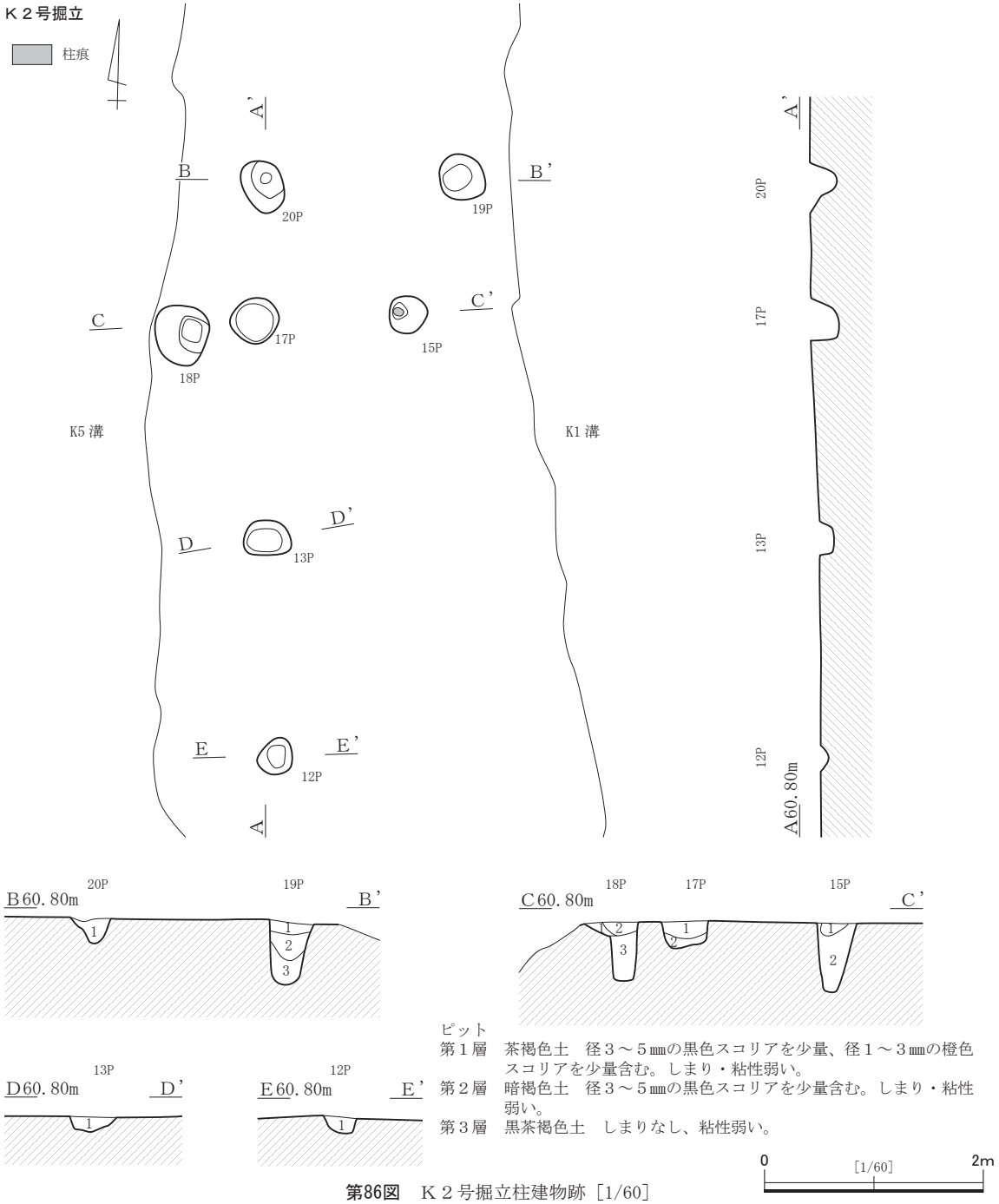
１・２・４・８号ピット
第１層　茶褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量含む。しまりやや強い・粘性弱い。
第２層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量含む。しまり・粘性弱い。

３・５号ピット
第１層　茶褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量含む。しまり・粘性弱い。
第２層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量含む。しまり・粘性弱い。
第３層　黒茶褐色土　しまりなし、粘性弱い。
第４層　茶褐色土　含有物なし。しまりなし、粘性弱い。
第５層　茶褐色土　しまりなし、粘性弱い。

第85図　Ｋ１号掘立柱建物跡［1/60］

Ｋ２号掘立柱建物跡（第 86 図）

ピア 16（下り）区中央のやや南寄りにあり、20 Ｐ・17 Ｐ・13 Ｐ・12 Ｐに直交する 19 Ｐを中心とするピット７基からなる。東側は１号溝によって失われている。梁行２間、桁行３間以上と推定されるが、南側の広がりは明らかではない。検出されたピットは 0.34 ～ 0.53 ｍの円形を呈し、深さ 0.15 ～ 0.55 ｍを測る。遺物は出土していない。



第86図　Ｋ２号掘立柱建物跡［1/60］

（５）土坑（第 87・88 図）

土坑は９基あり、溝状の細長い長方形を呈するものが１基（Ｋ２号土坑）、円形を呈するものが７基（Ｋ１号・Ｋ５～Ｋ 10 号土坑）、不整円形のもの（Ｋ３号土坑）が１基である。円形の大形土坑が調査区北東部にまとまっている。底部外周に溝が廻るもので、植栽痕の可能性、改葬済みの墓坑の可能性、肥溜めの可能性が考えられるが、煙管等が出土しているものがあるので、墓坑であろうか。同様の円形土坑がピア 16（上り）区にもあり、そこでは桶の側板と底板の木質が一部残存していた。

Ｋ１号土坑（第 87 図）

ピア 16（下り）区の南西５Ｆ -35 グリッドに位置し、宝永火山灰を含む土層（Ⅰ層）の下にありＫ１号畠の下層を掘り込む土坑として確認された。平面は円形を呈す。長軸 1.57 m、短軸 1.51 m、深さ 0.32 m を測り、断面は皿状を呈する。灰褐色土を主体とし、覆土に宝永火山灰は含まれない。壁直下の底部外周に溝状の掘り込みが廻り全周する。溝状の掘り込みは幅 0.25 m前後、深さ 0.08 mと大振りな掘り込みである。外周の掘り込みを除く底部中央部は、ほぼ平坦に掘られる。遺物は８点（21g）出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器皿１点（1g）・陶器鉢１点（5g）・陶器甕１点（1g）、肥前系陶器碗１点（3g）・陶器皿１点（1g）・磁器皿１点（4g）、火打石（メノウ）１点（1g）、鉄釘１点（5g）である。

Ｋ１号土坑出土遺物（第 83 図、第 23 表、図版 52）

k47 は鉄釘である。

Ｋ２号土坑（第 87 図）

ピア 16（下り）区の北東、５Ｅ -34・35 グリッドに位置し、調査区西端にありＫ１号道の西隣りにほぼ並行して造られている。覆土はⅠ層と同じでしまりはない。平面は溝状を呈す、いわゆる長方形土坑とされる耕作に伴うものと考えられる土坑である。調査区西端の小高い部分にあり、表土層直下のⅡ層面で発見された。北西側は調査区域外へ続いている。主軸はＮ－６°－Ｗを指す。長軸 4.00 m、短軸 0.52 m、深さ 0.06 mを測り、断面は皿状を呈する。遺物は出土していない。

Ｋ３号土坑（第 87 図）

ピア 16（下り）区の北東、５Ｆ -36 グリッドに位置し、２m四方ほどの範囲であるが形状は不定形、掘り込みは緩やかで凹凸が著しい。灰褐色土を主体として、宝永火山灰を含まない。Ｋ３号土坑の下にはやや南へ位置がずれてＫ９号土坑がある。平面は不定形を呈す。主軸はＮ－３°－Ｅを指す。長軸 1.90 m、短軸 1.90 m、深さ 0.20 mを測り、断面は皿状を呈する。遺物は７点（41g）出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器碗６点（33g）・陶器皿１点（8g）である。上記以外に、本遺構と他遺構から出土した遺物が接合するものがある。Ｋ９号土坑から出土した瀬戸・美濃系陶器碗２点（12g）、先述したＫ７号溝およびＫ１号道状遺構から出土した瀬戸・美濃系陶器鉢と接合するものがある。

Ｋ３号土坑出土遺物（第 82 図・第 21 表）

陶器が出土する。k35 は瀬戸・美濃系の陶器鉢で、Ｋ１号道状遺構・Ｋ７号溝出土品と接合する。

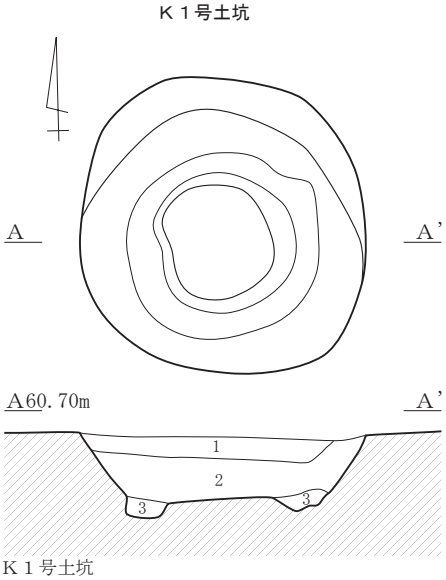
Ｋ５号土坑（第 87 図）

ピア 16（下り）区の北東、５Ｆ -35 グリッドに位置し、Ｋ１号畠より古い。壁は垂直に近い。底部は中央部がほぼ平らで壁際に幅 10 ～ 15 ㎝、深さ４～５センチの掘り込みがある。平面は円形を呈す。長軸 1.92 m、短軸 1.71 m、深さ 0.54 mを測り、断面は皿状を呈する。灰褐色土を主体として、宝永火山灰を含まない。壁直下の底部外周に溝状の掘り込みが全周し、溝状の掘り込みは幅 0.04 ～ 0.08 m、深さ 0.01 ～ 0.03 mである。Ｋ１号土坑に切られている。外周の掘り込みを除く底部中央部は、ほぼ平坦に掘られている。遺物は、煙管の吸い口、骨片が出土する。遺物は７点（77g）出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器皿１点（13g）・陶器瓶１点（11g）、肥前系陶器碗２点（2g）・陶器皿１点（1g）、産地不明陶器壺１点（41g）、煙管１点（9g）である。

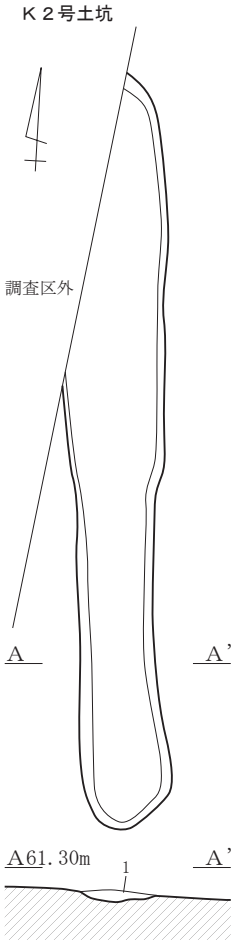
Ｋ５号土坑出土遺物（第 83 図、第 21・25 表、図版 46・52）

陶器が出土する。k50 は産地不明の陶器壺である。銅製品の k51 は煙管の吸口である。

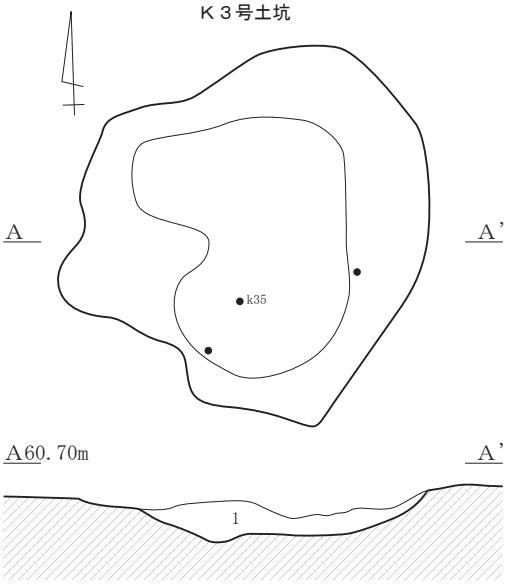
Ｋ６号土坑（第 88 図）



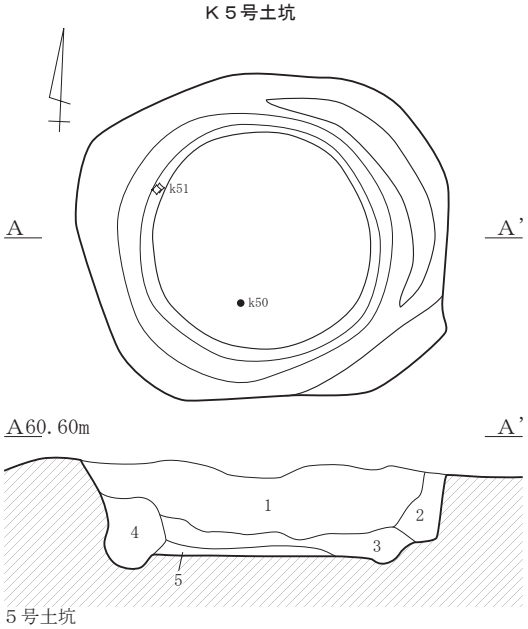
Ｋ１号土坑
第１層　茶褐色土　第Ⅲ層主体の暗褐色土に第Ⅱａ層を少量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。
第２層　灰茶褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、褐色土少量含む。しまりやや弱い・粘性やや強い。
第３層　褐色土　第Ⅵ層のブロックを主体として暗褐色土を微量含む。しまりやや強い・粘性強い。



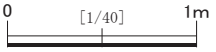
Ｋ２号土坑
第１層　灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量含む。しまり・粘性ない。耕作土(第Ⅰ層)と同じ。



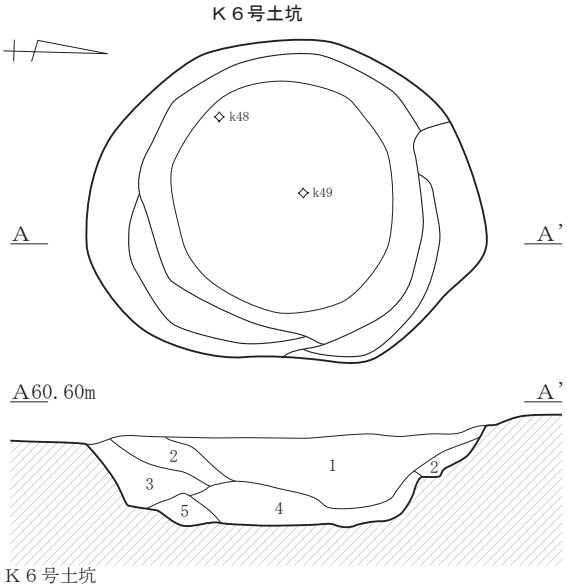
Ｋ３号土坑
第１層　灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、褐色土を微量、炭化粒を微量含む。しまり弱い・粘性ない。



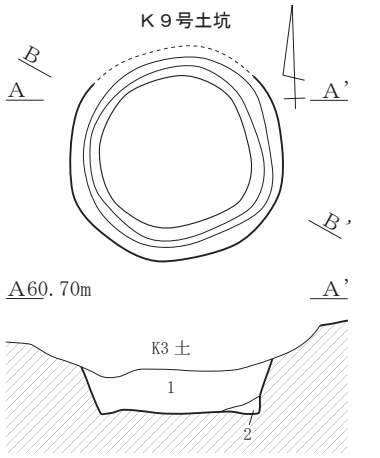
Ｋ５号土坑
第１層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、径 10 ㎜の褐色土ブロックを少量、炭化粒を微量含む。しまりやや強い・粘性やや弱い。
第２層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを微量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量含む。褐色土を微量含むため色調がやや明るい。
第３層　明褐色土　第Ⅵ層の明褐色土粘質土を主体とする。暗褐色土を少量含む。しまり・粘性強い。
第４層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量含む。しまり弱い・粘性やや弱い。他層より色調暗い。
第５層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを微量、明褐色土を少量含む。しまり・粘性やや弱い。



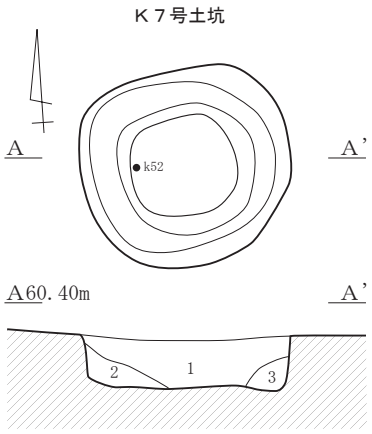
第87図　Ｋ１～３・５号土坑［1/40］



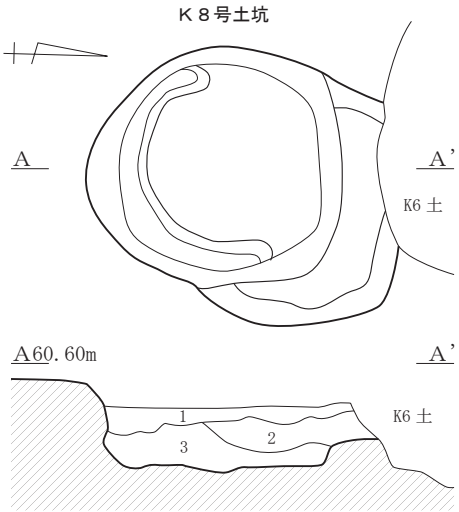
Ｋ６号土坑
第１層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、径 10 ～ 20 ㎜の暗褐色粘質土ブロックを少量含む。しまり・粘性やや弱い。やや粗い土。
第２層　暗灰褐色土　第１層と同様の土をベースに、径 10 ～ 30 ㎜の褐色粘質土ブロックを中量含む。他は第１層と同様。
第３層　暗灰褐色土　第１層と同様の土に炭化粒を少量含む。
第４層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径 10 ～ 30 ㎜の褐色粘質土ブロックを多量含む。しまりやや強い･粘性強い。
第５層　径 10 ～ 50 ㎜の褐色粘質土ブロックを主体として、暗褐色土を少量、焼土を微量含む。しまりやや強い・粘性強い。



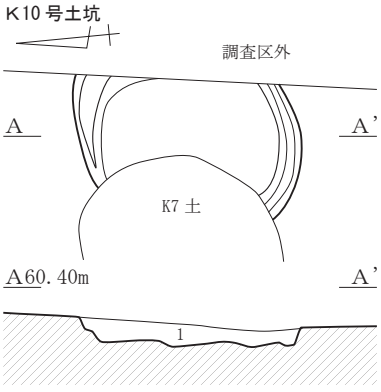
Ｋ９号土坑
第１層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、褐色土を微量、暗褐色土を少量、炭化粒を微量含む。しまり弱い・粘性ない。
第２層　褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、明褐色土を少量、褐色土を微量、炭化粒を微量含む。しまり弱い・粘性ない。



Ｋ７号土坑
第１層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、灰褐色土ブロックを中量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性やや強い。
第２層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを微量、明褐色土ブロックを中量含む。しまり・粘性やや強い。
第３層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量含む。やや粗い土。しまり弱い・粘性やや弱い。



Ｋ８号土坑
第１層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、暗褐色土ブロックを少量含む。しまり・粘性やや弱い。
第２層　褐色土　暗灰褐色土と褐色土ブロックの混合層。径 30 ～ 50 ㎜の褐色土ブロックを中量含む。しまりやや強い・粘性強い。
第３層　褐色土　径 30 ～ 50 ㎜の褐色土ブロックが主体で暗灰褐色土を少量、炭化粒を微量含む。しまりやや強い・粘性強い。



K10 号土坑
第１層　暗褐色土　やや灰色味あり。径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１㎜の橙色スコリアを少量、径 10 ㎜の褐色土ブロックを中量含む。しまりやや強い・粘性強い。

0　[1/40]　1m

第88図　Ｋ６～10号土坑［1/40］

ピア 16(下り)区の北東、５Ｆ －35 グリッドに位置し、Ｋ１号畠より古い。平面は楕円形を呈す。長軸 2.12 m、短軸 1.70 m、深さ 0.46 mを測り、断面は皿状を呈する。円形土坑では最大である。灰褐色土を主体として、宝永火山灰を含まない。遺物は火打金、鉄片が出土する。遺物は９点（50g）出土しており、その内訳は肥前系陶器碗１点（1g）、常滑系炻器甕１点（2g）、鉄刀子・火打金等６点（37g）、鉄滓１点（10g）である。

Ｋ６号土坑出土遺物（第 83 図、第 23 表、図版 52）

鉄製品が出土する。K48 は鉄製の刀子である。k49 は火打金である。

Ｋ７号土坑（第 88 図、図版 17）

ピア 16（下り）区の北東、５Ｆ・Ｇ －35 グリッドに位置し、上面を県試掘坑により削平されているためⅥ層で検出されたが、Ｋ５・６号土坑と同様。土坑底部はほぼ平坦、壁はほぼ垂直に掘り込まれる。底部は鉄分付着と思われ、よりやや赤味あり、硬い。東側にＫ 10 号土坑が重複するが本坑が新しい。平面は円形を呈す。長軸 1.10 m、短軸 1.04 m、深さ 0.26 mを測り、円形土坑では最小である。断面は逆台形状を呈する。壁直下の底部外周に溝状の掘り込みが半周ほどが検出された。溝状の掘り込みは幅 0.04 ～ 0.08 m、深さ 0.01 ～ 0.03 mであるが。外周の掘り込みを除く底部中央部は、ほぼ平坦に掘られている。灰褐色土を主体として、覆土に宝永火山灰は含まない。遺物は５点（286g）出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器碗１点（110g）・陶器皿１点（10g）、肥前系磁器碗１点（8g）、火打石（石英）１点（3g）、棒状鉄製品１点（155g）である。

Ｋ７号土坑出土遺物（第 83 図、第 21 表、図版 46）

k52 は瀬戸・美濃系の陶器碗である。

Ｋ８号土坑（第 88 図）

ピア 16（下り）区の北東、５Ｆ －35 グリッドに位置し、Ｋ１号畠の下位で検出された。ほぼ垂直に掘り込まれているが、北側は立ち上がりが、やや緩やかで中位一段浅く平場が形成されている。底部はやや凹凸があり、南側半分の壁際に周溝状の落ち込みが半周する。北側に隣接するＫ６号土坑に切られている。平面は円形を呈す。長軸（1.54）m、短軸 1.40 m、深さ 0.48 mを測り、断面は逆台形状を呈する。壁直下の底部外周に溝状の掘り込みが半周ほどが検出された。溝状の掘り込みは幅 0.04 ～ 0.08 m、深さ 0.01 ～ 0.03 mである。外周の掘り込みを除く底部中央部は、ほぼ平坦に掘られている。灰褐色土を主体として、覆土に宝永火山灰は含まれていない。遺物は瀬戸・美濃系陶器鉢１点（6g）が出土している。

Ｋ９号土坑（第 88 図）

ピア 16（下り）区の北東、５Ｆ －36 グリッドに位置し、Ｋ３号土坑の下より検出。壁は急角度。底部はほぼ平坦で、壁直下には幅 10 ㎝位の溝が掘り込まれている。平面は円形を呈す。長軸 1.12 m、短軸 1.12 m、深さ 0.25 mを測り、断面は逆台形状を呈する。灰褐色土を主体として、覆土に宝永火山灰は含まれていない。壁直下の底部外周に溝状の掘り込みが全周検出された。溝状の掘り込みは幅 0.04 ～ 0.08 m、深さ 0.01 ～ 0.03 mであるが、外周の掘り込みを除く底部中央部は、ほぼ平坦に掘られている。遺物は７点(49g)出土しており、その内訳は瀬戸・美濃系陶器碗２点（21g）・陶器皿１点（12g）、器種不明陶器１点（1g）、肥前系陶器碗２点（8g）・陶器鉢１点（7g）である。

Ｋ 10 号土坑（第 88 図）

ピア 16（下り）区の北東、５Ｇ －35 グリッドに位置し、調査区東側にあり県試掘坑の底部で検出された。Ｋ１号畠の下位に位置する。Ｋ７号土坑に切られる。壁はほぼ垂直。底部は若干の凹凸があり、南側の壁下に周溝状の掘り込みがある。北壁は二段になっているが、覆土に違いは見られない。灰褐色土を主体として、

平面は円形を呈す。長軸 1.30 m、短軸 1.10 m、深さ 0.16 mを測り、断面は逆台形状を呈する。壁直下の底部外周に溝状の掘り込みが半周ほど検出された。溝状の掘り込みは幅 0.04 ～ 0.08 m、深さ 0.01 ～ 0.03 mが大半であるが、外周の掘り込みを除く底部中央部は、ほぼ平坦に掘られている。遺物は出土していない。

（６）ピット（第 10 表）

ピットは掘立柱建物跡の柱穴を除くと６基あり、いずれもピア 16（下り）区南東側の掘立柱建物跡の付近から多く発見されている。覆土に宝永火山灰を含んでいる。

（７）遺構外出土遺物（第 83 図、第 21・24 表、図版 46・51）

遺物は 126 点(1,752.4g)が出土しており、その内訳は瀬戸･美濃系陶器碗 21 点(194g)・陶器皿 18 点(152g)・陶器鉢 26 点（524g）・陶器甕１点（10g）・陶器瓶２点（47g）・陶器水注１点（2g）・器種不明陶器９点（22g）・磁器碗３点（5g）・陶器皿１点（2g）・陶器鉢５点（356g）、肥前系陶器碗７点（36g)･陶器瓶１点（0.4g)･器種不明陶器１点（2g）、京・信楽系陶器碗１点（9g）・器種不明陶器１点（1g）、常滑系炻器甕１点（14g）、丹波系炻器鉢１点（11g）、在地系器種不明土器１点（34g）、種別不明土製品１点（26g）、瓦 16 点（228g）、火打石（石英）２点（3g）、煙管１点（3g）、不明鉄製品１点（11g）、鉄滓４点（60g）である。

磁器が出土する。k53 は肥前系磁器の蓋物である。k54 は寛永通寶である。

２　中　世

今回の調査で発見された中世の遺構は、掘立柱建物跡２棟、柱穴列１列、溝１条、土坑１基、ピット 112 基の合計 117 基となる。近世以降の遺構によって壊され、面的に削平されている部分が多いため、規模や配置が不明な遺構が多い状況にある。遺構の分布は、調査区東にやや偏りを見せて検出されるが、近世以降の削平および近世の遺構によって中世の遺構が失われた部分が多いと思われる。中世の遺構は、基本土層のⅡ層に類似する覆土の遺構である。遺物は、磁器２点（19g）、鉄製品１点（85g）、銭貨７点（15g）計 10 点（119g）出土している。

（１）掘立柱建物跡（第 89 図）

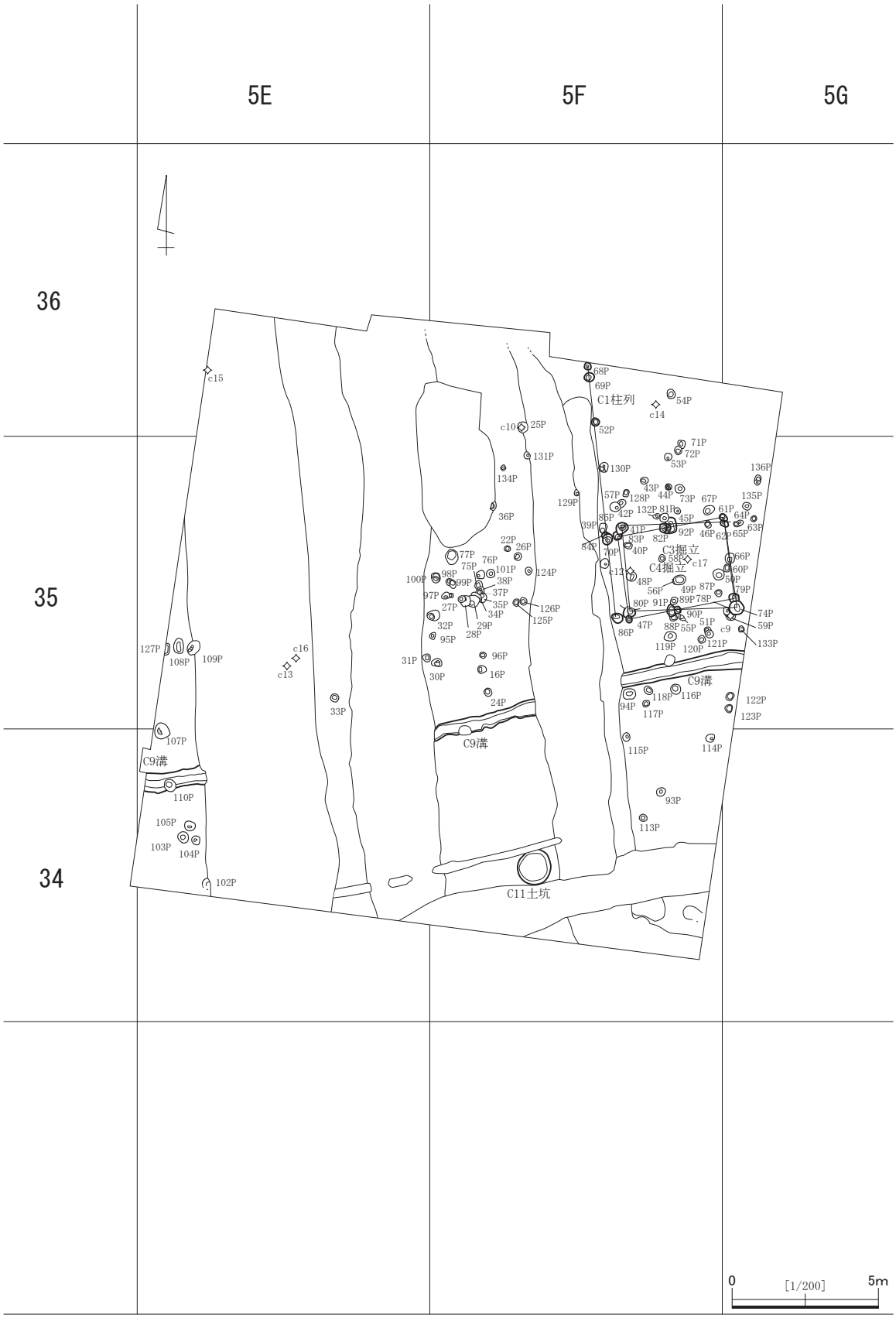
掘立柱建物跡は５Ｆ－ 35 グリッドで２棟が重複して検出された。個々のピットを調査しながら組合せを検討して抽出した。梁行１間、桁行２間で、柱穴はⅡａ層を基本とする。上部をＫ１号畠跡によって削平され、近世の土坑や試掘坑によって壊されている部分がある。２棟の掘立柱建物跡は同じ場所で重複するものであるが、軸方向がずれるので、同一建物の建て替えと考えることはやや躊躇する。Ｃ３号掘立柱建物跡は、Ｃ１号柱穴列およびＣ９号溝と軸方向が直交・並行の関係にあり、関連する可能性がある。近世以降の削平を受けていることを考慮すると確定的なことは言えないが、ピット等の分布は北東側に多い傾向にあり、中世の遺構分布の中心は、本調査区の北東側からピア 16（上り）区の方にあることが窺える。

Ｃ３号掘立柱建物跡（第 90 図）

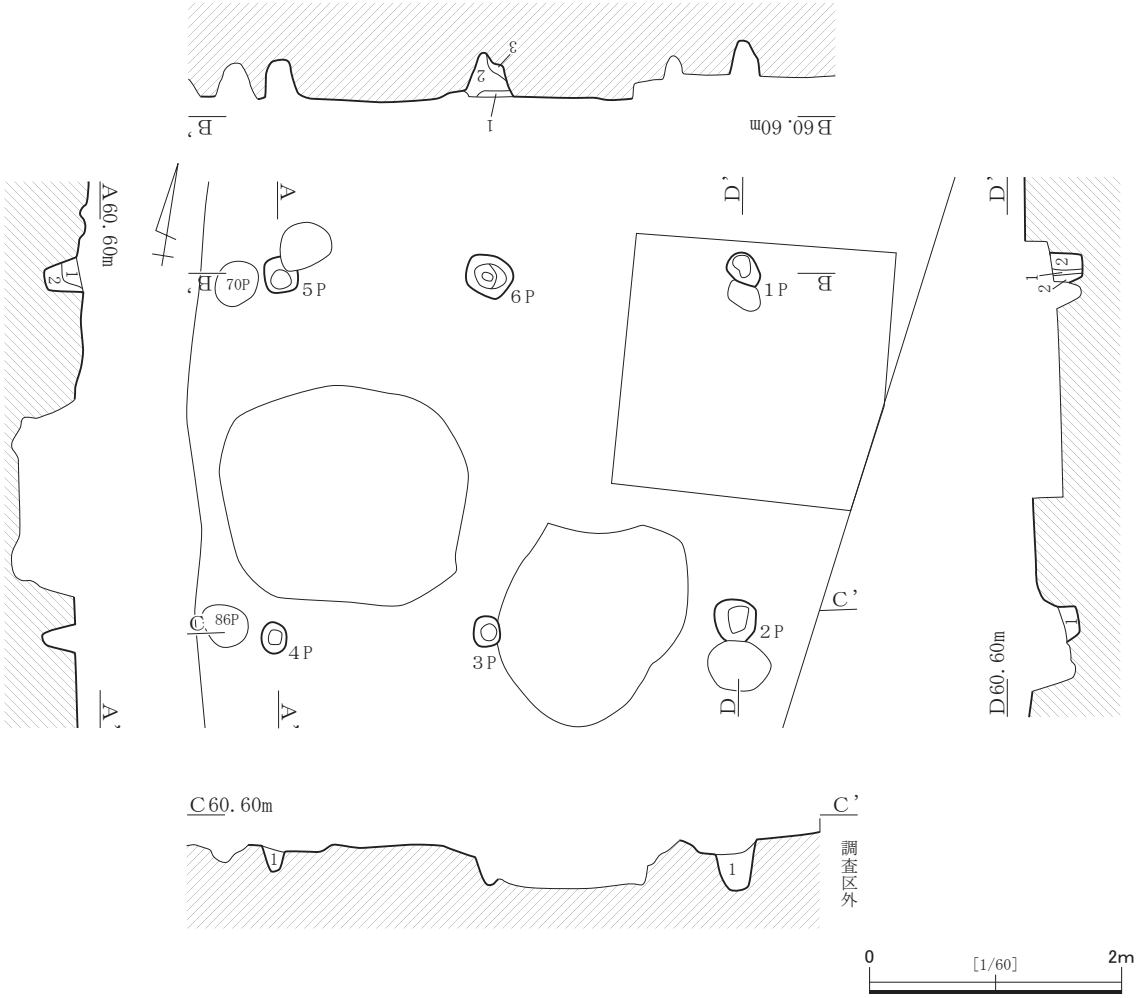
５Ｆ･Ｇ－ 35 グリッドにあり、柱間が梁間１間、桁行２間の東西棟と推定され、西の柱列がＫ１号溝によって失われている。Ｋ１号溝より西側では桁行の延長となる柱穴は確認されていない。現状では７つの柱穴による組合せが抽出されている。桁行の柱穴間距離は 2.0 m、梁間の柱穴間距離は 1.4 mである。柱穴の平面形は方形を基調とし、覆土はⅡａ層を基本とする。軸方向は南側にあるＣ９号溝とほぼ平行していて、関連が窺われる。

Ｃ４号掘立柱建物跡（第 91 図）

Ｃ３号掘立柱建物跡と重複しているが、主軸方向がやや異なっている。主軸方位は正方位の東西に近い。



第89図　中世遺構配置図及び遺構外出土遺物分布図［1/200］



1P（C83 号ピット）
第１層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量含む。しまり・粘性弱い。
第２層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを微量、褐色土ブロックを少量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。
2P（C82 号土坑）
第１層 暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリア・径１～３㎜の橙色スコリアを微量含む。しまりやや強い・粘性やや弱い。
第２層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量含む。しまり弱い・粘性やや弱い。
第３層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを微量含む。しまりやや強い・粘性やや弱い。

第90図　Ｃ３号掘立柱建物跡［1/60］

柱間が１間×２間の東西棟と推定され、西の柱列がＫ１号溝によって失われている。Ｋ１号溝の西側では、桁行の延長は確認されていない。現状では７つの柱穴による組合せが抽出されていて、桁行の柱穴間距離は1.8ｍ、梁間の柱穴間距離は1.5ｍである。柱穴の平面形は方形を基調としている。

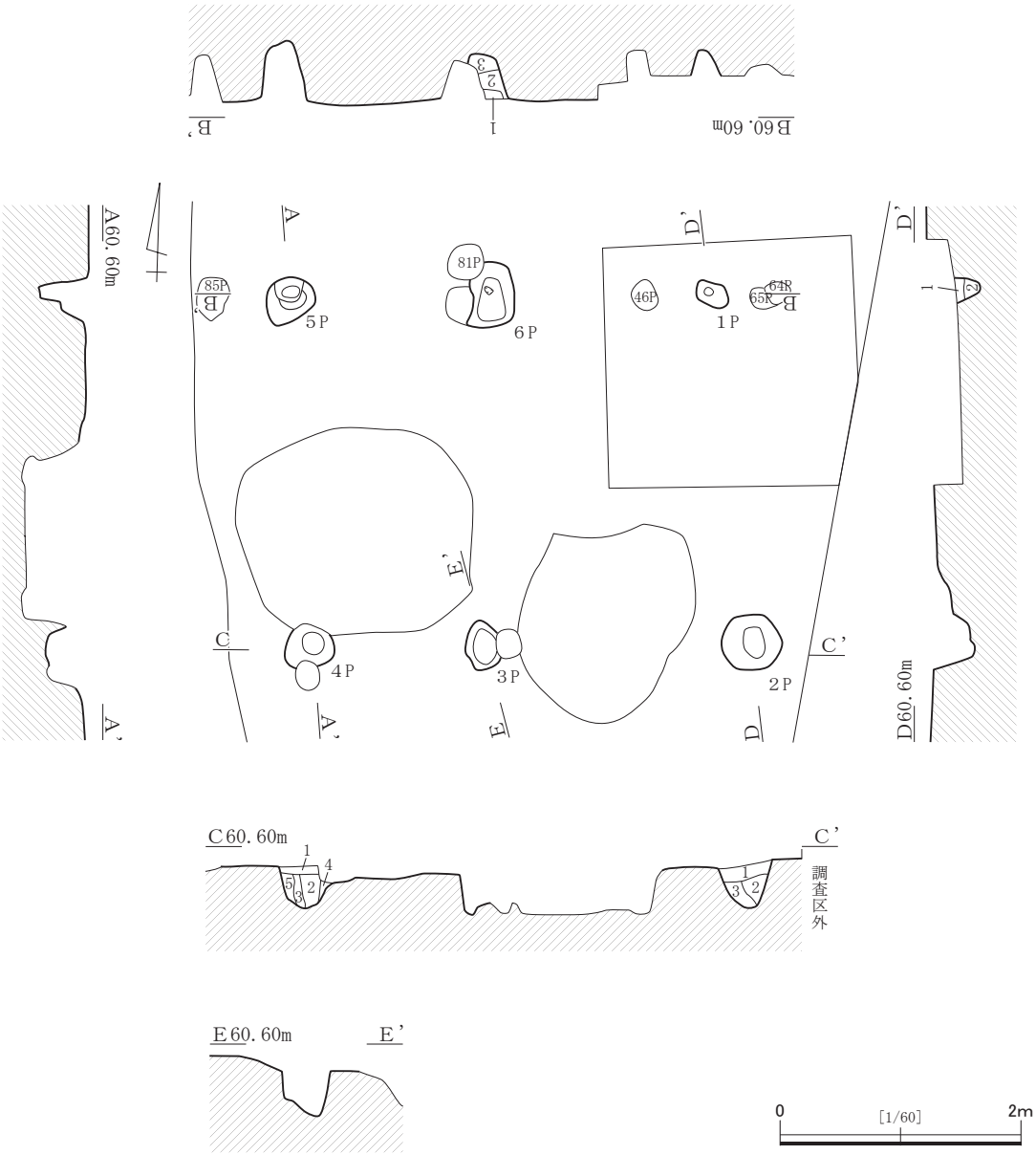
Ｃ１号柱穴列（第 92 図）

Ｋ２号溝の東側に南北に並ぶピットの列で、当初６基の配列として捉えていたが、その後再検討したところ、Ｃ３号掘立柱建物跡の西端柱穴としていたピットを含めた組合せがより妥当と考えられ、７穴が直線上に並ぶ配列と捉えることとした。北側３基の柱間隔は1.5ｍ、南側４基の柱間隔は2.9～3.1ｍで、北側３穴と南側４基との間は2.4ｍほどである。柱穴列の軸方向は、Ｃ３号掘立柱建物跡の長軸方向とほぼ直交する関係にある。覆土はⅡａ層を基本とする。

（２）溝

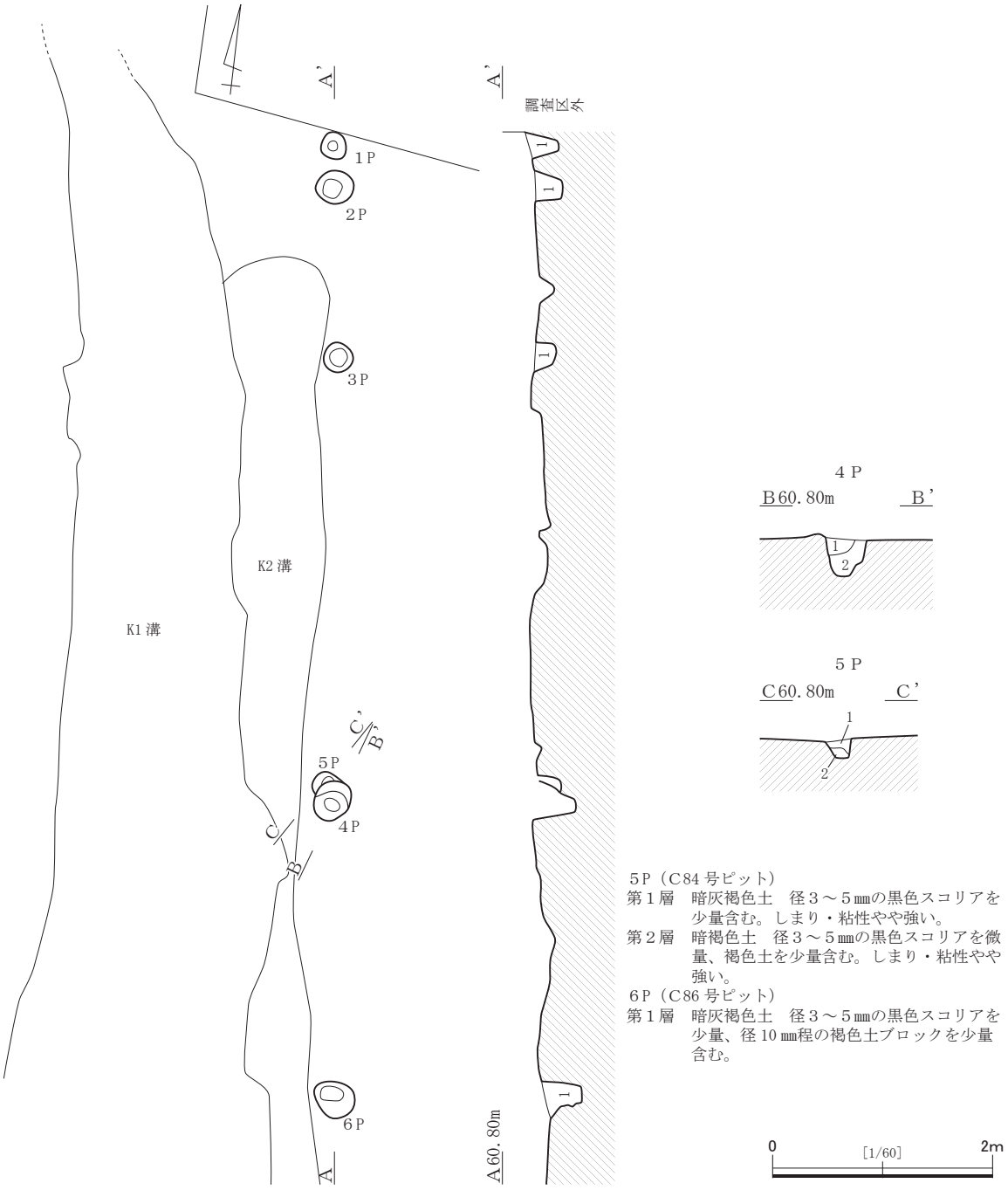
Ｃ９号溝（第 93 図）

５Ｅ～Ｇ－ 34・35 グリッドにかけてピア 16（下り）区を東西方向に横断する溝である。近世以降に削平



２P（C92 号ピット）
第１層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを微量、褐色土を少量含む。やや明るい。しまり・粘性やや弱い。
第２層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、褐色土少量含む。しまりやや強い・粘性やや弱い。
第３層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリア・径１～３㎜の橙色スコリアを微量、褐色土を中量含む。しまり・粘性やや強い。
６P（C74 号ピット）
第１層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量含む。しまり・粘性弱い。
第２層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、褐色土を少量含む。しまりやや強い・粘性やや弱い。
第３層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、褐色土を微量含む。しまり・粘性弱い。
４P（C80 号ピット）
第１層　暗灰褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。
第２層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量含む。しまり・粘性弱い。
第３層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを微量、褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強い。
第４層　暗褐色土　径１㎜の橙色スコリアを微量含む。しまりやや強い・粘性やや弱い。
第５層　褐色土　褐色土（VI）主体。径３㎜の赤色スコリアを微量含む。しまり・粘性強い。

第91図　Ｃ４号掘立柱建物跡［1/60］



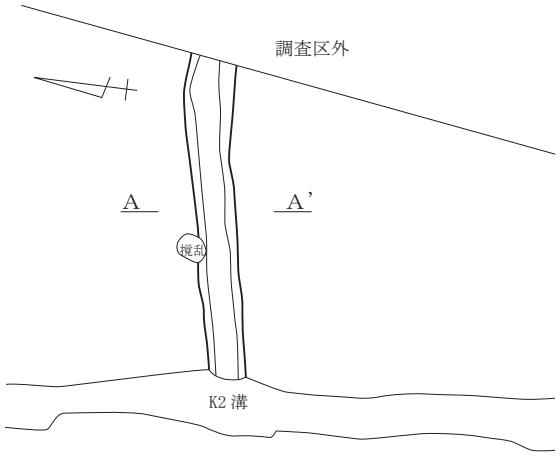
第92図　Ｃ１号柱穴列［1/60］

されているため、Ｋ７号溝以東は残っている深さが浅く、Ｋ５号溝からＫ７号溝の間では痕跡さえ残っていなかった。幅約0.6ｍ、深さは西端部分で0.20ｍ、東端部分で0.10ｍ、中央部分で0.05ｍである。底部はやや丸味があって、平坦面は作られない。

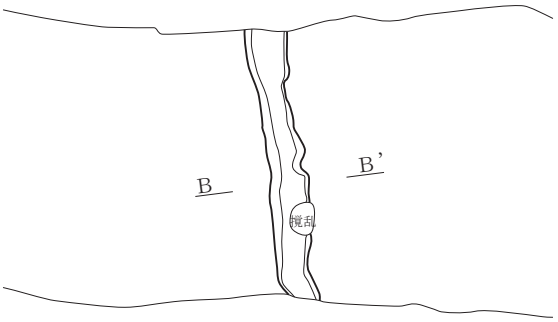
（３）土坑

Ｃ11号土坑（第93図）

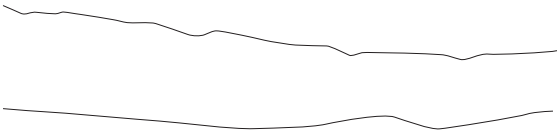
５Ｆ－34グリッドにあり、Ⅲｂ層で検出された。北側の一部を攪乱によって壊される。近世の溝とは重複していない。直径1.14ｍの円形を呈し、検出された深さは0.13ｍである。底部はほぼ平坦で、特に硬化した部分などは見られない。壁は緩やかで、底部から丸味を持って立ち上がる。遺物は出土していない。



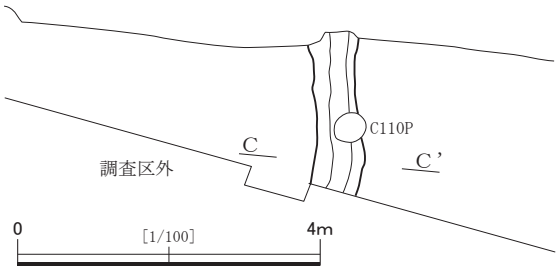
K1 溝

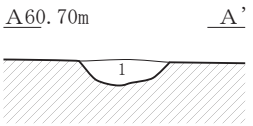


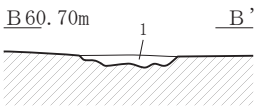
K5・6 溝

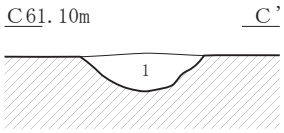


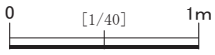
K1 道路





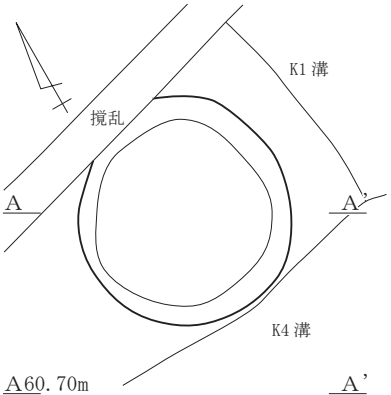




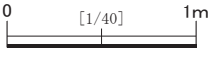


Ｃ９号溝
第１層　暗褐色土　色調やや暗い。Ⅲa 層よりⅡ層に類似　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。

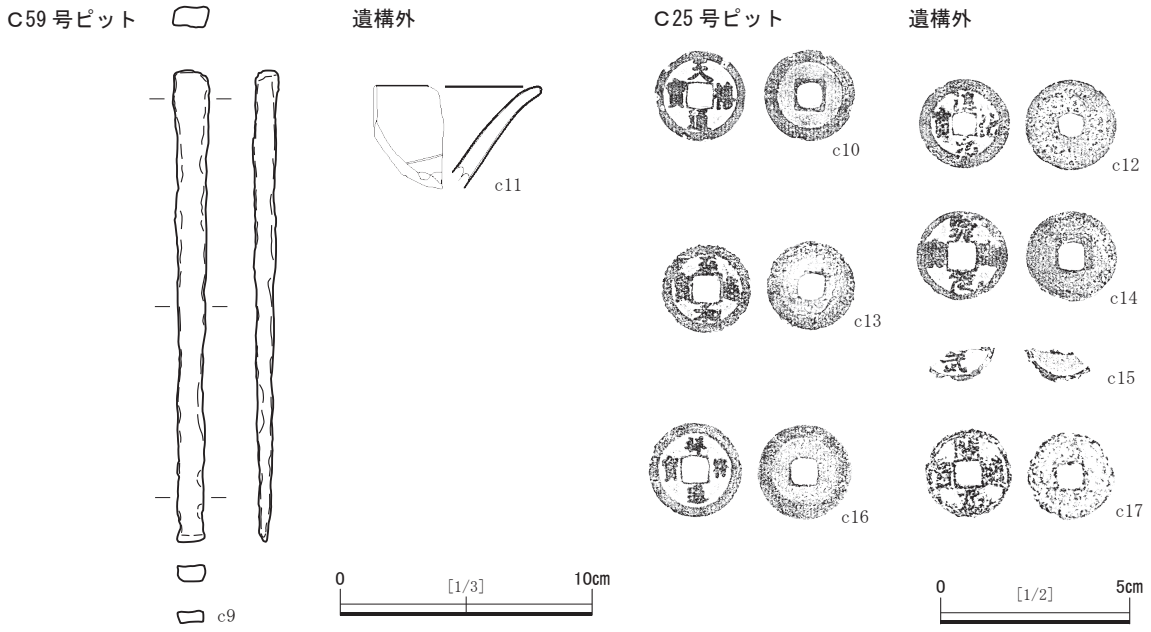
Ｃ11 号土坑



Ｃ11 号土坑
第１層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量含む。しまりやや強い・粘性弱い。



第93図　Ｃ９号溝・Ｃ11号土坑［1/100・1/40］



第94図　中世出土遺物［1/3・1/2］

（４）ピット（第 10 表）

ピットは掘立柱建物跡および柱穴列の柱穴が 87 基あり、大部分が５Ｆ－ 35 グリッドを中心として分布している。ピットの平面形は方形を基調とするものが多い。近世以降の遺構によって壊されている範囲が多いこと及び面的に広く削平されていること等により失われているピットが多いと推測され、Ｃ３・Ｃ４号掘立柱建物跡およびＣ１号柱穴列として抽出されたもの以外には、建物跡としての配置を見出せていない。

出土遺物は遺物が出土したピットを以下に記載する。Ｃ 25 ピットから c11 の天禧通寶が出土する。Ｃ 59 ピットから c8 の鉄鏃が出土する。また､小片のため図化していないがＣ 61 ピットから舶載磁器碗１点（5g）が出土している。

ピット出土遺物（第 94 図、第 28・29 表、図版 51・52）

c9 は鉄鏃、c10 は天禧通寶である。

（５）遺構外出土遺物（第 94 図、第 26・29 表、図版 51）

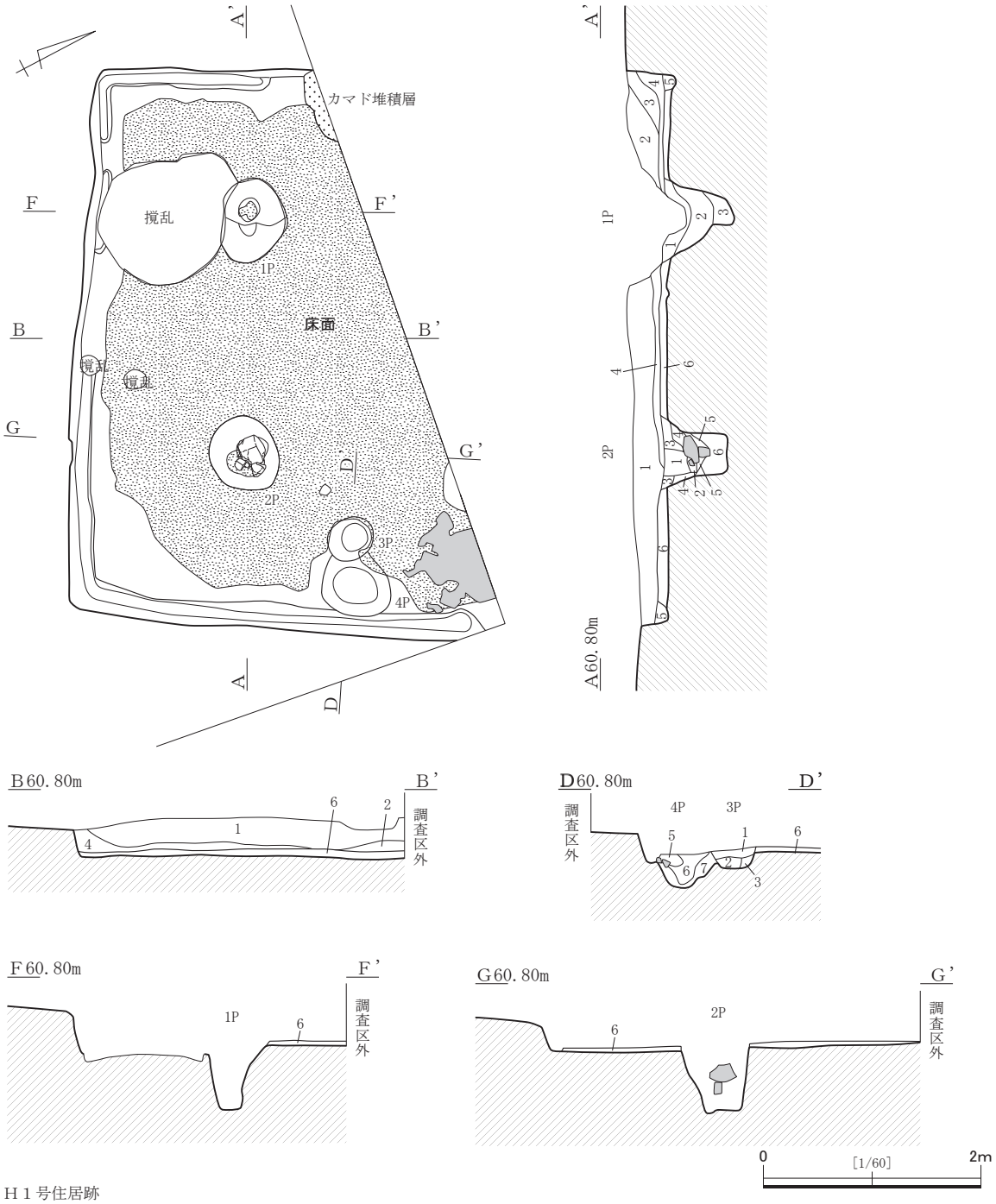
出土遺物は７点（26g）で、その内訳は舶載磁器鉢１点（13g）、銭貨６点（13g）である。c11 は舶載青磁の鉢である。他に近世遺構の覆土から当該時期の銭貨が６枚出土している。c12 は淳化元寶､c13 は至和通寶、c14 は熙寧元寶である。c15 は破片であるが洪武通宝と推定される。c16 は祥符通寶、c17 は判読が困難な資料で銭種の特定はできなかった。

３　奈良・平安時代～古墳時代後期

今回の調査で発見された奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡１軒、ピット３基がある。Ⅲｂ層を検出面として発見される遺構であるが、調査区西端のＫ７号溝より東側は近世以降に削平されているため、Ⅲ層が残っている範囲は調査区南東側の一部だけであった。奈良・平安時代の遺構の覆土は、主に黒色スコリア質である。遺物は、土師器類 206 点（1,352g）、須恵器 28 点（773g）、灰釉陶器１点（2g）計 235 点（2,127g）である。

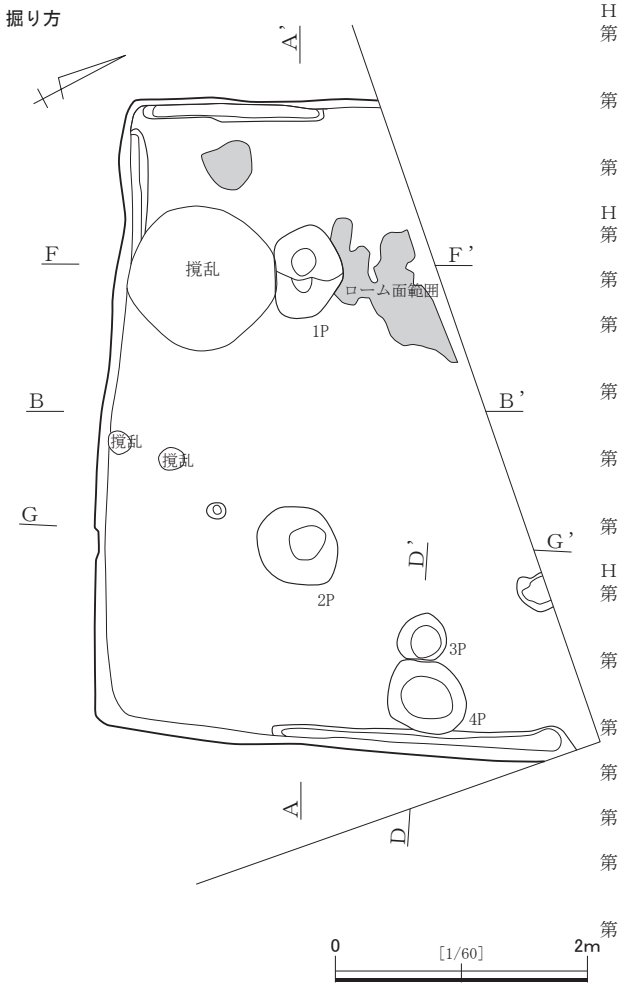


第95図　奈良・平安時代遺構配置図［1/200］



Ｈ１号住居跡
第１層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを多量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量含む。しまり強い・粘性弱い。
第２層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを多量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量、黄白色粘土粒を少量、炭化粒を少量含む。しまりやや強い・粘性弱い。
第３層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを中量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性やや弱い。
第４層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、明褐色土ブロックを少量含む。しまりやや強い・粘性やや弱い。
第５層　褐色土　暗褐色土・褐色土・明褐色土の混合土。しまりやや弱い・粘性やや強い。壁溝
第６層　褐色土　径３㎜程の橙色スコリアを微量含む。粘質土。主に第Ⅵ層から成る。断面部分以外では黄褐色土ロームや灰白色粘土が敷きこまれている部分あり。（住居中央付近カマド全面に相当。床面に見えない）しまり非常に強い・粘性強い。硬化している。縄文土器や石が混入している。

第96図　Ｈ１号住居跡（１）［1/60］



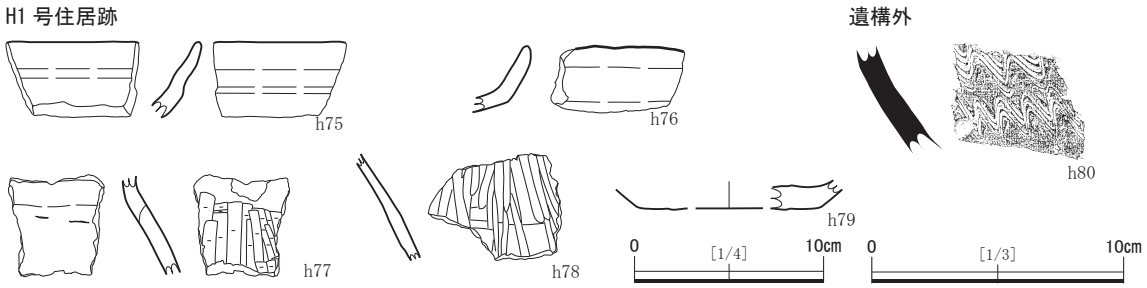
Ｈ１号住居跡　1P
第１層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径 20 ～ 30 ㎜の明褐色土ブロックを少量含む。しまりやや強い・粘性やや弱い。
第２層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径 20 ～ 30 ㎜の明褐色土ブロックを多量含む。しまりやや弱い・粘性やや強い。
第３層　明褐色土　明褐色土主体でロームブロック・暗褐色土を少量含む。しまり・粘性やや強い。
Ｈ１号住居跡　2P
第１層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを中量、褐色土を少量含む。しまりやや強い・粘性やや弱い。
第２層　褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを微量含む。しまりやや強い・粘性強い。
第３層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量、褐色土を少量含む。しまりやや強い・粘性やや弱い。
第４層　明褐色土　明褐色土（第Ⅵ層土）主体。径３～５㎜の黒色スコリアを微量、暗褐色土を少量含む。しまり・粘性強い。
第５層　褐色土　褐色土主体。径３～５㎜の黒色スコリアを微量、暗褐色土を少量、明褐色土を微量含む。しまりやや弱い・粘性やや強い。
第６層　褐色土　褐色土主体。径３～５㎜の黒色スコリアを微量、褐色土ブロックを多量含む。しまりやや強い・粘性強い。
Ｈ１号住居跡　3P・4P
第１層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量含む。しまり強い・粘性やや強い。3P
第２層　褐色土　褐色粘質土が主体。径３～５㎜の黒色スコリアを微量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量含む。しまりやや強い・粘性強い。3P
第３層　褐色土　褐色粘質土が主体。径１～３㎜の橙色スコリアを微量含む。しまり・粘性強い。3P
第４層　明褐色土　明褐色粘質土主体。地山（ピット壁）の掘りすぎ
第５層　褐色土　径３㎜程の橙色スコリア・褐色粘質土ブロックを微量含む。しまりやや強い・粘性あり。4P
第６層　暗褐色土　径３～５㎜の黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを微量、褐色土を少量、炭化粒を微量含む。しまりやや弱い・粘性やや強い。4P
第７層　褐色土　暗褐色土と褐色土の混合層。褐色土ブロックを中量含む。しまりやや強い・粘性強い。4P

第97図　Ｈ１号住居跡（２）［1/60］

（１）住居跡

Ｈ１号住居跡（第 96・97 図、図版 18）

調査区の北東隅にあり、北側のおよそ半分が調査区域外となっている。Ｋ１号畠跡の下で検出され、周囲の地山はⅤ層～Ⅵ層まで削平されていた。またＫ３号土坑とＫ９号土坑によって床面の一部が壊されている。住居の主軸は、N―63°―Wを指し、プランを４分割するように土層観察用断面を設定し、東西方向の断面が住居跡東西両壁まで観察できる位置に設定した。調査された規模は、東西 5.2 m、南北 (3.85) m、深さ 0.35 mである。周囲が削平されていなければ、深さ 0.6 ～ 0.8 mほどであると推定される。調査範囲内ではカマドは発見されていないが、調査区北壁際にカマドから流出したものと思われる粘土や焼土混じりの堆積層が検出されているので、住居西壁の中央付近にカマドがあるものと推定される。床面は外周部と柱穴やピットの部分を除いてほぼ全面が硬化していて、特に住居跡中央部では非常に硬化していた。床は貼り床で厚さ５cm 前後であり、掘り方の地山である第Ⅵ層と同様の土で作られ、良く締まっていた。主柱穴と考えられるピットは２基検出され、床面での大きさは長径 65cm ほど、底部は西側の柱穴が 20 × 30cm、東側の柱穴が 35 × 35cm を測り、床面からの深さは両方とも 60cm である。東壁際の床面には直径約 60cm で深さ 40cm の円形のピットが検出され、そのピットに隣接して住居内側に直径約 40cm の小ピットが検出されている。両ピットとも床面で検出され、この部分の床面は硬化していなかった。壁際に近い方のピットはいわゆる貯蔵穴と考えら



第98図　古墳時代出土遺物［1/4・1/3］

れ、隣接する小さい方のピットは出入り口施設の一部の可能性がある。調査区北東隅にあたる住居跡東壁際の床面直上に粘土が薄く堆積していたが、性格不明である。住居跡壁際では、西壁の一部と南壁の一部を除いて、壁溝が検出された。壁溝の規模は、幅 10 ～ 20cm、深さ５～ 10cm である。貼り床を剥がした後の掘り方の状態は、やや凹凸があるもののほぼ平坦であった。掘り方の地山からは縄文土器や石器、礫等が多く出土した。住居跡の覆土は、やや粗粒の黒色スコリアを多量含む暗褐色土である。出土遺物は少量の土師器片と多量の縄文土器片がある。

出土した遺物は 65 点（565g）で、その内訳は古墳時代後期の土師器坏２点（9g）、古墳時代後期の土師器甕 35 点（416g）、奈良・平安時代土師器坏 23 点（98g）、奈良・平安時代土師器甕５点（42g）である。

Ｈ１号住居跡出土遺物（第 98 図、第 30 表、図版 58）

h75・h76 は土師器坏、h77 ～ h79 は土師器甕で、h79 は底部である。

本遺構から出土した遺物では詳細な帰属時期の判断は難しいため、古墳時代後期～奈良・平安時代の範疇としておきたい。

(2) ピット（第 10 表）

ピットは３基発見された。住居跡覆土と似ているスコリア質暗褐色土の覆土であるため当該時期のピットとしている。第Ⅲ層、第Ⅳ層が残っている範囲で発見されているが、非常に散漫な分布である。ピットの規模が径 0.29 ～ 0.39 mの円形で、深さは 0.11 ～ 0.21 mと小振りでもあり、中世のピットである可能性がある。

(3) 遺構外出土遺物

古墳時代後期～奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡１軒、ピット３基が発見された。唯一の竪穴住居跡は調査区域外へ掛かっている。本調査区では全体に奈良・平安時代の遺物出土量は少なく、遺構外の遺物の分布は北側の遺構を中心に分布する。

遺構外から出土した遺物は 139 点（790g）で、その内訳は古墳時代後期の土師器甕 22 点（304g）・高坏１点（8g）・坏 27 点（53g）・甕 44 点（195g）・器種不明土師器 27 点（53g）、奈良・平安時代の須恵器坏７点（80g）・坏蓋２点（22g）・壺１点（9g）・須恵器瓶２点（23g）・器種不明須恵器５点（41g）、灰釉陶器皿１点（2g）である。

遺構外出土遺物（第 98 図、第 30 表、図版 58）

h80 は古墳時代後期の須恵器甕の頸部破片である。

４ 縄文時代

今回の調査で発見された縄文時代の遺構は、住居跡２棟、土坑 32 基、埋設土器４基、配石４基、焼土址 11 基、ピット 222 基の合計 275 基となる。遺構の分布は、調査区西北にやや偏りを見せて検出されるがやや疎らである。縄文時代の遺物は、縄文土器 42,650 点（586,163g）、土製品 26 点（571g）、石器 843 点（86,455g）の計 43,519 点（673,189g）である。本調査区は古代面までの調査においても縄文土器片の出土が多かった。

（１）住居跡

Ｊ２号住居跡（第 100 ～ 103 図、図版 19・20）

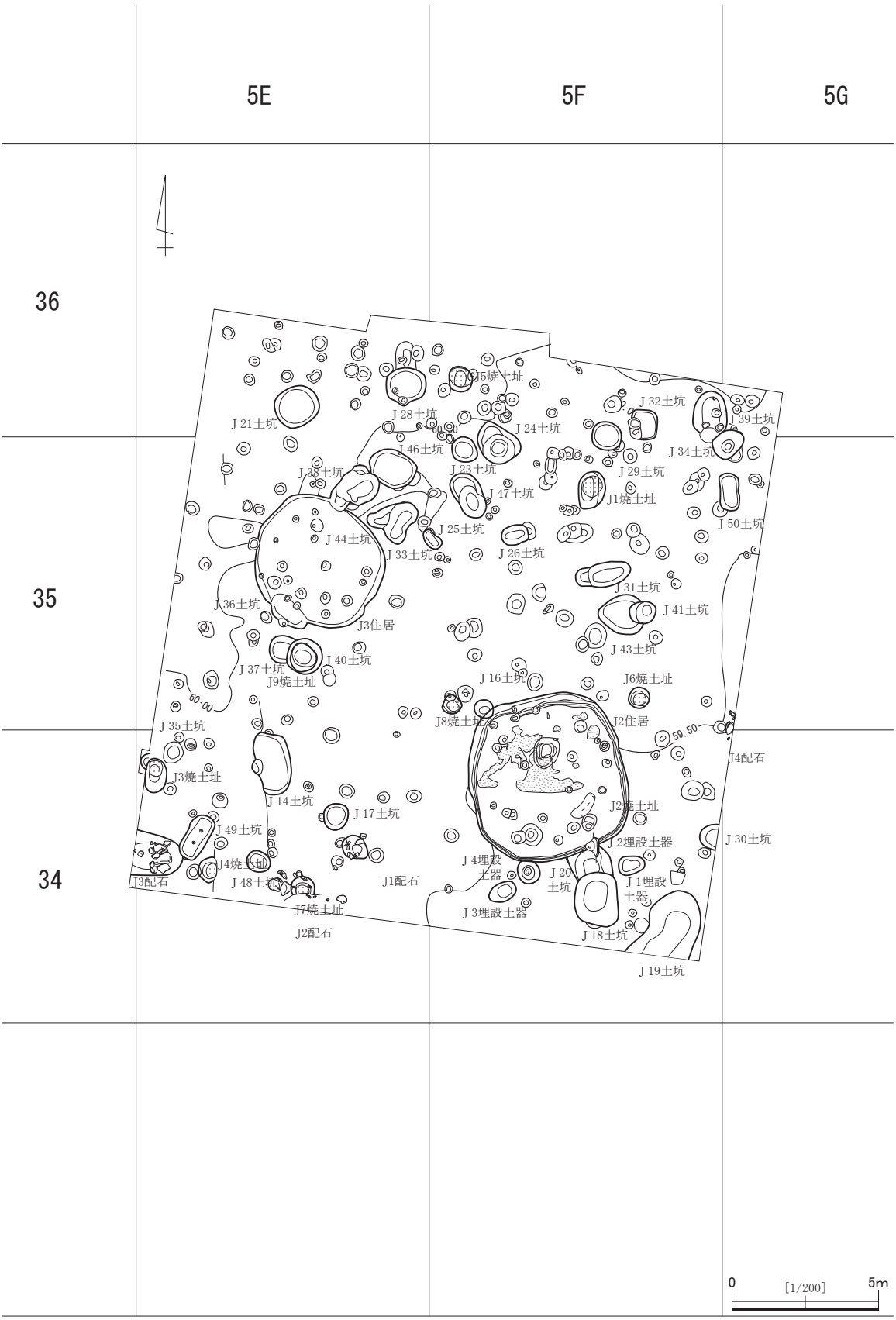
本遺構は、調査区南側中央付近の５Ｆ－34 グリッドで検出された。平面形は隅丸方形を呈しており、長さ 5.6 m、幅 5.30 m、最も深いところで 0.48 mを測る。主軸はほぼ北を向きＮ－ 8°－Ｗを指す。炉は住居跡の中央やや北寄りに位置している。円礫で囲われた石囲い炉であり、被熱によって硬化した部分や、焼土の堆積等は認められなかった。掘り方は長さ 1.03 m、幅 0.82 m、深さ 0.30 mの楕円形を呈する。柱穴は 31 基確認されたが、径 0.20m ～ 0.48 m、深さが 0.03 ～ 0.70 mと小振りのものが多い。４Ｐ・21 Ｐ・13 Ｐ・10 Ｐが主柱穴となるものと推定される。周溝は全周巡り、幅は 0.25m、深さは 0.15m ほどである。床面は一部に硬化面が認められるが、入念に叩き込んだ貼り床ではなく、炉の南側と西側で確認できている。覆土と同じような土質であった。

遺物は、床面直上からは、床面に伏した状態で検出した曽利系の加曽利ＥⅡ式土器（j95）、横位で検出された加曽利ＥⅡ式土器（j97）の２個体が検出されている。また、住居内に加曽利ＥⅡ式（j101）の埋甕が正位で埋納されていた。その他、基本土層Ｖｃ層を多く含んだ覆土上部からは連弧文土器（j99）・加曽利ＥⅡ式土器２個体（j98・j30）が出土する。出土遺物の総量は、縄文土器 334 点（23,507g）、石器類は打製石斧２点、凹石１点、磨石２点、石皿片１点、多孔石２点、砥石１点、台石１点、使用痕を有する剥片・加工痕を有する剥片２点、黒曜石剥片類５点の計 19 点（3,753g）が出土した。

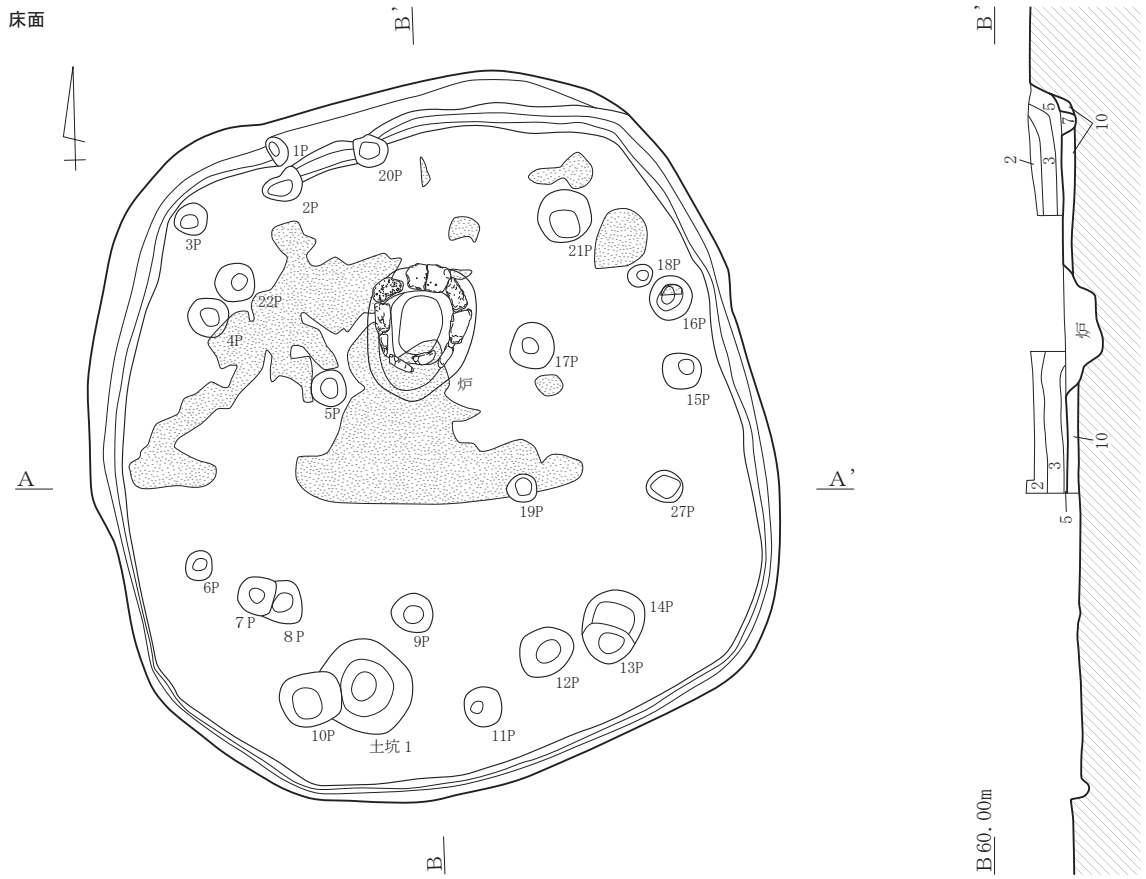
Ｊ２号住居跡出土遺物（第 104 ～ 107 図、第 33・35 表、図版 19・20・62・63・83）

出土遺物は、j95 は曽利Ⅱ式の深鉢である。無文の口縁部に波状の浮線文が頸部にめぐり、縄文地に隆帯が垂下する。j96 は、口縁部に沈線による施文がされる加曽利ＥⅡ式の浅鉢である。j97 は波状の口縁に沈線による楕円区画が配され、地文に縦位の櫛書きを施す曽利Ⅲ式の深鉢である。j98 は口縁部に隆帯による渦巻き文と短沈線が充填される楕円区画が交互に配される。胴部には沈線区画が垂下し矢羽根状の短沈線が施文されるキャリパー形の深鉢で曽利Ⅲ式である。j99 は口縁下から波状に沈線が施され、ハの字状に短沈線が施されたキャリパー形の曽利Ⅴ式の深鉢である。j100 は曽利Ⅱ式の胴部破片である。j101 はそろばん形の浅鉢で胴部に無文の口縁部が立ち上がるもので、頸部には渦巻き文と縄文区画が交互に配される。加曽利ＥⅡ式である。j102 は口縁下に隆帯による渦巻き文が配され、胴部には磨り消し帯と蛇行沈線が交互に施文されるキャリパー形の深鉢で加曽利ＥⅡ式である。j103 と j104 は口縁上面から口縁外面にかけて斜行する集合沈線を施す重孤文の深鉢である。j105 は同心円状に集合沈線を施す重孤文の深鉢である。曽利Ⅱ式である。j106 は簡略化された連孤文の深鉢で加曽利ＥⅡ式である。j107 ～ j119 は縄文時代中期の土器破片である。j111 は連孤文、j112・j113 は重孤文の深鉢である。j120 は深鉢の底部である。遺物の時期は曽利Ⅱ式・加曽利ＥⅡ式が主体である。

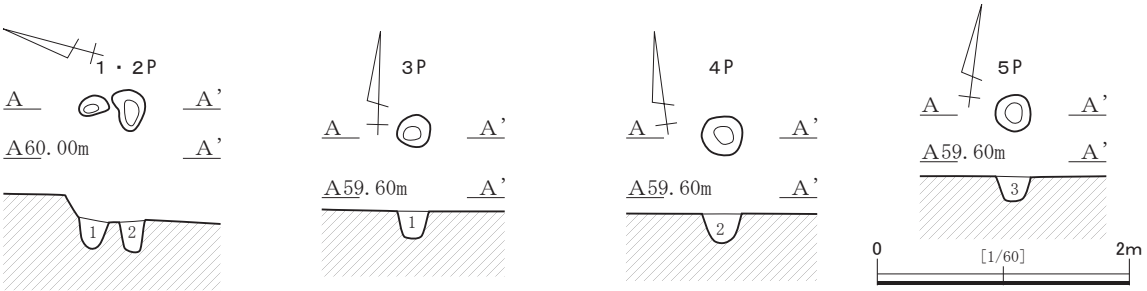
石器は j121 は撥形の打製石斧でホルンフェルス製である。j122 は軟質粗粒凝灰岩の凹石である。j123 は



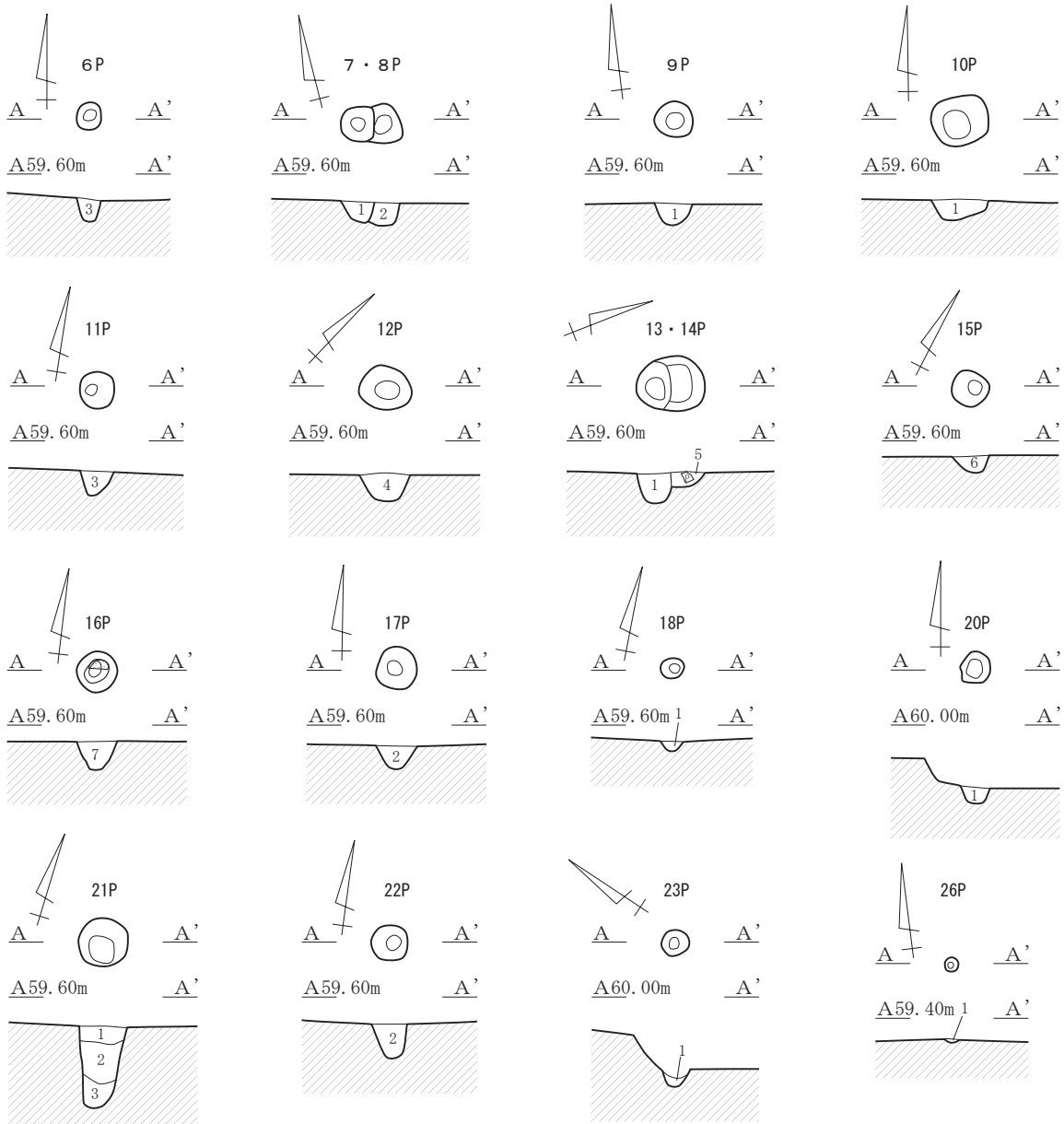
第99図　縄文時代遺構配置図［1/200］



Ｊ２号住居跡
第１層　黒色土　径３㎜程の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。乾燥するとクラックが入る。
第２層　黒褐色土　径３㎜程の橙色スコリアを密に含む。しまりあり・粘性強い。乾燥するとクラックがはいる。
第３層　褐色土　径１㎜程の橙色スコリアを密に含む。部分的に径５㎜大の小礫がみられる。しまりあり・粘性強い。
第４層　黒褐色土　径３㎜程の橙色スコリアを多量に含む。しまり・粘性あり。
第５層　暗褐色土　径１㎜程の橙色スコリアを多量に含む。しまり・粘性あり。
第６層　黒褐色土　径３㎜程の橙色スコリアを少量含む。しまり・粘性あり。
第７層　灰褐色土　径３㎜程の橙色スコリアを含む。しまり弱い・粘性あり。肌目が粗く比してソフト。
第８層　茶褐色土　第９層に比して色調が明るく、黄色味強い。しまりない・粘性あり。19P
第９層　茶褐色土　径２㎜程の橙色スコリアを含む。しまり弱い・粘性あり。ソフト。　27P
第 10 層　灰褐色土　径１㎜程の橙色スコリアを少量含む。しまりあり・粘性強い。
第 11 層　茶褐色土　径２～３㎜程の橙色スコリアを含む。しまりややある・粘性弱い。
第 12 層　茶褐色土　径２㎜程の橙色スコリア含む。２層に比して橙色スコリアは多い。径２㎜程の炭化粒を少量含む。粘性弱い。ソフト。
第 13 層　褐色土　10 ㎜程のロームブロックを含み、橙色スコリア少ない。しまり・粘性弱い。ソフト。



第100図　Ｊ２号住居跡（１）［1/60］

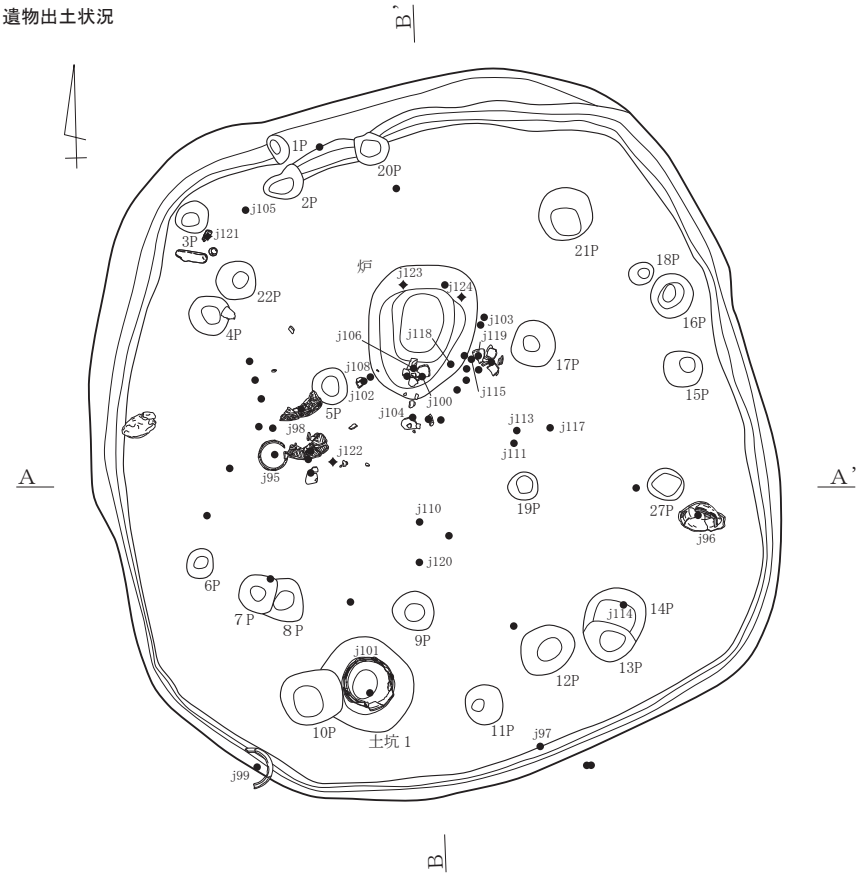


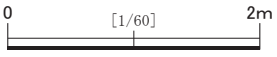
Ｊ２号住居跡　ピット（21P 除く）
第１層　茶褐色土　径２㎜程の橙色スコリアを含む。しまりない・粘性あり。ソフト。
第２層　茶褐色土　第１層より色調明るく、黄色味強い。やや橙色スコリア・粉末状ロームが多い。
第３層　第１層と同じであるが、比して橙色スコリア多い。
第４層　第２層と同じであるが、比してややハード。
第５層　第２層と同じであるが、比して黄色味強い。
第６層　第２層と同じであるが、橙色スコリア多い。
第７層　第１層と同じであるが、ロームブロックが目立つ。
第８層　第１層と同じだが、比して黒味あり。しまり・粘性あり。
第９層　褐色土　径１～２㎜のロームブロックが充たされており、ややハード。
Ｊ２号住居跡　21P
第１層　茶褐色土　径２～３㎜の橙色スコリア、粉末状ロームを多量含む。粘性あり、ややハード。
第２層　茶褐色土　第１層に比して橙色スコリア少ない。粘性弱く、ややソフト。
第３層　第２層に比して黄色味強く、ややハード。しまりあり。

0　[1/60]　2m

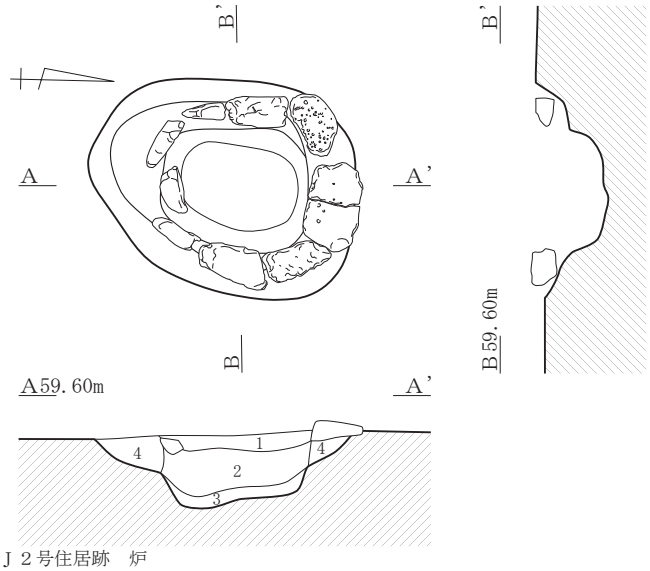
第101図　Ｊ２号住居跡（２）［1/60］

遺物出土状況





炉



Ｊ２号住居跡　炉

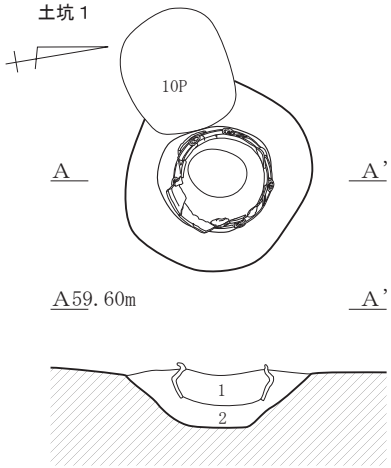
第１層　茶褐色土　径１～２㎜の橙色スコリア・粉末状ロームを層全体に含む。粘性弱い。ややソフト。

第２層　茶褐色土　径１～２㎜の橙色スコリア・粉末状ロームを層全体に含む。径２㎜の炭化粒を少量含む。第１層と比して橙色スコリア多く、黄色味強い。粘性弱い。ソフト。

第３層　褐色土　径 10 ㎜のロームブロックを含む。橙色スコリア少ない。しまり・粘性弱い。ソフト。

第４層　暗褐色土　径１㎜の橙色スコリアを多量に含む。しまり・粘性あり。

土坑１



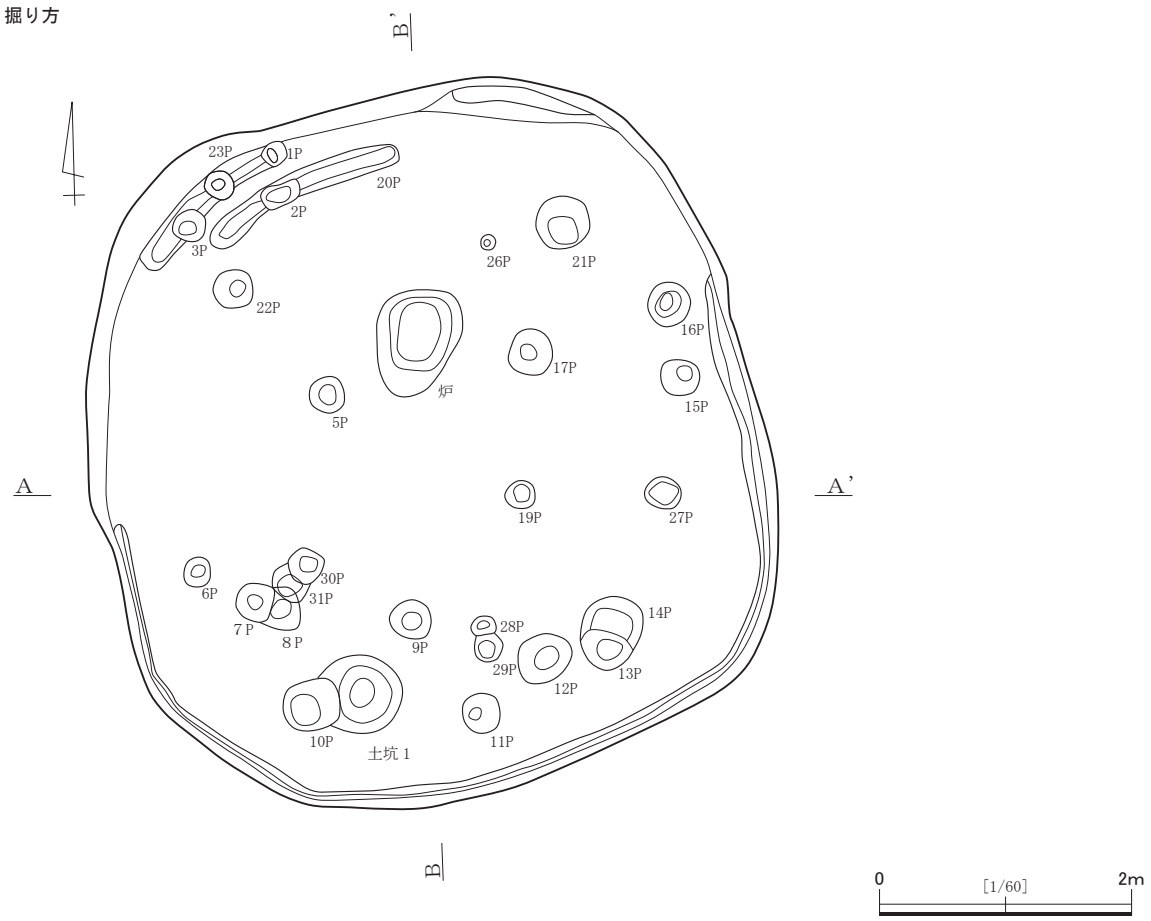
Ｊ２号住居跡　土坑１

第１層　茶褐色土　径２㎜の橙色スコリア・炭化粒・ローム粒を少量含む。しまり弱い・粘性あり。

第２層　茶褐色土　径１～３㎜の橙色スコリアと粉末状ロームが混じったブロックを充填しているように思える。これらのブロックが濃い部分と薄い部分がある。しまり・粘性ややあり。ソフト。第１層と異なり、炭化粒がない。第１層に比して、しまりは弱いが、色調・構成内容は同じである。



第102図　Ｊ２号住居跡（３）［1/60・1/30］



第103図　Ｊ２号住居跡（４）［1/60］

多孔質安山岩製の石皿である。j124 は軟質粗粒凝灰岩の多孔石で、j123 の石皿とともに炉石に転用されていた。

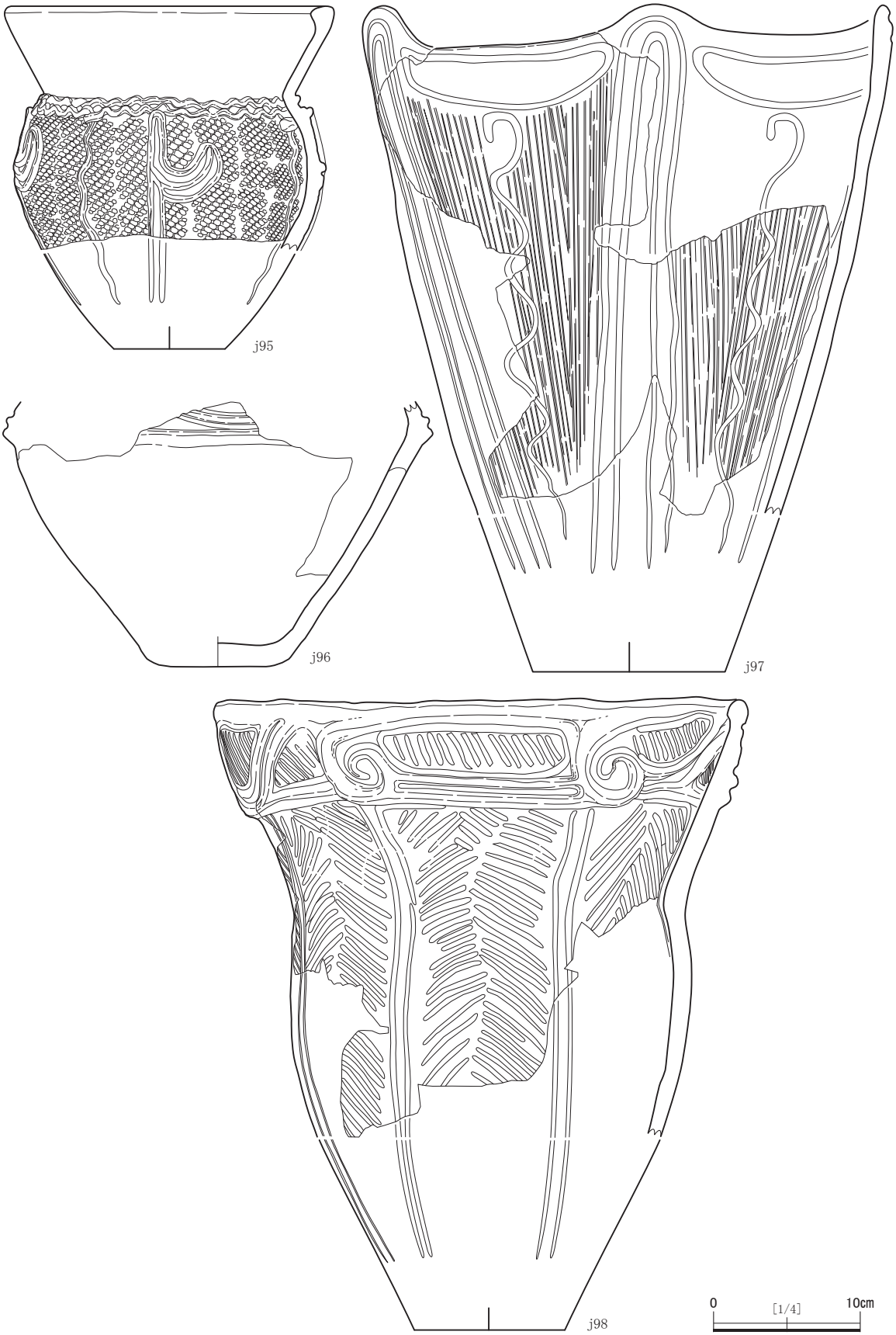
Ｊ３号住居跡（第 108 ～ 110 図、図版 20）

本住居は、ピア 16（下り）区東側中央の５Ｅ -35 グリッドで検出された。平面形は楕円形を呈し、長さ 4.5 m、幅 4.0 m、深さ 0.35m を測り主軸はＮ－ 64°－Ｗを指す。上面プランで確認できたものの壁の立ち上がりは不鮮明であった。また、床面は硬化面等は把握されず、炉も検出しなかった。覆土は褐色土を主体として、ロームブロックが混在することから、遺構覆土として捉え、平面プランの形状や大きさから住居跡として分類した。壁溝はなく、柱穴と考えられるものは 26 基確認でき、径 0.20 ～ 0.40 m程で、深さも浅いものから 0.90 m近いものまで様々であった。深さのある柱穴の配列等に規則性は認められなかったが、住居跡中央に深さ 0.80 mの 27 Ｐが存在する。

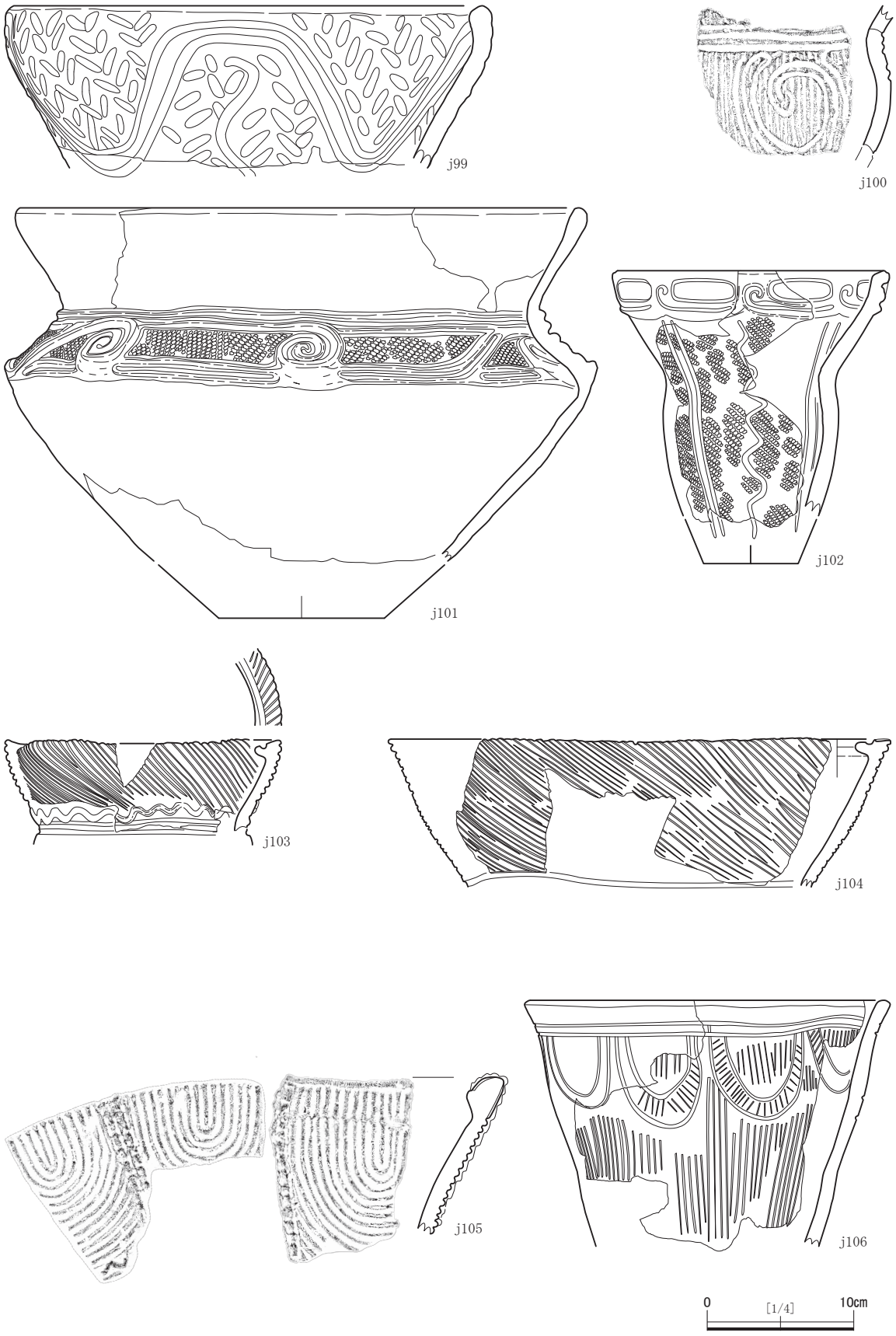
遺物は、覆土中も含め少なく、床面から時期を特定できる土器は出土していない。覆土中からは曽利Ⅱ式土器が検出されており、本住居跡の構築年代もそれに前後する時期と考えておく。このように本住居跡に炉址が存在せず、かつ床面中央に突出した深さの柱穴が存在することから、主柱穴１本の構造と考えられる。出土遺物の総量は、縄文土器 128 点（4,241g）と台石１点（3,065g）が出土する。

Ｊ３号住居跡出土遺物（第 111 図、第 33 表、図版 63）

出土遺物は、j125 は曽利式の深鉢である。無文の口縁部に波状の浮線文が頸部にめぐり、縄文地に蛇行隆帯が垂下する。j127 は口縁上から口縁外面に集合沈線が施される重孤文の深鉢である。曽利Ⅱ式である。



第104図　Ｊ２号住居跡出土遺物（１）［1/4］



第105図　Ｊ２号住居跡出土遺物（２）［1/4］



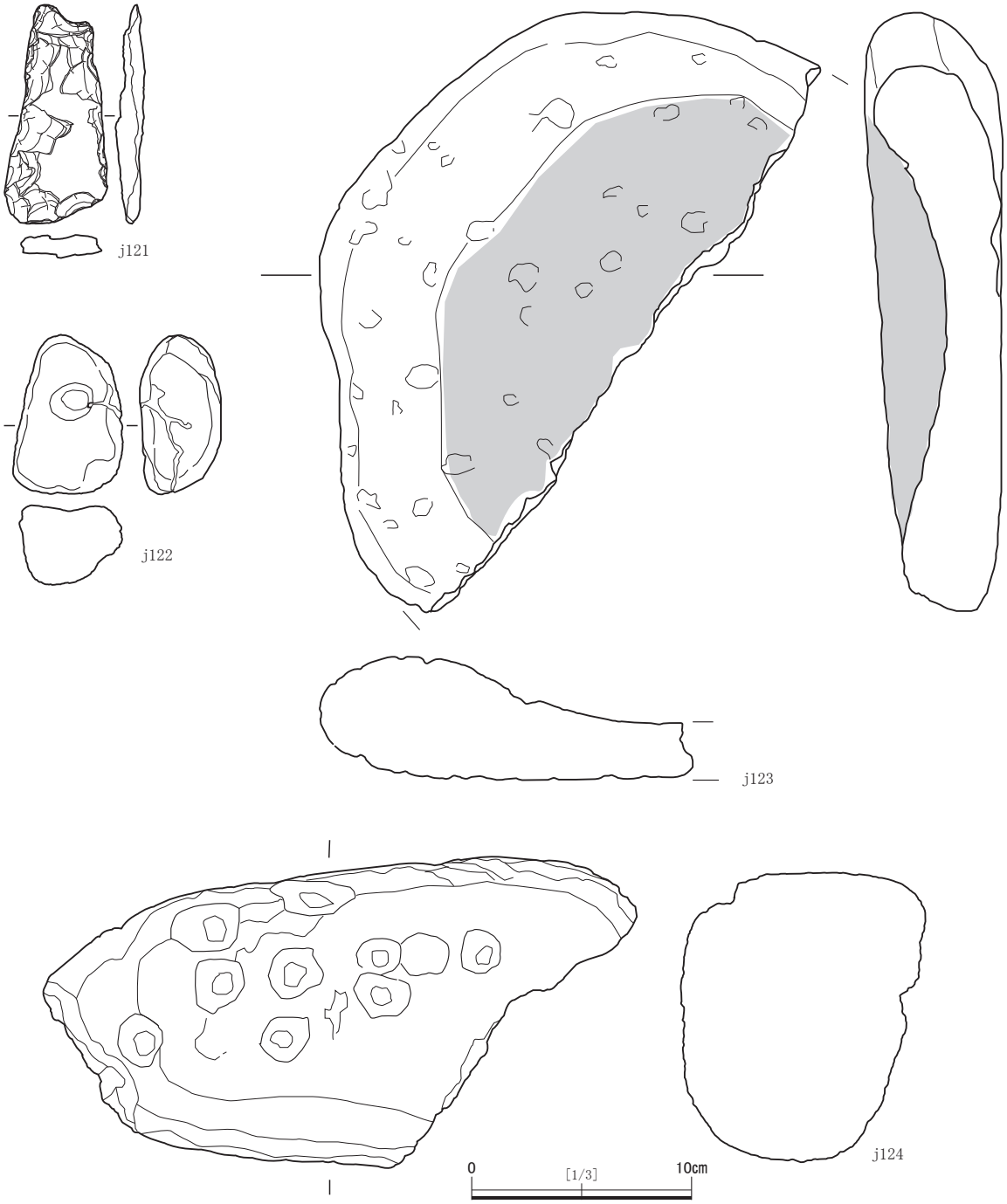
第106図　Ｊ２号住居跡出土遺物（３）［1/3］

j126 は丸みを帯びた無文の口縁部が立ち上がり頸部には鋸歯状の隆帯が区画内に施文される曽利Ⅱ式の深鉢である。

（２）土坑

Ｊ 14 号土坑（第 113 図）

ピア 16（下り）区南西、５Ｅ -34 グリッドに位置し、Ｋ１号溝に西側を削平され、1/2 が残存する。平面は楕円形を呈し、中央部がピット状に窪む。主軸はＮ －６° －Ｗを指す。長軸 2.10 ｍ、短軸（1.34）ｍ、深さ 0.74 ｍを測り、断面は鍋底形で、有段となる。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片 50 点（623g）、石器は黒曜石剥片類１点（0.02g）が出土し、堀之内１式が主体を占める。



第107図　Ｊ２号住居跡出土遺物（４）［1/3］

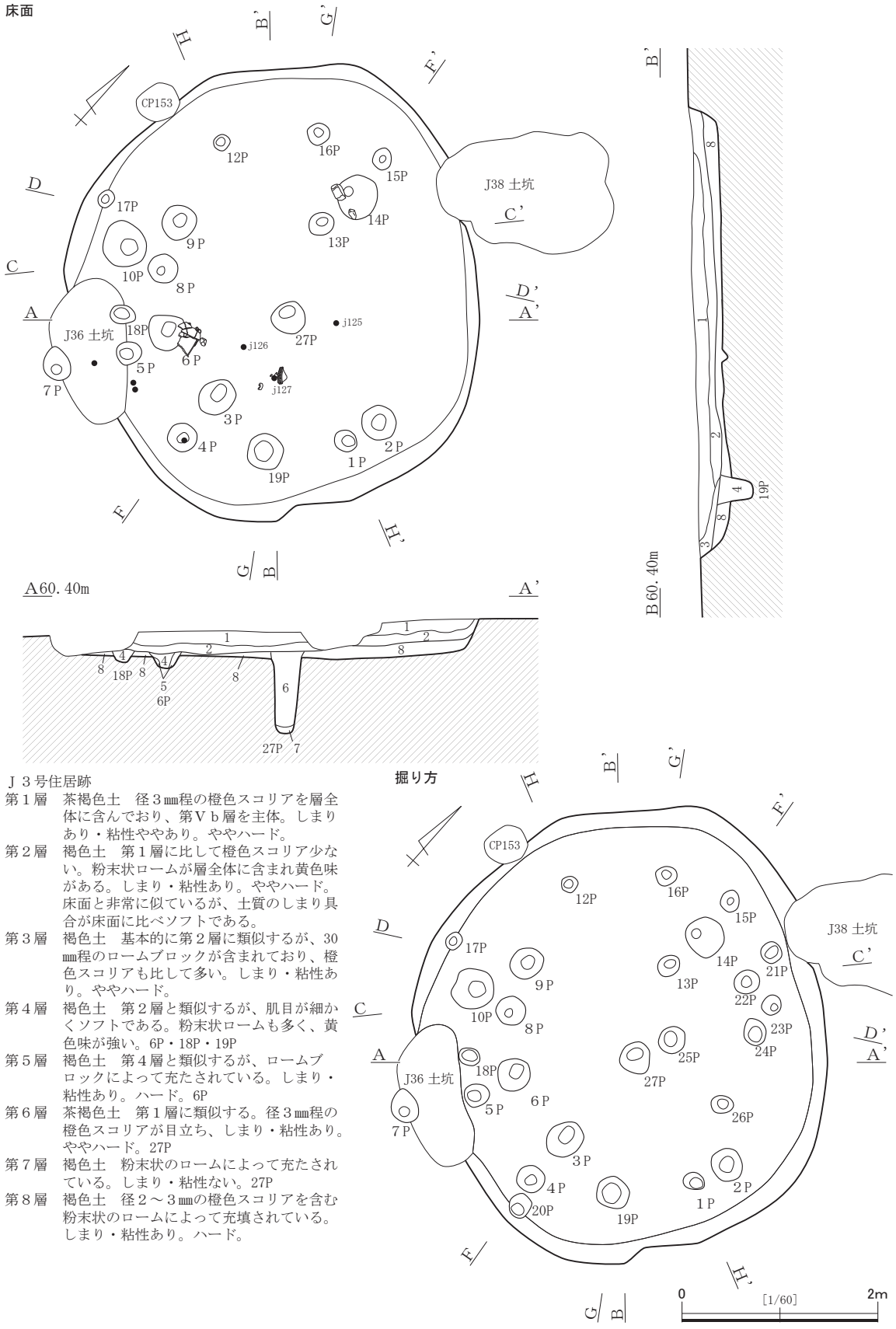
Ｊ 14 号土坑出土遺物（第 113 図、第 33 表、図版 64）

出土遺物は、j128 口縁部文様帯は沈線による渦巻文が施文され、胴部に懸垂文が施文される深鉢である。j129 は胴部は微隆起線による渦巻文と両裾をなぞり加えた渦巻文を描くモチーフで深鉢である。

Ｊ 16 号土坑（第 117 図、図版 22）

ピア 16（下り）区南東、５Ｆ -35 グリッドに位置する。掘り方の平面は円形を呈し、長軸 0.66 ｍ、短軸 0.60 ｍ、深さ 0.12 ｍを測り、断面は鍋底形で、底面は平坦となる。覆土中層に深鉢が横倒しで出土する。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片 22 点（1,525g）が出土し、堀之内１式が主体を占める。

Ｊ 16 号土坑出土遺物（第 117 図、第 33 表、図版 64）



Ｊ３号住居跡

第１層　茶褐色土　径３㎜程の橙色スコリアを層全体に含んでおり、第Ｖｂ層を主体。しまりあり・粘性ややあり。ややハード。

第２層　褐色土　第１層に比して橙色スコリア少ない。粉末状ロームが層全体に含まれ黄色味がある。しまり・粘性あり。ややハード。床面と非常に似ているが、土質のしまり具合が床面に比べソフトである。

第３層　褐色土　基本的に第２層に類似するが、30㎜程のロームブロックが含まれており、橙色スコリアも比して多い。しまり・粘性あり。ややハード。

第４層　褐色土　第２層と類似するが、肌目が細かくソフトである。粉末状ロームも多く、黄色味が強い。6P・18P・19P

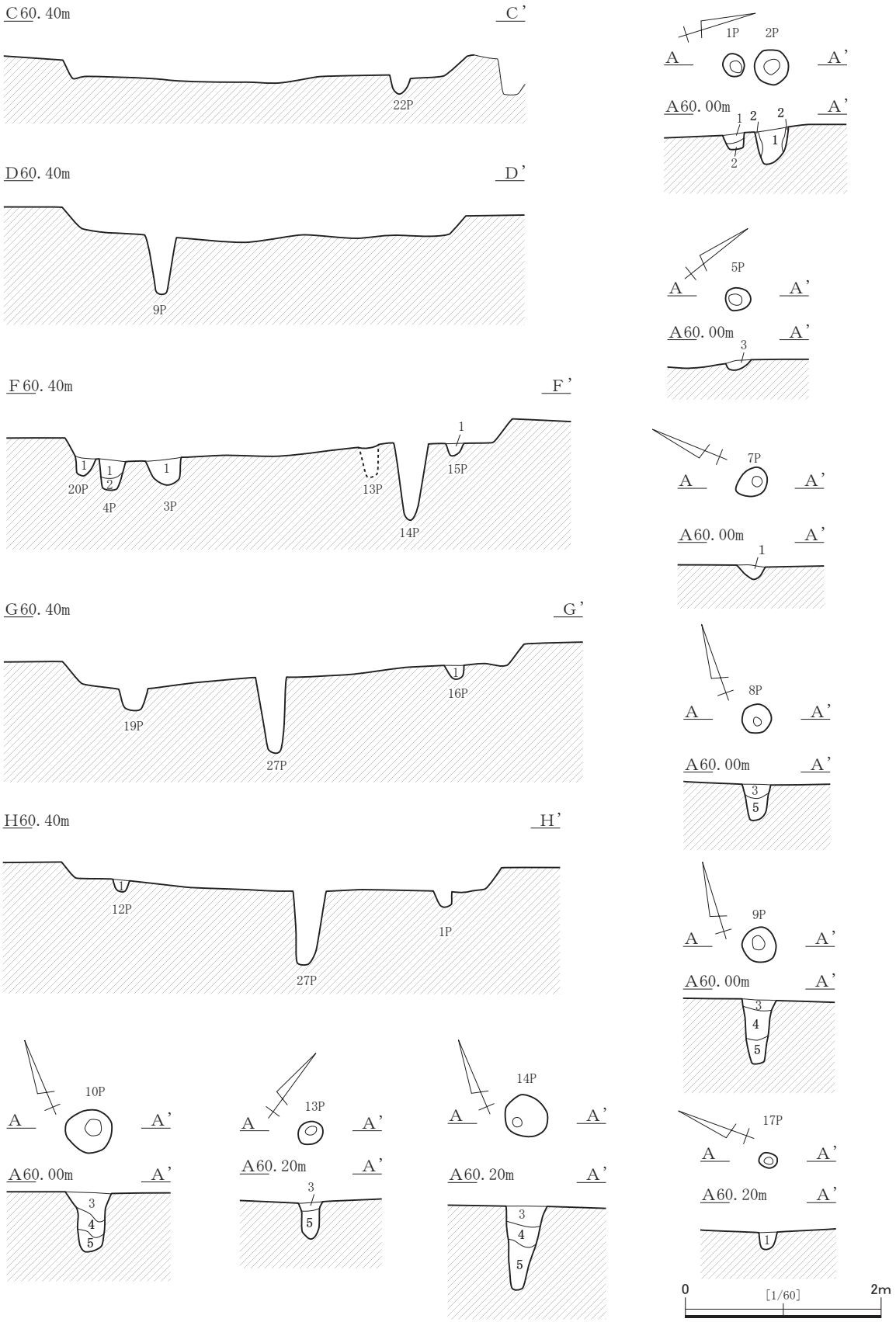
第５層　褐色土　第４層と類似するが、ロームブロックによって充たされている。しまり・粘性あり。ハード。6P

第６層　茶褐色土　第１層に類似する。径３㎜程の橙色スコリアが目立ち、しまり・粘性あり。ややハード。27P

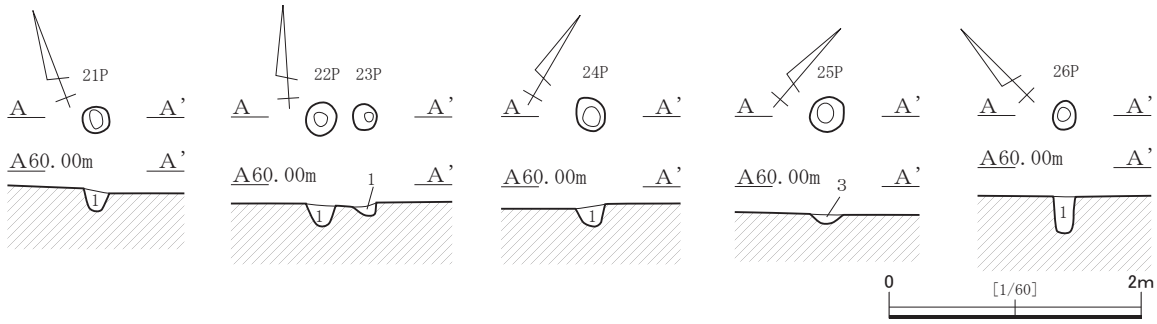
第７層　褐色土　粉末状のロームによって充たされている。しまり・粘性ない。27P

第８層　褐色土　径２～３㎜の橙色スコリアを含む粉末状のロームによって充填されている。しまり・粘性あり。ハード。

第108図　Ｊ３号住居跡（１）［1/60］

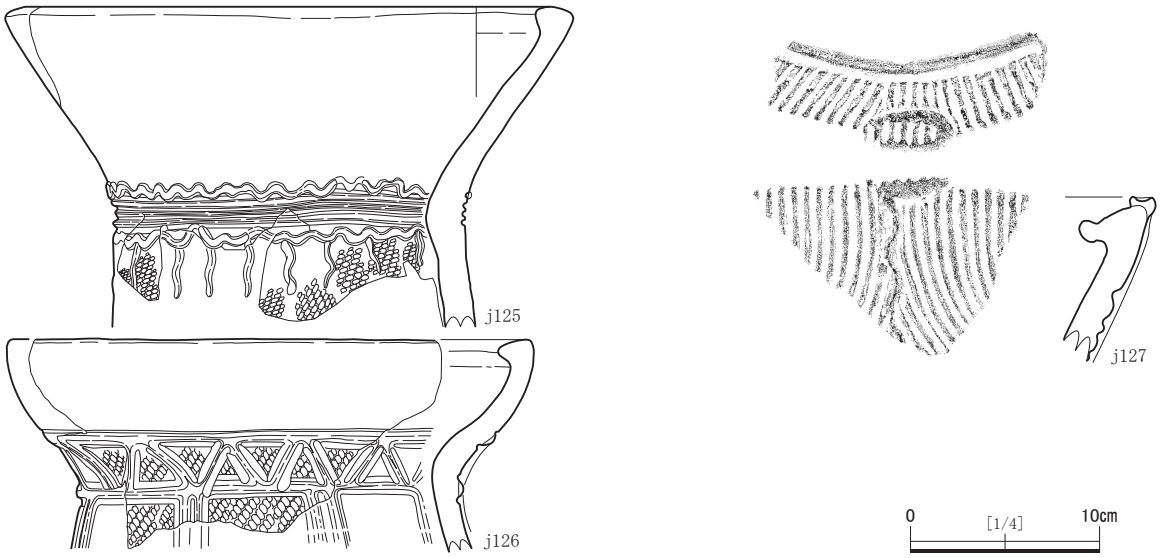


第109図　Ｊ３号住居跡（２）［1/60］



Ｊ３号住居跡ピット（6P・18P・19P・27P 除く）
第１層　褐色土　Ｊ３号住居覆土第２層と類似するが、肌目が細かくソフトである。粉末状ロームも多く、黄色味が強い。
　　Ｊ３号住居土説第４層相当。
第２層　褐色土　Ｊ３号住居覆土第４層と類似するが、ロームブロックによって充たされている。しまり・粘性あり。ハード。
　　Ｊ３号住居土説第５層相当。
第３層　茶褐色土　Ｊ３号住居覆土第１層に類似する。径３㎜程の橙色スコリアが目立ち、しまり・粘性あり。ややハード。
　　Ｊ３号住居土説第６層相当。
第４層　褐色土　粉末状のロームによって充たされている。しまり・粘性ない。ソフト。Ｊ３号住居土説第７層相当。
第５層　褐色土　第２層より粉末状ロームを多く含み、黄色味が強い。しまり・粘性ややあり。ややハード。

第110図　Ｊ３号住居跡（３）［1/60］



第111図　Ｊ３号住居跡出土遺物［1/4］

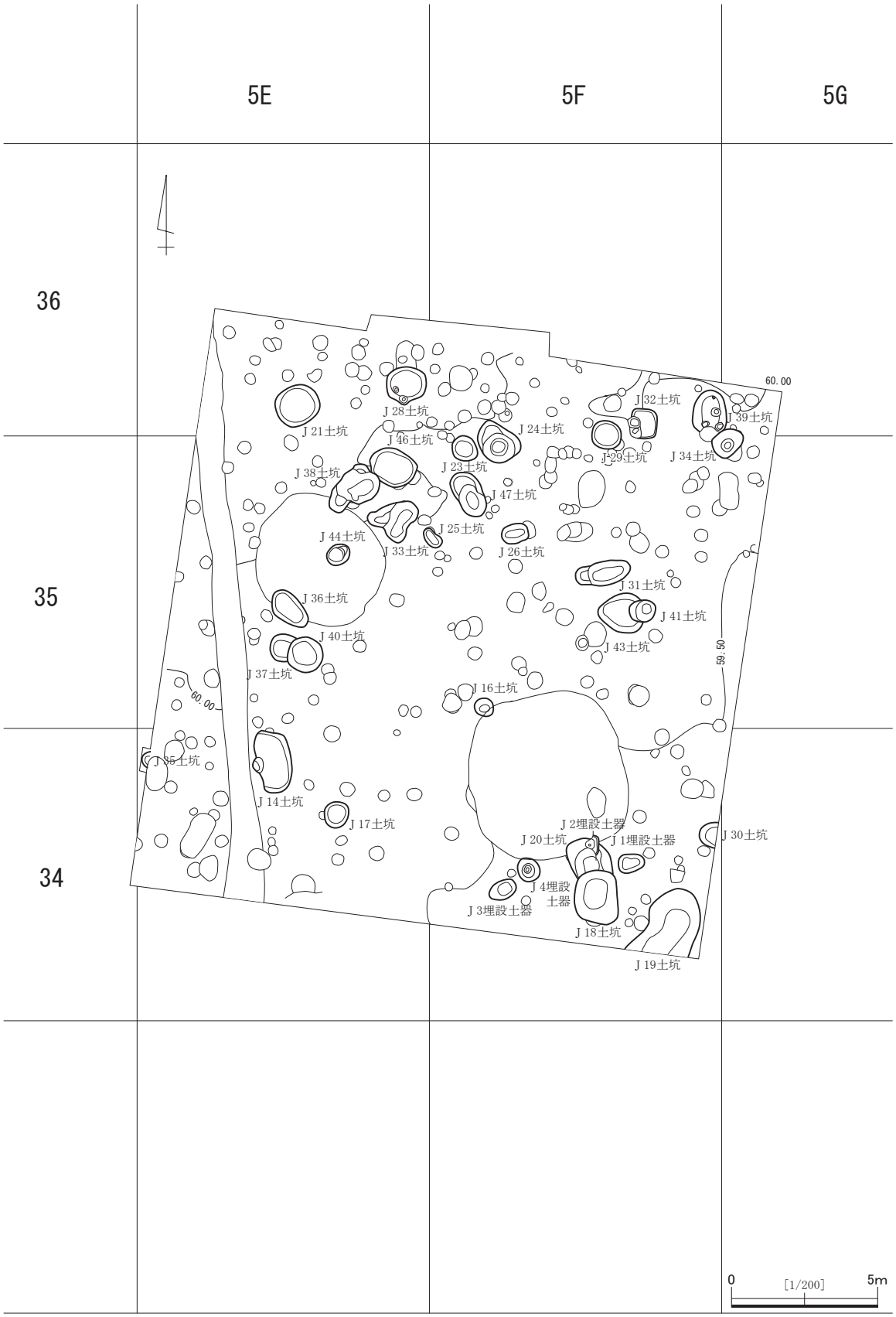
出土遺物は、j151 は胴上半部が丸く張り出し、頸部は「く」字状に屈曲、口縁は外反しながら立ち上がる。口縁に１条の沈線を巡らせ、貫通穴の持つ突起が付され、対となると思われる。頸部は２条の沈線が巡り、「８」字状貼付文を四方に配する。胴部は「Ｊ」字状文、逆向き「Ｊ」地文をモチーフを交互に配すとともに連結沈線文が施文される。「Ｊ」字文や連結箇所に瘤状隆帯が施される。地文は無文である。堀之内１式である。

Ｊ 17 号土坑（第 114 図）

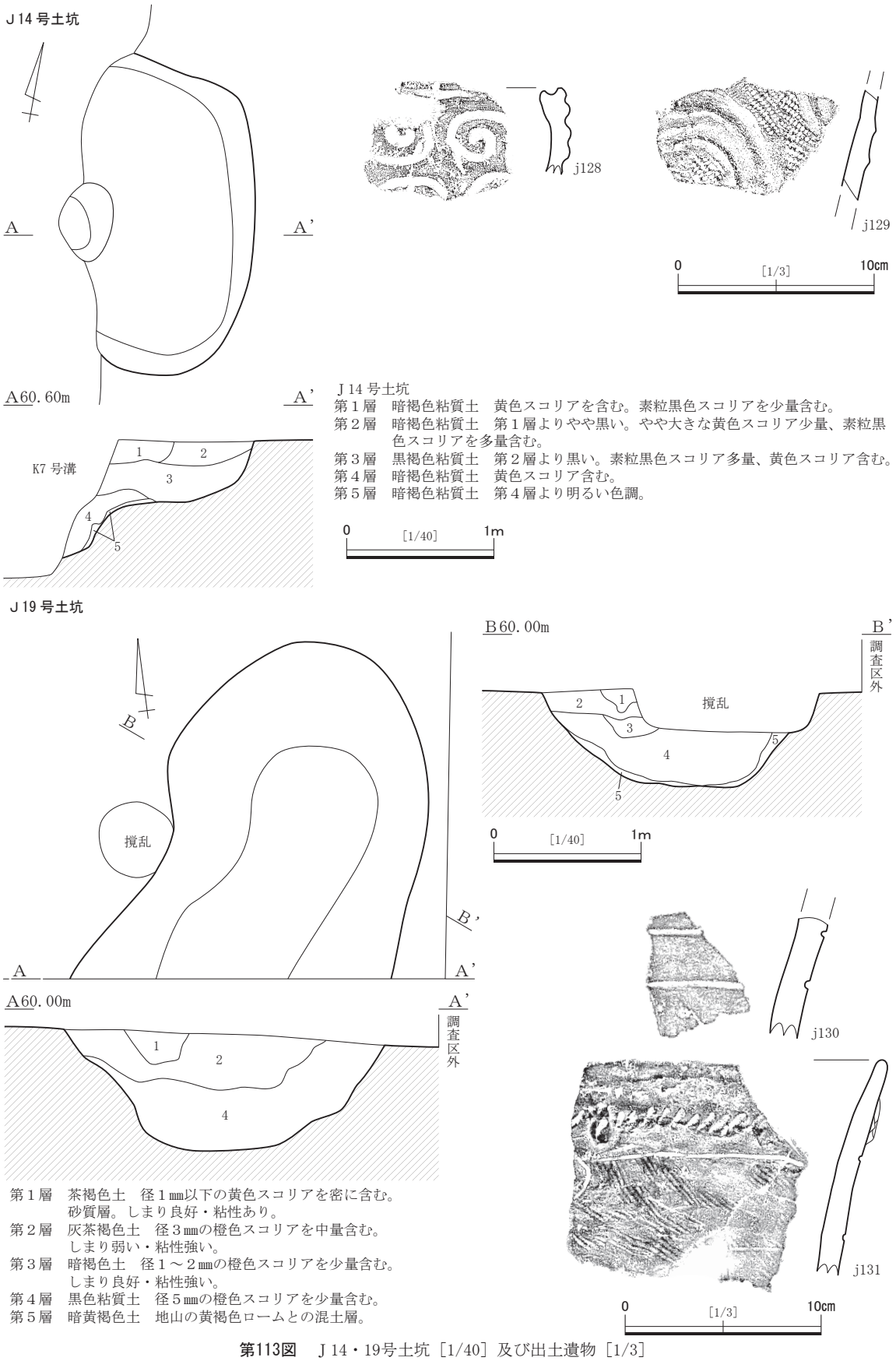
ピア 16（下り）区南西、５Ｅ -34 グリッドに位置する。平面は円形を呈し、長軸 0.90 m、短軸 0.82 m、深さ 0.16 mを測り、断面は鍋底形で、底面は平坦となる。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片６点（137g）が出土し、中期後半の土器が主体を占める。石器は黒曜石剥片類１点（2g）が出土し、覆土上面で礫が出土する。

Ｊ 18 号土坑（第 115 図）

ピア 16（下り）区南東隅、５Ｆ -34 グリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ － 4° － Ｅを指す。長軸 1.82 m、短軸 1.42 m、深さ 0.40 mを測り、断面は鍋底形で、底面は平坦となる。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片 131 点（3,613g）が出土し、称名寺式から堀之内１式が主体を占める。



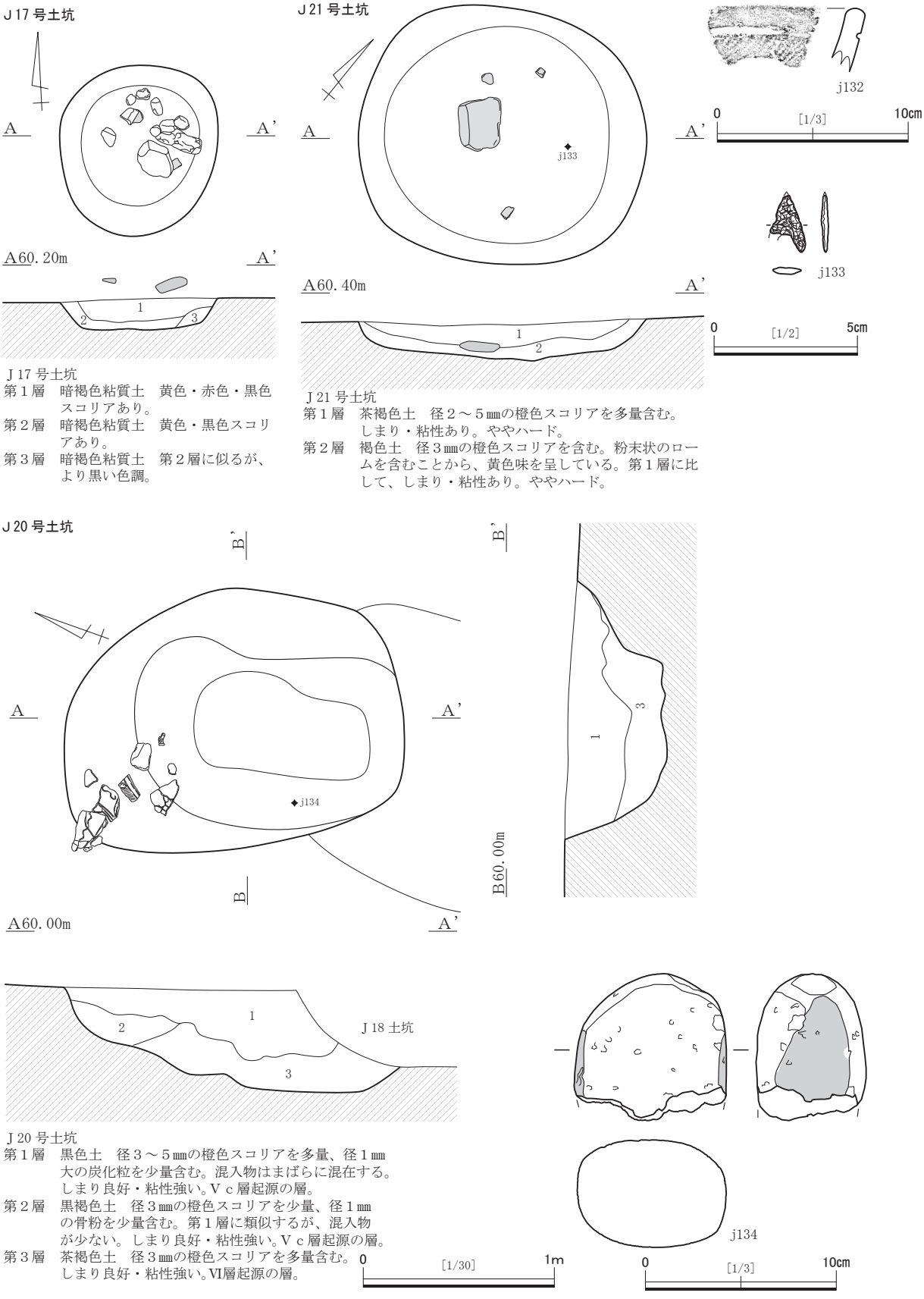
第112図　縄文時代土坑配置図［1/200］



Ｊ14 号土坑
第１層　暗褐色粘質土　黄色スコリアを含む。素粒黒色スコリアを少量含む。
第２層　暗褐色粘質土　第１層よりやや黒い。やや大きな黄色スコリア少量、素粒黒色スコリアを多量含む。
第３層　黒褐色粘質土　第２層より黒い。素粒黒色スコリア多量、黄色スコリア含む。
第４層　暗褐色粘質土　黄色スコリア含む。
第５層　暗褐色粘質土　第４層より明るい色調。

第１層　茶褐色土　径１㎜以下の黄色スコリアを密に含む。
　　砂質層。しまり良好・粘性あり。
第２層　灰茶褐色土　径３㎜の橙色スコリアを中量含む。
　　しまり弱い・粘性強い。
第３層　暗褐色土　径１～２㎜の橙色スコリアを少量含む。
　　しまり良好・粘性強い。
第４層　黒色粘質土　径５㎜の橙色スコリアを少量含む。
第５層　暗黄褐色土　地山の黄褐色ロームとの混土層。

第113図　Ｊ14・19号土坑［1/40］及び出土遺物［1/3］

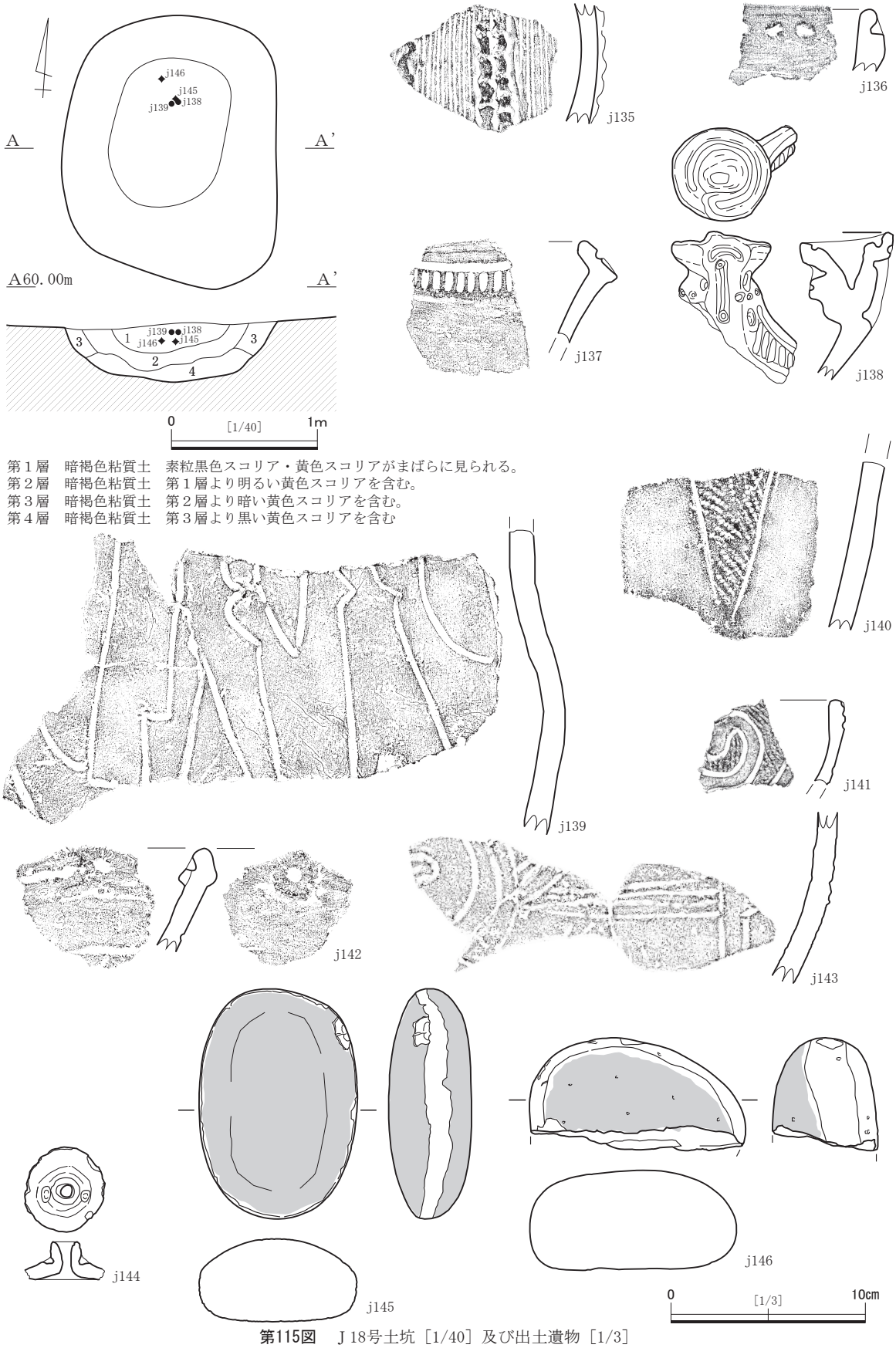


Ｊ17 号土坑
第１層　暗褐色粘質土　黄色・赤色・黒色スコリアあり。
第２層　暗褐色粘質土　黄色・黒色スコリアあり。
第３層　暗褐色粘質土　第２層に似るが、より黒い色調。

Ｊ21 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。ややハード。
第２層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含む。粉末状のロームを含むことから、黄色味を呈している。第１層に比して、しまり・粘性あり。ややハード。

Ｊ20 号土坑
第１層　黒色土　径３～５㎜の橙色スコリアを多量、径１㎜大の炭化粒を少量含む。混入物はまばらに混在する。しまり良好・粘性強い。Ｖｃ層起源の層。
第２層　黒褐色土　径３㎜の橙色スコリアを少量、径１㎜の骨粉を少量含む。第１層に類似するが、混入物が少ない。しまり良好・粘性強い。Ｖｃ層起源の層。
第３層　茶褐色土　径３㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり良好・粘性強い。Ⅵ層起源の層。

第114図　Ｊ17・20・21号土坑［1/30］及び出土遺物［1/2・1/3］



第１層　暗褐色粘質土　素粒黒色スコリア・黄色スコリアがまばらに見られる。
第２層　暗褐色粘質土　第１層より明るい黄色スコリアを含む。
第３層　暗褐色粘質土　第２層より暗い黄色スコリアを含む。
第４層　暗褐色粘質土　第３層より黒い黄色スコリアを含む

第115図　Ｊ18号土坑［1/40］及び出土遺物［1/3］

石器は、磨石２点と黒曜石剥片類１点の計３点（1,167g）が出土する。

Ｊ 18 号土坑出土遺物（第 115 図、第 33・35 表、図版 64・83）

出土遺物は、j136 は地文に櫛歯状工具による縦位の条線が施文する。j136 は口縁に沿って連続円形刺突文が施文される。j137 は口縁が大きな波状を呈する深鉢で、口縁が「く」字状に内折する。j138 は波状把手で、把手頂部はＣ状沈線を施す。j139 は大形の胴部破片で胴部でやや張り、外反しながら立ち上がる。深い沈線で「Ｊ」字状文や銛先状文が描出される。j140 は胴下半に沈線による「W」字状文のやや鋭い先端部表現がある。j141 は２条沈線による渦巻文に充填施文される。j142 は口縁に小突起を作出し、その内面に刺突のある貼付文を施す。j143 は胴部は丸い器形を呈し、３条沈線による渦巻文と斜行文や平行連結文が施文される。j144 は注口土器の蓋で、中央に穴が貫通する。出土した土器は称名寺式の終末から堀之内１式に位置づけられる。石器は、磨石は j145 は安山岩、j146 はデイサイトを用いている。

Ｊ 19 号土坑（第 113 図）

ピア 16（下り）区南東隅、５Ｆ -34 グリッドに位置する。平面は歪んだ楕円形を呈し、南側と東側は調査区外に広がる。主軸はＮ -34° －Ｅを指す。長軸（2.40）m、短軸 2.20 m、深さ 0.80 mを測り、断面は鍋底形である。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片 30 点（680g）が出土し、堀之内２式が主体を占める。石器は、黒曜石剥片類１点の（2g）が出土する。

Ｊ 19 号土坑出土遺物（第 113 図、第 33 表、図版 64）

出土遺物は、j130 は２条沈線による曲線文が描かれる称名寺式最終段階である。j131 は直線的に外反するバケツ形の深鉢で、口縁部に刻みのある隆帯が巡り「８」字状貼付文が見られるが、刻みや貼付文は雑な施文となっている。堀之内２式の深鉢である。

Ｊ 20 号土坑（第 114 図）

ピア 16（下り）区南東隅、５Ｆ -34 グリッドに位置する。平面は隅丸方形を呈し、主軸はＮ -14° －Ｗを指す。長軸 1.77 m、短軸 1.37 m、深さ 0.52 mを測り、断面は鍋底形で、底面は平坦となる。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片 28 点（442g）が出土し、中期後半の土器が主体を占める。石器は、磨石１点（546g）が出土する。

Ｊ 20 号土坑出土遺物（第 114 図、第 35 表、図版 83）

出土遺物は、j134 は富士玄武岩製の磨石である。

Ｊ 21 号土坑（第 114 図）

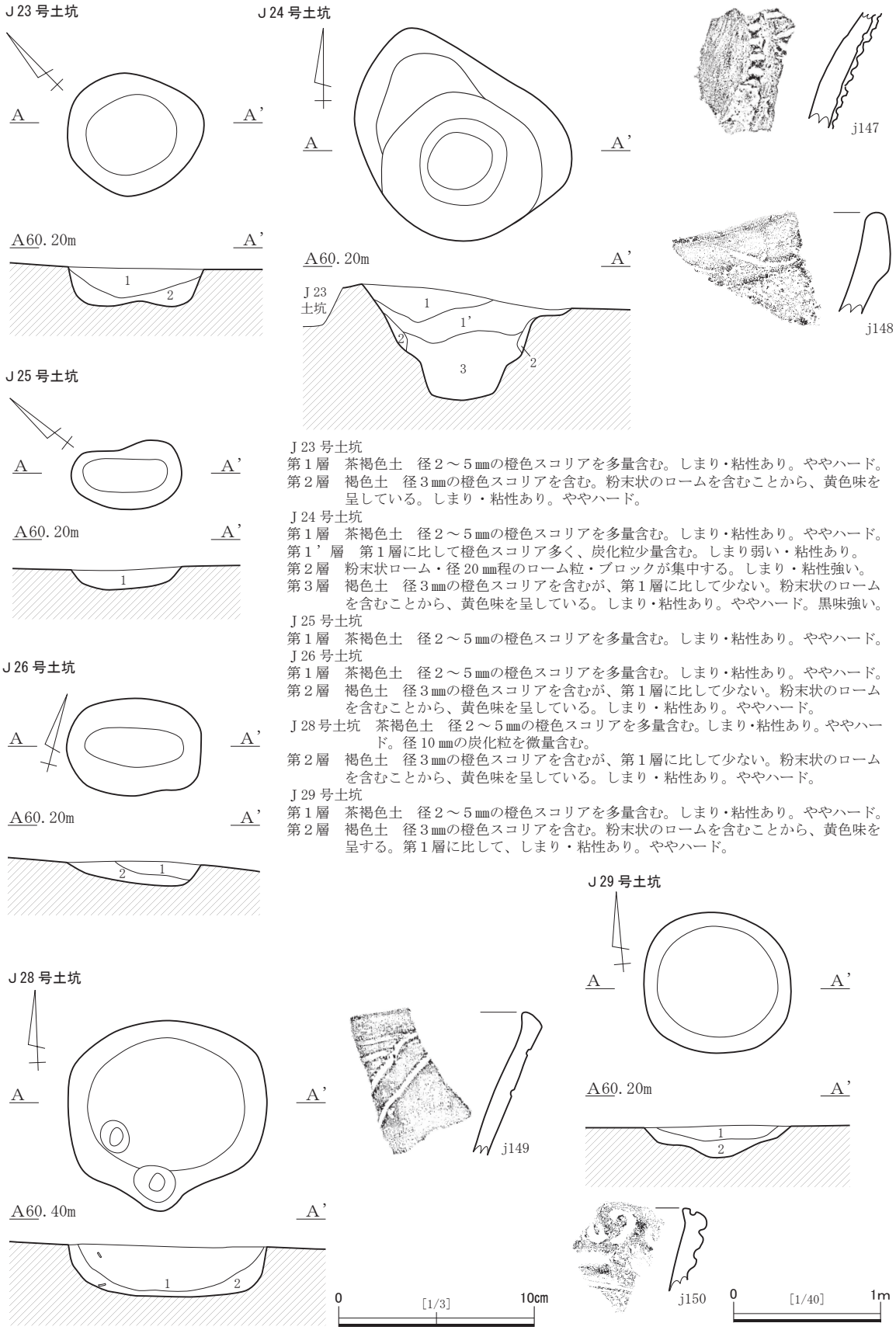
ピア 16（下り）区北西、５Ｅ -36 グリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ -76° －Ｅを指す。長軸 0.91 m、短軸 0.67 m、深さ 0.16 mを測り、断面は皿状である。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片 46 点（566g）が出土し、堀之内２式が主体を占める。石器は石鏃１点、・磨石１点・軽石１点の３点（210g）が出土し、覆土中から大形礫が出土する。

Ｊ 21 号土坑出土遺物（第 114 図、第 33・35 表、図版 64・83）

出土遺物は、j132 は口縁部は外反しながら立ち上がり、やや太く深い沈線区画に充填縄文が施文される称名寺１式の深鉢である。j133 は黒曜石製の凹基の石鏃である。

Ｊ 23 号土坑（第 116 図）

ピア 16（下り）区中央北側、５Ｆ -35 グリッドに位置する。平面は円形を呈し、長軸 0.94 m、短軸 0.84 m、深さ 0.26 mを測り、断面は鍋底状で、底面は凹凸がある。覆土はＶａ層をベースとする。遺物は出土



J23 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。ややハード。
第２層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含む。粉末状のロームを含むことから、黄色味を呈している。しまり・粘性あり。ややハード。

J24 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。ややハード。
第１’層　第１層に比して橙色スコリア多く、炭化粒少量含む。しまり弱い・粘性あり。
第２層　粉末状ローム・径 20 ㎜程のローム粒・ブロックが集中する。しまり・粘性強い。
第３層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含むが、第１層に比して少ない。粉末状のロームを含むことから、黄色味を呈している。しまり・粘性あり。ややハード。黒味強い。

J25 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。ややハード。

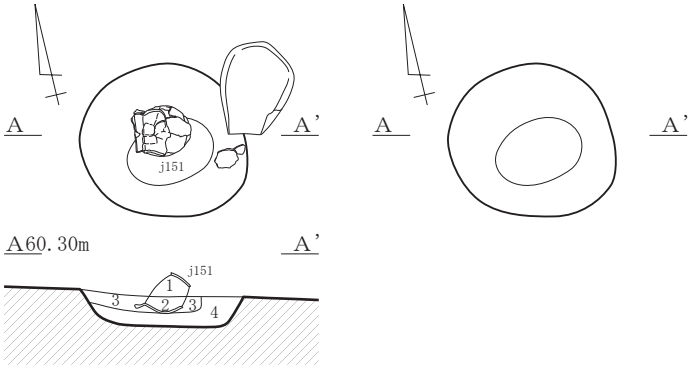
J26 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。ややハード。
第２層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含むが、第１層に比して少ない。粉末状のロームを含むことから、黄色味を呈している。しまり・粘性あり。ややハード。

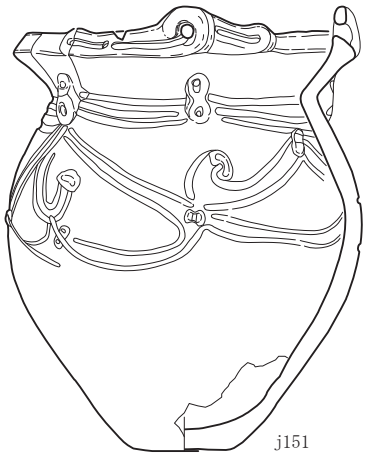
J28 号土坑　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。ややハード。径 10 ㎜の炭化粒を微量含む。
第２層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含むが、第１層に比して少ない。粉末状のロームを含むことから、黄色味を呈している。しまり・粘性あり。ややハード。

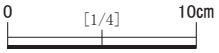
J29 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。ややハード。
第２層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含む。粉末状のロームを含むことから、黄色味を呈する。第１層に比して、しまり・粘性あり。ややハード。

第116図　J 23～26・28・29号土坑［1/40］及び出土遺物［1/3］

Ｊ16号土坑（埋甕４）

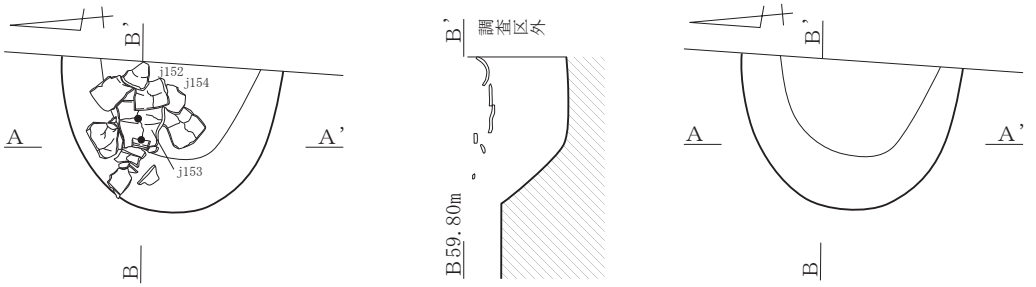




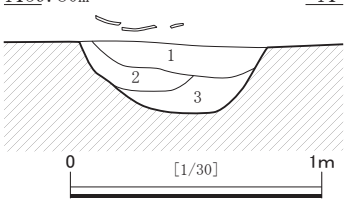


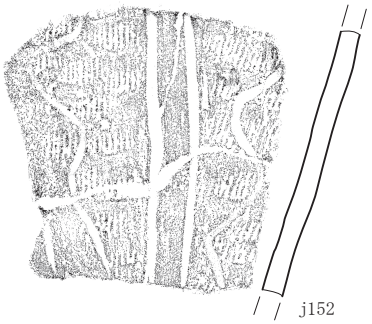
Ｊ16号土坑（埋甕４）
第１層　暗褐色土　きめ細かな土。粘性あり。
第２層　暗褐色土　第１層よりわずかに明るい。粘性あり。
第３層　暗褐色土　小黒色スコリアを含む。やや軟質。粘性あり。
第４層　暗褐色粘質土　第３層より黒い。粘性あり。

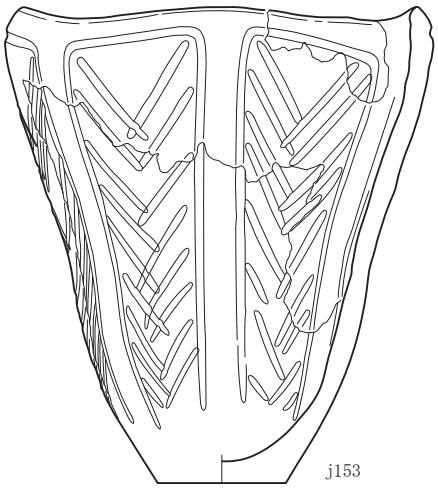
Ｊ30号土坑



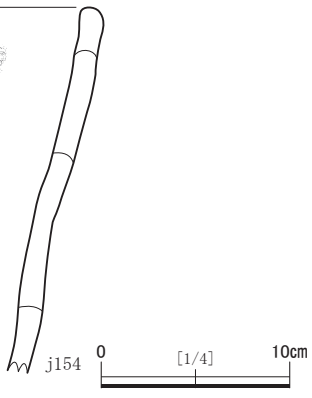
Ｊ30号土坑
第１層　茶褐色土　径３㎜の橙色スコリア、炭化粒を微量、Ⅵ層ブロックを含む。しまり・粘性あり。ややハード。
第２層　茶褐色土　第１層と同じであるが、層全体がⅥ層ブロックによって構成される。しまり・粘性あり。ややハード。
第３層　茶褐色土　径３㎜のロームブロック、Ⅵ層ブロックを含む。しまり・粘性あり。第２層よりややソフト。





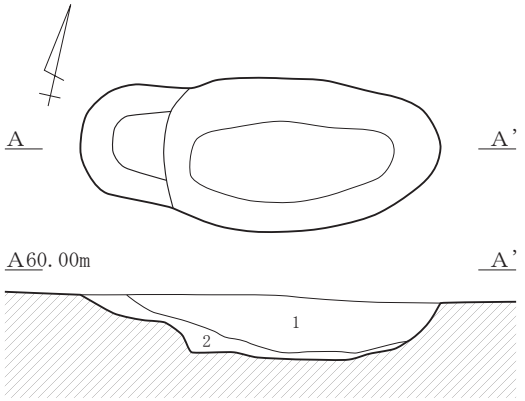






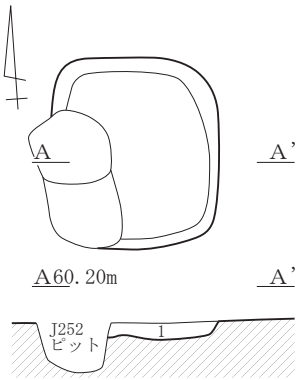
第117図　Ｊ16・30号土坑［1/30］及び出土遺物［1/4］

J31 号土坑



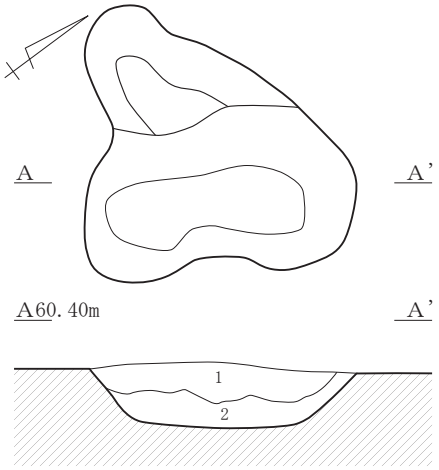
J31 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり･粘性あり。ややハード。やや黒味強い。また粉末状ロームがまとまって見られる。
第２層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含むが、第１層に比して少ない。粉末状のロームを含むことから、黄色味を呈している。しまり・粘性あり。ややハード。ロームブロックが点在する。

J32 号土坑

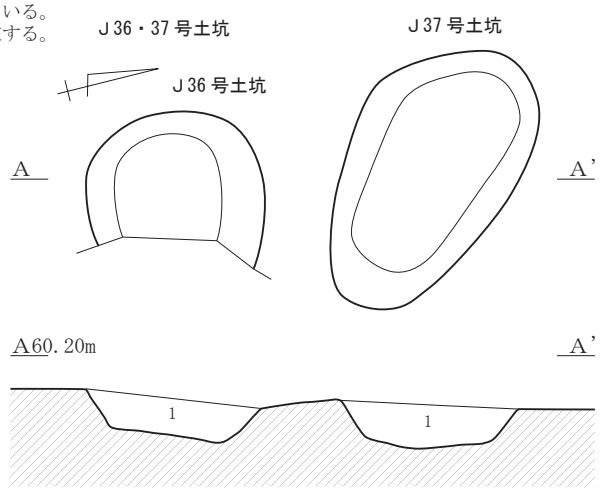


J32 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。非常にハード。

J33 号土坑



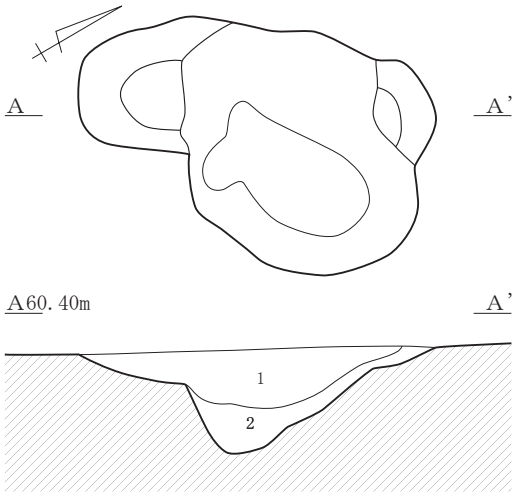
J36・37 号土坑



J33 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。ややハード。
第２層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含むが、第１層に比して少ない。粉末状のロームを含むことから、黄色味を呈している。第１層に比して、しまり・粘性あり。ややハード。粉末状ローム粒が多い。

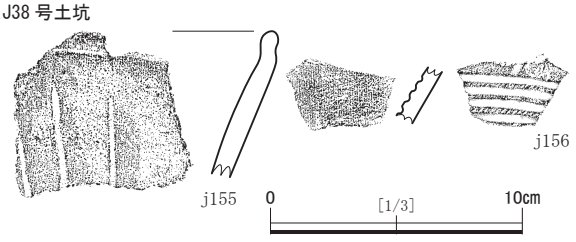
J36・37 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。ややハード。

J38 号土坑



J38 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。ややハード。黒味強い。
第２層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含むが、第１層に比して少ない。粉末状のロームを含むことから、黄色味を呈している。しまり・粘性あり。ややハード黒味強い。

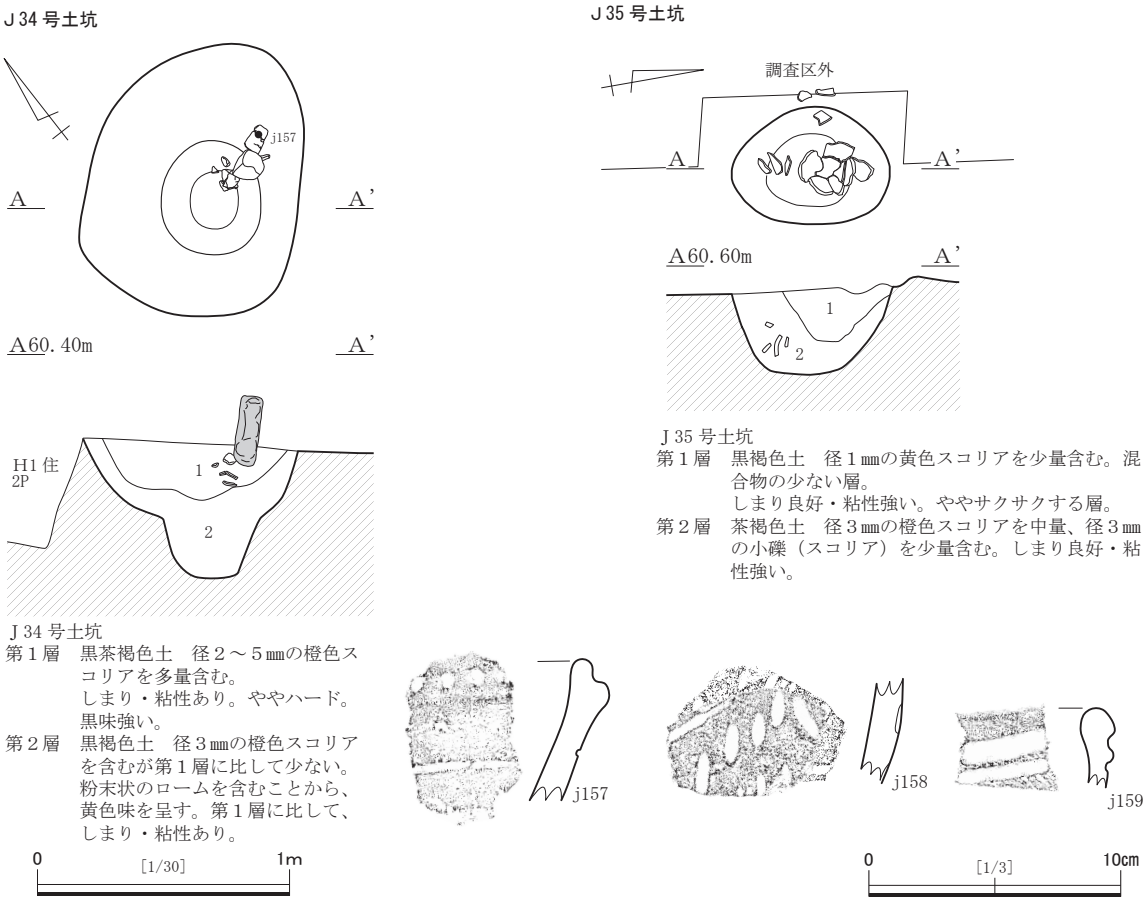
J38 号土坑



0　[1/40]　1m

0　[1/3]　10cm

第118図　J 31～33・36～38号土坑［1/40］及び出土遺物［1/3］



Ｊ34 号土坑
第１層　黒茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。
しまり・粘性あり。ややハード。
黒味強い。
第２層　黒褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含むが第１層に比して少ない。
粉末状のロームを含むことから、黄色味を呈す。第１層に比して、しまり・粘性あり。

Ｊ35 号土坑
第１層　黒褐色土　径１㎜の黄色スコリアを少量含む。混合物の少ない層。
しまり良好・粘性強い。ややサクサクする層。
第２層　茶褐色土　径３㎜の橙色スコリアを中量、径３㎜の小礫（スコリア）を少量含む。しまり良好・粘性強い。

第119図　Ｊ34・35号土坑［1/30］及び出土遺物［1/3］

していない。

Ｊ 24 号土坑（第 116 図）

ピア 16(下り)区中央北側、５Ｆ -35 グリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ -30° －Ｗを指す。長軸 1.50 ｍ、短軸 1.26 ｍ、深さ 0.79 ｍを測り、断面は鉢状で、北側の肩に段が付く。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片 23 点（348g）が出土し、堀之内１式が主体を占める。

Ｊ 24 号土坑出土遺物（第 116 図、第 33 表、図版 64）

出土遺物は、j147 は有頸鉢形土器の口縁部破片で、口縁部に「Ｖ」字状に貼付けられた刻みのある隆帯と蛇行沈線が施文される堀之内２式である。j148 は波状を呈す口縁で、口辺部外面は肥厚する。堀之内１式の深鉢である

Ｊ 25 号土坑（第 116 図）

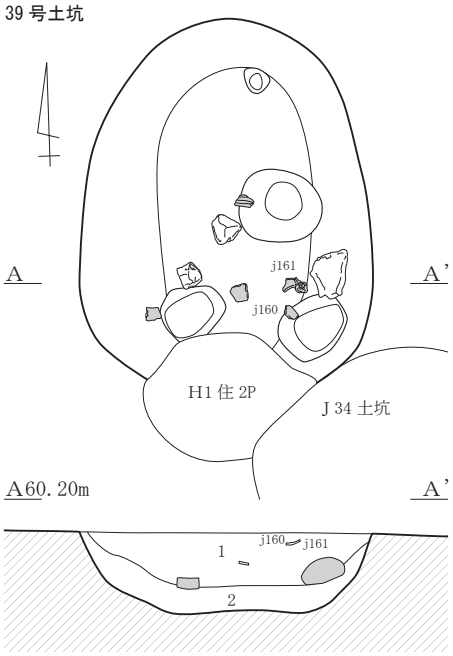
調査区中央北側、５Ｆ -35 グリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ -38° －Ｗを指す。長軸 0.75 ｍ、短軸 0.46 ｍ、深さ 0.13 ｍを測り、断面は皿状である。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片１点（6g）が出土し、中期後半と推定される。

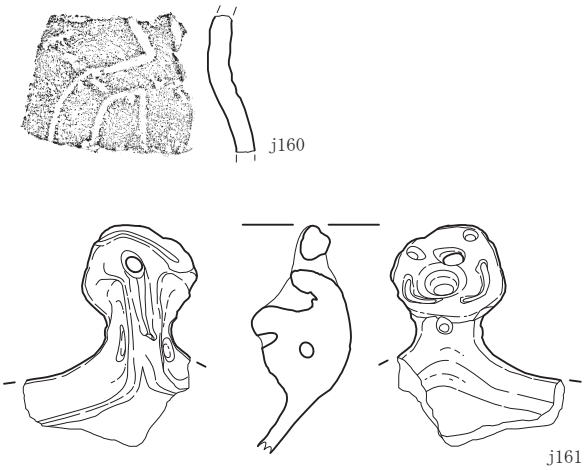
Ｊ 26 号土坑（第 116 図）

ピア 16(下り)区中央北側、５Ｆ -35 グリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ -76° －Ｅを指す。長軸 0.91 ｍ、短軸 0.67 ｍ、深さ 0.16 ｍを測り、断面は鍋底状である。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片１点（9g）が出土し、称名寺式と推定される。

Ｊ 28 号土坑（第 116 図）

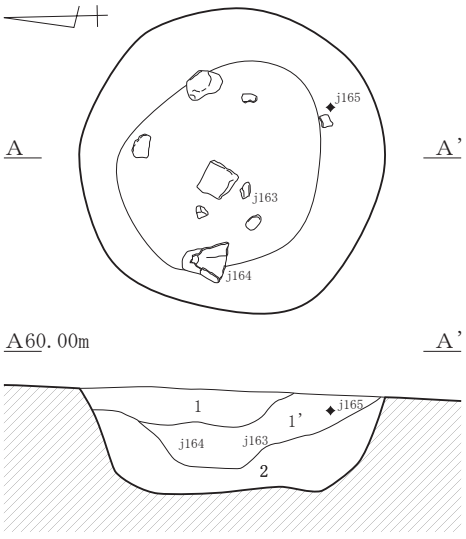
Ｊ39 号土坑

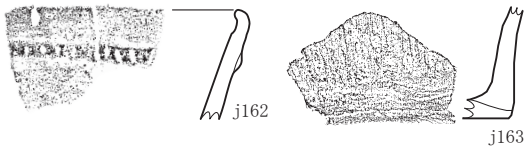


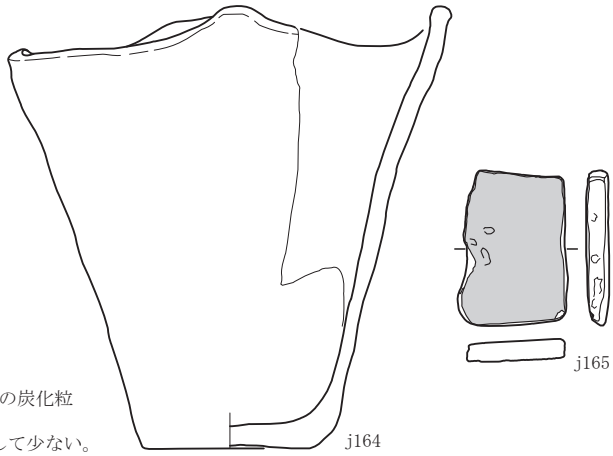


Ｊ39 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。ややハード。径５～ 10 ㎜の炭化粒を含む。
第２層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含むが、第１層に比して少ない。粉末状のロームを含むことから、黄色味を呈する。しまり・粘性あり。ややハード。第１層に含まれる炭化粒は含まない。橙色スコリアも少ない。

Ｊ40 号土坑





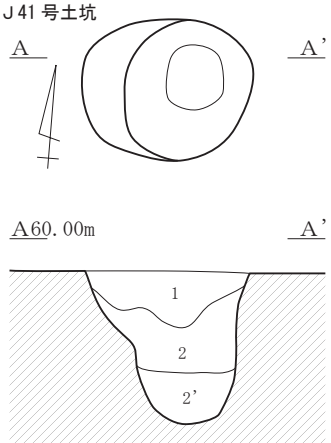


Ｊ40 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。
しまり・粘性あり。ややハード。若干炭化粒を含む。
第１‘層　第１層に比して、橙色スコリアは少なく、径 10 ㎜程の炭化粒を含む。色調も黒い。
第２層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含むが、第１層に比して少ない。粉末状のロームを含むことから、黄色味を呈している。第１層に比して、しまり・粘性あり。ややハード。黒味強い。炭化粒は少なく、径 30 ㎜ほどのロームブロックを含む。第１’層よりも黒味強い。

0　[1/30]　1m　　0　[1/3]　10cm

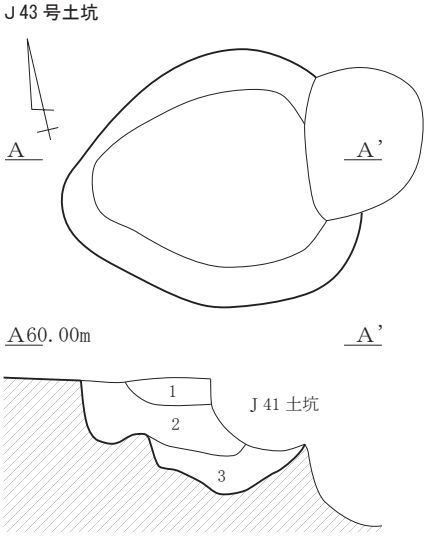
第120図　Ｊ39・40号土坑［1/30］及び出土遺物［1/3］

J41 号土坑



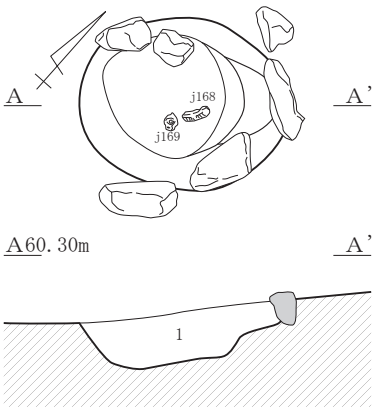
第１層　茶褐色土　径２～５㎜の橙色スコリアを多量含む。しまり・粘性あり。ややハード。径５～ 10 ㎜の炭化粒を含む。Ⅵ層のブロック（50 ㎜程）もまばらに見られる。
第２層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含むが、第１層に比して少ない。粉末状のロームを含むことから、黄色味 を呈する。しまり・粘性あり。ややハード。炭化粒は第１層より少ない。Ⅵ層のブロックや粉末状ロームも見られる。
第２‘層　第２層に比べ、Ⅵ層のブロックや粉末状ロームが少ないため色調黒い。

J43 号土坑

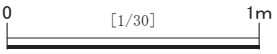


第１層　褐色土　粉末状ローム・ロームブロック等を主体とする。粘性あり。ハード。
第２層　黒褐色土　橙色スコリア若干・粉末状ロームが層全体に認められる。径３～５㎜の炭化粒が層全体に散らばる。
第３層　褐色土　第１層と類似するが、層全体に粉末状ロームを含む。しまり・粘性あり。ハード。

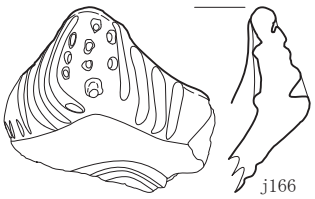
J44 号土坑



J 44 号土坑
第１層　茶褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含み、第Ⅴa 層起源の層。径 10 ㎜の土器片も含む。しまり・粘性あり。



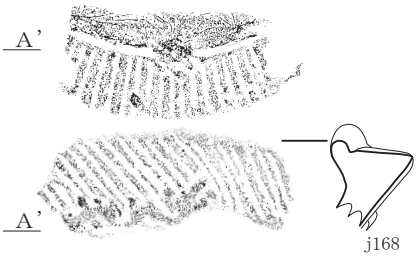
J41 号土坑



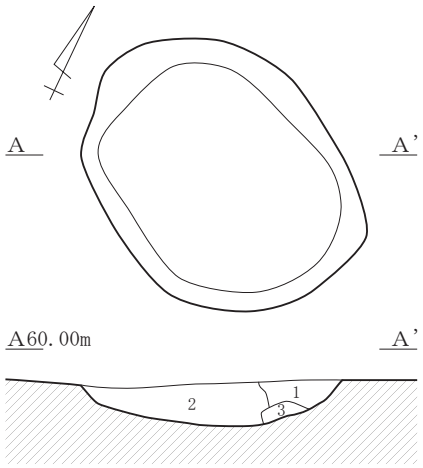
J43 号土坑



J44 号土坑

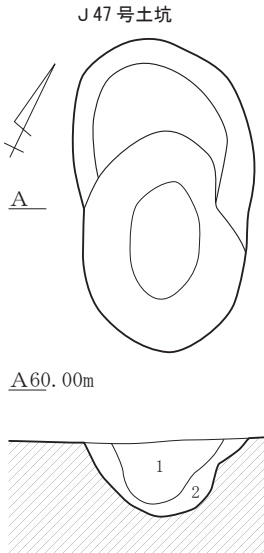


J46 号土坑

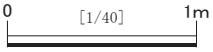


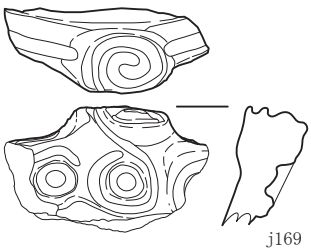
J 46 号土坑
第１層　茶褐色土　径３㎜の橙色スコリアを含む。粉末状ロームも層全体に含まれるが、第２層に比して黒味強い。粘性は第２層に比してない。
第２層　褐色土　第１層と同じであるが、径 50 ㎜のロームブロックを含む。粉末ロームも第１層より多い。粘性ややあり。ややハード。
第３層　褐色土　径 10 ㎜のロームブロック・粉末状ロームによって構成される。しまりやや弱い・粘性あり。

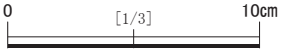
J47 号土坑



J 47 号土坑
第１層　黒褐色土　径２㎜の橙色スコリア・径３㎜～ 10 ㎜の岩片を含む。カリカリしている。しまりあり・粘性弱い。ややソフト。
第２層　茶褐色土　第１層と同じであるが、径 20 ～ 30 ㎜のロームブロック・粉末状ロームを含む。第１層に比して黄色味がある。しまりあり、ハード。







第121図　J 41・43・44・46・47号土坑［1/30・1/40］及び出土遺物［1/3］

ピア 16（下り）区中央北側、５Ｅ -36 グリッドに位置する。平面は円形を呈す。長軸 1.34 ｍ、短軸 1.30 ｍ、深さ 0.36 ｍを測り、断面は箱形である。出土遺物は、縄文土器片 37 点（571g）が出土し、堀之内式が主体を占める。ミニチュア土器が１点出土する。

Ｊ 28 号土坑出土遺物（第 116 図、第 33 表、図版 64）

出土遺物は、j149 は波状口縁で、二条沈線により横位の連結した「Ｊ」字状文が施される。称名寺２式の深鉢口縁部である。

Ｊ 29 号土坑（第 116 図）

ピア 16（下り）区中央北側、５Ｆ -35･36 グリッドに位置する。平面は円形を呈す。長軸 1.00 ｍ、短軸 0.96 ｍ、深さ 0.22 ｍを測り、断面は皿状である。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片９点（54g）が出土し、堀之内式が主体を占める。

Ｊ 29 号土坑出土遺物（第 116 図、第 33 表、図版 65）

出土遺物は、j150 は堀之内２式の深鉢で、突起のある口縁で沈線による「の」字状文を施文し、口縁に沿って２条の隆帯を張付ける。

Ｊ 30 号土坑（第 117 図）

ピア 16（下り）区東側、東壁際に位置していて、調査区外に広がる。５Ｆ -34 グリッドに位置する。平面は半円形を呈する。長軸 0.89 ｍ、短軸（0.60）ｍ、深さ 0.28 ｍを測り、断面は鍋底状である。出土遺物は、覆土上層に大形破片が敷き詰められたように検出され、縄文土器片９点（54g）が出土し、加曾利Ｅ式が主体を占める。

Ｊ 30 号土坑出土遺物（第 117 図、第 33 表、図版 64）

出土遺物は、j153 は曽利Ⅳ式で、胴部で僅かにすぼまり、口縁に向け外反しながら立ち上がる深鉢で、４単位の小波状で口縁部文様帯のない枠状区画文を配し、区画内は綾杉沈線文が施文される。j152 は直線的開く深鉢で２条の幅広沈線による磨消懸垂文と１条の蛇行懸垂文を施文される。曽利Ⅳ式である。j154 は外反しながら立ち上がり、口縁は円頭形を呈す。櫛歯状工具による条線により口縁に沿って条線を施文する。曽利Ⅱ式である。

Ｊ 31 号土坑（第 118 図）

ピア 16（下り）区中央北側、５Ｆ -35 グリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ -79° －Ｅを指す。長軸 1.90 ｍ、短軸 0.80 ｍ、深さ 0.32 ｍを測り、断面は皿状である。出土遺物は、縄文土器片３点（31g）が出土し、堀之内１式である。

Ｊ 32 号土坑（第 118 図）

ピア 16（下り）区中央北側、５Ｆ -36 グリッドに位置する。平面は方形を呈し、主軸はＮ －５° －Ｅを指す。長軸 1.02 ｍ、短軸 0.88 ｍ、深さ 0.10 ｍを測り、断面は皿状である。覆土はＶａ層をベースとする。遺物は出土していない。

Ｊ 33 号土坑（第 118 図）

ピア 16（下り）区中央北側、５Ｅ -35 グリッドでＪ３号住居跡が西に隣接して位置する。平面は楕円形を呈し、西側に浅い張り出しを持つ。主軸はＮ -29° －Ｅを指す。長軸 1.46 ｍ、短軸 1.42 ｍ、深さ 0.34 ｍを測り、断面は皿状である。出土遺物は、縄文土器片 19 点（121g）が出土し、堀之内式である。

Ｊ 34 号土坑（第 119 図）

ピア 16（下り）区北東隅、５Ｇ -35 グリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ -48° －Ｅを指す。長軸 1.10 ｍ、短軸 0.84 ｍ、深さ 0.52 ｍを測り、断面は鍋底状を呈し、中央が一段深くなる。覆土上層に立石が立てられる。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片１点（36g）が出土し、堀之内式である。石器は黒曜石原石２点（3g）が出土する。

Ｊ 34 号土坑出土遺物（第 119 図、第 33 表、図版 65）

出土遺物は、j157 は口縁に円形刺突文列が施され、口縁部下には横位の区画沈線文が施文される。堀之内１式の深鉢である。

Ｊ 35 号土坑（第 119 図）

ピア 16（下り）区南東の西壁際、５Ｅ -34 グリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ -5° －Ｅを指す。長軸 0.62 ｍ、短軸 0.45 ｍ、深さ 0.34 ｍを測り、断面は鍋底状である。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、掘り込み内からは多くの土器が混在し、縄文土器片 55 点（1,172g）が出土する。

Ｊ 35 号土坑出土遺物（第 119 図、第 33 表、図版 65）

出土遺物は、j158 は口縁部文様帯として弧線文による区画文を配し、地文は列点文が施文される曽利Ｖ式の深鉢で、j159 は低い波状口縁を呈し、口縁に沿って太い沈線が巡る加曽利ＥⅢ式の深鉢である。

Ｊ 36 号土坑（第 118 図）

ピア 16（下り）区中央西側、５Ｅ -35 グリッドで、東側をＪ 40 号土坑・Ｊ９号焼土址に切られる。平面は円形を呈し、主軸はＮ -77° －Ｗを指す。長軸（1.00）ｍ、短軸 0.90 ｍ、深さ 0.28 ｍを測り、断面は皿状である。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は黒曜石剥片類１点（0.2g）が出土する。

Ｊ 37 号土坑（第 118 図）

ピア 16（下り）区中央西側、５Ｅ -35 グリッドで、Ｊ３号住居跡と重複して位置する。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ -77° －Ｗを指す。長軸 1.53 ｍ、短軸 0.90 ｍ、深さ 0.22 ｍを測り、断面は皿状である。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片 16 点（91g）が出土し、堀之内式が主体である。

Ｊ 38 号土坑（第 118 図）

ピア 16（下り）区中央西側、５Ｅ -35 グリッドで、南側でＪ３号住居跡と重複して位置する。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ -56° －Ｅを指す。南西と北側が張り出し、段を形成する。長軸 1.94 ｍ、短軸 1.22 ｍ、深さ 0.54 ｍを測り、断面は鍋底状である。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器片 46 点（517g）が出土し、堀之内１式が出土する。

Ｊ 38 号土坑出土遺物（第 118 図、第 33 表、図版 65）

出土遺物は、j155 は外反しながら口縁で立ち上がる堀之内２式の深鉢で、j156 は直線的に開く浅鉢形土器で、内文として沈線帯と刻文帯が施される。加曽利ＢⅠ式である。

Ｊ 39 号土坑（第 120 図）

調査区中央西側、５Ｆ -36 グリッドで、南側をＨ１号住居跡の柱穴に切られる。平面は楕円形を呈し、主軸は真北を指す。長軸 1.40 ｍ、短軸 1.16 ｍ、深さ 0.32 ｍを測り、断面は鍋底状である。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器 108 点（1,407g）が出土し、堀之内Ⅰ式が主体を占める。

Ｊ 39 号土坑出土遺物（第 120 図、第 33 表、図版 65）

出土遺物は、j161 は内折する波状口縁で、把手は非対称の耳状把手であり、内面に盲孔をつなぐＣ字状沈線文が対で施文される。j160 は深鉢で、やや深い沈線による２段の「Ｊ」字状文が施文される。主に称

名寺２式土器である。

Ｊ 40 号土坑（第 120 図）

調査区中央西側、５Ｅ -35 グリッドで、西側を J36 号土坑と、上面をＪ９号焼土址と重複する。平面は円形を呈し、長軸 1.22 ｍ、短軸 1.18 ｍ、深さ 0.42 ｍを測り、断面は鍋底状である。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器 21 点（1,407g）であり、堀之内２式の小形深鉢が出土する。石器は砥石１点、黒曜石の使用痕を有する剥片１点・剥片類３点の５点（43g）が出土する。

Ｊ 40 号土坑出土遺物（第 120 図、第 33・35 表、図版 65・83）

出土遺物は、j162 は直線的に外反するバケツ形深鉢で、口縁内側に沈線が巡り、外面は刻みのある隆帯が巡る堀之内２式である。j163 は底面から垂直に立ち上がりながら外反する深鉢の底部である。j164 は緩やかに外反し、口縁は１対の波状突起が付く。口縁裏側が僅かに窪む堀之内２式の無文の深鉢である。j165 は軟質粗粒凝灰岩の砥石である。

Ｊ 41 号土坑（第 121 図）

ピア 16（下り）区中央、５Ｆ -35 グリッドで、西側でＪ 43 号土坑と重複する。平面は円形を呈し、長軸 0.90 ｍ、短軸 0.75 ｍ、深さ 0.80 ｍを測り、断面は柱穴状である。覆土はＶａ層をベースとする。出土遺物は、縄文土器 23 点 494g が出土し、堀之内１式が主体的である。石器は黒曜石剥片類１点（2g）が出土する。

Ｊ 41 号土坑出土遺物（第 121 図、第 33 表、図版 65）

出土遺物は、j166 は内折する波状口縁の波頂部に刺突列を施し、囲むように両側に４条の対弧状沈線が施文される。堀之内１式の深鉢の突起である。

Ｊ 43 号土坑（第 121 図）

ピア 16（下り）区中央、５Ｆ -35 グリッドで、東側をＪ 41 号土坑に切られる。平面は楕円形を呈し、軸はＮ -88° －Ｗを指す。長軸（1.30）ｍ、短軸 1.36 ｍ、深さ 0.60 ｍを測り、断面は鍋底状で、底面には凹凸がある。出土遺物は、縄文土器 25 点（446g）が出土し、、堀之内１式が主体的である。

Ｊ 43 号土坑出土遺物（第 121 図、第 33 表、図版 65）

出土遺物は、j167 は口縁に刺突がある小突起を持つ。堀之内１式の深鉢である。

Ｊ 44 号土坑（第 121 図）

ピア 16（下り）区中央西より、５Ｅ -35 グリッドで、下面にＪ３号住居跡が位置する。平面は楕円形を呈し、軸はＮ -52° －Ｅを指す。長軸 0.85 ｍ、短軸 0.68 ｍ、深さ 0.28 ｍを測り、断面は鍋底状である。土坑を取り囲むように礫が配されるが、南西側は確認されなかった。出土遺物は、縄文土器２点（184g）と剥片１点（78g）が出土する。覆土から曽利Ⅱ式が出土しているが、本遺構に伴うことについては懐疑的である。

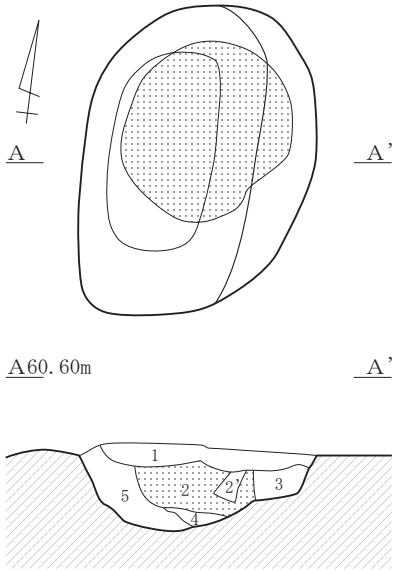
Ｊ 44 号土坑出土遺物（第 121 図、第 33 表、図版 65）

出土遺物は、j168 は半截竹管による半隆起線文による斜行文を施文し、不規則な横位の波状隆線を貼付けている。j169 は小波状口縁に肥厚帯の口縁部文様帯を作出する。波頂部に渦巻文が施文され、口縁部文様帯には同心円文が施文される。共に曽利Ⅱ～Ⅲ式の深鉢である。

Ｊ 46 号土坑（第 121 図）

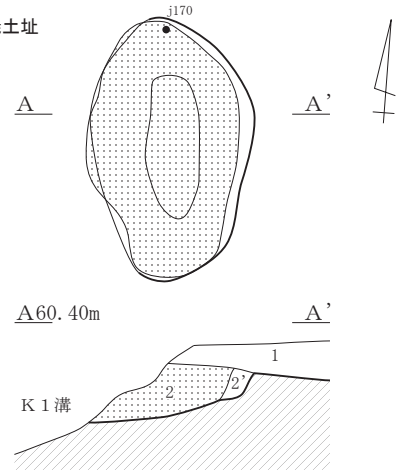
ピア 16（下り）区中央西より、５Ｅ -35 グリッドである。平面は楕円形を呈し、軸はＮ -65° －Ｗを指す。長軸 1.60 ｍ、短軸 1.23 ｍ、深さ 0.22 ｍを測り、断面は鍋底状である。覆土はＶａ層をベースとする。遺物は出土していない。

Ｊ１号焼土址

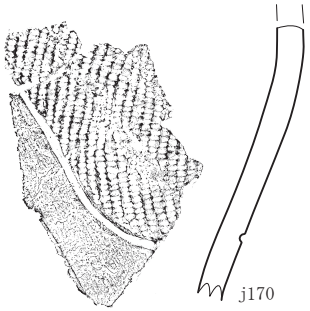


Ｊ１号焼土址
第１層　暗褐色土　小黄色スコリアを多量含む。粘性あり。
第２層　赤褐色土　全体的に焼土を含む。小焼土塊含む。
第２‘層　暗褐色土　焼土含む。
第３層　暗褐色土　第５層よりやや明るい。粘性あり。
第４層　黒褐色土
第５層　暗褐色土　黄色スコリアを中量含む。黒色スコリアあり。粘性あり。

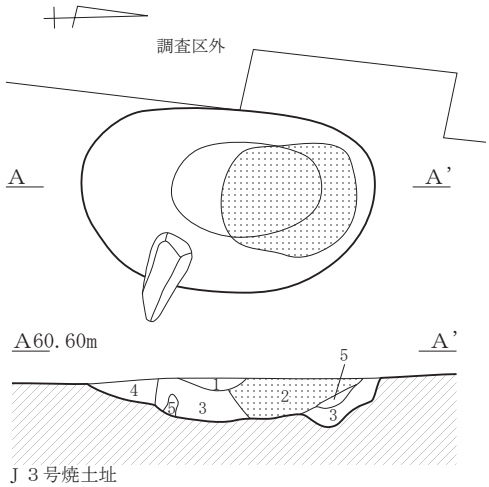
Ｊ２号焼土址



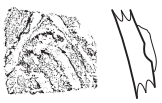
Ｊ２号焼土址
第１層　暗褐色土　小黒色・小黄色スコリア多量含む。粘性あり。
第２層　黄褐色土　小黄色スコリア、一部に焼土小塊を含む粘質土。
第２’層　第２層よりやや暗い。



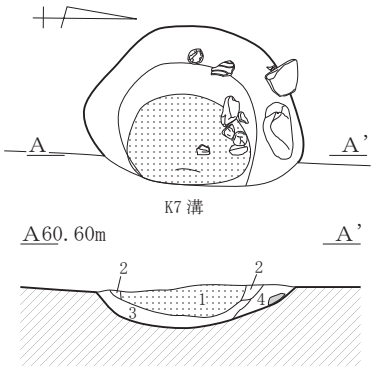
Ｊ３号焼土址



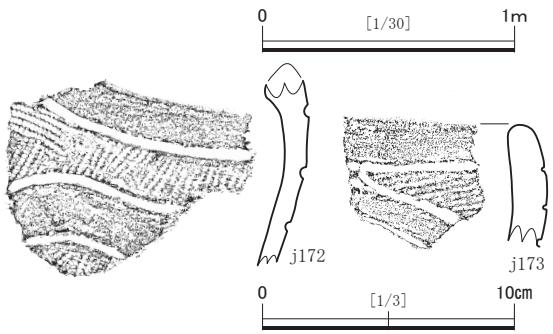
Ｊ３号焼土址
第１層　暗褐色土　スコリアなし。粘性あり。
第２層　黄褐色土　わずかに焼土小塊あり。粘性あり。
第３層　暗褐色土　小黄色スコリア多い。粘性あり。
第４層　暗褐色土　小黄色スコリアなし。粘性あり。
第５層　黒褐色土（もろい土）



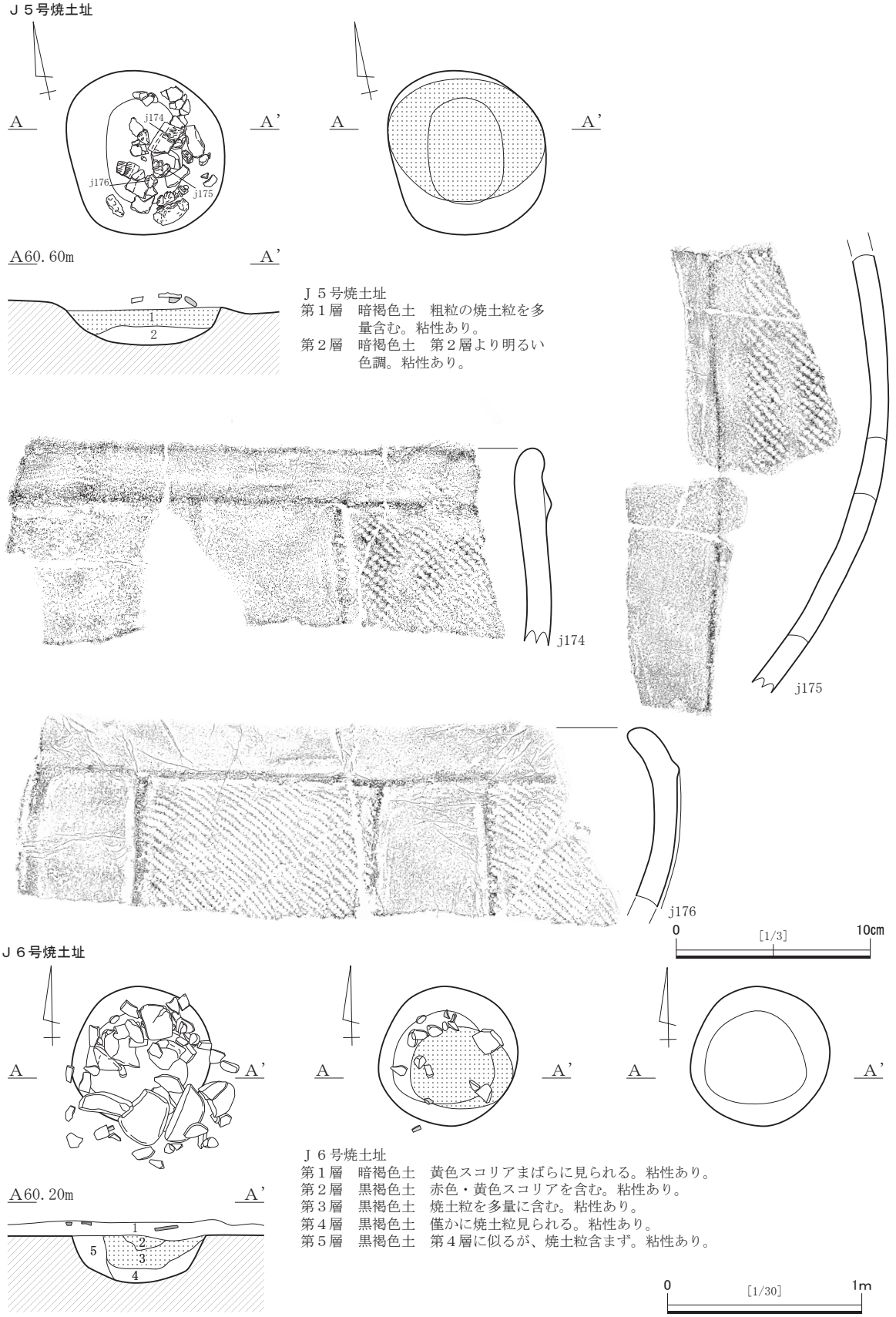
Ｊ４号焼土址



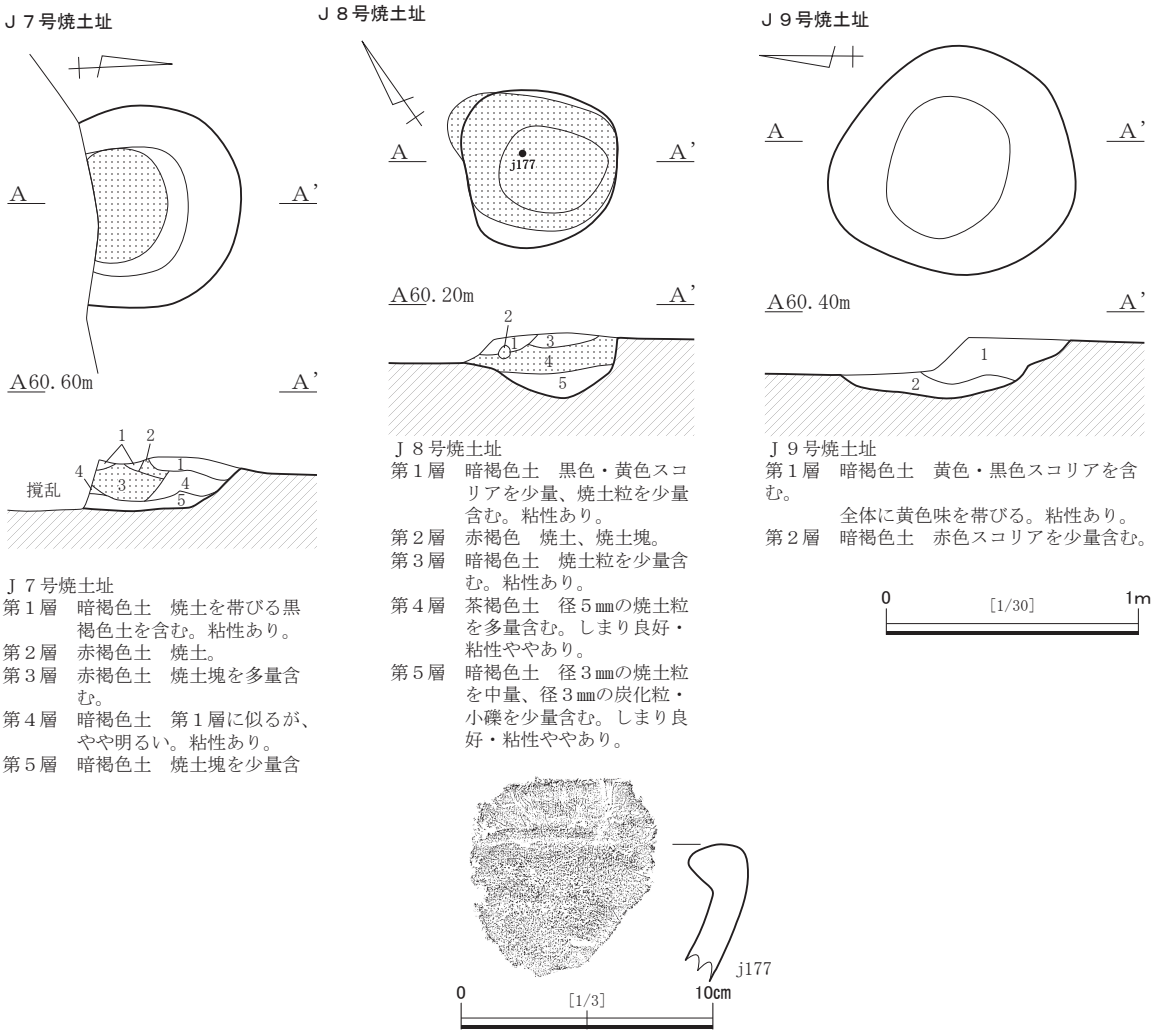
Ｊ４号焼土址
第１層　赤褐色土　黄色スコリア、焼土粒を多量含む。粘性あり。
第２層　黒褐色土　暗褐色粘質土との混土。
第３層　暗褐色土　小黒色・小黄色スコリア少量含む。粘性あり。
第４層　明褐色土　小黒色・小黄色スコリア少量含む。粘性あり。



第122図　Ｊ１～４号焼土址［1/30］及び出土遺物［1/3］



第123図　Ｊ５・６号焼土址［1/30］及び出土遺物［1/3］



Ｊ７号焼土址
第１層　暗褐色土　焼土を帯びる黒褐色土を含む。粘性あり。
第２層　赤褐色土　焼土。
第３層　赤褐色土　焼土塊を多量含む。
第４層　暗褐色土　第１層に似るが、やや明るい。粘性あり。
第５層　暗褐色土　焼土塊を少量含

Ｊ８号焼土址
第１層　暗褐色土　黒色・黄色スコリアを少量、焼土粒を少量含む。粘性あり。
第２層　赤褐色　焼土、焼土塊。
第３層　暗褐色土　焼土粒を少量含む。粘性あり。
第４層　茶褐色土　径５㎜の焼土粒を多量含む。しまり良好・粘性ややあり。
第５層　暗褐色土　径３㎜の焼土粒を中量、径３㎜の炭化粒・小礫を少量含む。しまり良好・粘性ややあり。

Ｊ９号焼土址
第１層　暗褐色土　黄色・黒色スコリアを含む。
　　全体に黄色味を帯びる。粘性あり。
第２層　暗褐色土　赤色スコリアを少量含む。

第124図　Ｊ７～９号焼土址［1/30］及び出土遺物［1/3］

Ｊ 47 号土坑（第 121 図）

ピア 16(下り)区中央北側、５Ｆ -35 グリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ -28° -Ｗを指し、北側に張り出し段を形成する。長軸 1.66 m、短軸 0.90 m、深さ 0.40 mを測り、断面は鍋底状である。覆土はＶａ層をベースとする。遺物は出土していない。

（３）焼土址

Ｊ１号焼土址（第 122 図）

ピア 16（下り）区中央北側、５Ｆ -35 グリッドに位置する。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ -3° -Ｅを指す。Ｖａ層をベースとして、覆土中層に焼土層（第２層）を形成する。下底面に焼けた硬化面は見られない。長軸 1.24 m、短軸 0.92 m、深さ 0.34 mを測り、断面は鍋底状である。遺物は出土していない。

Ｊ２号焼土址（第 122 図）

ピア 16（下り）区南東、５Ｆ -34 グリッドに位置する。平面は楕円形を呈す。Ｖａ層をベースとして、覆土中層に焼土層（第２層）を形成する。下底面に焼けた硬化面は見られない。長軸 1.05 m、短軸 0.64 m、深さ 0.20 mを測り、断面は皿状である。出土遺物は縄文土器片４点（113g）が出土し、中期後半のものが主体である。

Ｊ２号焼土址出土遺物（第 122 図、第 33 表、図版 67）

j170 は、胴部中央で緩く括れる深鉢で加曾利ＥⅣ式である。

Ｊ３号焼土址（第 122 図）

ピア 16（下り）区南西隅、５Ｅ－34 グリッドで、西壁際から検出される。平面は楕円形を呈し、主軸は真北を指す。Ｖａ層をベースとして、覆土北寄りに焼土層（第２層）を形成する。下底面に焼けた硬化面は見られない。長軸 1.16 ｍ、短軸 0.72 ｍ、深さ 0.18 ｍを測り、断面は皿状である。出土遺物は縄文土器片 15 点（197g）が出土し、中期後半のものが主体である。

Ｊ３号焼土址出土遺物（第 122 図、第 33 表、図版 67）

j171 は、口縁部から頸部屈曲部は無文で胴部は丸みを持つ深鉢で堀之内１式である。

Ｊ４号焼土址（第 122 図）

ピア 16（下り）区南西隅、５Ｅ－34 グリッドで、南壁際から検出される。東側はＫ７号溝に削られる。平面は半円形を呈す。Ｖａ層をベースとして、覆土中層に焼土層（第１層）を形成する。下底面に焼けた硬化面は見られない。長軸 0.88 ｍ、短軸（0.62）ｍ、深さ 0.16 ｍを測り、断面は皿状である。土坑北側の上面から礫が出土した。出土遺物は縄文土器片 16 点（344g）が出土し、後期前半のものが主体である。

Ｊ４号焼土址出土遺物（第 122 図、第 33 表、図版 67）

j172 は、波状口縁で口縁内側が肥厚する深鉢、j173 は内湾気味に立ち上がる深鉢でどちらも加曾利ＥⅣ式である。

Ｊ５号焼土址（第 123 図）

調査区中央北壁より、５Ｆ－36 グリッドで検出される。平面は楕円形を呈し、主軸はＮ－４°－Ｗを指す。Ｖａ層をベースとして､覆土上層に焼土層（第１層）を形成する。下底面に焼けた硬化面は見られない。長軸 0.84 ｍ、短軸 0.80 ｍ、深さ 0.18 ｍを測り、断面は皿状である。土坑の上面から礫・土器が出土し、下層から焼土が検出される。出土遺物は縄文土器片 22 点（1,942g）が出土し、中期後半のものが主体である。

Ｊ５号焼土址出土遺物（第 123 図、第 33 表、図版 67）

j174・j175 は、直線的に立ち上がる深鉢、j176 は口縁部が内湾しながら立ち上がる深鉢、どちらも加曾利ＥⅣ式である。

Ｊ６号焼土址（第 123 図）

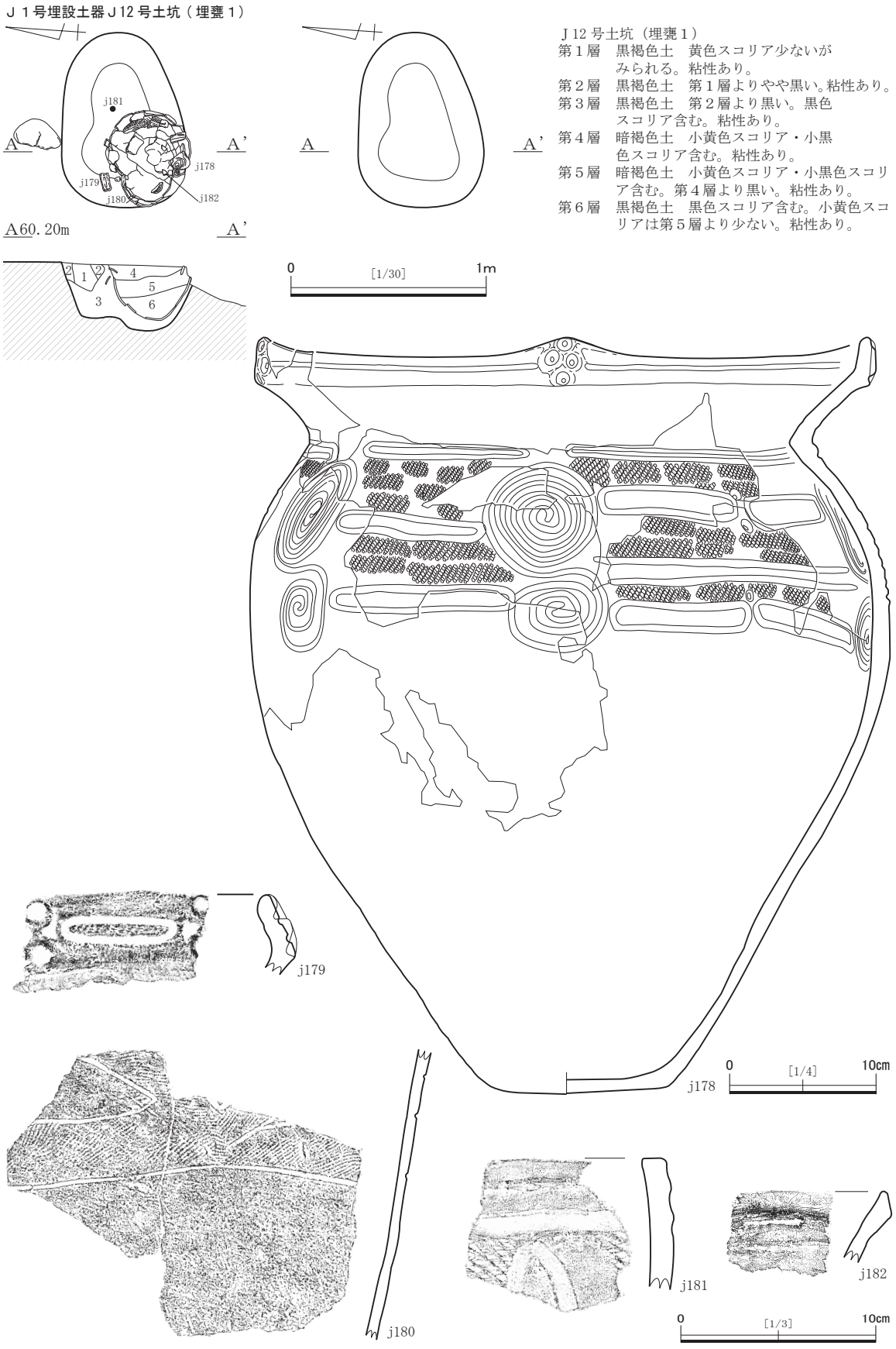
調査区中央東より、５Ｆ－35 グリッドで検出される。平面は円形を呈す。Ｖａ層をベースとして、覆土上層の第１層と間層を挟んで第３層に焼土層を形成する。下底面に焼けた硬化面は見られない。長軸 0.70 ｍ、短軸 0.70 ｍ、深さ 0.12 ｍを測り、断面は皿状である。土坑の上に礫が分布し、下層から焼土が検出される。出土遺物は、縄文土器片 12 点（163g）が出土し、中期後半のものが主体である。他に敲石が出土する。

Ｊ７号焼土址（第 124 図）

ピア 16（下り）区中央南西隅、５Ｅ－34 グリッドで、南壁際から検出される。南側は削平される。平面は円形を呈す。Ｖａ層をベースとして、覆土中層に焼土層（第１層）を形成する。下底面に焼けた硬化面は見られない。長軸 0.80 ｍ、短軸（0.60）ｍ、深さ 0.20 ｍを測り、断面は皿状である。出土遺物はない。

Ｊ８号焼土址（第 124 図）

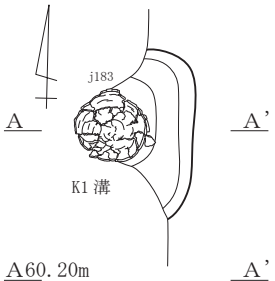
ピア 16（下り）区中央、５Ｆ－35 グリッドで検出される。平面は円形を呈す。Ｖａ層をベースとして、覆土上層に焼土層を形成する。下底面に焼けた硬化面は見られない。長軸 0.62 ｍ、短軸 0.60 ｍ、深さ 0.10

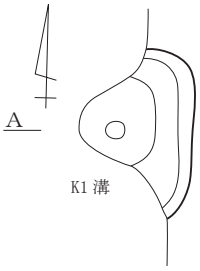


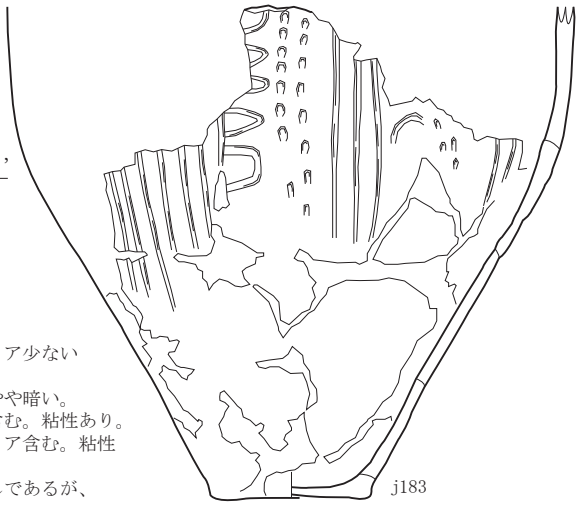
Ｊ12号土坑（埋甕１）
第１層　黒褐色土　黄色スコリア少ないがみられる。粘性あり。
第２層　黒褐色土　第１層よりやや黒い。粘性あり。
第３層　黒褐色土　第２層より黒い。黒色スコリア含む。粘性あり。
第４層　暗褐色土　小黄色スコリア・小黒色スコリア含む。粘性あり。
第５層　暗褐色土　小黄色スコリア・小黒色スコリア含む。第４層より黒い。粘性あり。
第６層　黒褐色土　黒色スコリア含む。小黄色スコリアは第５層より少ない。粘性あり。

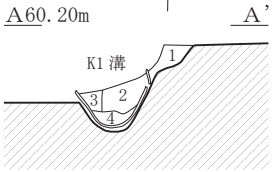
第125図　Ｊ１号埋設土器［1/30］及び出土遺物［1/4・1/3］

Ｊ２号埋設土器

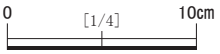




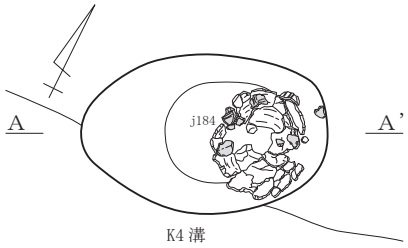


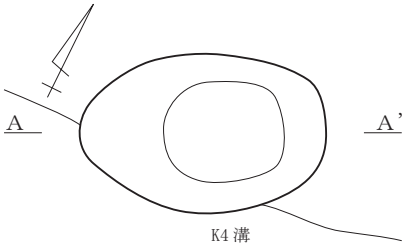


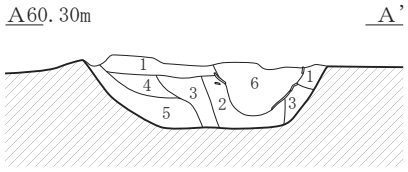
Ｊ13 号土坑（埋甕２）
第１層　黒褐色土　小黄色スコリア少ないがみられる。粘性あり。
第２層　黒褐色土　第１層よりやや暗い。小黄色スコリアを微量含む。粘性あり。
第３層　黒褐色土　小黄色スコリア含む。粘性あり。
第４層　黒褐色土　第３層と同じであるが、より黒い。粘性あり。

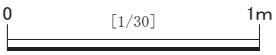


Ｊ３号埋設土器

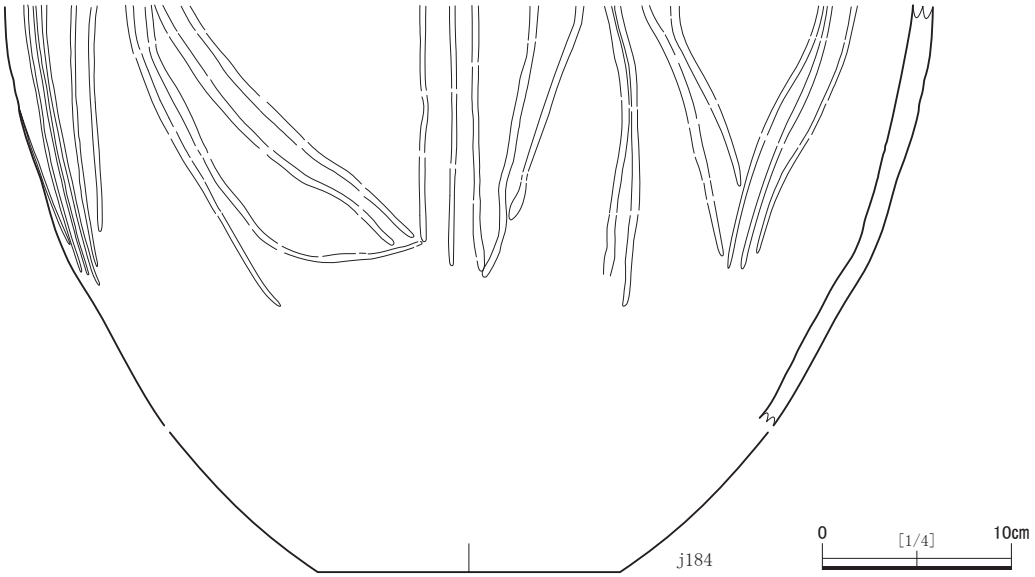




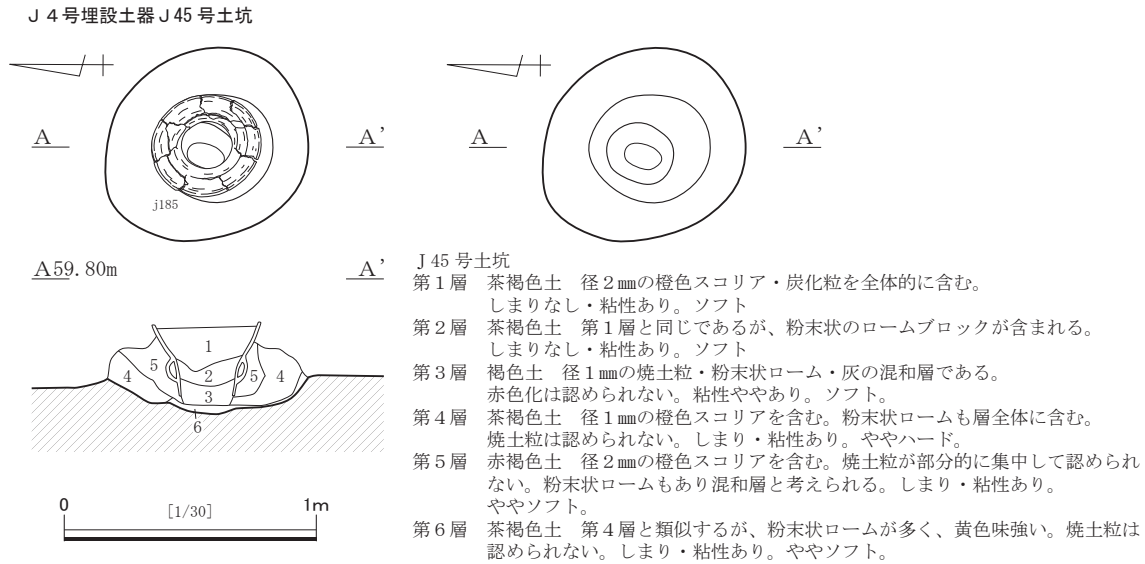


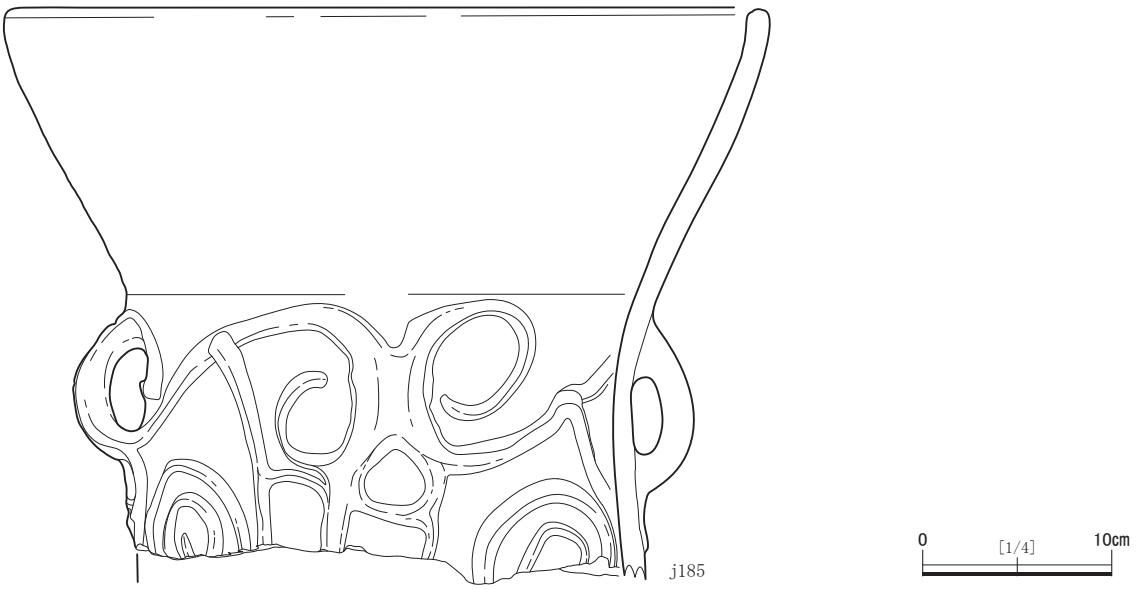


Ｊ15 号土坑（埋甕３）
第１層　暗褐色土　黄色スコリア・黒色スコリアを含む。粘性あり。
第２層　暗褐色土　第３層より明るい色調。粒子きめ細かい。粘性あり。
第３層　暗褐色土　第１層より黒い。黄色スコリア・素粒の黒色スコリア含む。粘性あり。
第４層　暗褐色土　第１層より黒い。黄色スコリア・細粒の黒色スコリア含む。粘性あり。
第５層　暗褐色土　第３・４層より黒い。粘性あり。



第126図　Ｊ２・３号埋設土器［1/30］及び出土遺物［1/4］





第127図　Ｊ４号埋設土器［1/30］及び出土遺物［1/4］

ｍを測り、断面は皿状である。出土遺物は、縄文土器片１点（86g）が出土し、中期後半のものが主体である。

Ｊ８号焼土址出土遺物（第 124 図、第 33 表、図版 67）

j177 は、口縁部は無文で、口縁内側が肥厚する深鉢で曽利Ⅱ式である。

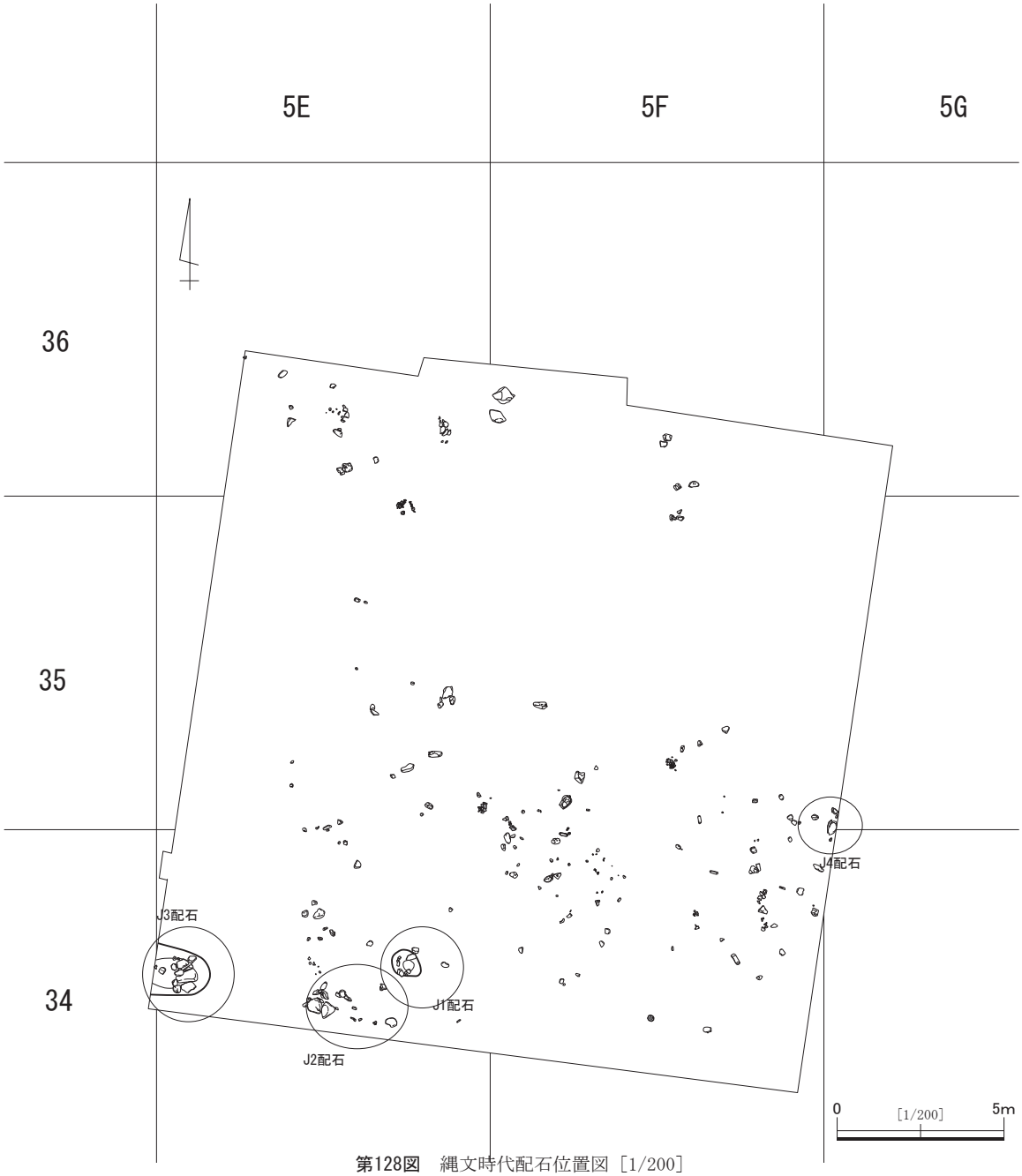
Ｊ９号焼土址（第 124 図）

ピア 16（下り）区中央南西隅、５Ｅ－35 グリッドで検出される。平面は楕円形を呈す。Ｖａ層をベースとして、わずかに焼土粒を含みここでは焼土址として扱う。長軸 0. 95 ｍ、短軸 0. 90 ｍ、深さ 0. 20 ｍを測り、断面は皿状である。出土遺物はない。

（４）埋設土器

Ｊ１号埋設土器（第 125 図、図版 21）

調査区南東、５Ｆ－34 グリッドに位置する。掘り方の平面は楕円形を呈し、主軸はＮ －82° －Ｅを指す。長軸 0. 90 ｍ、短軸 0. 64 ｍ、深さ 0. 33 ｍを測り、断面は鍋底形で、底面は有段となる。埋設土器が埋設されている。埋設土器は堀之内１式の深鉢である。掘り込み内からは j180・j182 を始め、他にも多くの土器



第128図　縄文時代配石位置図［1/200］

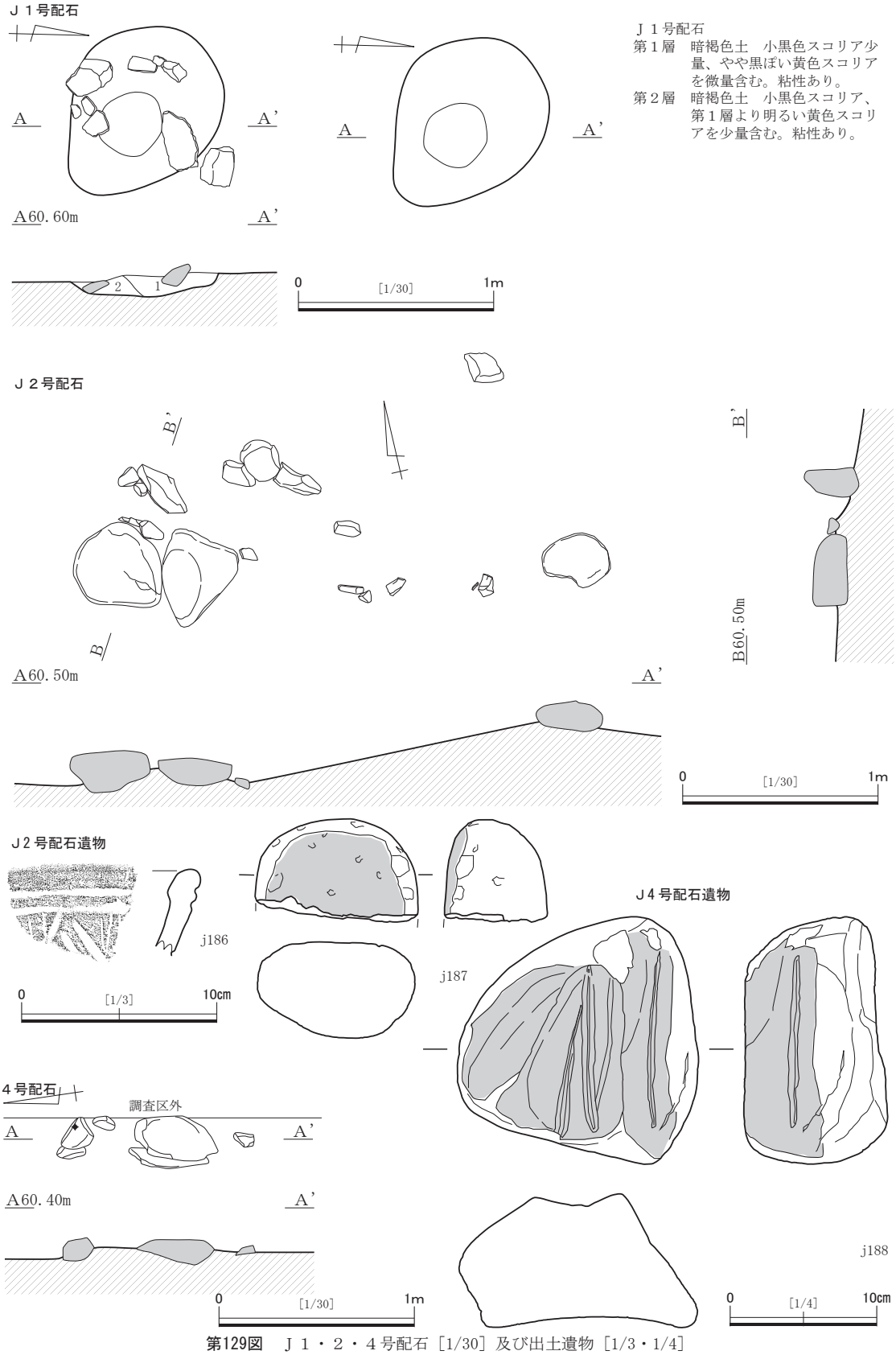
が混在し、埋設土器と合わせて 202 点（6,109g）が出土する。

Ｊ１号埋設土器出土遺物（第 125 図、第 33 表、図版 65）

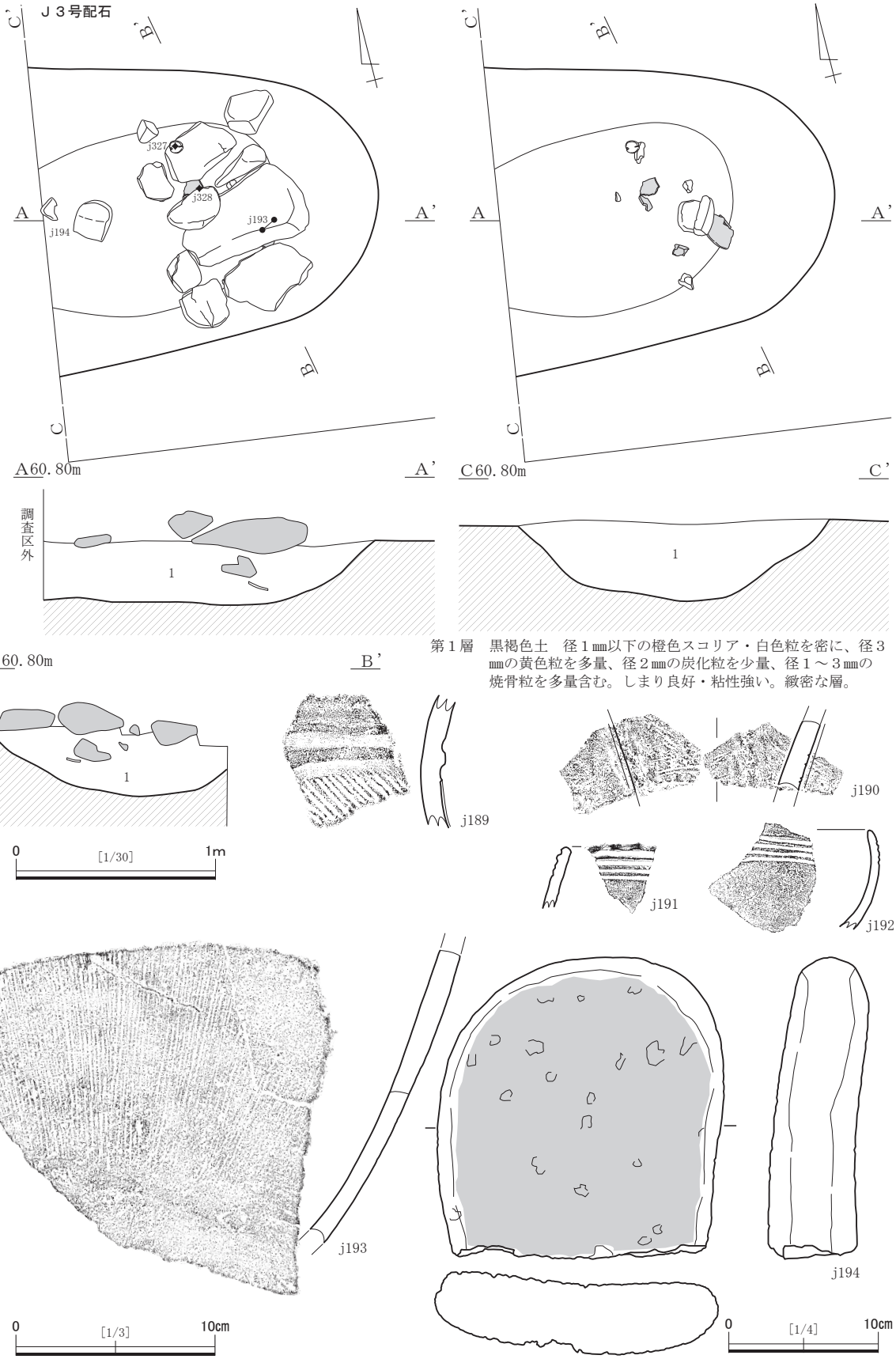
j178 は胴部上半で肩が張り頸部で強く括れ、口縁部に向け強く外反するが口縁で立ち上がる。口縁部に１条の沈線が巡るとともに３点円形刺突文が単位文として配すると思われる。胴部肩に沈線２条による長楕円形枠による２段の縄文帯を設け、また、縦に連結した２巻渦巻沈線文を６箇所に施文される大形の深鉢である。j179 は、口縁が「く」字状に内折し、口辺に刺突文と充填縄文が施された長楕円区画文が配される深鉢で、j180 は口縁部は無文で外反しながら立ち上がり、口縁外面が肥厚する深鉢である。j181 は加曾利ＥⅣ式の口縁部破片である。j182 は無文の口縁部である。出土土器は堀之内２式が主体的である。

Ｊ２号埋設土器（第 126 図）

調査区南東、５Ｆ−34 グリッドに位置し、Ｋ１号溝に西側を削平される。掘り方の平面は楕円形を呈し、主軸はＮ −0° を指す。長軸（0.64）ｍ、短軸（0.44）ｍ、深さ 0.34 ｍを測り、断面は鍋底形で、底面は埋

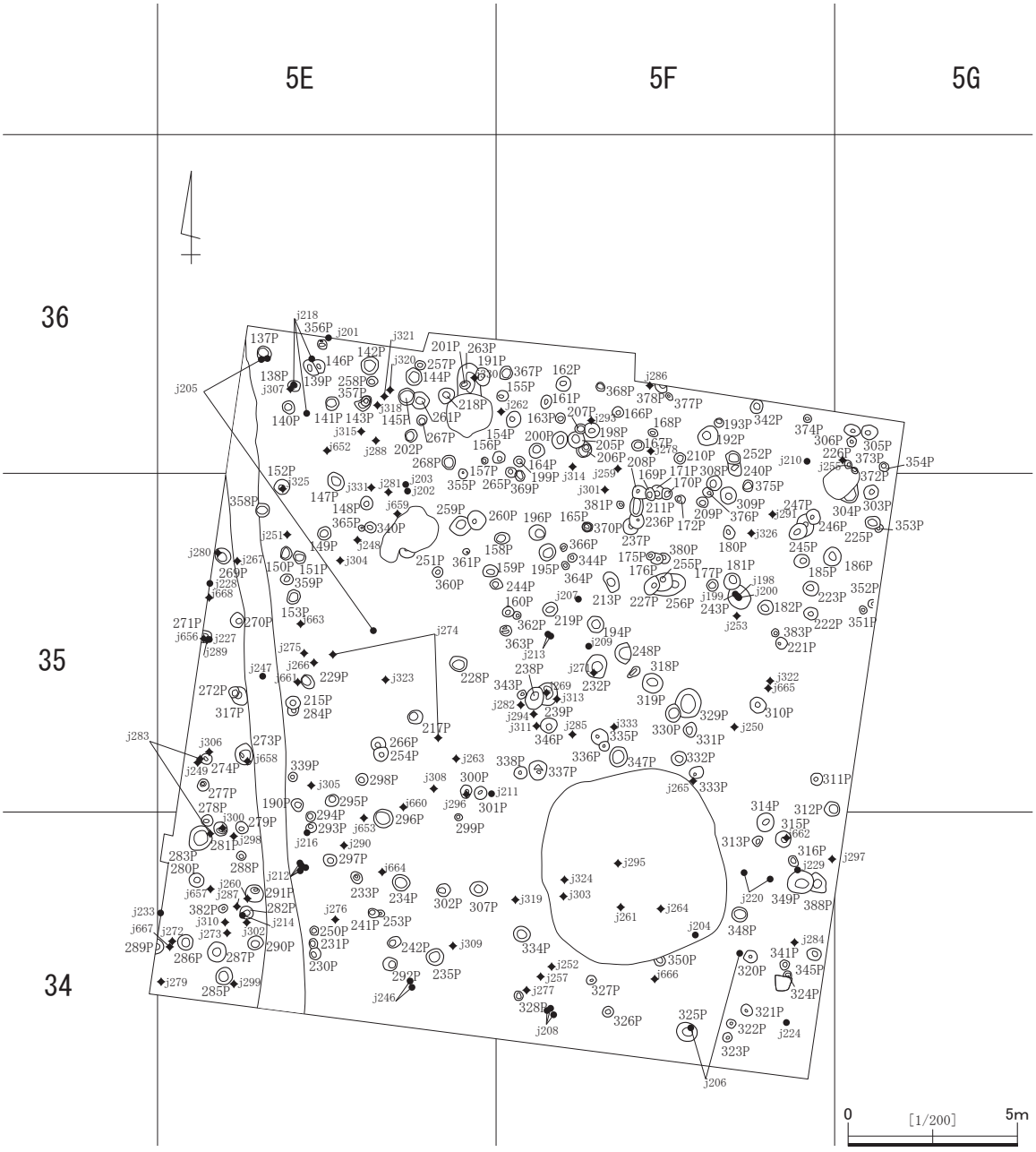


第129図　Ｊ１・２・４号配石［1/30］及び出土遺物［1/3・1/4］



第１層　黒褐色土　径１㎜以下の橙色スコリア・白色粒を密に、径３㎜の黄色粒を多量、径２㎜の炭化粒を少量、径１～３㎜の焼骨粒を多量含む。しまり良好・粘性強い。緻密な層。

第130図　Ｊ３号配石［1/30］及び出土遺物［1/3・1/4］



第131図　縄文時代ピット配置図及び遺構外出土遺物分布図［1/200］

設土器が埋められる箇所のみ有段となる。埋設土器は堀之内１式の深鉢である。掘り込み内からは他にも多くの土器が混在し、埋設土器と合わせて 53 点（391g）が出土する。

Ｊ２号埋設土器出土遺物（第 126 図、第 33 表、図版 66）

j183 は、胴部中央で立ち上がり、３条の懸垂文と１条の蛇行懸垂文、この間に２列の列点文が充填施文される深鉢で、堀之内１式である。

Ｊ３号埋設土器（第 126 図）

調査区南東、５Ｆ－34 グリッドに位置し、Ｋ４号溝に南側を削平される。掘り方の平面は楕円形を呈し、主軸はＮ－64°－Ｅを指す。長軸 0.98 ｍ、短軸 0.63 ｍ、深さ 0.28 ｍを測り、断面は鍋底形で、底面は埋設土器が埋められる箇所のみ有段となる。埋設土器は堀之内１式土器の深鉢である。掘り込み内からは他にも多くの土器が混在し、埋設土器と合わせて 25 点（2,056g）が出土する。

Ｊ３号埋設土器出土遺物（第 126 図、第 33 表、図版 66）

j184 は、胴上部でやや張り、輪積痕により凹凸面を残す。文様構成は３条の懸垂文に連結する２条の斜沈線文が施文される深鉢で、堀之内１式である。

Ｊ４号埋設土器（第 127 図、図版 21）

調査区南東、５Ｆ－34 グリッドに位置する。掘り方の平面は円形を呈し、長軸 0.84ｍ、短軸 0.74ｍ、深さ 0.33ｍを測り、断面は鍋底形で、底面は埋設土器が埋められる箇所のみ有段となる。埋設土器は曽利Ⅲ式土器の深鉢である。埋設土器は（3,600g）を量る。

Ｊ４号埋設土器出土遺物（第 127 図、第 33 表、図版 66）

j185 は、無文の幅広の口縁が立ち上がる。胴部には４単位の橋上把手が配され連続して隆帯による渦巻き文が施される。深鉢で曽利式である。

（５）配石（第 128 図 ）

Ｊ１号配石（第 129 図）

調査区南西、５Ｅ－34 グリッドに位置し、9 点の礫が分布する。掘り方の平面は歪んだ円形を呈し、長軸 0.96ｍ、短軸 0.86ｍ、深さ 0.12ｍを測り、断面は皿状である。出土遺物は後期の土器片２点（11g）である。

Ｊ２号配石（第 129 図）

調査区南西、５Ｅ－34 グリッドに位置し、Ｊ１号配石の西側、南壁際から検出する。７点ほどの礫が２ｍほどの長円形の範囲に列状に集中する。掘り方はない。長軸 1.30ｍ、短軸 0.80ｍを測る。出土遺物は、中期３点（93g）後期土器片３点（128g）である。石器は j187 の磨石と磨石片２点（465g）が出土する。

Ｊ２号配石出土遺物（第 129 図、第 33・35 表、図版 67・83）

j186 は曽利Ⅲ式の深鉢である。j187 は閃緑岩の磨石で、楕円形を呈す。

Ｊ３号配石（第 130 図、図版 22）

調査区南西隅、５Ｅ－34 グリッドに位置し、大形礫３点を中心に並べて配置する。楕円形の土坑を下部に有する。主軸はＮ－84°－Ｗを指す。長軸（1.68）ｍ、短軸 1.55ｍ、深さ 0.38ｍを測り、断面は皿状である。遺物は出土していない。出土遺物は中期土器片 31 点（1,099g）後期土器片 113 点（14,744g）である。石器は j327 の石錘のほか磨石１点、打製石斧１点、黒曜石剥片類１点の４点（285g）が出土した。

Ｊ３号配石出土遺物（第 130・143 図、第 33・35 表、図版 67・83・87）

j189・j190・j193 は中期後半の土器である。j191 は直線的に外反し、口唇部には連続小波状を施す深鉢で、j192 は湾曲しながら立ち上がる鉢形土器で、口縁下に抉り状の沈線帯４条が巡る。どちらも加曾利Ｂ１式である。j194 は多孔質安山岩の石皿である。j327・j328 は長軸方向に紐掛けを設ける石錘で、軟質粗粒凝灰岩と中粒凝灰岩を用いる。

Ｊ４号配石（第 129 図）

調査区中央東側、５Ｆ－35 グリッドに位置し、東壁際から検出する。壁際から３点の礫が配置される。掘り方はない。長軸 2.50ｍ、短軸 1.00ｍを測る。出土遺物は砂岩製の砥石（3,255g）が出土した。

Ｊ４号配石出土遺物（第 129 図、第 35 表、図版 83）

j188 は砥石である。砂岩製で置砥石と考えられ、上面及び側面に溝状の研磨痕を残す。

（６）ピット（第 131 図）

ピットはⅥａ層もしくはⅥ層上面で発見されたものが多く、222 基が検出された。縄文時代のピットの分布は、調査区全体に万遍なく分布し、ピットの分布から見ると建物の柱穴になるような配置は見られない。

ピット内からの出土土器は破片ばかりであるが、縄文土器311点(4,490g)とs141の磨石と凝灰岩の剥片1点、黒曜石の剥片類3点の5点481ｇが77基のピットから出土している。時期は中期後半から後期前半にかけてのものが主体的である。各ピットの土器の出土状態は以下のとおりである。

137ピット中期2点(42g)、138ピット中期土器3点(103g)、140ピット中期土器10点(54g)、142ピット中期土器片1点(13g)、143ピット中期土器1点（2g)、144ピット中期土器3点(36g)、147ピット中期土器13点(68g)後期土器3点(9g)、152ピット中期土器19点(160g)、155ピット中期土器9点(148g)後期土器1点（22g)、157ピット中期土器1点(14g)、160ピット中期土器1点(7g)、161ピット中期土器3点(7g)、162ピット中期土器6点(104g)、163ピット後期土器7点(54g)、166ピット中期1点(21g)、175ピット後期土器1点（16g)、185ピット後期土器3点(52g)、186ピット中期土器2点（15g)、191ピット後期土器3点(37g)、192ピット後期土器5点(43g)、196ピット後期土器9点(102g)、198ピット後期土器11点(220g)、200ピット後期土器2点(18g)、205ピット後期土器1点(30g)、206ピット後期土器3点（45g)、207ピット後期土器3点(76g)、208ピット地域土器1点(21g)、210ピット後期土器1点(7g)、211ピット中期土器3点（10ｇ)、216ピット中期土器1点(6g)、215ピット中期土器1点(118g)後期土器12点(77g)、217ピット後期土器6点(46g)、218ピット後期土器6点(34g)、221ピット中期土器2点（16g)、227ピット中期土器1点(6g)、228ピット中期土器1点（17g)後期土器2点（16g)、235ピット中期土器1点(26g)、237ピット1点(48g)、240ピット中期土器1点(61g)、243ピット中期土器21点(843g)後期土器15点(581g)、246ピット中期土器1点(8g)、247ピット後期土器4点(47g)、257ピット後期土器4点（10g)、258ピット後期土器2点(1g)、266ピット後期土器8点(80g)、268ピット」中期土器2tenn(23g)、273ピット後期土器6点(50g)、274ピット後期土器2点(7g)、282ピット2点(4g)、291ピット中期土器3点（18g)、293ピット中期土器3点（32g)後期土器1点(6g)、294ピット中期土器1点(38g)、295ピット後期土器1点(10g)、296ピット後期土器2点(9g)、298ピット中期土器7点(47g)、300ピット後期土器6点（23g)、304ピット中期土器1点(54g)後期土器1点(2g)、308ピット中期土器1点(17g)、309ピット中期土器2点(10g)、311ピット中期土器1点(30g)、312ピット中期土器1点(7.7g、319ピット中期土器2点(24g)、330ピット中期土器1点(13g)、337ピット中期土器5点(71g)、339ピット後期土器3天(35g)、340ピット後期土器10点(30g)、342ピット後期土器2点(14g)、350ピット8点（56g)、356ピット後期土器3点(66g)、358ピット後期土器3点(27g)、359ピット後期土器2点(16g)、367ピット2点(7g)、368ピット中期土器1点（22.4ｇ）372ピット後期土器1点(1g)、375ピット後期土器1点(8g)、377ピット後期土器1点(7.7g)380ピット後期土器1点(8g)である。

ピット出土遺物（第132図、第33表、図版67）

j195は、J155ピット出土で緩やかに外反しながら立ち上がる称名寺２式の深鉢である。j196は、J198ピット出土で波状口縁の把手で称名寺２式の深鉢である。j197はJ240ピット出土で、微隆起線文で渦巻文を描く加曾利ＥⅣ式の深鉢である。j198 ～ j200はJ243ピット出土で、称名寺２式の深鉢の口縁部である。j201はJ356ピット出土で、波状口縁の波頂部片で、称名寺２式の深鉢である。

（７）陥し穴（第133図）

ここで取り上げる土坑は、Ⅶ層上面で確認されたいわゆる陥し穴といわれる土坑で、Ｊ 48号土坑からＪ50号土坑の３基検出された。

Ｊ 48号土坑（第134図）



第132図　ピット他出土遺物［1/3］

調査区南西隅、５Ｅ－34 グリッドで、Ⅶ層上面で確認した。平面は楕円形を呈し、長軸 0.80 m、短軸 0.70 m、深さ 0.78 mを測り、断面は箱形である。いわゆる早期の陥し穴である。遺物は出土していない。

Ｊ 49 号土坑（第 134 図）

調査区南西隅、５Ｅ－34 グリッドで、Ⅶ層上面で確認した。平面は隅丸方形を呈し、軸はＮ －30° －Ｅを指す。長軸 1.60 m、短軸 0.78 m、深さ 1.22 mを測り、断面は箱形である。底面に径 0.12 m、深さ 1.22 mの坑底ピットが２本確認されたいわゆる早期の陥し穴である。遺物は出土していない。

Ｊ 50 号土坑（第 134 図）

調査区北東隅、５Ｇ－35 グリッドで、Ⅶ層上面で確認した。平面は隅丸方形を呈し、軸はＮ － 0° を指す。



第133図　Ｊ48～50号土坑（陥し穴）配置図［1/200］

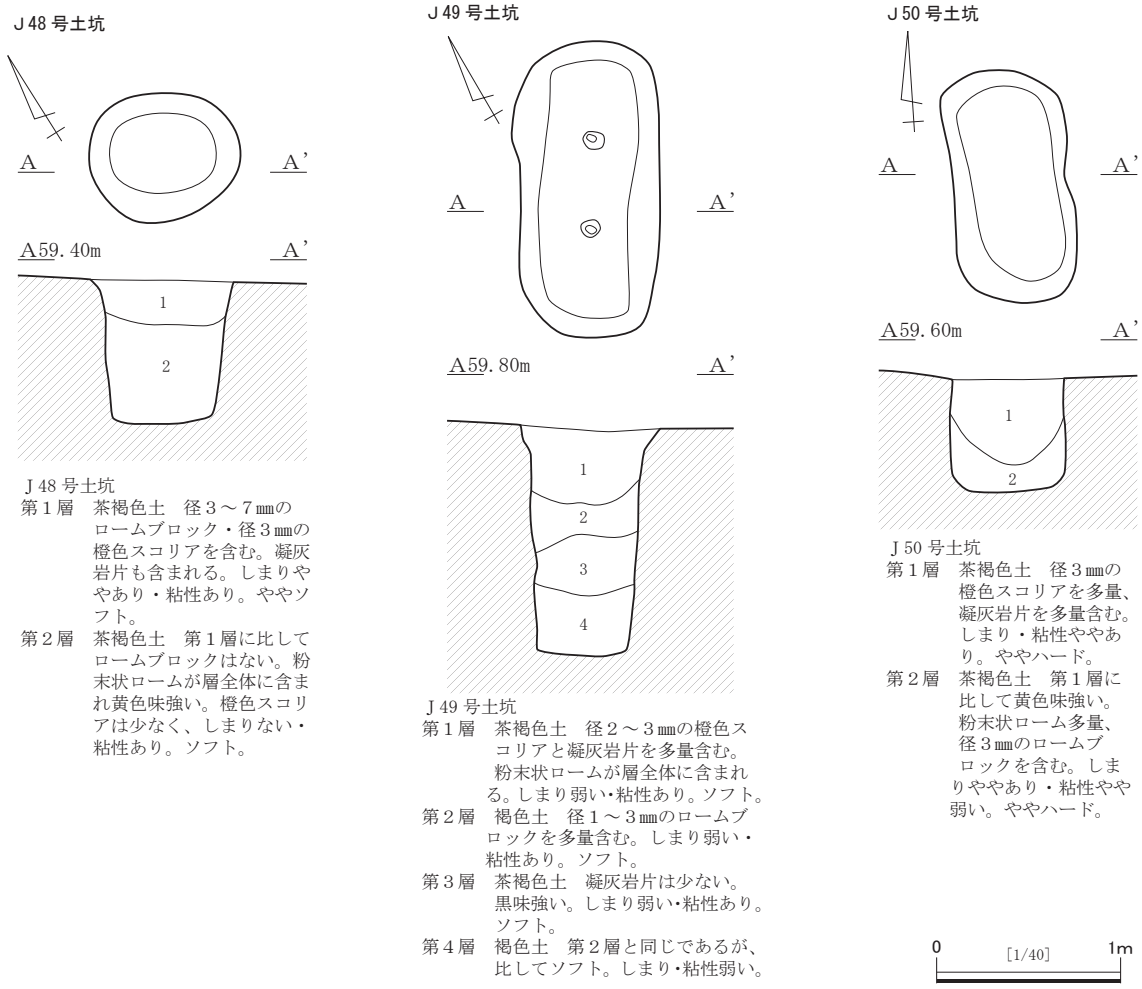
長軸 1.28 m、短軸 0.66 m、深さ 0.62 mを測り、断面は箱形である。坑底ピットは確認されないが、いわゆる早期の陥し穴である。遺物は出土していない。

（８）遺構外出土遺物

出土遺物は、縄文時代包含層から、中期土器片 4,431 点（110,746g）、後期土器片 24,971 点（286,687g）と石器類 588 点（66,626g）が出土し、その他後世の遺構などから中期土器片 3,148 点（37,669g）、後期土器片 8,166 点（69,394g）と石器類 209 点（6,401g）が出土した。土器はほとんどが縄文時代中期後半、縄文時代後期堀之内式～加曾利Ｂ式である。遺物の分布は調査区全体に万遍なく、分布していて、南東の谷に向かう緩やかな傾斜地に向かい層厚を厚くしているようである。

遺構外出土遺物（第 132・135 ～ 143 図、第 33 ～ 35 表、図版 68・69・78・84 ～ 87）

j202・j203 は、胴部で僅かに括れ、口縁に向け外反しながら立ち上がる。３条の懸垂文と「U」字状文、逆「U」字状文が上下対に施文される堀之内２式の深鉢である。j204 口縁部で内湾し、口縁で口縁で外反する勝坂



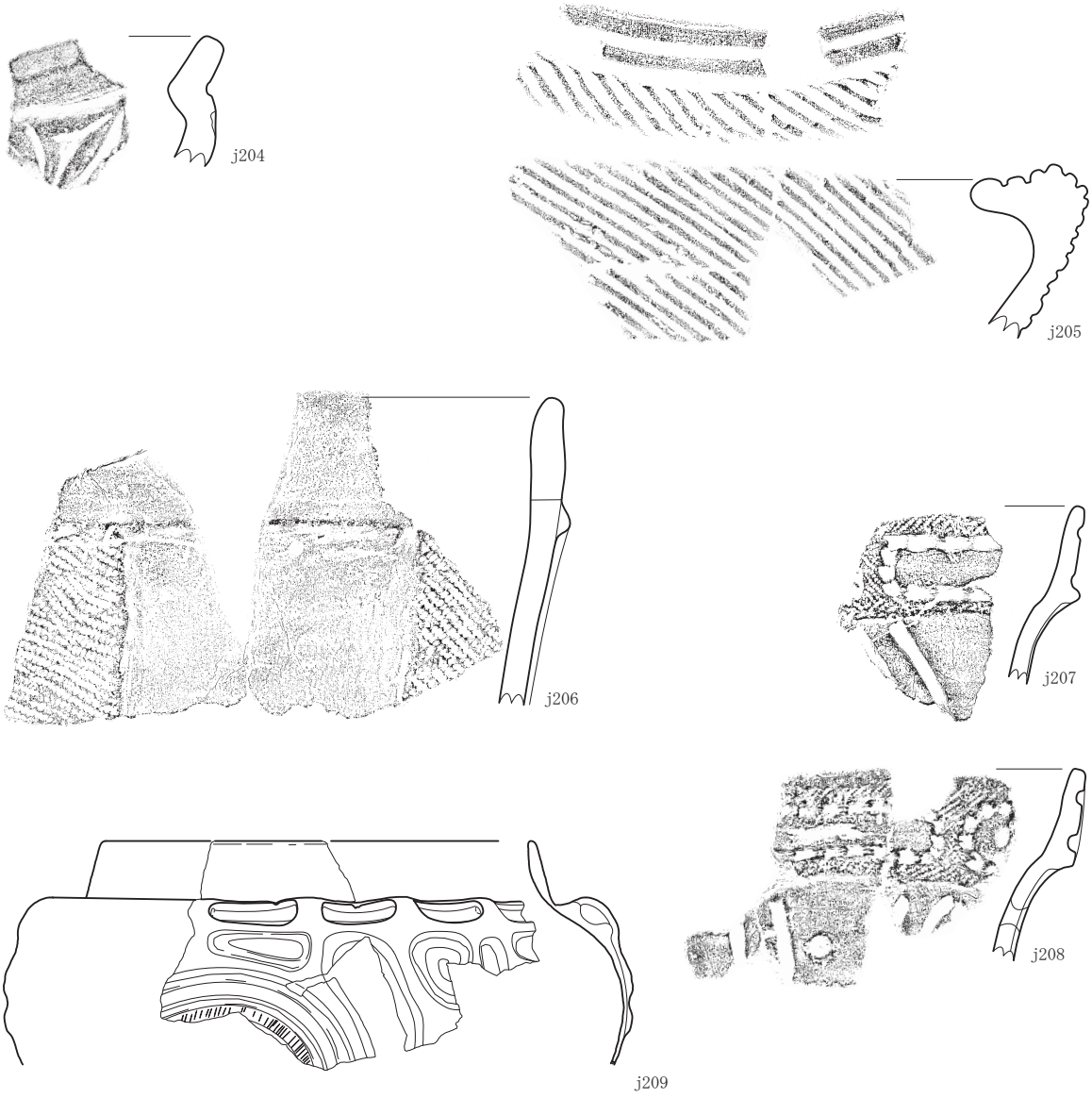
J48 号土坑
第１層　茶褐色土　径３～７㎜のロームブロック・径３㎜の橙色スコリアを含む。凝灰岩片も含まれる。しまりややあり・粘性あり。ややソフト。
第２層　茶褐色土　第１層に比してロームブロックはない。粉末状ロームが層全体に含まれ黄色味強い。橙色スコリアは少なく、しまりない・粘性あり。ソフト。

J49 号土坑
第１層　茶褐色土　径２～３㎜の橙色スコリアと凝灰岩片を多量含む。粉末状ロームが層全体に含まれる。しまり弱い･粘性あり。ソフト。
第２層　褐色土　径１～３㎜のロームブロックを多量含む。しまり弱い・粘性あり。ソフト。
第３層　茶褐色土　凝灰岩片は少ない。黒味強い。しまり弱い･粘性あり。ソフト。
第４層　褐色土　第２層と同じであるが、比してソフト。しまり･粘性弱い。

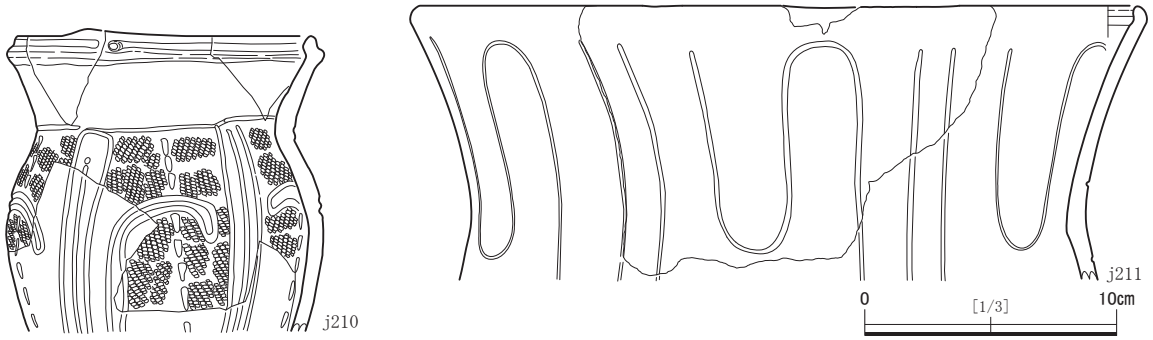
J50 号土坑
第１層　茶褐色土　径３㎜の橙色スコリアを多量、凝灰岩片を多量含む。しまり・粘性ややあり。ややハード。
第２層　茶褐色土　第１層に比して黄色味強い。粉末状ローム多量、径３㎜のロームブロックを含む。しまりややあり・粘性やや弱い。ややハード。

第134図　J 48～50号土坑（陥し穴）［1/40］

式の深鉢である。j205 は外反する口縁部は口縁で強く内湾する曽利Ⅱ式の深鉢である。j206 は口縁部は直立気味に立ち上がり、口唇はやや内削ぎ気味であるが丸身を持つ加曾利ＥⅣ式の深鉢である。j207・j208 は胴部が球形を呈する樽型を呈し、頸部から無文の口縁が直立する称名寺１式の深鉢で、中津式に比定される。j209 はキャリパー形の深鉢で、胴部から緩やかに外反しながら立ち上がり、口縁部で反り返りながら立ち上がる加曾利ＥⅣ式の深鉢である。j210 は胴部は中央で丸味を持ち、頸部は「く」字状の屈曲し、口縁で立ち上がる深鉢で、堀之内１式である。j211 は口縁に向け緩やかに外反する。口縁は小さく「く」字状に屈曲し、内面に１条の浅い沈線が巡る。口縁部から２条の懸垂文と１条の「ｈ」字状のモチーフが描かれる堀之内２式の深鉢である。j212 は直線的に立ち上がるり口縁下に刻みのある隆帯をめぐらし、８の字状貼付文を配する堀之内２式の深鉢である。j213 は体部は球形を呈す堀之内２式の注口土器である。j214 は体部中央で最大径を測り丸味を持つ加曾利Ｂ１式の注口土器である。j215 は直線的に外反するバケツ形の堀之内２式の深鉢で、口縁に３単位の突起が配される。j216 は直線的に立ち上がり口縁内側にやや幅広な１条の沈線文が巡る加曾利Ｂ１式の深鉢で、器面に格子目沈線が施される。j217 は内湾しながら立ち上がる鉢形で、口縁は丸頭状を呈し、小さい突起が付される。j218 は、内傾する口縁部の加曾利Ｂ１式の深鉢である。j219 は直線的に開く堀之内２式の深鉢である。j221 は直線的に開く加曾利Ｂ１式の深鉢で、口縁下に連鎖状の貼付文で繋がれた３段の刻みを有する隆帯が巡る。j220 は浅鉢の把手で、丸く瘤状を呈し、刺突文や穿孔を施す。加曾利Ｂ１式である。j222 は「ハ」字状に広がる高台脚部である。j224 は舟形を呈



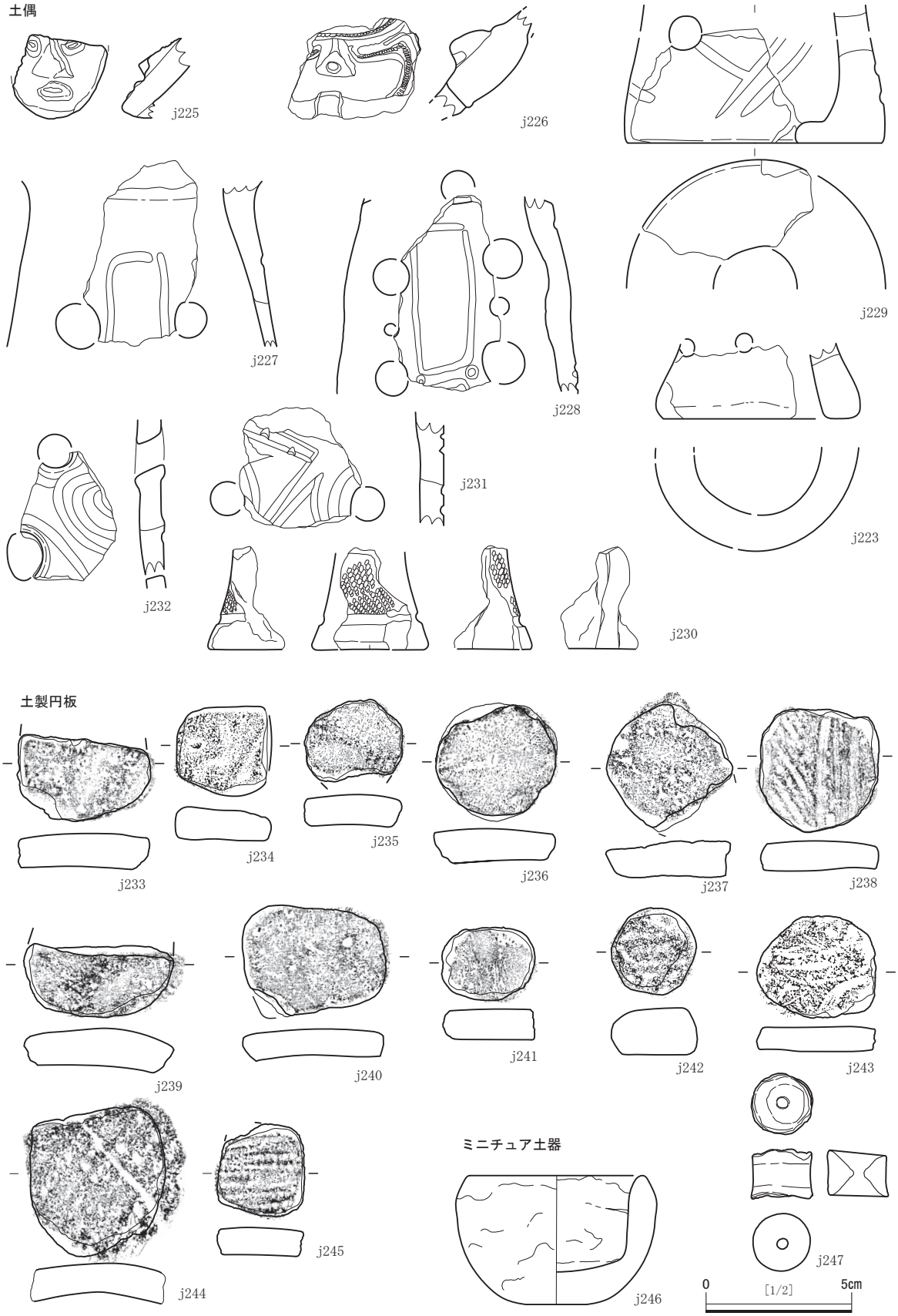
堀ノ内１式土器



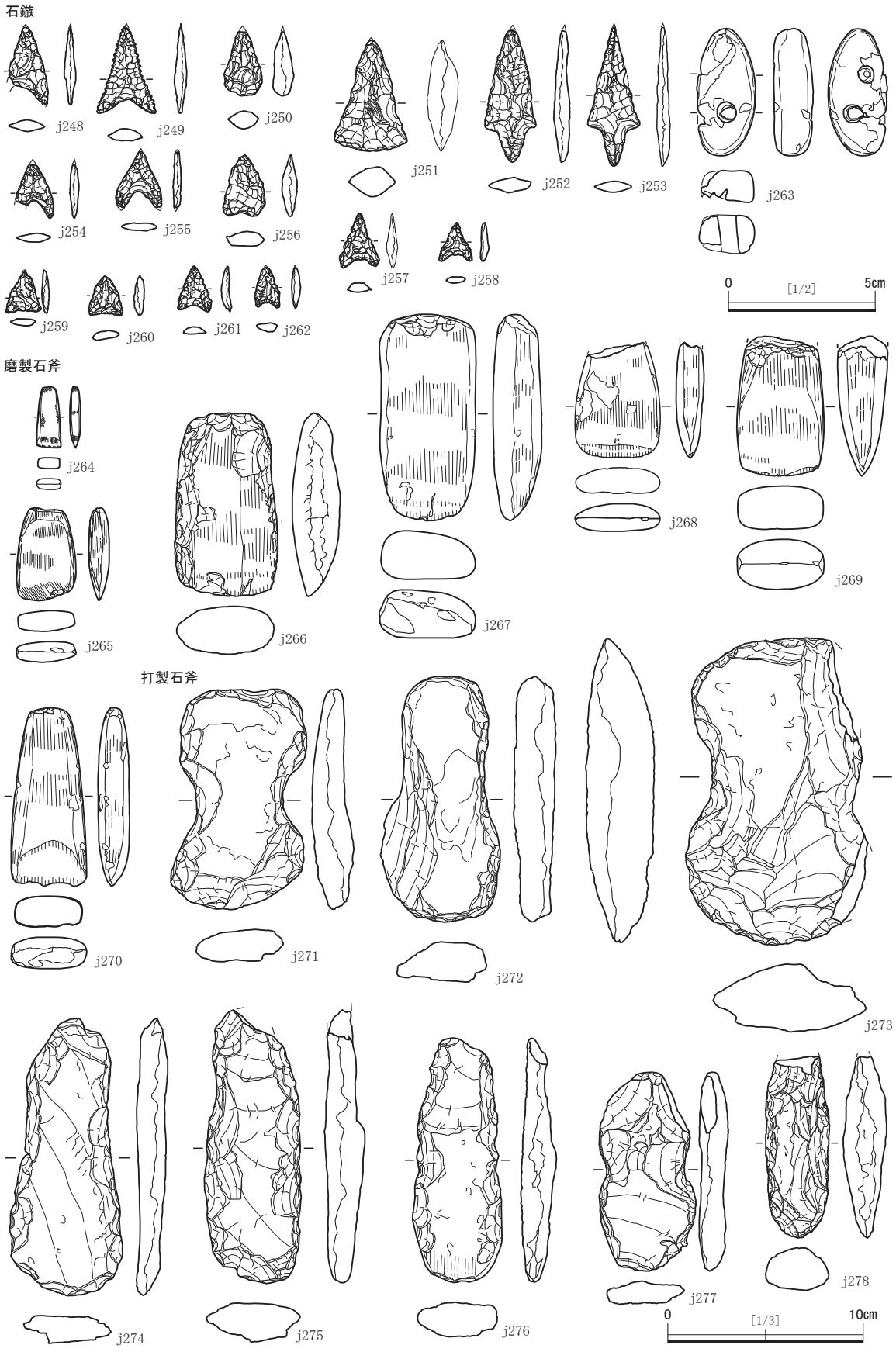
第135図　遺構外出土遺物（１）［1/3］



第136図　遺構外出土遺物（２）［1/3・1/4］



第137図　遺構外出土遺物（３）［1/2］



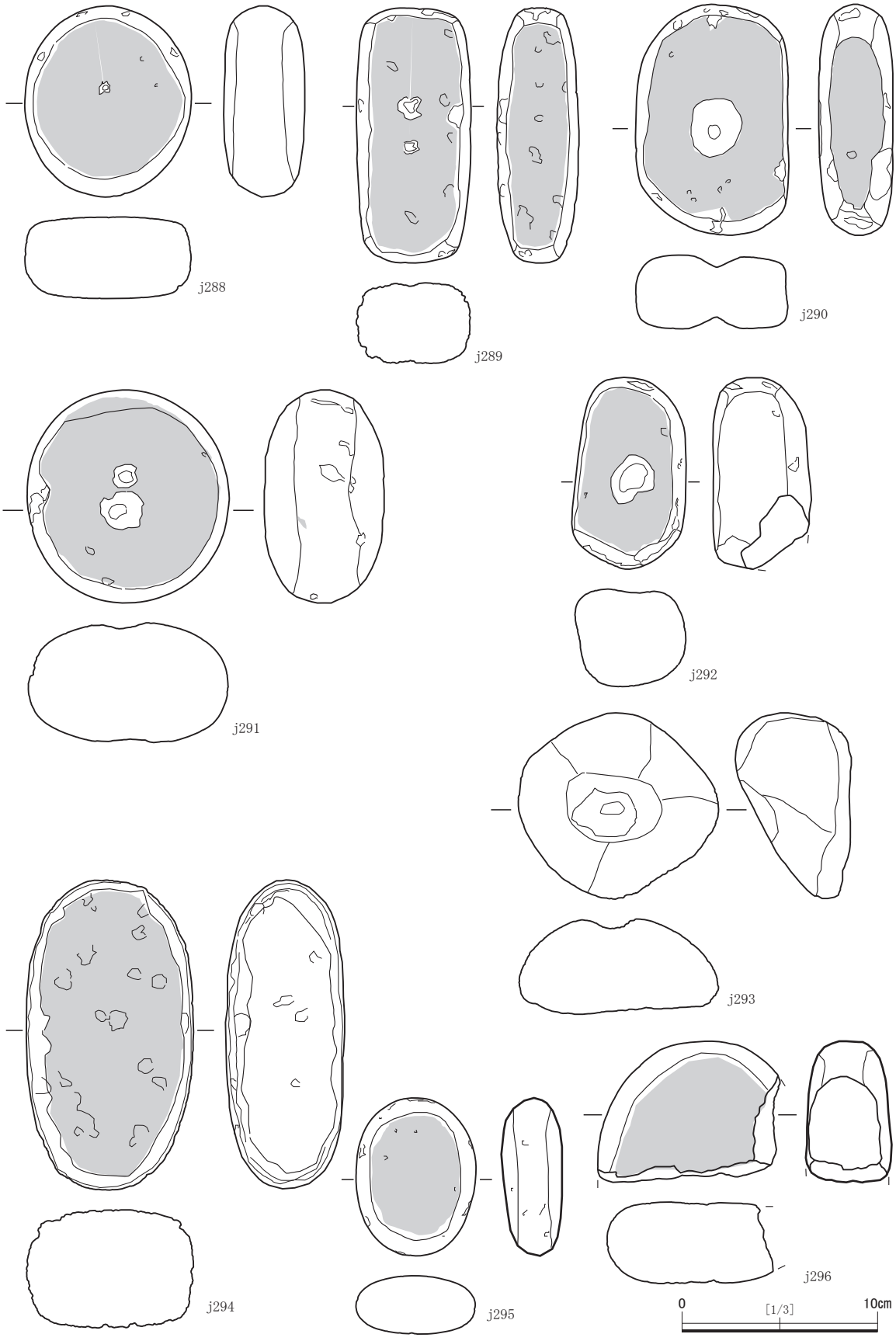
第138図　遺構外出土遺物（４）［1/2・1/3］



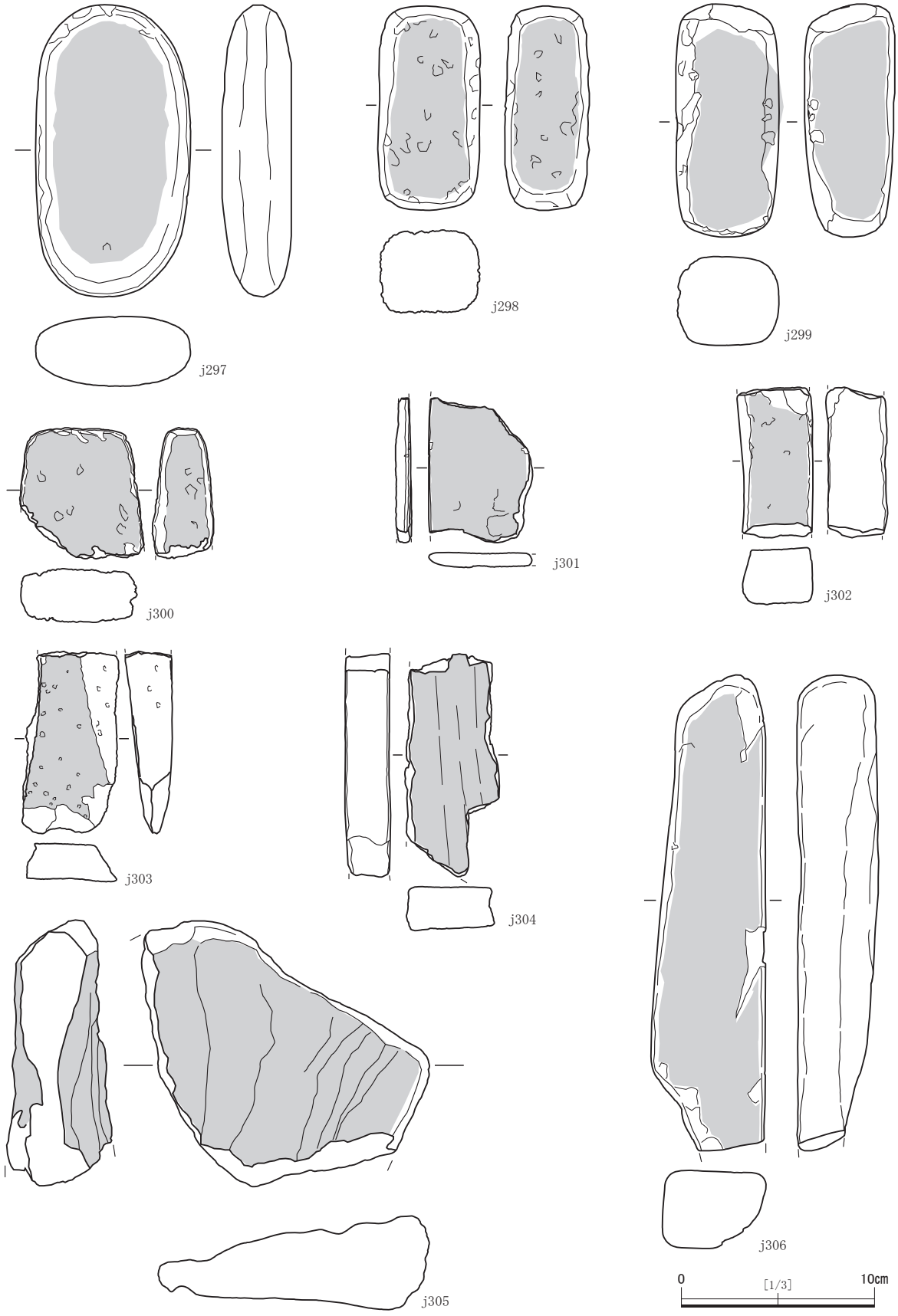
第139図　遺構外出土遺物（５）［1/3］

すると考えられ土器の底部で網代痕を残す。

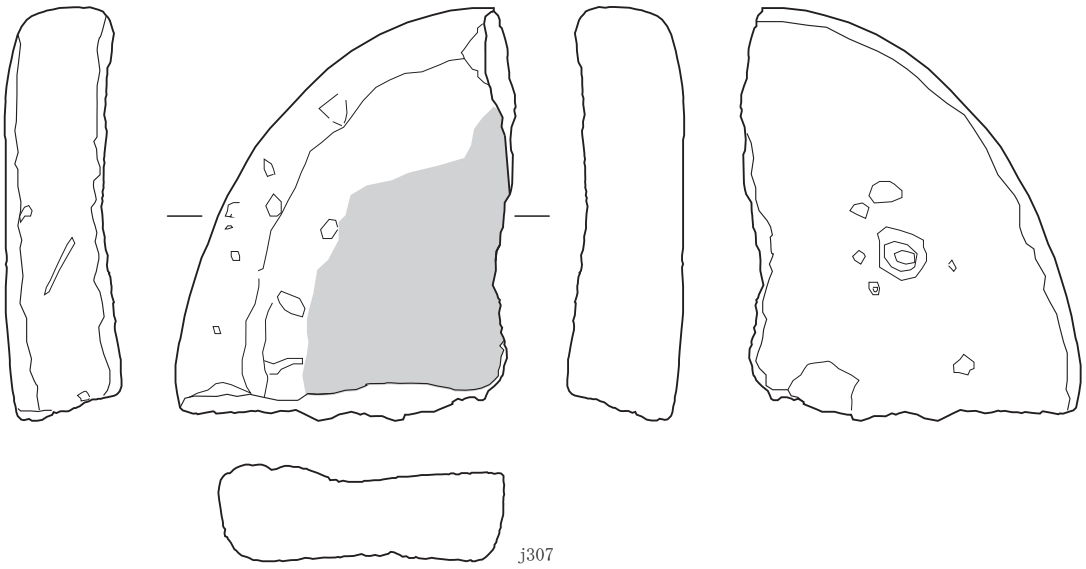
j225 ～ j232 は土偶である。j225 は土偶の顔。顔正面の一部と後頭部を欠く。顔は扁平で目と口は楕円状の隆線により表現され、鼻は三角形の粘土を貼付けている。j226 は顔の 2/3 のみ残存し、後頭部も欠損している。目は沈線で表現され細かい列点で縁取られている。鼻は三角形で孔は１つ。口は円形の穿孔で表現

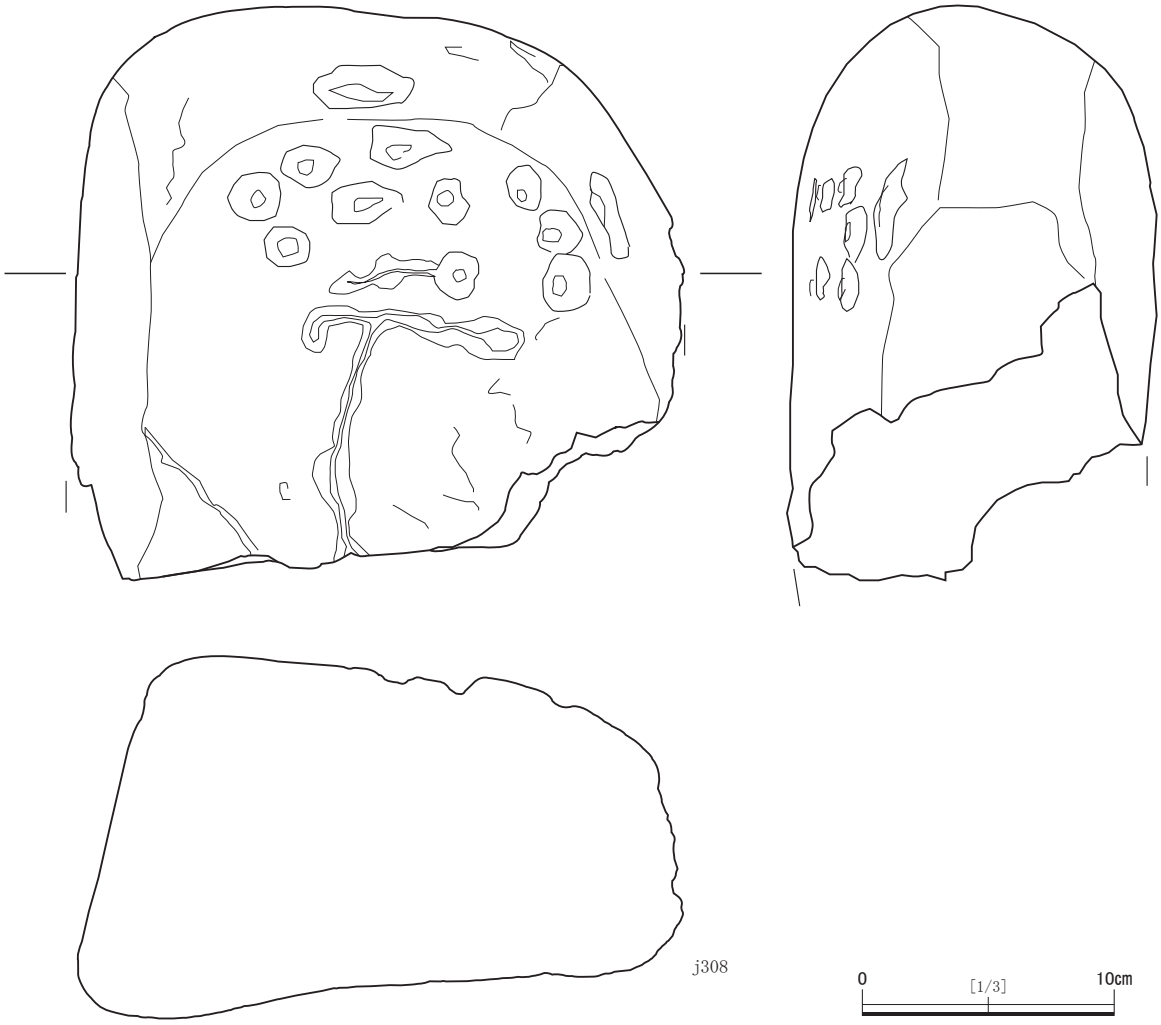


第140図　遺構外出土遺物（６）［1/3］

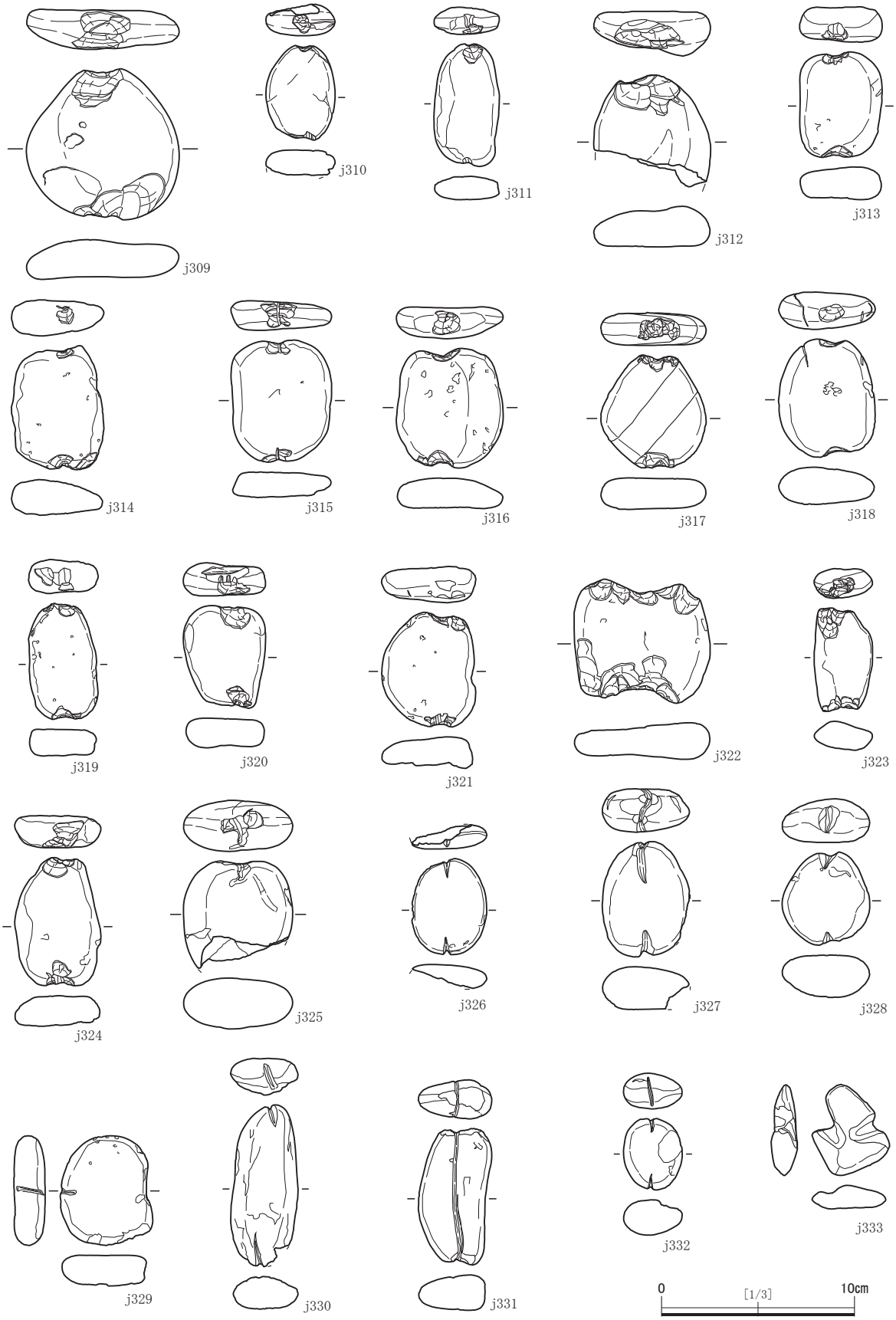


第141図　遺構外出土遺物（７）［1/3］





第142図　遺構外出土遺物（８）［1/3］



第143図　遺構外出土遺物（９）［1/3］

第 10 表　ピア 16（下り）区ピット計測表（単位：m）

グリッド	遺構名	長さ	幅	深さ	形状
住居跡					
H 1 住	1 ピット	0.8	0.6	0.65	円形
H 1 住	2 ピット	0.7	0.6	0.6	円形
H 1 住	3 ピット	0.45	0.36	0.15	円形
H 1 住	4 ピット	0.62	(0.5)	0.3	円形
J 2 住	炉	1.03	0.82	0.3	楕円
J 2 住	土坑 1	0.75	0.68	0.22	楕円
J 2 住	1 ピット	0.25	0.15	0.25	円形
J 2 住	2 ピット	0.33	0.21	0.25	円形
J 2 住	3 ピット	0.26	0.25	0.2	円形
J 2 住	4 ピット	0.32	0.31	0.24	円形
J 2 住	5 ピット	0.29	0.28	0.2	円形
J 2 住	6 ピット	0.24	0.21	0.2	円形
J 2 住	7 ピット	0.3	0.29	0.17	円形
J 2 住	8 ピット	0.34	(0.25)	0.2	円形
J 2 住	9 ピット	0.34	0.3	0.2	円形
J 2 住	10 ピット	0.49	0.42	0.2	円形
J 2 住	11 ピット	0.32	0.29	0.22	円形
J 2 住	12 ピット	0.45	0.37	0.25	円形
J 2 住	13 ピット	0.4	0.3	0.25	円形
J 2 住	14 ピット	0.47	(0.25)	0.13	円形
J 2 住	15 ピット	0.31	0.29	0.15	円形
J 2 住	16 ピット	0.35	0.34	0.25	円形
J 2 住	17 ピット	0.36	0.34	0.2	円形
J 2 住	18 ピット	0.21	0.17	0.09	円形
J 2 住	19 ピット	0.24	0.23	0.25	円形
J 2 住	20 ピット	0.27	0.26	0.15	円形
J 2 住	21 ピット	0.42	0.42	0.7	円形
J 2 住	22 ピット	0.32	0.3	0.3	円形
J 2 住	23 ピット	0.4	0.36	0.15	円形
欠番	24 ピット				
欠番	25 ピット				
J 2 住	26 ピット	0.2	0.19	0.03	円形
J 2 住	27 ピット	0.48	0.42	0.45	円形
J 2 住	28 ピット	0.33	0.25	0.05	円形
J 2 住	29 ピット	0.38	0.37	0.1	円形
J 2 住	30 ピット	0.48	0.48	0.25	円形
J 2 住	31 ピット	0.51	(10.3)	0.3	円形
J 3 住	1 ピット	0.24	0.22	0.15	円形
J 3 住	2 ピット	0.36	0.35	0.35	円形
J 3 住	3 ピット	0.4	0.34	0.25	円形
J 3 住	4 ピット	0.3	0.29	0.32	円形
J 3 住	5 ピット	0.25	0.23	0.1	円形
J 3 住	6 ピット	0.36	0.36	0.15	円形
J 3 住	7 ピット	0.35	0.27	0.15	円形
J 3 住	8 ピット	0.3	0.29	0.35	円形
J 3 住	9 ピット	0.36	0.34	0.65	円形
J 3 住	10 ピット	0.46	0.45	0.6	円形
欠番	11 ピット				
J 3 住	12 ピット	0.17	0.16	0.1	円形
J 3 住	13 ピット	0.25	0.23	0.35	円形
J 3 住	14 ピット	0.45	0.41	0.85	円形
J 3 住	15 ピット	0.23	0.19	0.12	円形
J 3 住	16 ピット	0.23	0.21	0.15	円形
J 3 住	17 ピット	0.18	0.15	0.2	円形
J 3 住	18 ピット	0.26	0.19	0.15	円形
J 3 住	19 ピット	0.36	0.35	0.35	円形
J 3 住	20 ピット	0.24	0.22	0.2	円形
J 3 住	21 ピット	0.21	0.21	0.15	円形
J 3 住	22 ピット	0.27	0.24	0.15	円形
J 3 住	23 ピット	0.28	0.24	0.1	円形
J 3 住	24 ピット	0.21	0.19	0.15	円形
J 3 住	25 ピット	0.27	0.27	0.07	円形
J 3 住	26 ピット	0.23	0.18	0.3	円形
J 3 住	27 ピット	0.34	0.32	0.85	円形
掘立柱建物					
C 1 柱列	1 ピット	0.26	0.23	0.25	円形
C 1 柱列	2 ピット	0.35	0.3	0.25	円形
C 1 柱列	3 ピット	0.28	0.27	0.18	円形
C 1 柱列	4 ピット	0.38	0.24	0.34	円形
C 1 柱列	5 ピット	0.25	(0.24)	0.17	円形
C 1 柱列	6 ピット	0.39	0.33	0.36	円形
K1 掘	1 ピット	0.54	(0.38)	0.4	円形
K1 掘	2 ピット	(0.43)	0.44	0.6	円形
K1 掘	3 ピット	(0.32)	(0.26)	0.54	不整
K1 掘	4 ピット	0.42	0.39	0.35	円形
K1 掘	5 ピット	0.57	0.50	0.7	円形
K1 掘	6 ピット	0.47	0.46	0.6	円形
K1 掘	7 ピット	0.37	0.31	0.22	円形
K1 掘	8 ピット	0.45	0.39	0.32	円形
K2 掘	12 ピット	0.34	0.3	0.16	円形
K2 掘	13 ピット	0.43	0.32	0.15	楕円
K2 掘	15 ピット	0.34	0.34	0.65	円形
K2 掘柱	17 ピット	0.42	0.4	0.25	円形
K2 掘	18 ピット	0.53	0.5	0.52	楕円
K2 掘	19 ピット	0.45	0.41	0.55	円形
K2 掘	20 ピット	0.49	0.36	0.25	楕円
K3 掘	1 ピット	0.3	0.21	0.26	円形
K3 掘	2 ピット	0.32	(0.26)	0.28	円形
K3 掘	3 ピット	0.24	0.21	0.22	方形
K3 掘	4 ピット	0.25	0.21	0.22	円形
K3 掘	5 ピット	0.28	0.26	0.3	方形
K3 掘	6 ピット	0.37	0.32	0.36	方形
K4 掘	1 ピット	0.3	0.19	0.22	円形
K4 掘	2 ピット	0.49	0.46	0.37	円形
K4 掘	3 ピット	0.4	(0.26)	0.37	円形
K4 掘	4 ピット	0.4	(0.38)	0.35	円形
K4 掘	5 ピット	0.43	0.35	0.38	円形
K4 掘	6 ピット	0.53	0.36	0.35	方形
ピット群					
欠番	1 ピット	K 1 号掘立柱建物			
欠番	2 ピット	K 1 号掘立柱建物			
欠番	3 ピット	K 1 号掘立柱建物			
欠番	4 ピット	K 1 号掘立柱建物			
欠番	5 ピット	K 1 号掘立柱建物			
欠番	6 ピット	K 1 号掘立柱建物			
欠番	7 ピット	K 1 号掘立柱建物			
欠番	8 ピット	K 1 号掘立柱建物			
5F-35	K 9 ピット	0.4	0.31	0.55	楕円
5F-34	K 10 ピット	0.31	0.24	0.15	円形
5F-34	K 11 ピット	0.25	0.23	0.19	円形
欠番	12 ピット	K 2 号掘立柱建物			
欠番	13 ピット	K 2 号掘立柱建物			
5F-35	K 14 ピット	0.36	0.32	0.21	円形
欠番	15 ピット	K 2 号掘立柱建物			
5F-35	C 16 ピット	0.3	0.27	0.27	円形
欠番	17 ピット	K 2 号掘立柱建物			
欠番	18 ピット	K 2 号掘立柱建物			
欠番	19 ピット	K 2 号掘立柱建物			
欠番	20 ピット	K 2 号掘立柱建物			
5F-35	K 21 ピット	0.29	0.25	0.2	円形
5F-35	C 22 ピット	0.21	0.19	0.15	円形
5E-35	K 23 ピット	0.27	0.24	0.29	円形
5F-35	C 24 ピット	0.28	0.26	0.37	円形
5F-36	C 25 ピット	0.37	0.37	0.21	円形
5F-35	C 26 ピット	0.26	0.25	0.31	円形
5F-35	C 27 ピット	0.26	0.22	0.39	円形
5F-35	C 28 ピット	0.37	0.35	0.46	円形
5F-35	C 29 ピット	0.41	(0.31)	0.15	円形
5E・F-35	C 30 ピット	0.27	0.27	0.47	方形
5F-35	C 31 ピット	0.25	0.2	0.14	円形
5F-35	C 32 ピット	0.43	0.35	0.37	円形
5E-35	C 33 ピット	0.28	0.28	0.12	円形
5F-35	C 34 ピット	0.39	0.21	0.24	円形
5F-35	C 35 ピット	0.31	(0.18)	0.34	円形
5F-35	C 36 ピット	(0.32)	(0.17)	0.34	円形
5F-35	C 37 ピット	(0.18)	(0.16)	0.16	円形
5F-35	C 38 ピット	(0.23)	(0.11)	0.16	円形
5F-35	C 39 ピット	0.34	0.3	0.32	円形
5F-35	C 40 ピット	0.33	0.22	0.24	円形
欠番	C 41 ピット	C 4 号掘立柱建物			

グリッド	遺構名	長さ	幅	深さ	形状
5F-35	C 42 ピット	0.36	0.32	0.38	円形
5F-35	C 43 ピット	0.26	0.24	0.24	円形
5F-35	C 44 ピット	0.22	0.2	0.19	円形
5F-35	C 45 ピット	0.23	0.2	0.32	円形
5F-35	C 46 ピット	0.25	0.2	0.25	円形
欠番	C 47 ピット	C 3 号掘立柱建物			
5F-35	C 48 ピット	0.34	0.34	0.32	円形
5F-35	C 49 ピット	0.43	0.33	0.22	円形
5F-35	C 50 ピット	0.38	0.38	0.55	円形
5G-35	C 51 ピット	0.27	0.18	0.4	円形
欠番	C 52 ピット	C 1 号柱穴列			
5F-35	C 53 ピット	0.26	0.25	0.27	円形
5F-36	C 54 ピット	0.33	0.29	0.26	円形
5F-35	C 55 ピット	(0.27)	(0.16)	0.24	円形
5F-35	C 56 ピット	0.22	0.21	0.09	方形
5F-35	C 57 ピット	(0.25)	0.26	0.36	円形
5F-35	C 58 ピット	0.26	0.24	0.17	円形
5G-35	C 59 ピット	0.33	(0.17)	0.18	円形
5G-35	C 60 ピット	0.26	0.2	0.31	方形
欠番	C 61 ピット	C 3 号掘立柱建物			
欠番	C 62 ピット	C 4 号掘立柱建物			
5G-35	C 63 ピット	0.22	0.2	0.18	円形
5G-35	C 64 ピット	0.19	0.18	0.08	円形
5G-35	C 65 ピット	0.18	(0.15)	0.08	円形
5G-35	C 66 ピット	0.35	0.32	0.29	方形
5F-35	C 67 ピット	0.4	0.3	0.48	円形
欠番	C 68 ピット	C 1 号柱穴列			
欠番	C 69 ピット	C 1 号柱穴列			
欠番	C 70 ピット	C 1 号柱穴列			
5F-35	C 71 ピット	0.28	0.25	0.14	円形
5F-35	C 72 ピット	0.3	0.25	0.12	円形
5F-35	C 73 ピット	0.34	0.32	0.46	円形
欠番	C 74 ピット	C 4 号掘立柱建物			
5F-35	C 75 ピット	0.26	(0.22)	0.11	円形
5F-35	C 76 ピット	0.28	0.27	0.26	方形
5F-35	C 77 ピット	0.53	0.43	0.2	円形
5G-35	C 78 ピット	(0.31)	(0.22)	0.35	円形
欠番	C 79 ピット	C 3 号掘立柱建物			
欠番	C 80 ピット	C 4 号掘立柱建物			
5F-35	C 81 ピット	0.33	0.29	0.59	円形
欠番	C 82 ピット	C 3 号掘立柱建物			
欠番	C 83 ピット	C 3 号掘立柱建物			
欠番	C 84 ピット	C 1 号柱穴列			
5F-35	C 85 ピット	0.36	0.26	0.34	円形
欠番	C 86 ピット	C 1 号柱穴列			
5F-35	C 87 ピット	0.23	0.23	0.22	円形
5F-35	C 88 ピット	0.25	0.16	0.13	方形

グリッド	遺構名	長さ	幅	深さ	形状
5F-35	C 89 ピット	0.29	0.24	0.21	円形
欠番	C 90 ピット	C 3 号掘立柱建物			
欠番	C 91 ピット	C 4 号掘立柱建物			
欠番	C 92 ピット	C 4 号掘立柱建物			
5F-34	C 93 ピット	0.33	0.27	0.26	円形
5F-35	C 94 ピット	0.43	0.35	0.27	円形
5F-35	C 95 ピット	0.36	0.27	0.19	円形
5F-35	C 96 ピット	0.22	0.22	0.15	円形
5F-35	C 97 ピット	0.41	0.23	0.21	不整
5F-35	C 98 ピット	0.3	0.22	0.15	円形
5F-35	C 99 ピット	0.24	(0.14)	0.28	円形
5F-35	C 100 ピット	0.35	0.32	0.35	円形
5F-35	C 101 ピット	0.29	0.28	0.35	円形
5E-34	C 102 ピット	(0.28)	(0.26)	0.25	円形
5E-34	C 103 ピット	0.39	0.35	0.32	円形
5E-34	C 104 ピット	0.32	0.3	0.16	円形
5E-34	C 105 ピット	0.37	0.33	0.16	円形
5E-34	H 106 ピット	0.39	0.24	0.11	楕円
5E-34・35	C 107 ピット	0.54	0.5	0.66	円形
5E-35	C 108 ピット	0.5	0.34	0.3	円形
5E-35	C 109 ピット	0.5	0.45	0.43	円形
5E-34	C 110 ピット	0.44	0.38	0.42	円形
5F-34	H 111 ピット	0.34	0.32	0.19	円形
5F-34	H 112 ピット	0.29	0.27	0.21	方形
5F-34	C 113 ピット	0.27	0.24	0.13	円形
5F-34	C 114 ピット	0.33	0.27	0.3	円形
5F-34	C 115 ピット	0.3	0.25	0.18	円形
5F-35	C 116 ピット	0.34	0.34	0.42	円形
5F-35	C 117 ピット	0.24	0.22	0.19	円形
5F-35	C 118 ピット	0.3	0.25	0.17	円形
5F-35	C 119 ピット	0.41	0.36	0.34	円形
5F-35	C 120 ピット	0.25	0.25	0.14	方形
5F-35	C 121 ピット	0.39	0.26	0.25	円形
5G-35	C 122 ピット	0.29	0.25	0.13	円形
5G-35	C 123 ピット	0.27	0.25	0.16	円形
5F-35	C 124 ピット	0.27	0.23	0.24	円形
5F-35	C 125 ピット	0.26	0.21	0.13	円形
5F-35	C 126 ピット	0.26	0.24	0.13	円形
5E-35	C 127 ピット	0.41	(0.15)	0.2	方形
5F-35	C 128 ピット	0.25	0.18	0.15	方形
5F-35	C 129 ピット	0.2	0.18	0.14	円形
5F-35	C 130 ピット	0.35	0.3	0.24	円形
5F-35	C 131 ピット	0.26	0.21	0.25	円形
5F-35	C 132 ピット	(0.22)	(0.18)	0.2	円形
5G-35	C 133 ピット	0.22	0.19	0.19	方形
5F-35	C 134 ピット	0.17	0.17	0.21	方形
5G-35	C 135 ピット	0.28	0.26	0.42	方形

グリッド	遺構名	長さ	幅	深さ	形状
5G-35	C 136 ピット	0.35	0.26	0.1	円形
5E-36	J 137 ピット	0.43	0.4	0.88	円形
5E-36	J 138 ピット	0.37	0.31	0.35	円形
5E-36	J 139 ピット	0.51	0.29	0.15	楕円
5E-36	J 140 ピット	0.39	0.35	0.10	円形
5E-36	J 141 ピット	0.4	0.39	0.32	円形
5E-36	J 142 ピット	0.53	0.51	0.17	円形
5E-36	J 143 ピット	0.5	0.38	0.24	不整
5E-36	J 144 ピット	0.51	0.45	0.65	円形
5E-36	J 145 ピット	0.49	0.49	0.14	円形
5E-36	J 146 ピット	0.4	0.3	0.1	不形
5E-35	J 147 ピット	0.54	0.45	0.20	円形
5E-35	J 148 ピット	0.39	0.35	0.17	円形
5E-35	J 149 ピット	0.4	0.38	0.18	円形
5E-35	J 150 ピット	0.37	0.33	0.17	円形
5E-35	J 151 ピット	0.38	0.34	0.11	円形
5E-35	J 152 ピット	0.46	0.44	1.13	円形
5E-35	J 153 ピット	0.42	0.37	0.18	円形
5F-36	J 154 ピット	0.5	0.41	0.60	楕円
5F-36	J 155 ピット	0.33	0.33	0.30	円形
5E-36	J 156 ピット	0.38	0.37	0.16	円形
5F-36	J 157 ピット	0.2	0.19	0.28	円形
5F-35	J 158 ピット	0.45	0.33	0.25	円形
5E・F-35	J 159 ピット	0.45	0.35	0.11	円形
5F-35	J 160 ピット	0.34	0.3	0.16	円形
5F-36	J 161 ピット	0.4	0.28	0.13	楕円
5F-36	J 162 ピット	0.44	0.41	0.42	円形
5F-36	J 163 ピット	0.29	0.29	0.73	円形
5F-36	J 164 ピット	0.45	0.43	0.40	円形
5F-35	J 165 ピット	0.28	0.25	0.16	円形
5F-36	J 166 ピット	0.35	0.32	0.18	円形
5F-36	J 167 ピット	0.36	0.32	0.16	円形
5F-36	J 168 ピット	0.3	0.22	0.10	楕円
5F-35	J 169 ピット	0.38	0.27	0.23	円形
5F-35	J 170 ピット	0.33	0.33	0.30	円形
5F-35	J 171 ピット	0.4	(0.33)	0.10	円形
5F-35	J 172 ピット	0.3	0.23	0.14	不整
欠番	173 ピット				
欠番	174 ピット				
5F-35	J 175 ピット	0.26	0.21	0.18	楕円
5F-35	J 176 ピット	0.32	(0.27)	0.10	方形
5F-35	J 177 ピット	0.34	0.34	0.12	方形
欠番	178 ピット				
欠番	179 ピット				
5F-35	J 180 ピット	0.4	0.33	0.24	不整
5F-35	J 181 ピット	0.48	0.47	0.27	円形
5F-35	J 182 ピット	0.45	0.42	0.25	円形

グリッド	遺構名	長さ	幅	深さ	形状
欠番	183 ピット				
欠番	184 ピット				
5F-35	J 185 ピット	0.45	0.39	0.27	円形
5F・G-35	J 186 ピット	0.55	0.52	0.33	円形
欠番	187 ピット				
欠番	188 ピット				
欠番	189 ピット				
5E-35	J 190 ピット	0.36	0.36	0.28	円形
5E-36	J 191 ピット	0.53	0.43	0.35	楕円
5F-36	J 192 ピット	0.61	0.54	0.50	楕円
5F-36	J 193 ピット	0.26	0.26	0.20	円形
5F-35	J 194 ピット	0.5	0.45	0.15	円形
5F-35	J 195 ピット	0.5	0.48	0.55	円形
5F-35	J 196 ピット	0.44	0.44	0.32	円形
欠番	197 ピット				
5F-36	J 198 ピット	0.44	0.44	0.70	円形
5F-36	J 199 ピット	0.31	0.3	0.12	円形
5F-36	J 200 ピット	0.51	0.44	0.32	楕円
5E-36	J 201 ピット	0.31	0.27	0.30	楕円
5E-36	J 202 ピット	0.37	0.35	0.30	円形
欠番	203 ピット				
欠番	204 ピット				
5F-36	J 205 ピット	0.48	0.48	0.88	円形
5F-36	J 206 ピット	0.45	(0.35)	0.43	円形
5F-36	J 207 ピット	(0.29)	0.28	0.14	円形
5F-35	J 208 ピット	(0.38)	0.38	0.30	不整
5F-35	J 209 ピット	0.33	0.3	0.24	円形
5F-36	J 210 ピット	0.33	0.31	0.25	円形
5F-35	J 211 ピット	0.53	(0.31)	0.33	楕円
欠番	212 ピット				
5F-35	J 213 ピット	0.61	0.31	0.22	楕円
欠番	214 ピット				
5E-35	J 215 ピット	0.41	0.38	0.40	
欠番	216 ピット				
5E-35	J 217 ピット	0.44	0.42	0.66	円形
5E-36	J 218 ピット	0.48	0.44	0.62	円形
5F-35	J 219 ピット	0.43	0.41	0.30	円形
欠番	220 ピット				
5F-35	J 221 ピット	0.34	0.32	0.38	円形
5F-35	J 222 ピット	0.42	0.37	0.28	円形
5F-35	J 223 ピット	0.45	0.42	0.30	円形
欠番	224 ピット				
5G-35	J 225 ピット	0.46	0.38	0.15	円形
5G-36	J 226 ピット	0.3	0.28	0.17	円形
5F-35	J 227 ピット	0.5	0.41	0.26	楕円
5E-35	J 228 ピット	0.49	0.48	0.16	円形
5E-35	J 229 ピット	0.44	0.34	0.21	楕円
5E-34	J 230 ピット	0.34	0.33	0.25	円形
5E-34	J 231 ピット	(0.28)	0.25	0.24	楕円
5F-35	J 232 ピット	0.68	0.59	0.18	円形
5E-34	J 233 ピット	0.38	0.31	0.25	円形
5E-34	J 234 ピット	0.5	0.47	0.45	円形
5E-34	J 235 ピット	0.5	0.49	0.16	円形
5F-35	J 236 ピット	0.42	(0.37)	0.25	円形
5F-35	J 237 ピット	0.48	(0.34)	0.30	円形
5F-35	J 238 ピット	0.66	0.51	0.27	楕円
5F-35	J 239 ピット	0.66	(0.41)	0.17	楕円
5F-36	J 240 ピット	0.37	(0.35)	0.25	不整
5E-34	J 241 ピット	0.31	0.27	0.34	円形
5E-34	J 242 ピット	0.4	0.3	0.22	円形
5F-35	J 243 ピット	0.69	0.63	0.56	楕円
5E・F-35	J 244 ピット	0.33	0.3	0.25	方形
5F-35	J 245 ピット	0.57	0.45	0.16	楕円
5F-35	J 246 ピット	0.44	0.37	0.24	楕円
5F-35	J 247 ピット	0.64	(2.61)	0.37	不整
5F-35	J 248 ピット	0.63	(0.47)	0.20	不整
欠番	249 ピット				
5E-34	J 250 ピット	0.26	0.26	0.15	円形
5E-35	J 251 ピット	0.45	(0.24)	0.45	不整
5F-36	J 252 ピット	0.4	0.4	0.28	方形
5E-34	J 253 ピット	0.19	(0.17)	0.41	不整
5E-35	J 254 ピット	0.43	0.4	0.52	円形
5F-35	J 255 ピット	0.51	(0.41)	0.27	不整
5F-35	J 256 ピット	0.63	(0.38)	0.28	不整
5E-36	J 257 ピット	0.31	0.27	0.15	円形
5E-36	J 258 ピット	0.33	0.29	0.26	円形
5E-35	J 259 ピット	0.57	0.53	0.43	方形
5E-35	J 260 ピット	0.53	0.53	0.28	円形
5E-36	J 261 ピット	0.5	(0.44)	0.21	円形
欠番	262 ピット				
5E-36	J 263 ピット	0.89	0.67	0.23	不整
欠番	264 ピット				
5F-35・36	J 265 ピット	0.3	0.34	0.18	円形
5E-35	J 266 ピット	0.42	(0.32)	0.35	円形
5E-36	J 267 ピット	0.31	0.29	0.35	円形
5E-36	J 268 ピット	0.43	0.39	0.32	円形
5E-35	J 269 ピット	0.5	0.42	0.57	円形
5E-35	J 270 ピット	0.44	0.42	0.32	円形
5E-35	J 271 ピット	0.35	(0.27)	0.14	不整
5E-35	J 272 ピット	0.34	0.3	0.21	円形
5E-35	J 273 ピット	0.6	0.51	0.46	楕円
5E-35	J 274 ピット	0.33	0.33	0.50	円形
欠番	275 ピット				
欠番	276 ピット				
5E-35	J 277 ピット	0.35	0.33	0.18	円形
5E-34	J 278 ピット	0.34	0.33	0.29	円形
5E-34	J 279 ピット	0.37	0.33	0.26	円形
5E-34	J 280 ピット	0.43	0.41	0.25	円形
5E-34	J 281 ピット	0.41	0.38	0.30	円形
5E-34	J 282 ピット	0.38	0.37	0.26	円形
5E-34	J 283 ピット	0.78	0.66	0.36	円形
5E-35	J 284 ピット	0.32	0.18	0.36	不整
5E-34	J 285 ピット	0.53	0.47	0.20	円形
5E-34	J 286 ピット	0.45	0.45	0.18	円形
5E-34	J 287 ピット	0.58	0.54	0.25	円形
5E-34	J 288 ピット	0.27	0.25	0.22	円形
5E-34	J 289 ピット	0.45	(0.21)	0.20	円形
5E-34	J 290 ピット	0.45	0.39	0.28	円形
5E-34	J 291 ピット	0.54	0.53	0.20	円形
5E-34	J 292 ピット	0.42	0.38	0.20	円形
5E-34	J 293 ピット	0.32	0.27	0.33	円形
5E-34	J 294 ピット	0.31	0.29	0.24	円形
5E-35	J 295 ピット	0.41	0.38	0.35	円形
5E-34	J 296 ピット	0.57	0.54	0.34	円形
5E-34	J 297 ピット	0.38	0.35	0.16	円形
5E-35	J 298 ピット	0.35	0.35	0.37	円形
5E-34	J 299 ピット	0.23	0.2	0.17	円形
5E-35	J 300 ピット	0.38	0.31	0.46	円形
5E-35	J 301 ピット	0.38	0.37	0.40	円形
5E-34	J 302 ピット	0.39	0.37	0.34	円形
5G-35	J 303 ピット	0.46	0.42	0.35	円形
5G-35	J 304 ピット	0.66	0.32	0.07	不整
5G-36	J 305 ピット	0.48	0.43	0.24	円形
5G-36	J 306 ピット	0.48	0.34	0.28	楕円
5E-34	J 307 ピット	0.5	0.46	0.19	円形
5F-35	J 308 ピット	0.44	0.42	0.46	円形
5F-35	J 309 ピット	0.5	0.48	0.39	円形
5F-35	J 310 ピット	0.48	0.43	0.27	円形
5F-35	J 311 ピット	0.35	0.34	0.20	円形
5F・G-34・35	J 312 ピット	0.45	0.42	0.28	円形
5F-34	J 313 ピット	0.31	0.26	0.16	円形
5F-34	J 314 ピット	0.55	0.52	0.17	円形
5F-34	J 315 ピット	0.47	0.46	0.26	円形
5F-34	J 316 ピット	0.35	0.25	0.20	円形
5E-35	J 317 ピット	(0.49)	0.34	0.40	不整
5F-35	J 318 ピット	0.44	0.24	0.12	楕円
5F-35	J 319 ピット	0.61	0.56	0.20	円形
5F-34	J 320 ピット	0.4	0.32	0.11	円形
5F-34	J 321 ピット	0.36	0.32	0.22	円形
5F-34	J 322 ピット	0.25	0.26	0.10	円形
5F-34	J 323 ピット	0.27	0.26	0.08	円形

グリッド	遺構名	長さ	幅	深さ	形状
5F-34	J 324 ピット	0.24	(0.18)	0.17	不整
5F-34	J 325 ピット	0.61	0.56	0.12	円形
5F-34	J 326 ピット	0.32	0.3	0.14	円形
5F-34	J 327 ピット	0.29	0.26	0.21	円形
5F-34	J 328 ピット	0.27	0.26	0.09	円形
5F-35	J 329 ピット	0.85	0.76	0.28	円形
5F-35	J 330 ピット	0.52	0.45	0.25	円形
5F-35	J 331 ピット	0.44	0.39	0.24	円形
5F-35	J 332 ピット	0.44	0.4	0.23	円形
5F-35	J 333 ピット	0.42	0.33	0.33	円形
5F-34	J 334 ピット	0.48	0.46	0.30	円形
5F-35	J 335 ピット	0.48	(0.39)	0.23	円形
5F-35	J 336 ピット	0.3	0.28	0.15	円形
5F-35	J 337 ピット	0.57	0.52	0.27	円形
5F-35	J 338 ピット	0.38	0.36	0.32	円形
5E-35	J 339 ピット	0.27	0.26	0.15	円形
5E-35	J 340 ピット	0.34	0.33	0.54	円形
5F-34	J 341 ピット	0.3	0.27	0.15	円形
5F-36	J 342 ピット	0.41	0.35	0.26	楕円
5F-35	J 343 ピット	0.26	0.23	0.20	円形
5F-35	J 344 ピット	0.28	0.24	0.21	円形
5F-34	J 345 ピット	0.42	0.35	0.22	円形
5F-35	J 346 ピット	0.49	0.44	0.37	円形
5F-35	J 347 ピット	0.58	0.52	0.22	円形
5F-34	J 348 ピット	0.45	0.43	0.40	円形
5F-34	J 349 ピット	0.76	0.67	0.50	円形
5F-34	J 350 ピット	0.3	(0.24)	0.18	不整
5G-35	J 351 ピット	0.24	0.21	0.10	円形
5G-35	J 352 ピット	0.24	(0.14)	0.30	不整
5G-35	J 353 ピット	0.25	(0.15)	0.09	不整
5G-36	J 354 ピット	0.29	0.27	0.30	円形
5E-35・36	J 355 ピット	0.33	0.26	0.15	円形
5E-36	J 356 ピット	0.29	0.27	0.15	円形
5E-36	J 357 ピット	0.3	0.25	0.07	楕円
5E-35	J 358 ピット	(0.4)	0.39	0.22	不整
5E-35	J 359 ピット	0.37	0.32	0.30	円形
5E-35	J 360 ピット	0.31	0.3	0.24	円形
5E-35	J 361 ピット	0.19	0.18	0.21	円形
5F-35	J 362 ピット	0.24	0.23	0.15	円形
5F-35	J 363 ピット	0.34	0.31	0.14	円形
5F-35	J 364 ピット	0.25	0.2	0.15	楕円
5E-35	J 365 ピット	0.19	0.17	0.15	円形
5F-35	J 366 ピット	0.23	0.2	0.14	円形
5F-36	J 367 ピット	0.43	0.36	0.20	楕円
5F-36	J 368 ピット	0.28	0.24	0.33	円形
5F-35・36	J 369 ピット	0.33	0.29	0.16	楕円
5F-35	J 370 ピット	0.31	0.29	0.10	円形
欠番	371 ピット				
5G-36	J 372 ピット	0.21	0.17	0.12	円形
5G-36	J 373 ピット	0.25	0.21	0.10	円形
5F-36	J 374 ピット	0.24	0.23	0.19	円形
5F-35	J 375 ピット	0.39	0.28	0.15	楕円
5F-35	J 376 ピット	0.31	0.26	0.12	円形
5F-36	J 377 ピット	0.25	0.16	0.20	楕円
5F-36	J 378 ピット	0.35	(0.22)	1.46	不整
欠番	379 ピット	JP166 と重複欠番			
5F-35	J 380 ピット	0.33	0.3	0.50	円形
5F-35	J 381 ピット	0.24	0.22	0.6	円形
5E-34	J 382 ピット	0.27	0.22	0.50	楕円
5F-35	J 383 ピット	0.25	0.22	0.14	円形
欠番	384 ピット	K1 畠に含まれた			
欠番	385 ピット	K1 畠に含まれた			
5G-34	K 386 ピット	0.31	(0.28)	0.4	不整
5E-35	K 387 ピット	0.41	(0.16)	0.24	不整
5F-35	J 388 ピット	0.57	0.35	0.27	不整

略語：不整：不整円形、楕円：楕円形、隅丸：隅丸方形、長方：長方形

されている。ともに堀之内２式期と推定される。j223 は土偶の脚部で、高台状を呈す。j230 は土偶の脚部で、中空である。j227・j228・j229・j231・j232 は筒形土偶で、j229 は底部で底面中央に穿孔されている。j233 ～ j245 は土製円板で、後期前半の土器破片を使用する。j246 は手捏ねのミニュチア土器である。j247 は鼓形の耳栓である。

j248 ～ j258 は石鏃である。j248・j254 はチャート製の凹基石鏃である。j251 はガラス質黒色安山岩の円基の大形石鏃である。j252・j253 は有茎石鏃で二等辺三角形の体部に三角形の茎がつく。チャート製である。他のものは黒曜石製の石鏃で、j249 は鋸歯縁を呈し、j250 は円基で、他のものは小形品である。j263 は翡翠の垂飾である。j264 ～ j270 は磨製石斧で定角式である。石材は j265・j264・j268 は透閃石岩、j269・j266 は中粒凝灰岩、j270 は翡翠輝石岩、j267 は変質玄武岩である。j271 ～ j278 は打製石斧で、j271 ～ j273 が分銅形、残りのものが撥形である。j271 ～ j273・j277・j295・j274 はホルンフェルス、j276 は中粒凝灰岩、j278 は砂岩である。j279 ～ j286 は石棒である。頭部がわかるのは j285 で含輝石流紋岩製である。j283 は石英片岩製の小形品である。j279 は富士玄武岩、j280 は含輝石流紋岩、j281 は大山流紋岩、j284 は軟質中粒凝灰岩、j282 は中粒凝灰岩、j286 は緑色片岩である。j287 は敲石であるが、よく研磨された棒状礫の一端に敲打痕を残す。j288 ～ j293 は凹石である。j289 は多孔質安山岩、j290・j291 は変質安山岩、j292 は変質流紋岩、j293 は軟質中粒凝灰岩、j287 は安山岩である。j294 ～ j299 磨石で、j294 は多孔質安山岩、j295・j296 は安山岩である。j297・j299 は変質斑糲岩である。j300 は軽石である。j301 ～ j306 は砥石である。j301・j305 は砂岩、j302・j306・j301 は凝灰岩、j303 は状安山岩である。j307 は多孔質安山岩製の石皿で、j308 の多孔石は変質ドレライトである。j309 ～ j333 は石錘である。基本長軸方向に紐かけを設けるが j329・j333 は短軸方向に設けている。

５ 旧石器時代

今回の調査で発見された旧石器時代の遺構は、石器集中２カ所を中心に石器が分布する。遺構の分布は、調査区南にやや偏りを見せて検出されるが、一部調査区外に広がりを見せる。石器が出土した層位は、Ｌ１Ｈ層下部から出土し始め、Ｂ１層上層に主体を占め、Ｂ１層中位まで出土した。ローム層は北西から南東に向いて傾斜しており、石器の分布も傾斜に合わせて、出土している。遺物は、石器類 1,010 点、礫 109 点の計 1,119 点（4,446g）である。この他に炭化物片が確認されるが特に集中個所は見られない。

（１）石器集中

１号石器集中（第 144 ～ 146 図、図版 23・24）

１号石器集中は、調査区南西隅の５Ｅ -34・35、５Ｆ -34 グリッドに位置する。径 10 ｍ程度の範囲に石器が集中して出土し、調査区外の南側と西側に石器の広がる。層位的には、Ｌ１Ｈ層～Ｂ１層中層にわたっていて、中心はＢ１層上部にあると思われる。石器は尖頭器 46 点、ナイフ形石器１点、彫器２点、削器３点、掻器１点、使用痕を有する剥片（図中略称ＵＦ）７点、剥片 166 点、砕片 715 点の 940 点が出土する。礫も混在して出土し、北寄りには礫群と捉えられる集中個所があり礫 105 点が出土する。本石器集中はおおむね３か所の細別化がされ、礫群を含む石器集中ａが最も北側に位置し南西隅の１号石器集中ｂが南西隅に、最も石器が集中する１号石器集中ｃが調査区中央寄りに位置している。各細別の間は境界線を引くには不明瞭であり、ここでは概略のみを記すこととする。

１号石器集中ａ

最も北側に位置し、５Ｅ -35 グリッドに位置する。Ｌ１Ｈ層～Ｂ１層中層にわたり 153 点の石器・礫が出土する。石器類については、ガラス質黒色安山岩を主体とするが、ほかに緑色凝灰岩の剥片が目立ち、石器製作時の剥片は少なく、やや大きめの不定形剥片が主体である。重複して礫群が検出され、大きくても握り拳大の円礫の破砕礫で構成される。現地調査では礫の集中個所はとらえることはできず、礫片が散乱した状態で確認されている。

１号石器集中ｂ

調査区南西隅で確認されている個所で、構成する石器の多くは調査区外であると考えられる。１号石器集中ａの南の５Ｅ -34 グリッドに位置する。本石器集中と１号石器集中ｃを分けて捉えていたが、調査区外に広がりを見せることも含め同じ石器集中として扱う。67 点の石器・礫が、Ｌ１Ｈ層～Ｂ１層上部を中心に、南東に向けてやや傾斜して検出された。石器類については、完成された小形の尖頭器が目立ち、ガラス質黒色安山岩製のみならず、黒曜石製のものが顕著にみられる。黒曜石の調整剥片はそれほど多くない。西側で分布する地域であり、多くの砕片類が出土していて、ガラス質黒色安山岩製の尖頭器の石器製作址と考えられる。

１号石器集中ｃ

１号石器集中ｂの東側に隣接してＥ -34 グリッドに位置する。１号石器集中ｂとの境界は明確ではない。Ｌ１Ｈ層～Ｂ１層上部を中心に、石器が最も集中する場所で、825 点の石器・礫が出土する。石器類は、尖頭器の未成品と多くの砕片類が出土していて、ガラス質黒色安山岩製の尖頭器の石器製作址と考えられる。

２号石器集中

調査区西側に位置していて、５Ｆ -35 グリッドに位置する。Ｌ１Ｈ層～Ｂ１層中位にかけて南に向かって

やや傾斜して検出された。石器類は、52点で構成され、尖頭器２点、ナイフ形石器１点、使用痕を有する剥片２点、剥片30点、砕片16点と礫片１点で構成される。

この他に５Ｆ35グリッドから２点の頁岩製の剥片が他の石器集中から離れて出土する。

（２）礫群（第151図）

礫の出土は、全体で109点出土している。現地調査の観察では、礫群として面として捉えられる集中個所はなく、石器集中内に混在して出土した礫の分布をみると。破砕礫が多く、選択された全形のわかる礫11点の大きさの平均値は、長さ4.0cm、幅3.6cm、厚さ2.6cm、重さ44gと小ぶりの礫を選択している。礫の分布状態を見ると１号石器集中に混在するものが多く、他の礫は石器集中外も含めて薄く分布している。

（３）炭化物集中（第151図）

炭化物の出土は少なく、１号石器集中に伴い径1mほどの範囲から17点が確認され、２号石器集中に伴い６点が1.5mほどの範囲から散漫に出土した。他遺跡に見られるような集中個所はなく、石器や礫に混在して、出土している。

（４）石器（第153～160図、第36・37表、図版95～100）

１～11は尖頭器である（第153図）。

１は、両面加工の尖頭器である。黒曜石製で完存する。左右はやや非対称であり、断面形は裏面が平坦なレンズ状を呈す。両面の周縁から丁寧な押圧剥離を施し、裏面の中央に一次剥離面を残す。

２は、両面加工の尖頭器の未成品である。黒曜石製で上半部を欠損し、基部側1/2が残存する。断面形は裏面が平坦な台形を呈す。一側縁に押圧剥離を施す。1号石器集中出土である。1号石器集中出土である。

３は、周辺加工の尖頭器である。黒曜石製で完存する。断面はレンズ状を呈し、厚みを残す。周縁から丁寧な剥離を施し、基部側の幅が狭くなる。1号石器集中出土である。

４は両面加工の尖頭器である。チャートＡ製で、上半部2/3が残存し、先端は欠損して接合する。薄手で両面加工の尖頭器であり、体部中央に張り出しを作り出し、側縁は、くの字状に屈曲する。両面とも押圧剥離で丁寧に調整する。下半部に折れ面有る。1号石器集中出土である。

５は両面加工の尖頭器である。チャートＡ製で、先端1/4が残存し下半部は欠損する。両面に押圧剥離が施されるが、粗い調整加工が施される。1号石器集中出土である。

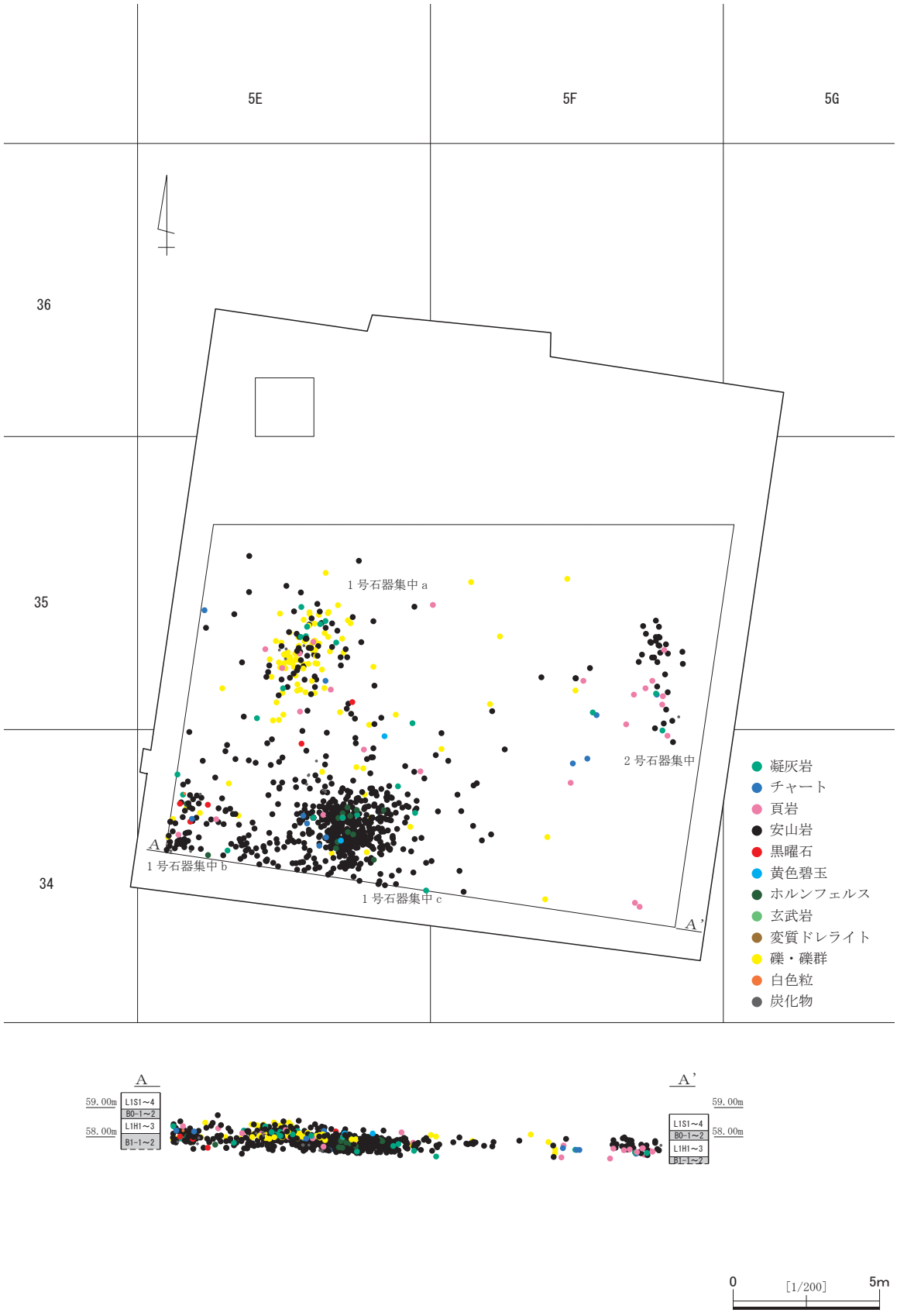
６は尖頭器で完形品である。ガラス質黒色安山岩製で、先端の一部を欠損するがほぼ完存する。半月形を呈し、左右非対称である。断面はレンズ状を呈し、厚みを残す。左側縁にかじり痕を残す。”1号石器集中出土である。

７は片面加工の尖頭器である。チャートＡ製で、片面加工尖頭器である。先端の一部を欠損するがほぼ完存する。縁辺から押圧剥離を施し、全体を柳葉形に整える。断面は裏面が平坦なため半円形を呈する。裏面には一次剥離面を大きく残す。1号石器集中出土である。

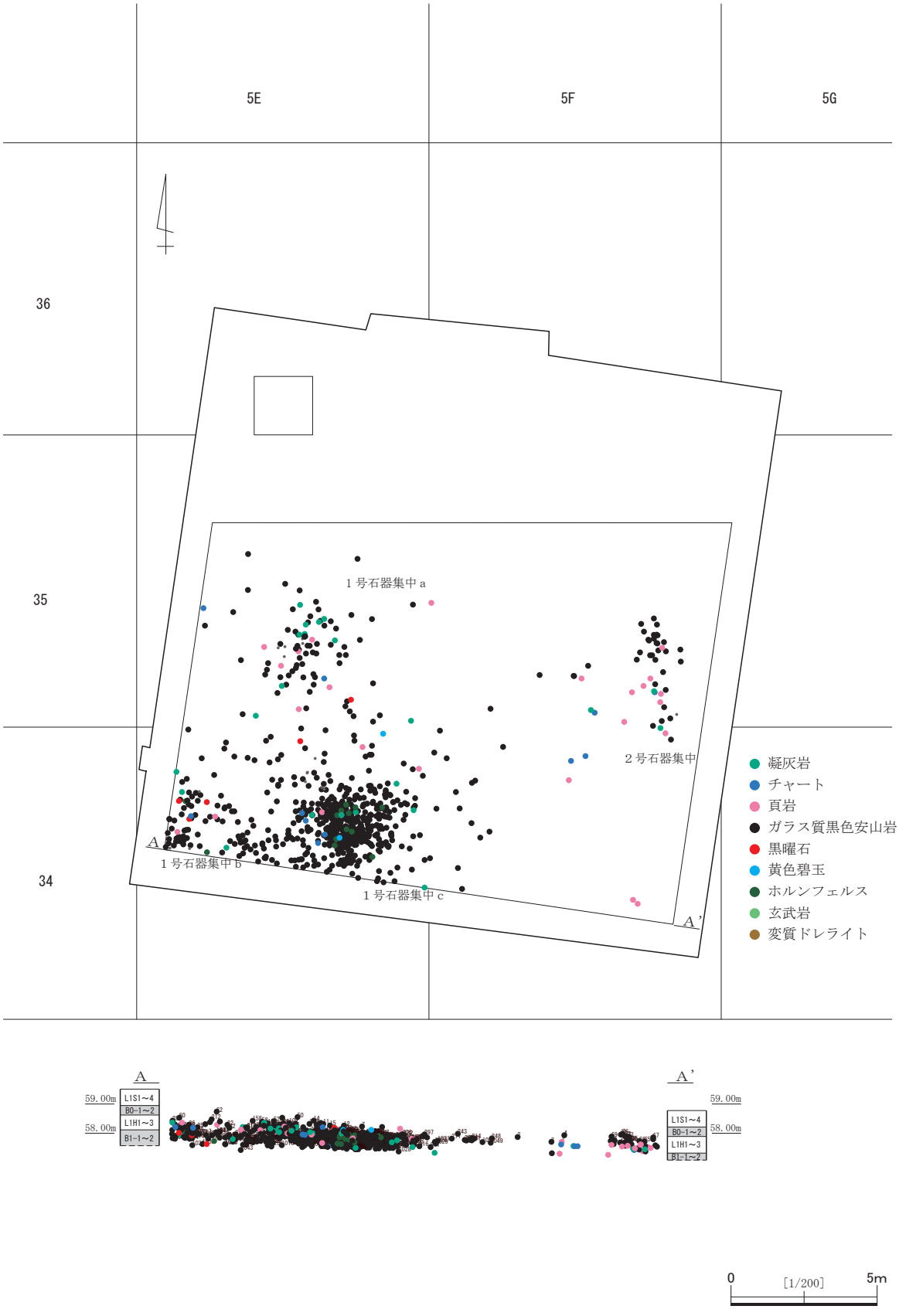
８は両面加工尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩製で下半部を欠損して、先端部2/3残存する。周縁から丁寧に調整加工を施す。”1号石器集中出土である。

９は両面加工の尖頭器である。黒色頁岩製で完存品の欠損品で、上半部と基部端を欠損し、基部側2/3が残存する。断面はレンズ状を呈し、調整加工は縁辺部を中心に施され、全面加工ではない。1号石器集中出土である。

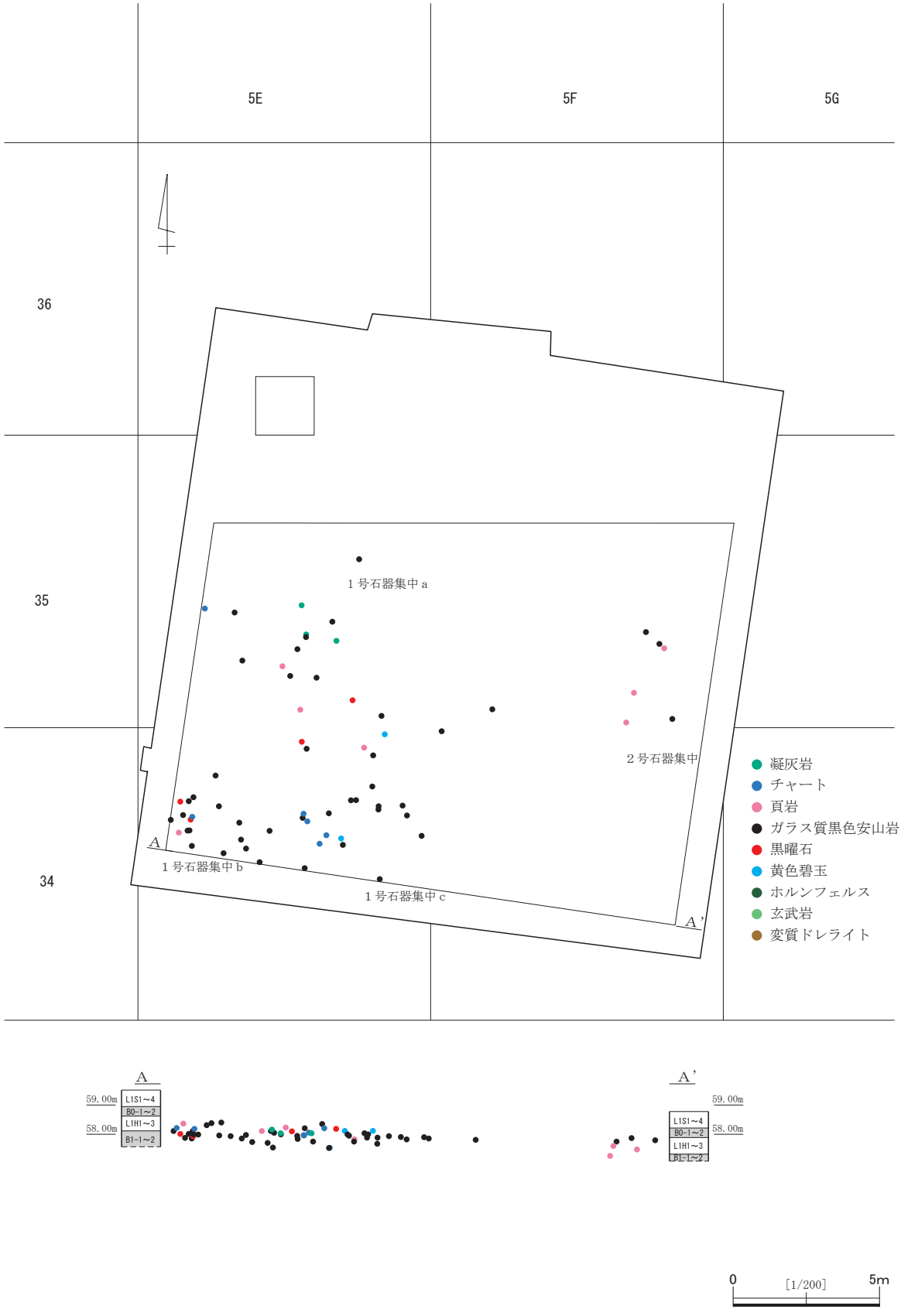
10は片面周縁加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩製で、完存する。横長剥片を素材とし、二側縁



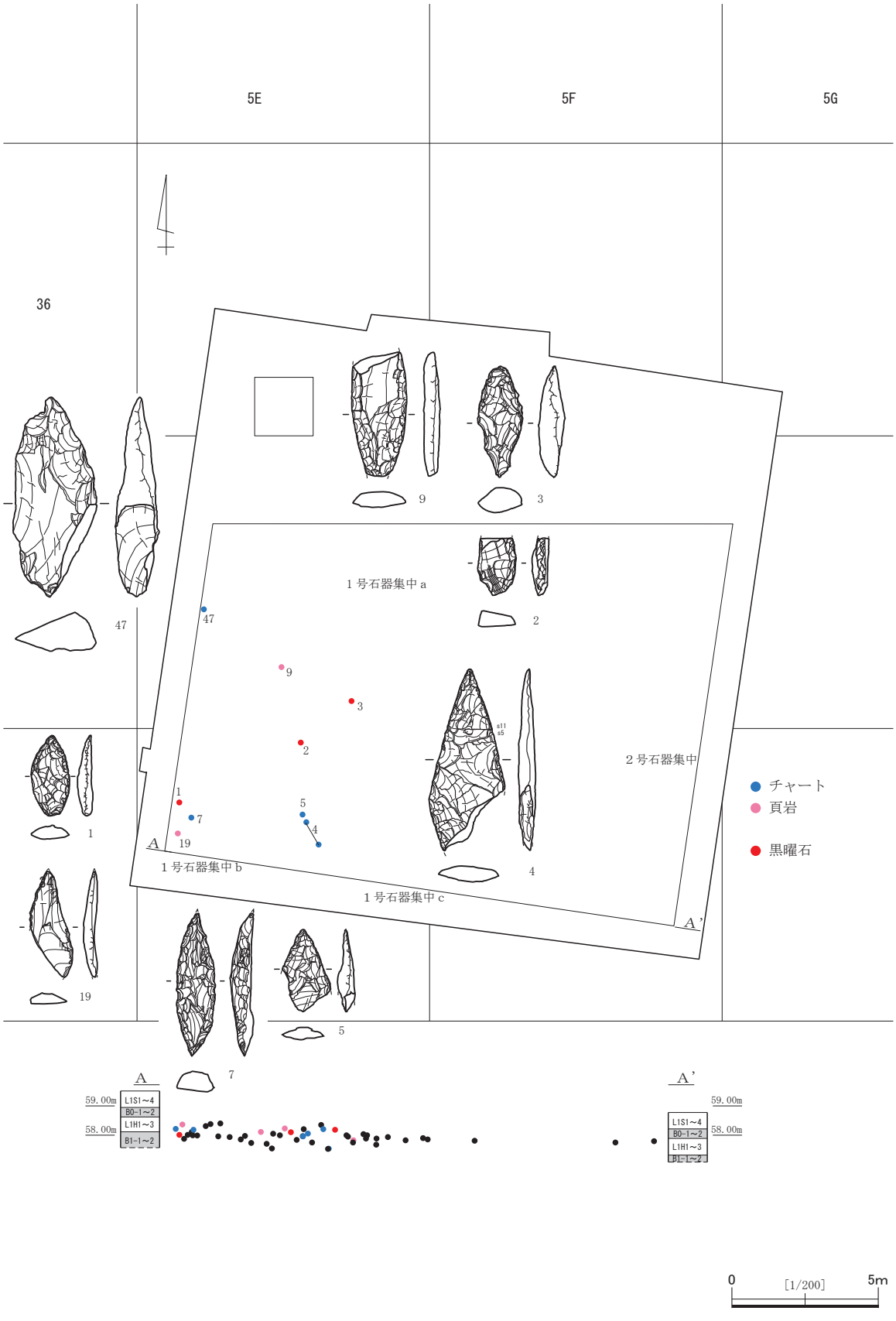
第144図　旧石器時代全体図［1/200］



第145図　旧石器時代石器分布図（１）［1/200］



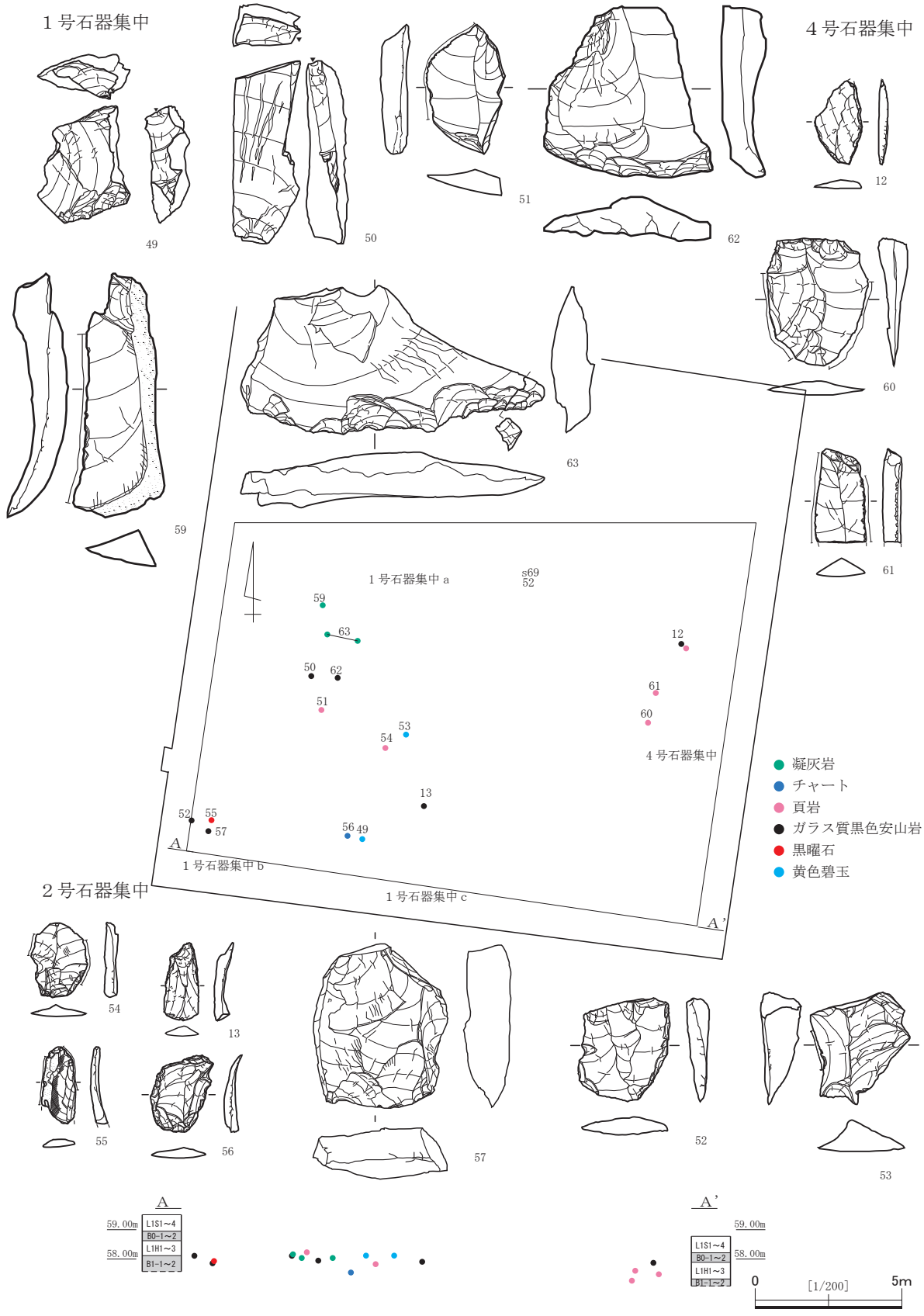
第146図　旧石器時代石器分布図（2）［1/200］



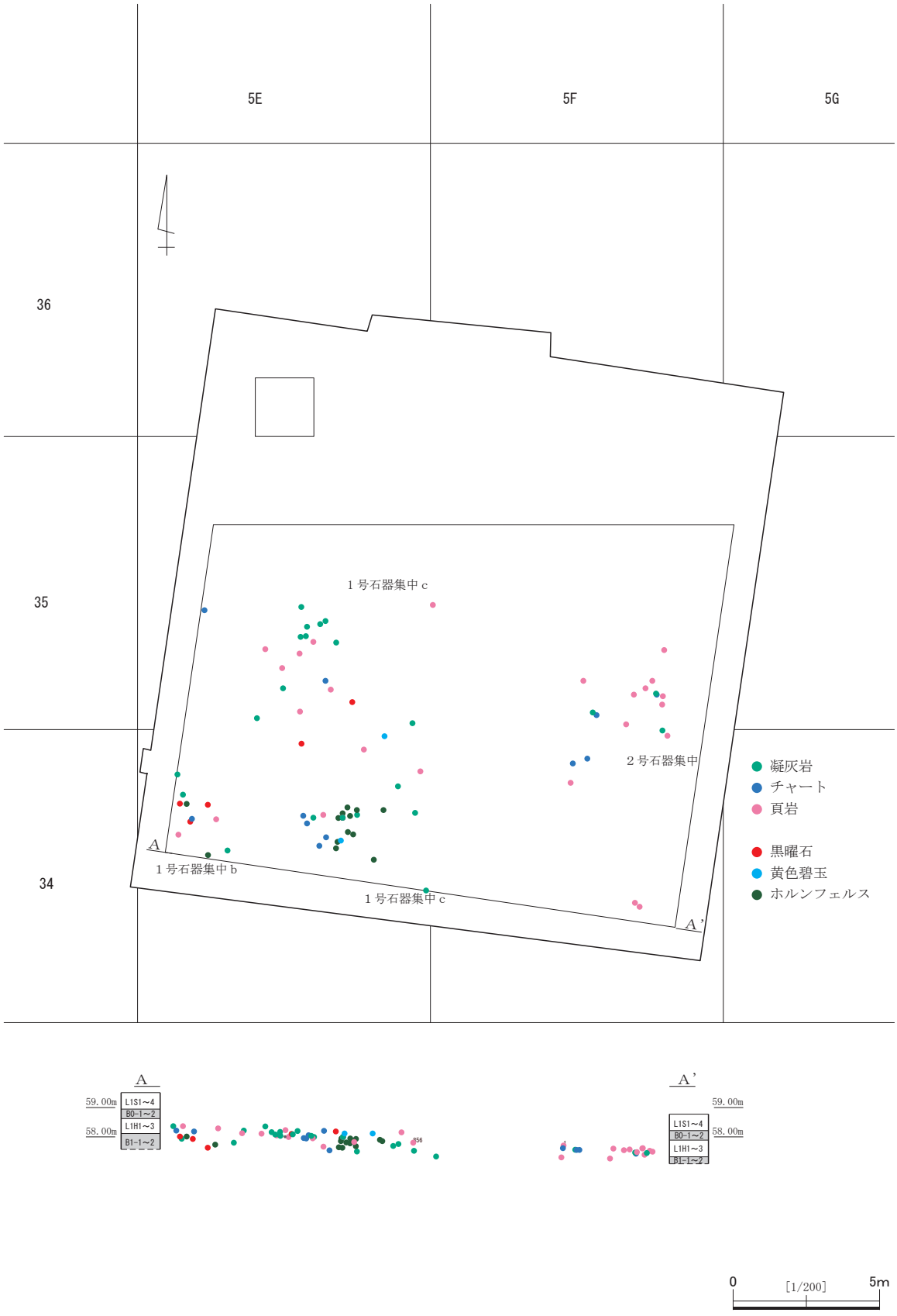
第147図　旧石器時代尖頭器（黒曜石・チャート・頁岩）分布図［1/200］



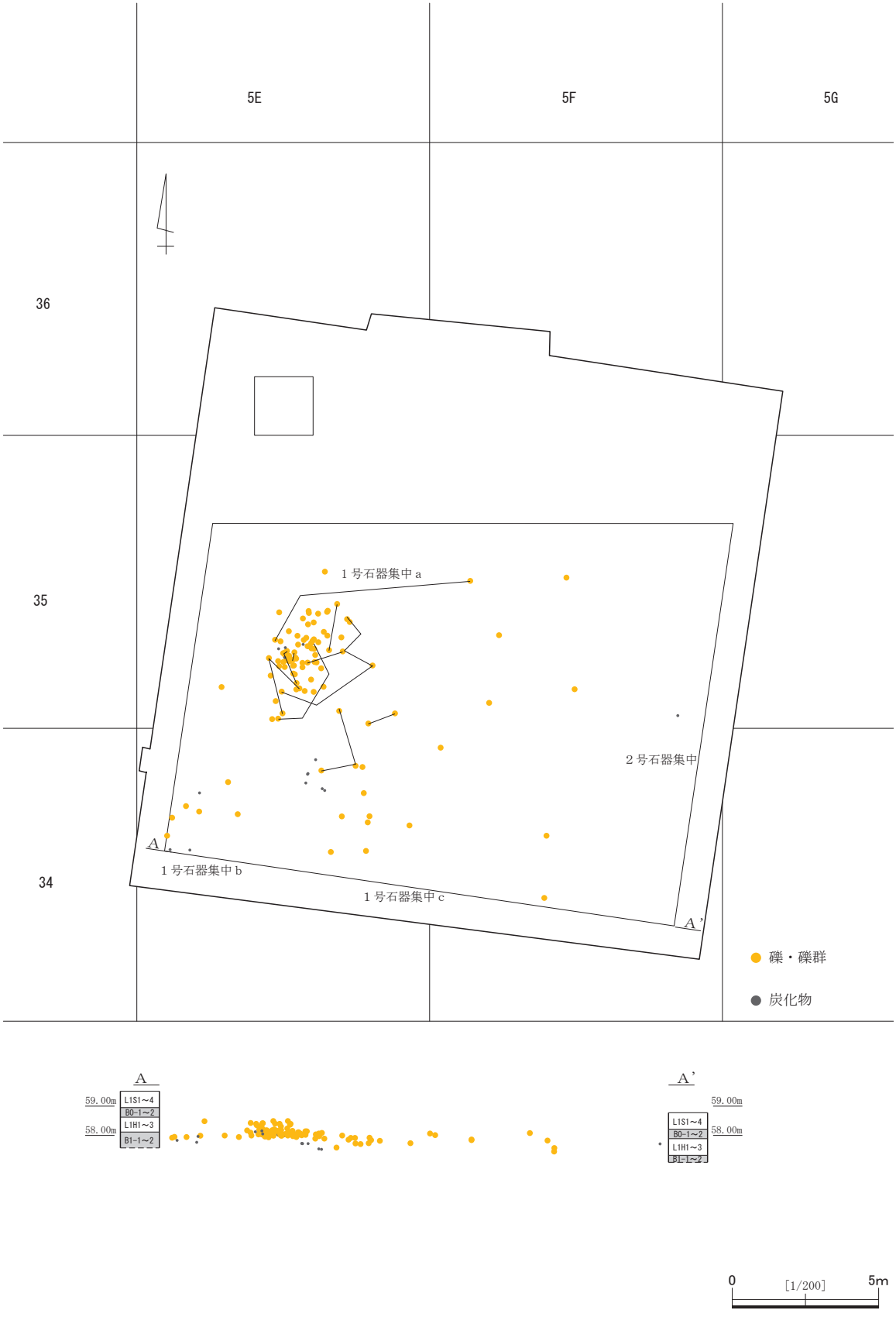
第148図　旧石器時代尖頭器（ガラス質黒色安山岩）分布図［1/200］



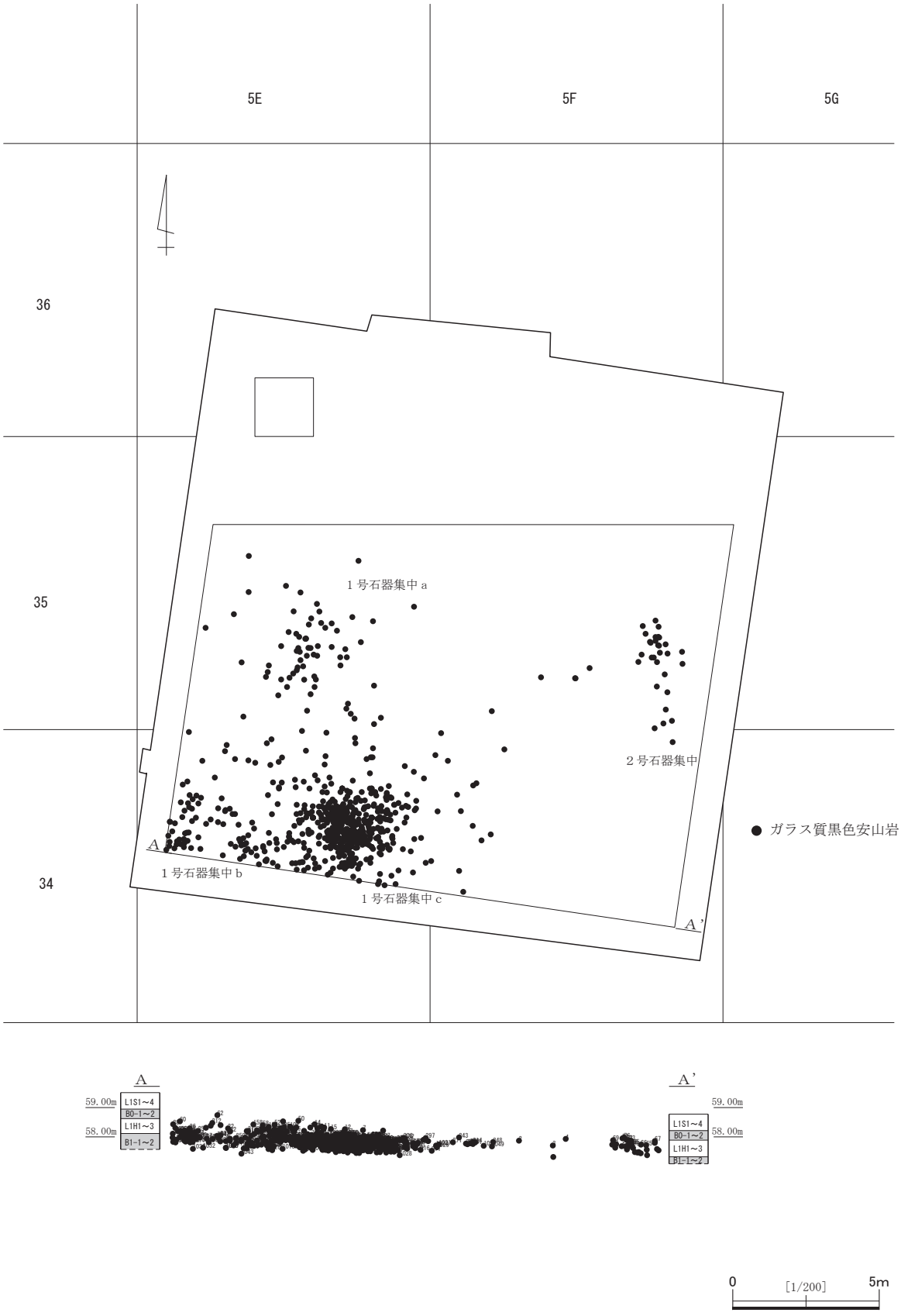
第149図　旧石器時代ナイフ形石器・削器・掻器・彫器・使用痕を有する剥片分布図［1/200］



第150図　旧石器時代石材別（黒曜石・チャート・頁岩・凝灰岩・黄色碧玉・ホルンフェルス）分布図［1/200］



第151図　旧石器時代礫・炭化物分布図［1/200］



第152図　旧石器時代石材別（ガラス質黒色安山岩）分布図［1/200］

に調整加工を施す。1 号石器集中出土である。

11 は片面周縁加工の尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩製で、完存する。縦長剥片を素材とし二側縁に調整加工を施す。右側面上半部に折れ面がある。1 号石器集中出土である。

12・13 はナイフ形石器である（第 154 図）。

12 はナイフ形石器である。ガラス質黒色安山岩製で完存であるが、先端を一部欠損する。二側縁加工のナイフ形石器である。1 号石器集中出土である。２号石器集中出土である。

13 はナイフ形石器である。ガラス質黒色安山岩製で完存で、縦長剥片を素材とする。先端部左側縁上端部に刃潰し加工を施す。1 号石器集中出土である。

14 ～ 48 は尖頭器の未成品や欠損品である（第 154 ～ 156 図）。

14 は両面加工の尖頭器未成品である。ガラス質黒色安山岩を素材とし、先端部 1/4 が残存する。両面加工で周縁に細かな調整加工が施される。先端部が尖るように細かな調整加工を施す。1 号石器集中出土である。

15 は片面周縁加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用い、破損品で先端 1/3 が残存する。裏面に第 1 次剥離面を残し、左側縁のみ調整加工を施す。表面は剥落する。1 号石器集中出土である。

16 は側縁加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用い、木葉形を呈する。胴部中位で欠損して、基部側が 1/2 残存する。側縁のみ調整加工を施し、表裏面とも一次剥離面を残す。1 号石器集中出土である。

17 は片面側縁加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用い、完存である。横長剥片を素材として、断面は半月形を呈する。表面上半部に主に調整加工を施す。1 号石器集中出土である。

18 は片面周縁加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用い、先端部を欠損するがほぼ完存する。横長剥片を素材として、周辺に粗く調整加工を施す。右側面下端に折れ面がある。1 号石器集中出土である。

19 は片面側縁加工の尖頭器である。珪質頁岩を用い、上半部 1/2 が残存する。先端部を欠損する。二側縁に微細な片面加工を施す。縦長剥片を素材として、裏面には第一次剥離面を残す。1 号石器集中出土である。

20 は周縁・基部加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用い、完存する。縦長剥片を素材とし、裏面に一次剥離面を残す。下端に折れ面残す。

21 は片面加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用い、上下両端を欠損するが 4/5 以上残存する。左右非対称の半月形を呈し、表面を中心に調整加工を施す。1 号石器集中出土である。

22 は側縁加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用い、完存する。基部と左縁のみ調整加工を施す。裏面にｶﾞｼﾞﾘあり。1 号石器集中出土である。

23 は基部加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用い、完形品の破損品であり、基部側 1/3 残存する。裏面基部側に調整加工は集中する。1 号石器集中出土である。

24 は尖頭器である。ガラス質黒色安山岩で基部側 2/3 残存する。基部端を欠損したもの。両面に加工押圧剥離を施す。断面はレンズ状を呈す。1 号石器集中出土である。

25 は両面加工の尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩　を用い、上端部の 1/2 残存し、先端頂部は欠損する。調整加工は粗い。２号石器集中出土である。

26 は周縁加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用いて、完形品の破損品で、中央で半割し、ａとｂが接合する。基部の一部に欠損面がある。1 号石器集中出土である。

27 は周辺加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用い　胴部 1/6 残存する。縁辺に浅い調整剥離が

連続して施される。1 号石器集中出土である。

28 は周縁加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用いる。完品の破損品で胴部上半の 1/3 が残存する。両側縁の周縁に細かな剥離が連続する。1 号石器集中出土である。

29 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用い、上半部 1/4 残存し、先端部を欠損する。調整加工は片側縁に粗く施される。1 号石器集中出土である。

30 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用いて、基部側の 1/3 が残存する。片面のみ粗い調整加工を施し、裏面は一次剥離面を残す。基部に打面を残す。1 号石器集中出土である。

31 は周縁加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用い、ほぼ完存であるが先端の一部を欠損する。縁辺部に片側から細かな調整加工を施す。裏面は 1 次剥離面を残す。1 号石器集中出土である。

32 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用い、先端欠損し、下半部 4/5 が残存する。両面の縁辺に粗く調整加工を施す。1 号石器集中出土である。

33 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用いて、基部側 1/2 が残存する。裏面は 1 次剥離面で縁辺に調整加工を施す。1 号石器集中出土である。

34 は周縁加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用い、ほぼ完存である。完成品と考えられるが下半部の調整加工は粗く、裏面に第一次剥離面を残す。1 号石器集中出土である。

35 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用い、基部側 1/2 が残存する。大形品であり、片縁と基部のみ調整加工を施す。1 号石器集中出土である。

36 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用い、基部側 1/2 が残存する。基部周辺に調整加工が見られる。裏面は第 1 次剥離面を残す。1 号石器集中出土である。

37 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用い、上半部を欠損し 2/3 が残存する。周縁に粗い調整加工が施される。断面はレンズ状で厚みを残す。1 号石器集中出土である。

38 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用い、基部側 1/3 が残存する。片縁に調整加工が施される。縦長剥片を素材とし、裏面に一次剥離面を残す。1 号石器集中出土である。

39 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用い、下半部 1/2 残存する。製作中に折れて破棄されたものと推定される。表面だけに粗く周辺加工を施し裏面には一次剥離面を残す。1 号石器集中出土である。

40 は片面周辺加工の尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用い、完存する。横長剥片を素材として、片面両側縁に粗い調整加工を施し、裏面に一次剥離面を残す。1 号石器集中出土である。

41 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用いて、基部を欠損して、全体は 2/3 残存する。両面とも周縁から粗い調整加工が施される。1 号石器集中出土である。

42 は片面加工の尖頭器である。ガラス質黒色安山岩を用いて、上半部の 1/3 が残存する。完成品が欠損したものと推定される。裏面に一次剥離面を残す。1 号石器集中出土である。

43 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用いて、基部側が 1/5 が残存する。周縁に調整加工が施される。1 号石器集中出土である。1 号石器集中出土である。

44 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用い、上端を欠損するが 2/3 が残存する。左側面に節理からの剥落痕を残す。縦長剥片を素材として、周縁に調整加工を施す。1 号石器集中出土である。

45 は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用いて、完存である。厚めの剥片を素材として、両

面とも粗い調整加工が施される。右側面に折れ面がある。２号石器集中出土である。

46は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用いていて、下端に折れ面を残すが完存と推定される。片面のみ調整加工が施される。1号石器集中出土である。

47は尖頭器の未成品である。チャートＢを用いて、完存である。横長剥片を素材とし、厚みを残している。先端部に両側からの調整加工が観察される。1号石器集中出土である。

48は尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用いて、上半部を欠損して3/4の残存である。木葉形尖頭器の素材段階と考えられ厚みを残すが、両面に側縁からの粗い調整加工が施される12・13はナイフ形石器である。1号石器集中出土である。

49・50は彫器である（第157図）。

49は彫器である。黄色碧玉を用いて、完存である。上面の打面から彫刻面を打ちはがしている小坂型彫器である。裏面に節理面を残す。1号石器集中出土である。

50は彫器である。ガラス質黒色安山岩を用いて、完存である。縦長剥片を素材として、上面の打面から彫刻面を打ちはがしている小坂型彫器である。1号石器集中出土である。

52は削器である（第158図）。

52は削器である。ガラス質黒色安山岩を用い、完存である。寸詰まりの縦長剥片を素材とする。右側縁に刃部加工が施される。1号石器集中出土である。

51・53～57は使用痕を有する剥片である（第158図）。

51は使用痕を有する剥片である。硬質頁岩を用いて、完存である。幅広の縦長剥片の一縁に微細な連続剥離が見られる。1号石器集中出土である。

53は使用痕を有する剥片である。黄色碧玉を用いて、完存である。幅広の縦長剥片を素材とし、左側縁に微細な剥離が連続する。1号石器集中出土である。

54は使用痕を有する剥片である。硬質頁岩を用いて、完存である。寸詰まりの縦長剥片を素材とする。両側縁に微細な剥離が連続する。1号石器集中出土である。1号石器集中出土である。

55は使用痕を有する剥片である。黒曜石を用いていて、下半部を欠損する。細身の縦長剥片を素材とする。両側縁に微細な剥離痕が観察される。表面に原礫面を残す。黒曜石は霧ヶ峰産である。1号石器集中出土である。

56は使用痕を有する剥片である。チャートＡを用いて、完存である。薄手で寸詰まりの縦長剥片を素材とする。微細な剥離痕が観察される。1号石器集中出土である。

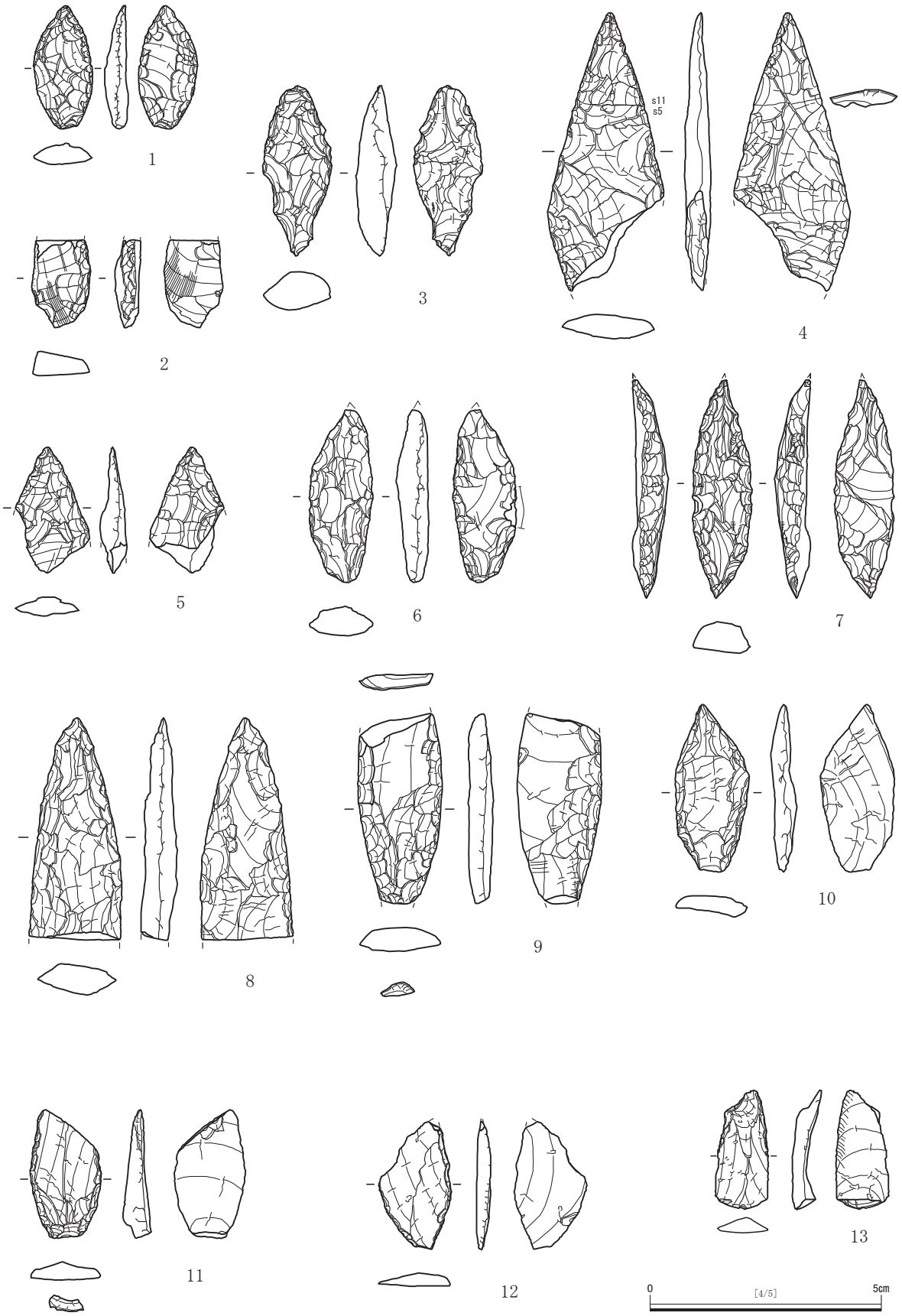
57は掻器である。ガラス質黒色安山岩を用いていて、完存する。厚手で寸詰まりの縦長剥片を素材とする。下端部には粗く調整加工を施し、片刃を作る。1号石器集中出土である。

58～63はＢ１中層出土と認識したものである。分布範囲はＢ１上層と重なるがＢ１上層とは分けて図示した（第159・160図）。

58は両面加工の尖頭器の未成品である。ガラス質黒色安山岩を用いていて、両面に粗く調整加工を施す。上面に折れ面がある。1号石器集中出土である。

59は使用痕を有する剥片である。硬質細粒凝灰岩を用いて、完存。縦長剥片の一縁に微細な連続剥離が観察される。表面に自然面を残す。1号石器集中出土である。

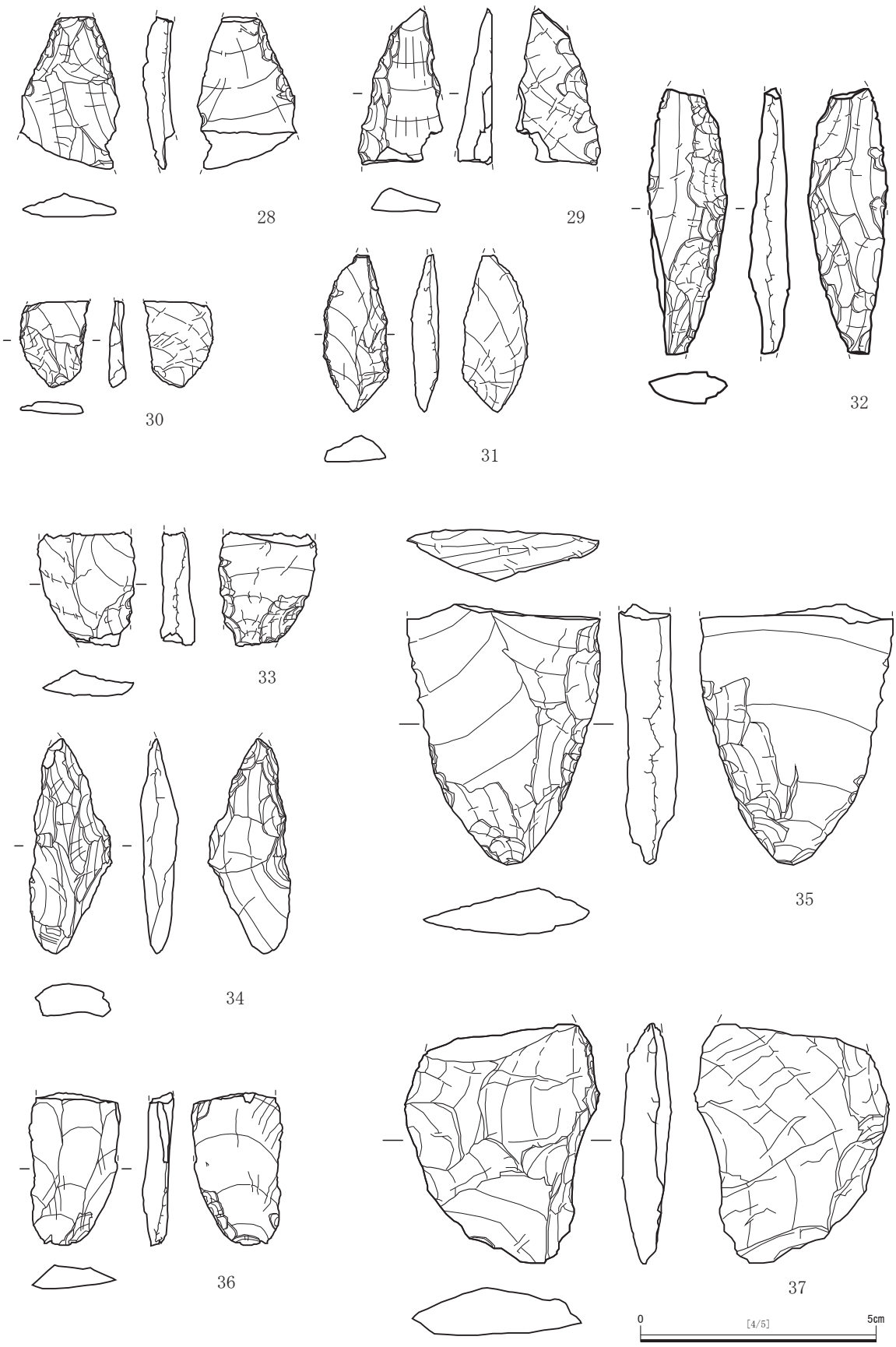
60は使用痕を有する剥片である。硬質頁岩を用いて、完存である。寸詰まりの縦長剥片を素材とする。



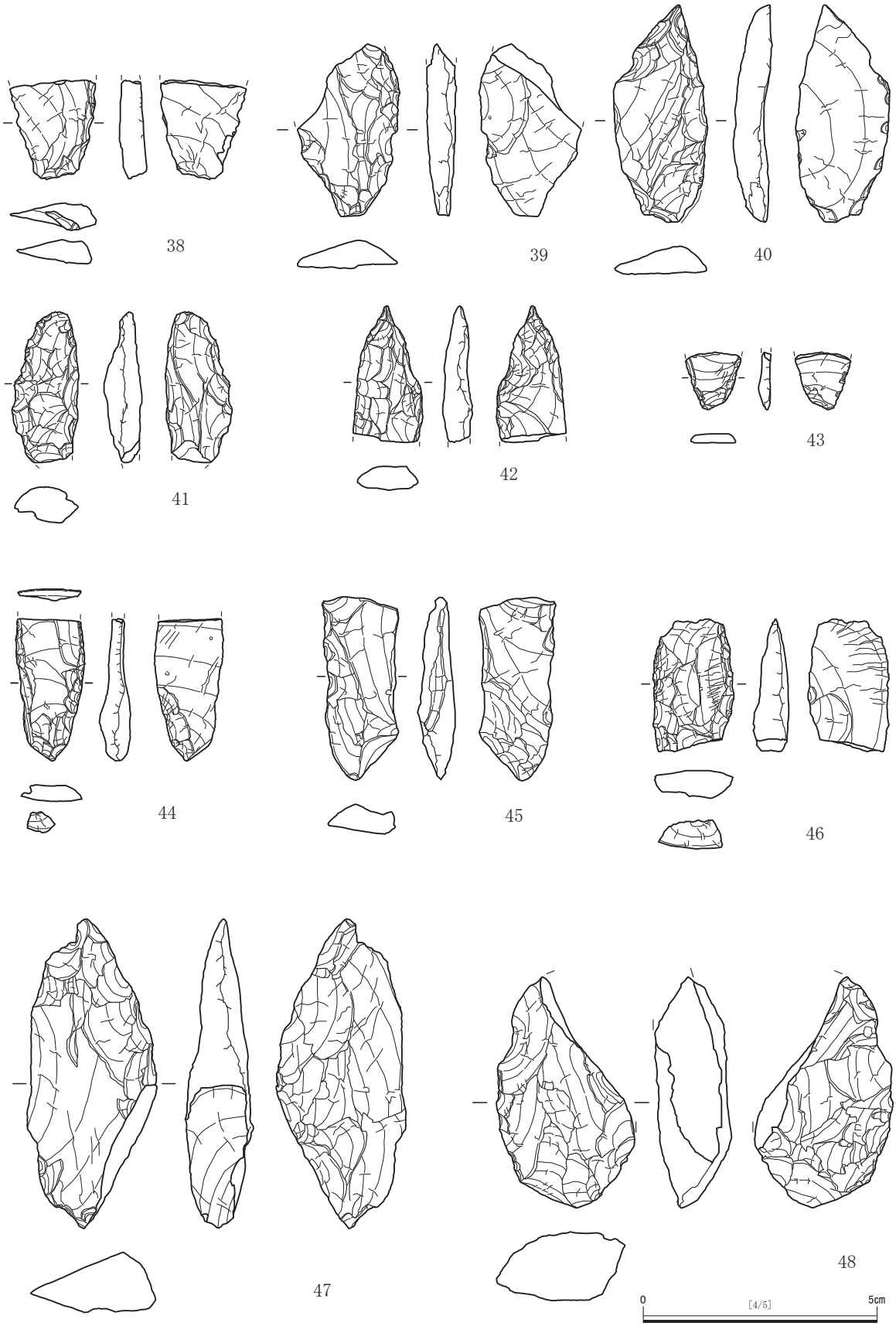
第153図　出土石器（１）Ｂ１上層出土石器１［4/5］



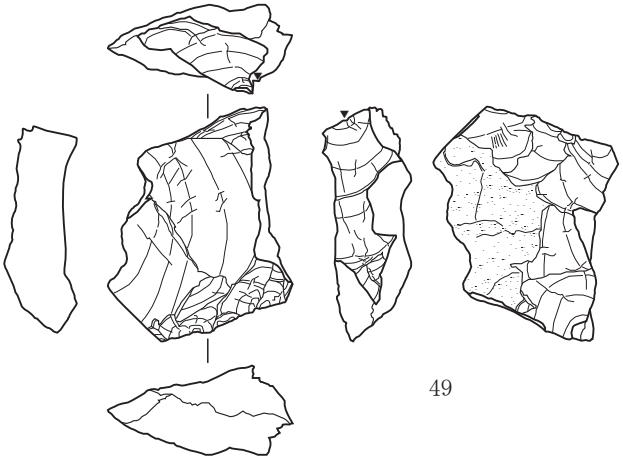
第154図　出土石器（２）Ｂ１上層出土石器２［4/5］

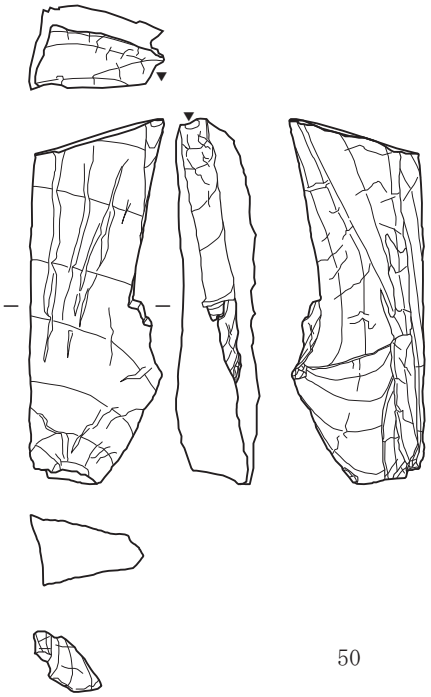


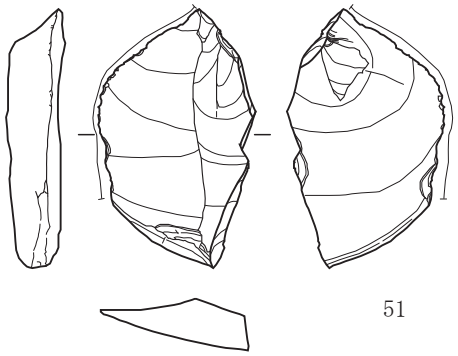
第155図　出土石器（３）Ｂ１上層出土石器３［4/5］

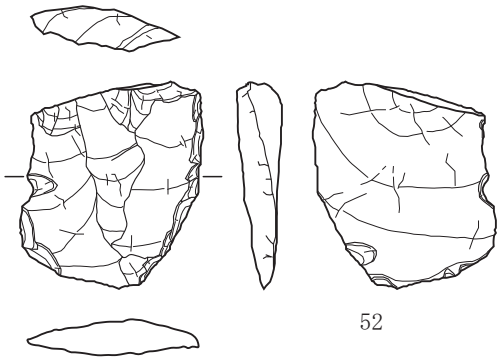


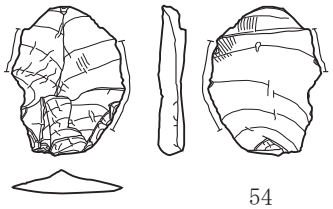
第156図　出土石器（４）Ｂ１上層出土石器４［4/5］

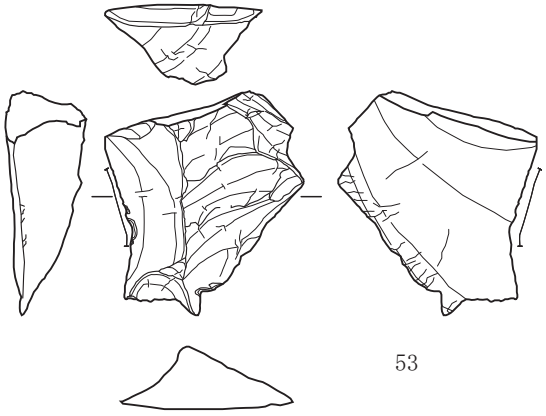


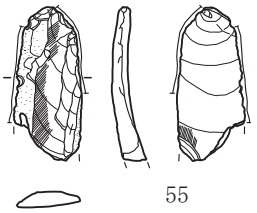






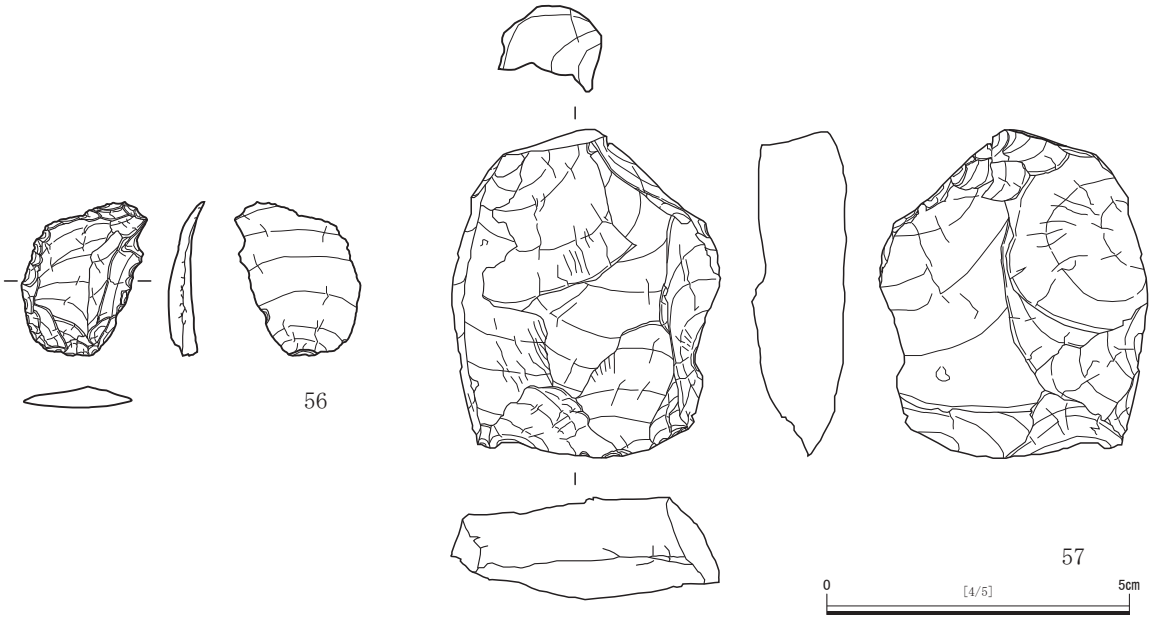








第157図　出土石器（５）Ｂ１上層出土石器５［4/5］



第158図　出土石器（６）Ｂ１上層出土石器６［4/5］

両側縁には微細な刃こぼれが観察される。２号石器集中出土である。

61 は使用痕を有する剥片である。黒色頁岩を用いて、上部 1/2 が残存する。二側縁に微細な連続剥離が観察される。２号石器集中出土である。

62 は掻器、63 は削器である（第 159・160 図）。

62 は掻器である。ガラス質黒色安山岩を素材として、完存。幅広の縦長剥片を素材とする。下縁には刃部調整が施され、片刃となっている。1 号石器集中出土である。

63 は削器である。硬質細粒凝灰岩を素材として、完存する。幅広の横長剥片を素材とする。下縁には刃部調整が施され、両刃となっている。表面・側面に自然面を残している。右先端部の剥落面で接合する。1 号石器集中出土である。

（５）石器の石材

石器の石材は、硬質細粒凝灰岩・細粒凝灰岩・中粒凝灰岩・チャート・硬質頁岩・珪質頁岩・黒色頁岩・軟質頁岩・頁岩・ガラス質黒色安山岩・黒曜石・黄色碧玉に分類される。一部石材の観察状況から肉眼観察により類似するものを細分類してみた。

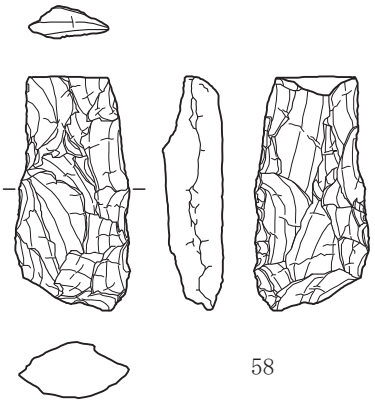
ア．凝灰岩（第 150 図）

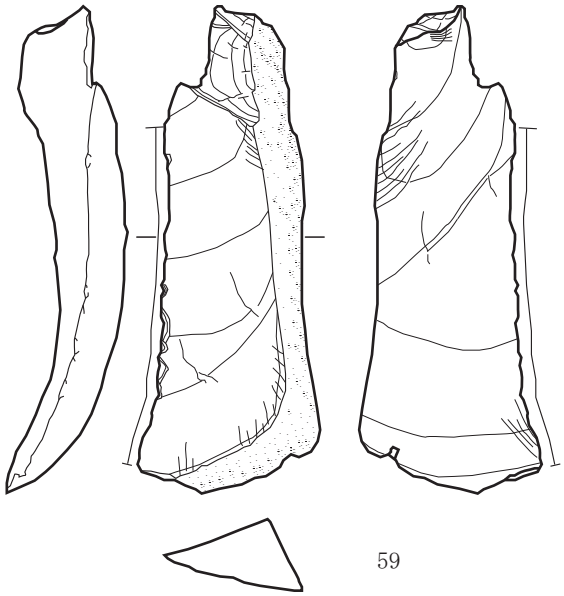
凝灰岩は、淡い緑色を呈し、黒色細粒を多量に含む。縦長剥片を主に作成する。石材は、硬質細粒凝灰岩・細粒凝灰岩・中粒凝灰岩に分けられ、23 点が出土した。硬質細粒凝灰岩は 19 点出土した。使用痕を有する剥片の 59、削器の 63 と縦長剥片の 11 点と砕片の５点が該当する。細粒凝灰岩は１点出土した。黒色細粒を含んでいる。縦長剥片 1 点が該当する。中粒凝灰岩。剥片 1 点、砕片 1 点が該当する。

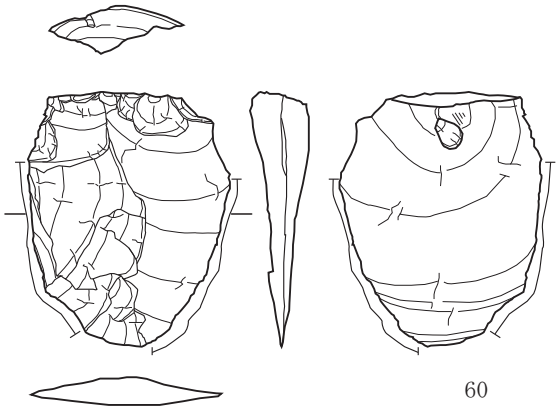
イ．チャート（第 150 図）

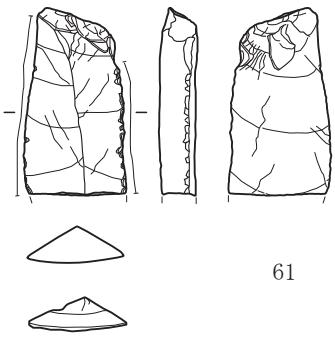
チャートは 11 点が出土した。見た目の特徴で３種類に分かれる。

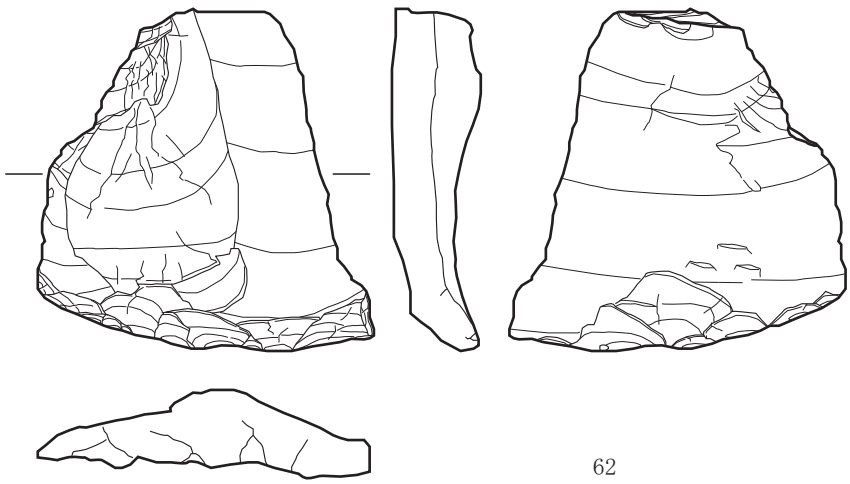
チャートＡは６点出土した。黒色で緻密感のあるもので、尖頭器の４・５・５、使用痕を有する剥片の 56、剥片の１点が該当する。チャートＢは４点出土した。黒灰色で黒色の縞がみえるもので、尖頭器の 47、剥片２点、砕片１点が該当する。チャートＣは１点出土した。青灰色を呈し、黒色細粒を含む物で、剥片の１



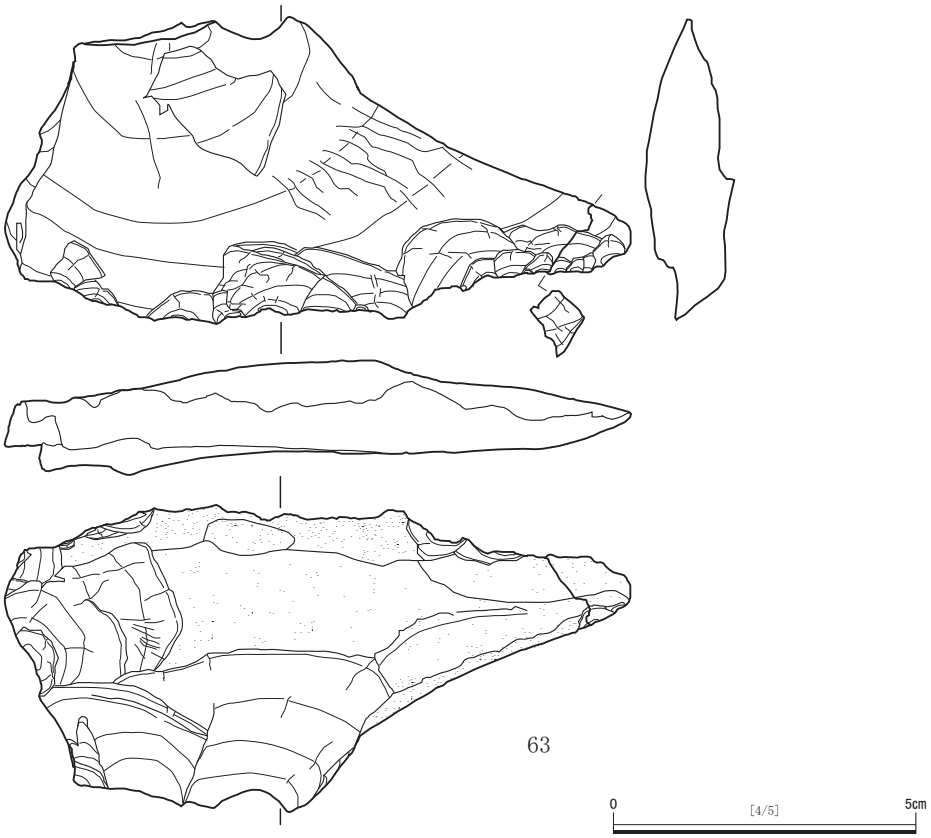








第159図　出土石器（７）Ｂ１中層出土石器１［4/5］



第160図　出土石器（８）Ｂ１中層出土石器２［4/5］

点が該当する。

ウ．頁岩（第 150 図）

頁岩は 26 点出土した。硬質頁岩、珪質頁岩、黒色頁岩、軟質頁岩、頁岩に分かれる。

硬質頁岩は 11 点が出土した。使用痕を有する剥片の 51・54・60 と剥片７点、砕片１点が該当する。珪質頁岩は４点が出土した。尖頭器の 19 と縦長剥片１点、剥片１点、砕片１点が該当する。黒色頁岩は５点が出土した。尖頭器の９と使用痕を有する剥片の 61 と縦長剥片２点、砕片１点が該当する。軟質頁岩は２点が出土した。灰色を呈し、緻密なもので剥片１点、砕片１点が該当した。頁岩は、剥片４点が該当する。

エ．ガラス質黒色安山岩（第 152 図）

ガラス質黒色安山岩は、929 点が出土した。肉眼での分類では、灰色を呈するもの、灰色で、青味が強いもの、茶系統の灰色のもの、白色で薄い鼠色を呈するもの、濃い目の灰色を呈するもの、青灰色で黒色細粒を含む物などが見られるが、細片が多く母岩別の認識は難しかった。

尖頭器の６・８・10・11・14・15・16・17・18・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・44・45・46・48・58、ナイフ形石器の 13・12、彫器の 50、削器の 52、掻器の 62、使用痕を有する剥片 57 が該当する。

オ．黒曜石（第 150 図）

黒曜石は５点が出土した。どれも、透明度が高い良質の黒曜石であり、肉眼観察ではすべて霧ヶ峰産と判定した。蛍光Ｘ線による分析では、尖頭器の１・２，使用痕を有する剥片の 55 は諏訪星ヶ塔産、尖頭器の３は蓼科麦草峠産との分析結果が出ている。

カ．黄色碧玉（第 150 図）

黄色碧玉は２点出土する。彫器の 49 と使用痕を有する剥片の 53 の２点が該当する。

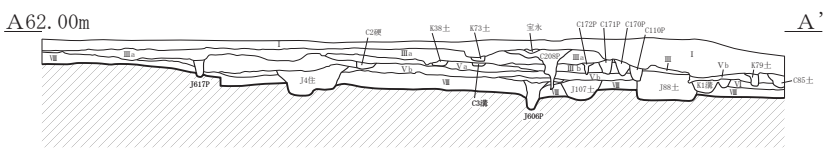
第 4 節　ピア 16（上り）区の調査

ピア 16（上り）区（旧 22 区北）はピア 16（下り）区の北側に位置していて、今回報告の調査区では、ほぼ中央に位置する、北から南に向けて緩やかに傾斜する斜面に遺構が分布している。遺構は、近世、中世、奈良・平安時代～古墳時代、縄文時代になっていて、出土した遺物は、近世は 308 点（4,292g）、中世は 33 点（365g）、古墳時代～奈良・平安時代は 2,429 点（27,180g）、縄文時代は 25,176 点（403,679g）、合計 27,946 点（435,516g）である。

第 11 表　ピア 16（上り）区遺構計測表（単位：m）

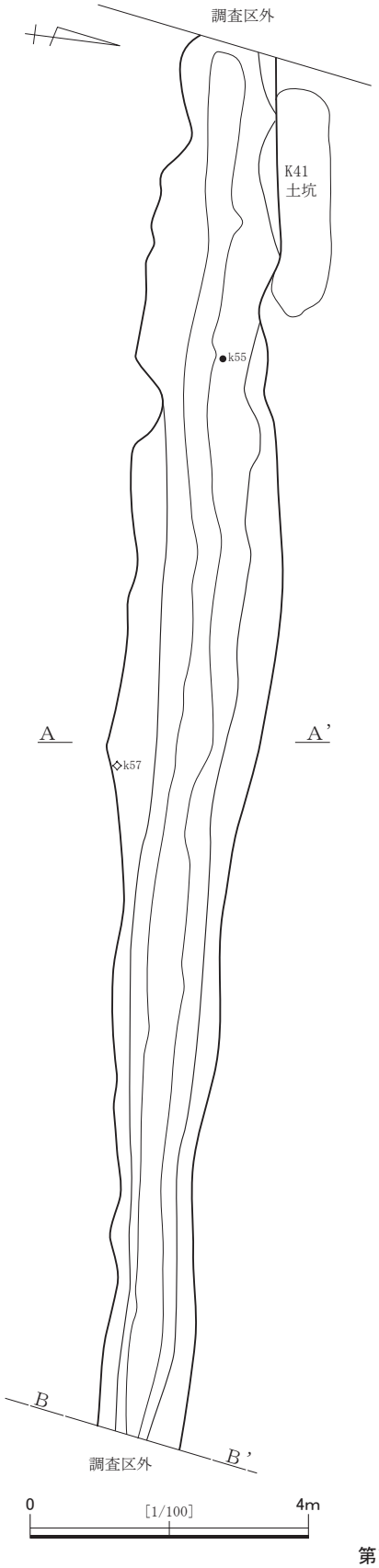
位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状	位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状	位置	遺構名	長さ	幅	深さ	形状
5H-37	H 1 住居	5.40	(4.65)	0.70	方形	5H-37	C 45 土坑	1.10	0.30	0.10		5G-37	J 88 土坑	1.62	(1.34)	0.44	楕円
5G-37	H 2 住居	4.50	3.70	0.54	方形	5H-37	K 46 土坑	(0.92)	0.30	0.12		5G-38	J 89 土坑	2.22	1.800	1.44	楕円
5H-38	H 3 住居	6.50	6.40	0.80	方形	5H-37	K 47 土坑	0.76	0.36	0.12		5H-37	J 90 土坑	1.31	1.06	0.76	楕円
5G-38	J 4 住居	6.20	2.00	0.58	柄鏡	5H-37・38	K 48 土坑	1.28	0.48	0.10	楕円	5H-38	J 91 土坑	1.14	0.92	0.38	円形
5H-38	J 5 住居	7.50	7.50	範囲のみ		5H-37・38	C 49 土坑	1.84	0.76	0.14	隅方	5I-38	J 92 土坑	0.76	0.66	0.16	円形
5H-38	J 1 柱群	(8.00)	0.78	−		5H-37	K 50 土坑	0.62	0.46	0.04	楕円	5G-38	J 93 土坑	1.76	1.52	0.54	楕円
5H-38	K 1 土坑	3.48	0.40	0.10		5G-37	C 51 土坑	1.80	0.38	0.06		5H-38	J 94 土坑	1.40	1.12	0.74	円形
5H-38・39	K 2 土坑	(2.12)	0.38	0.12		5G-37	C 52 土坑	0.92	0.50	0.80	隅方	5I-38	J 95 土坑	0.98	0.74	0.30	楕円
5H-38	K 3 土坑	1.04	0.38	0.06	楕円	5G-38	K 53 土坑	1.12	0.54	0.08	楕円	5G-38	J 96 土坑	1.12	0.94	0.20	楕円
5H-38・39	K 4 土坑	(0.96)	0.34	0.06		5G-38	C 54 土坑	1.54	0.28	0.04		5H-38	J 97 土坑	0.96	1.04	0.16	楕円
5H・I-38	K 5 土坑	(1.50)	0.40	0.06		5H-37	C 55 土坑	(0.36)	0.24	0.08		5H-38	J 98 土坑	0.70	0.54	0.36	円形
5H-38	K 6 土坑	2.48	0.34	0.06		5H-37	C 56 土坑	(0.66)	0.48	0.10		5H-38	J 99 土坑	0.76	0.42	0.30	楕円
5H-38	K 7 土坑	1.82	0.34	0.04		5G-37	C 57 土坑	1.10	0.80	0.20	楕円	5H-37	J 100 土坑	3.71	1.95	0.79	楕円
5H-38	K 8 土坑	1.98	0.38	0.06		5G-38	C 58 土坑	1.72	1.42	0.14	隅方	5H-38	J 101 土坑	1.03	0.94	0.34	円形
5H-38	K 9 土坑	1.16	0.42	0.04	楕円	5G・H -37	C 59 土坑	3.64	0.60	0.06		5I-38	J 102 土坑	0.84	(0.45)	0.63	不整
5H-38	K 10 土坑	1.50	0.72	0.20	楕円	5G・H 37	C 60 土坑	3.56	0.50	0.10		5G-38	J 103 土坑	1.02	0.70	0.48	楕円
5G-38	K 11 土坑	1.04	0.34	0.04	楕円	5G・H -37	C 61 土坑	(5.82)	(1.32)	0.08		5H-38	J 104 土坑	1.30	(0.88)	0.40	不整
5H-38	K 12 土坑	1.02	0.36	0.08	楕円	5G-38	C 62 土坑	1.06	0.78	0.24	隅方	5H-39	J 105 土坑	0.93	0.90	0.49	円形
5H-38・39	K 13 土坑	0.92	0.50	0.10	楕円	5H-38	K 63 土坑	(1.06)	(0.66)	0.08	楕円	5H-38	J 106 土坑	1.13	0.76	0.61	楕円
5H・I-38	C 14 土坑	1.96	0.40	0.08		5H-38	K 64 土坑	0.88	0.70	0.08	楕円	5G-37	J 107 土坑	1.09	(0.79)	0.38	円形
5H-38	K 15 土坑	1.18	0.46	0.20	楕円	5H-38	K 65 土坑	0.60	(0.40)	0.06	楕円	5G-37	J 108 土坑	1.17	1.04	0.36	楕円
5H-38	K 16 土坑	2.30	0.40	0.06	楕円	5H-38	K 66 土坑	1.34	0.68	0.08	楕円	5H-38	J 109 土坑	1.237	0.83	0.54	楕円
5H-37	K 17 土坑	1.74	0.56	0.10	楕円	5H-37	C 67 土坑	(1.08	0.40	0.16		5H-38	J 110 土坑	0.74	0.73	0.69	円形
5H-37	K 18 土坑	1.48	0.44	0.12	楕円	5G-38	K 68 土坑	1.28	1.22	0.22	円形	5H-38	J 111 土坑	0.99	0.70	0.79	円形
5H-37	K 19 土坑	1.56	0.62	0.14	楕円	5G-38・39	K 69 土坑	1.10	1.00	0.24	円形	5H-38	J 112 土坑	1.07	0.88	0.420	円形
5H-37	K 20 土坑	1.30	0.40	0.08		5G-39	K 70 土坑	1.20	0.90	0.50	円形	5H-38	J 113 土坑	0.84	0.77	0.25	円形
5H-37	K 21 土坑	1.18	0.40	0.12	楕円	5G-38	C 71 土坑	0.70	0.56	0.12	楕円	5H-38	J 114 土坑	0.65	0.53	0.38	円形
5H・I-37	K 22 土坑	1.12	0.30	0.12		5H-37・38	C 72 土坑	4.06	2.50	0.30	不整	5G-38	J 115 土坑	1.00	0.85	0.21	楕円
5H-37	K 23 土坑	1.68	0.62	0.16		5G-38	K 73 土坑	(1.40)	0.36	0.16		5G-38	J 116 土坑	0.88	(.053)	0.45	円形
5H-37	K 24 土坑	1.30	0.98	0.14		5H-37	C 74 土坑	1.58	0.38	0.38		5G-38	J 117 土坑	1.11	0.89	0.47	円形
5H-37	K 25 土坑	(1.80)	0.38	0.16		5G・H-38	K 75 土坑	0.50	0.38	0.32	楕円	5G-38	J 118 土坑	0.79	0.65	0.64	円形
5H-37	K 26 土坑	1.90	0.48	0.18		5H・I-37	C 76 土坑	3.34	1.62	0.26	隅方	5G-38	J 119 土坑	0.62	0.54	0.37	円形
5H-37	K 27 土坑	0.74	0.44	0.10	楕円	5H・I-37	C 77 土坑	1.06	1.12	0.24	不整	5G-38	J 120 土坑	0.90	0.86	0.31	円形
5H-37	K 28 土坑	1.82	0.40	0.14		5H・I-37	C 78 土坑	3.24	1.18	0.30	隅方	5H-38	J 121 土坑	1.35	(0.93)	0.26	楕円
5H-37	K 29 土坑	0.44	0.24	0.36		5G-37	K 79 土坑	(0.90)	3.10	0.34		5G-38	J 122 土坑	0.93	0.90	0.15	円形
5H-37	C 30 土坑	(1.10)	0.48	0.18	楕円	5H-37	C 80 土坑	2.16	1.24	0.30	隅丸	5 H -38	J 123 土坑	0.64	(0.56)	0.12	不整
5I-38	K 31 土坑	1.60	0.64	0.06	楕円	5I-37	C 81 土坑	1.26	(0.36)	0.52	方形	5G-38	J 124 土坑	0.91	0.65	0.19	隅方
5I-38	K 32 土坑	1.15	0.8	0.10	楕円	5I-37	C 82 土坑	1.54	(0.16)	0.30	方形	5G-38	J 125 土坑	1.07	0.66	0.15	隅方
5H-38	K 33 土坑	0.98	0.36	0.08	楕円	5H-37	C 83 土坑	(0.76)	0.58	0.28	方形	5G-37	J 126 土坑	0.81	0.74	0.24	円
5H-38	K 34 土坑	0.80	0.42	0.08	楕円	5H-37	C 84 土坑	0.86	0.80	0.63	方形	5I-38	J 1遺物集中	J 1柱穴群に統合			
5H-38	K 35 土坑	0.56	0.44	0.08	方形	5G-37	C 85 土坑	(0.40)	(0.14)	0.42	不整	5G-38	J 1配石	3.46	2.24	−	
5H-38	K 36 土坑	1.26	0.50	0.10	楕円	5G-37	C 1掘建	4.0	(1.50)	−		5G-38・39	J 2配石	4.00	3.500	−	
5H-38	K 37 土坑	0.56	0.24	0.08	楕円	5G-37	C 2掘建	4.6	(1.3)	−		5G-38	J 1集石	J 2柱穴群に統合			
5G-38	K 38 土坑	(1.05)	0.60	0.08	楕円	5H・I-37	C 3掘建	(3.5)	4.0	−		5G ～ I	K 1溝	20.62	2.42	0.78	
5G-38	K 39 土坑	1.14	0.58	0.08	楕円	5H-37・38	C 4掘建	8.0	7.9	−		5G-37・38	C 2溝	10.57	1.50	0.14	
5G-37・38	K 40 土坑	0.78	0.74	0.10	円形	5H-37・38	C 5掘建	8.6	3.7	−		5G-38	C 3溝	5.54	1.24	0.28	
5G-37	K 41 土坑	3.26	0.76	0.26		5G-37・38	C 6掘建	8.0	3.9	−		5G-38	K 4溝	2.80	0.78	0.20	
5I-38	C 42 土坑	1.30	1.06	0.26	隅方	5G-39	J 86 土坑	2.40	0.58	0.80		5H-38	C 1硬化面	2.94	0.48	−	
5H-37	C 43 土坑	(1.42)	0.64	0.08		5H-37	J 87 土坑	0.86	0.74	0.12	円形	5G-38	C 2硬化面	(3.00)	0.7	−	
5H-37	K 44 土坑	1.36	0.28	0.10		略語：不整：不整円形、楕円：楕円形、隅丸：隅丸方形、長方：長方形											

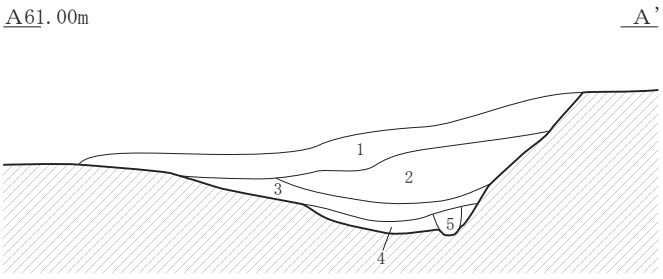




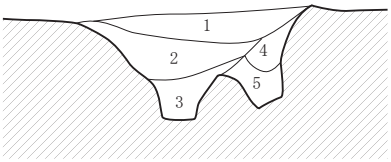
0　[1/200]　5m

第161図　近世遺構配置図［1/200］

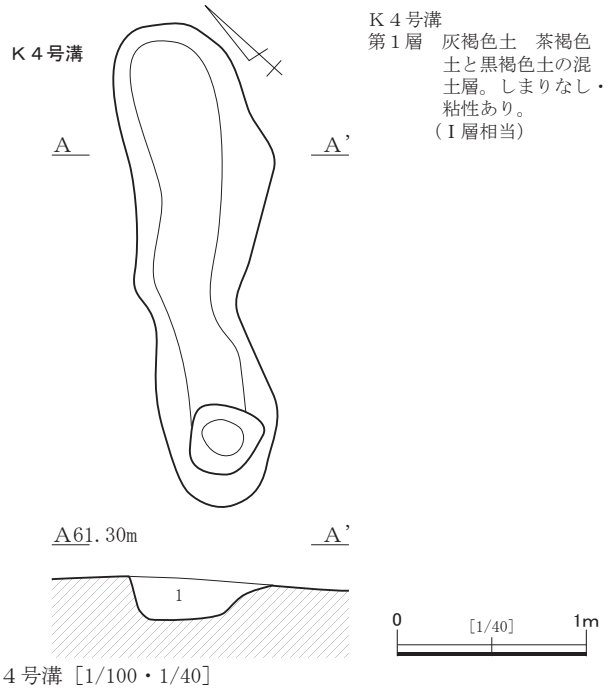




Ｋ１号溝Ａ
第１層　灰褐色土　径３～５㎜黒色スコリア・径１～３㎜の橙色スコリアを少量、径１㎜の宝永火山灰を少量含む。しまり弱い・粘性ない。
第２層　灰褐色土　径３～５㎜黒色スコリアを少量、径１～３㎜の橙色スコリアを少量、炭化粒を微量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。
宝永火山灰は微量で、ほとんど含まれていない。
第３層　灰褐色土　第２層と同様の土に明褐色土ブロックを少量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。
第４層　灰褐色土　黄褐色土・明褐色土ブロックを中量含む。しまりやや弱い・粘性やや弱い。
第５層　灰褐色土　径３～５㎜黒色スコリアを少量、明褐色土を少量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。



Ｋ１号溝Ｂ
第１層　暗灰褐色土　径１～３㎜の橙色スコリアを少量、径１㎜以下の宝永火山灰を少量、暗灰褐色土ブロックを少量含む。しまりやや弱い・粘性弱い。
第２層　褐色土　径１～３㎜の橙色スコリア少量、褐色ブロック中量、明褐色土少量、暗灰褐色土を少量、暗褐色土を微量含む。しまり・粘性やや強い。
第３層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを少量、明褐色ブロックを中量、褐色土ブロックを少量、暗褐色土を少量含む。しまりやや弱い・粘性強い。
第４層　暗灰褐色土　褐色土を少量含む。しまり弱い・粘性弱い。
第５層　褐色土　径３㎜の橙色スコリアを少量、明褐色土ブロックを中量、褐色土ブロックを少量含む。しまりやや弱い・粘性やや強い。



Ｋ４号溝
第１層　灰褐色土　茶褐色土と黒褐色土の混土層。しまりなし・粘性あり。
（Ⅰ層相当）

第162図　Ｋ１・４号溝［1/100・1/40］